

令和6(2024)年度

# 製革業実態調査報告書



令和7年3月

一般社団法人 日本皮革産業連合会

一般社団法人 日本タンナーズ協会

# 目 次

## 実態調査結果

1. 実態調査の目的と経過	1
1-1. 目 的	1
1-2. 調査要項	1
① 調査手段	1
② 調査対象	1
③ 調査日程	1
④ 調査項目	1
⑤ 調 査 票	1
⑥ 回収結果	2
⑦ 留意事項	2
⑧ 集計・分析担当	2
2. 日本の製革業者の実態	3
2-1. 製革業者数について	3
2-2. 従業者規模別にみる製革業者の現状	4
2-3. 年代別・性別従業者数にみる製革業者の現状	8
2-4. 製革業者代表者の年齢構成	11
2-5. なめしの区分	12
2-6. 主な使用原皮	14
3. 生産販売動向	17
3-1. 国内革種別生産販売枚数・仕向け先別生産販売（月間平均）動向	17
3-2. 革種による用途別・仕向け先別生産販売（月間平均）動向	27
3-3. 主要革種別地域別・用途別生産販売動向（詳細）	35
① 成 牛 革	35
② 豚 革	43
③ 山羊・羊革	48
④ 牛 床 革	53
4. 日本の製革業者の生産能力と生産実績	58
4-1. 生産能力と生産実績	58
① 生産能力と生産実績の経年変化及び操業率	58
② 地区別・革種別生産能力と生産実績	63

③ 革種別なめし工法・なめし製造工程比率	73
5. 日本の製革業者の経営についての意識	74
5-1. 今後の経営について	74
① 経営に対する考え方	74
② 経営に対する考え方の理由	78
5-2. ビジネス上の通信手段について	82
5-3. 販路開拓のための取組みについて	84
6. 地区別集計	89
① 松原地区	89
② 誉田地区	91
③ 沢田地区	93
④ 高木地区	95
⑤ 御着地区	97
⑥ 川西地区	99
⑦ 大阪他地区	101
⑧ 和歌山地区	103
⑨ 東京地区	105
⑩ 埼玉他地区	107
7. 巻末資料	109
7-1. 生産販売実績	109
7-2. 生産実績内訳	118
7-3. なめし革輸入統計	122
調査票見本	

## 図表の内容

表 1 - 1 . 実態調査票の回収結果	2
表 2 - 1 . 製革業者数（日本タンナーズ協会会員数）の推移	3
図 2 - 1 . 従業者規模別企業数構成比（令和 6 年）	4
表 2 - 2 . 従業者数別企業数構成比の推移	4
表 2 - 3 . 従業者規模別企業数と男女別従業者数（令和 6 年）	5
図 2 - 2 . 地区別従業者数別企業数構成比推移	6
図 2 - 3 . 地区別 1 企業あたり平均従業者数推移	7
図 2 - 4 . 年代別従業者数比率（令和 6 年）	8
図 2 - 5 . 年代別従業者数比率推移	8
図 2 - 6 . 地区別従業者年代別構成比推移	9
表 2 - 4 . 従業者年代別地区別従業者数（令和 6 年）	10
図 2 - 7 . 代表者年齢構成（令和 6 年）	11
表 2 - 5 . 地区別年齢別代表者数及び構成比（令和 6 年）	11
図 2 - 8 . なめし区分	12
表 2 - 6 . 関西地区 / 関東地区別なめし区分	12
図 2 - 9 . 地区別なめし区分	13
図 2 - 10 . 主な原皮使用率	14
表 2 - 7 . 地区別主な使用原皮	15
表 2 - 8 . 地区別主な使用原皮・令和 5 年調査結果からの増減	15
図 2 - 11 . 地区別主な原皮使用率	16
図 3 - 1 . 日本のなめし革（ひと月あたり平均）生産販売枚数推移	17
図 3 - 2 . 革種別月間平均生産販売枚数構成比	18
図 3 - 3 . 主要革種の月間平均生産販売枚数推移	18
図 3 - 4 . 全革種月間平均生産販売枚数における仕向け先比率	19
図 3 - 5 . 革種別月間平均生産販売枚数における仕向け先比率	19
図 3 - 6 . 月間平均輸出枚数推移（全革種計）	20
図 3 - 7 . 革種別月間平均輸出枚数推移	20
図 3 - 8 . 地区別月間平均生産販売枚数における革種比率	21
図 3 - 9 . なめし革月間平均生産販売枚数別企業数構成（地区別）	24
表 3 - 1 . 地区別なめし革月間平均生産販売枚数別企業数	24
表 3 - 2 . 革種別地区別月間平均生産販売枚数 5 年間推移	25
表 3 - 3 . 革種別地区別仕向け先別月間平均生産販売枚数	26
図 3 - 10 . 全革種月間平均生産販売枚数用途構成比	27
表 3 - 4 . 革種別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数	29

図 3 - 11. 革種別月間平均生産販売枚数における用途構成比	30
表 3 - 5. 革種別用途別月間平均生産販売枚数 5 年間推移	31
図 3 - 12. 地区別月間平均生産販売枚数における用途構成比	32
表 3 - 6. なめし革の地区別用途別月間平均生産販売枚数 (詳細)	34
図 3 - 13. 成牛革の用途別月間平均生産販売枚数推移	35
図 3 - 14. 成牛革の仕向け先別月間平均生産販売枚数における地区比率	36
表 3 - 7. 成牛革の地区別月間平均生産販売枚数別企業数	36
図 3 - 15. 成牛革の地区別月間平均生産販売枚数における用途比率	37
表 3 - 8. 成牛革の地区別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数 (令和 6 年)	39
表 3 - 9. 成牛革の地区別用途別月間平均生産販売枚数 (令和 6 年/ 詳細)	41
表 3 - 10. 成牛革の地区別用途別月間平均生産販売枚数 5 年間推移	42
図 3 - 16. 豚革の用途別月間平均生産販売枚数推移	43
図 3 - 17. 豚革の仕向け先別月間平均生産販売枚数における地区比率	44
図 3 - 18. 豚革の地区別月間平均生産販売枚数における用途比率	45
表 3 - 11. 豚革の地区別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数 (令和 6 年)	46
表 3 - 12. 豚革の地区別用途別月間平均生産販売枚数 (令和 6 年/ 詳細)	47
図 3 - 19. 山羊・羊革の用途別月間平均生産販売枚数推移	48
図 3 - 20. 山羊・羊革の仕向け先別月間平均生産販売枚数における地区比率	49
図 3 - 21. 山羊・羊革の地区別月間平均生産販売枚数における用途比率	49
表 3 - 13. 山羊・羊革の地区別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数 (令和 6 年)	51
表 3 - 14. 山羊・羊革の地区別用途別月間平均生産販売枚数 (令和 6 年/ 詳細)	52
図 3 - 22. 牛床革の用途別月間平均生産販売枚数推移	53
図 3 - 23. 牛床革の仕向け先別月間平均生産販売枚数における地区比率	54
図 3 - 24. 牛床革の地区別用途別月間平均生産販売枚数における用途比率	54
表 3 - 15. 牛床革の地区別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数 (令和 6 年)	56
表 3 - 16. 牛床革の地区別用途別月間平均生産販売枚数 (令和 6 年/ 詳細)	57
図 4 - 1. 月間平均生産能力/月間平均生産実績 (丸革・全革種計)	58
図 4 - 2. 生産能力に対する生産実績比率推移	59
図 4 - 3. 主要革種別月間平均生産能力/月間平均生産実績 (令和 1 年～令和 6 年)	60
表 4 - 1. 革種別月間平均生産能力と月間平均生産実績の対比	62
表 4 - 2. 地区別月間平均生産能力/月間平均生産実績	64
表 4 - 3. 地区別月間平均生産能力と月間平均生産実績の 5 年間推移①	66
表 4 - 3. 地区別月間平均生産能力と月間平均生産実績の 5 年間推移②	67
表 4 - 4. 革種別月間平均生産能力と月間平均生産実績①	68
表 4 - 4. 革種別月間平均生産能力と月間平均生産実績②	69
表 4 - 4. 革種別月間平均生産能力と月間平均生産実績③	70

表 4 - 4 . 革種別月間平均生産能力と月間平均生産実績④	71
表 4 - 4 . 革種別月間平均生産能力と月間平均生産実績⑤	72
図 4 - 5 . 革種別なめし工法比率	73
図 4 - 6 . 革種別なめし製造工程比率	73
図 5 - 1 . 経営に対する考え方	74
表 5 - 1 . 「経営に対する考え方」の4年間回答対比	75
図 5 - 2 . 従業者数別にみる経営に対する考え方（令和6年）	76
図 5 - 3 . 地区別経営に対する考え方・回答構成比	76
図 5 - 4 . 休業後の意向	78
図 5 - 5 . 経営に前向きな要因	78
図 5 - 6 . 経営に前向きな要因（関西/関東比較）	79
図 5 - 7 . 経営の不安材料	80
図 5 - 8 . 経営の不安材料（関西/関東比較）	81
図 5 - 9 . コスト高で採算が取れない要因	81
図 5 - 10 . 通信手段・企業数集計	82
図 5 - 11 . 通信手段・従業者数別企業数集計	83
図 5 - 12 . 通信手段・地区別集計	83
図 5 - 13 . 販路開拓のための取組み・全体集計	85
図 5 - 14 . 販路開拓のための取組み・従業者数別企業数集計	85
図 5 - 15 . 販路開拓のための取組み・地区別集計	86

# 実態調査結果

## 1. 実態調査の目的と経過

### 1-1. 目的

当協会が実施している実態調査事業は製革業の全容を知る上での唯一の資料として、業界の内外を問わず各方面からも大きな評価を受けている。今回も当協会会員のみならず非会員も含めた、全企業を対象に調査を実施した。

調査項目は、例年欠かすことなく行ってきた全体調査である。すなわち生産販売量の変化及び操業率の状況を最重点項目とし、多方面から詳細に分析した。同時に、経営維持についての意識調査も行い、経営者の現在の心境を把握することに努めた。

本調査事業は昭和54年の当協会設立時から行われており、本年度も昨年度に引き続き（一社）日本皮革産業連合会の補助事業として、製革業全体の活動状況の骨格を反映する各データに関して、全体調査に絞り込んで調査を行ったものである。

報告書では、過去の調査結果との比較を重視すると共に、より分かり易く、見やすい形にしている。この調査結果を内部だけではなく対外的にも発信できるように、まずは日本の皮革産業が現在どのような状況となっているのかを一目で把握できる様に、可能な限りグラフで集計結果を表している。

### 1-2. 調査要項

#### ① 調査手段

調査にあたっては各支部による配布・回収とし、巡回及び持参・面接方式で行った。

#### ② 調査対象

当協会の会員及び非会員の全製革業者を対象とした。非会員の調査には各支部の協力を得て、できるだけ多くの非会員の方々に協力をお願いした。尚、令和6年8月1日現在の地区別の会員数は下記の通りで、全国合計は昨年の284社から12社減少している。

松原	69社	誉田	43社	沢田	12社	高木	60社
御着	22社	川西	10社	大阪他	9社	和歌山	7社
東京	28社	埼玉他	12社			全国合計	272社

#### ③ 調査日程

調査は、令和6年8月1日（木）から8月31日（土）にかけて一斉に行った。

#### ④ 調査項目

本調査事業開始時から一貫して行われている以下の項目に関する調査を行った。

- 1) 事業の概要
- 2) 生産販売動向
- 3) 生産能力及び最近の生産実績
- 4) 経営意識調査

#### ⑤ 調査票

調査票の様式は巻末資料の通り。

⑥ 回収結果

令和3年調査から令和6年調査までの回収結果を表1-1にとりまとめた。これらの全回収数の中には無記入もあるため、各項目の集計数は異なっている。

⑦ 留意事項

生産販売量、生産能力及び生産実績等の項目で集計している数字に関しては、いずれも令和6年1月から7月までのひと月あたり平均の生産販売（出荷）枚数として算出した数字である。1年間の数量、平均数値ではないことを留意願いたい。

⑧ 集計・分析担当

クルーシャルモーメント株式会社

表1-1. 実態調査票の回収結果

(社)

項目 年 度 地区	会 員 数				会 員 提 出 数				非 会 員 提 出 数				回 収 合 計				回収合計に対する 非会員の割合(%)			
	令3	令4	令5	令6	令3	令4	令5	令6	令3	令4	令5	令6	令3	令4	令5	令6	令3	令4	令5	令6
松原	74	74	74	69	74	74	74	69	0	0	0	0	74	74	74	69	0	0	0	0
誉田	48	44	44	43	48	44	43	42	0	0	0	0	48	44	43	42	0	0	0	0
沢田	16	16	14	12	16	16	14	12	0	0	0	0	16	16	14	12	0	0	0	0
高木	64	63	62	60	63	62	59	60	8	6	2	2	71	68	61	62	11.3	8.8	3.3	3.2
御着	26	25	24	22	25	22	23	22	0	0	0	0	25	22	23	22	0	0	0	0
川西	12	10	10	10	10	8	10	10	0	0	0	0	10	8	10	10	0	0	0	0
大阪他	9	9	9	9	7	7	7	8	0	0	0	0	7	7	7	8	0	0	0	0
和歌山	7	7	7	7	7	7	7	7	0	0	0	0	7	7	7	7	0	0	0	0
関西計	256	248	244	232	250	240	237	230	8	6	2	2	258	246	239	232	3.1	2.4	0.8	0.9
東京	34	33	29	28	33	31	26	28	2	0	1	1	35	31	27	29	5.7	0	3.7	3.4
埼玉他	13	12	11	12	10	11	10	9	2	2	2	0	12	13	12	9	16.7	15.4	16.7	0
関東計	47	45	40	40	43	42	36	37	4	2	3	1	47	44	39	38	8.5	4.5	7.7	2.6
全国計	303	293	284	272	293	282	273	267	12	8	5	3	305	290	278	270	3.9	2.8	1.8	1.1

※会員数は令和6年8月1日現在

## 2. 日本の製革業者の実態

本調査では、企業数、各企業の従業者数、従業者数の変化、生産販売動向及び操業率、現在の生産販売、経営についての意識等を重点項目として実施した。

### 2-1. 製革業者数について

日本にある製革業者の企業数について、(一社)日本タンナーズ協会の会員数を元にその推移をみた。下記の表は、平成27年から令和6年までの10年間の(一社)日本タンナーズ協会の会員数と、アンケート調査により判明した休業社数の推移である。まず会員の総数の推移をみると、この10年で43社の減少となっている。内訳としては関西が33社の減少、関東が10社の減少である。また1年間での減少幅としては、この令和5年から令和6年の1年がこの10年間で最も大きく、減少した。一方の休業者数は、この10年で一見大きな変化はみえないが、会員数の減少という背景があるということは、実質廃業している製革業者がいる中での休業社数の推移であり、休業社数が維持されていることは、毎年新たに廃業社数と同数程度の休業社数が出現しているということになる。

この1年での会員数の減少は、コロナ禍によって休業することになった製革業者が、再開の目処が立たず、ここにきて廃業のタイミングになった製革業者も多いと思われる。市場における皮革製品の動きを見ても、海外の高級ブランドは好調であるが、国内の靴及びバッグメーカーは厳しい状況が続いている。こうした状況では国内皮革製品メーカーを販売の対象とした製革業者の経営も必然と厳しくなる。この状況下で製革業者が個別に考え、動くことは限界もあり、今後、業界全体として何らかの策を練っていかないとこの流れは止められないと思われる。

表2-1. 製革業者数(日本タンナーズ協会会員数)の推移 (人/社)

地区	年度	会 員 数										休 業 社 数									
		平27	平28	平29	平30	令1	令2	令3	令4	令5	令6	平27	平28	平29	平30	令1	令2	令3	令4	令5	令6
松原		79	75	82	82	80	75	74	74	74	69	10	12	11	12	14	8	12	13	14	13
誉田		48	48	49	48	48	48	48	44	44	43	3	0	5	8	7	9	11	9	9	8
沢田		16	16	16	16	16	16	16	16	14	12	4	4	4	4	4	4	4	4	2	0
高木		68	67	71	69	65	66	64	63	62	60	14	11	10	9	8	7	7	8	8	10
御着		24	24	26	26	25	26	26	25	24	22	2	1	3	4	5	4	4	3	3	4
川西		11	11	12	12	12	12	12	10	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大阪他		9	10	10	9	9	9	9	9	9	9	1	2	2	1	0	2	0	0	0	1
和歌山		10	10	10	9	8	7	7	7	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
関西計		265	261	276	271	263	259	256	248	244	232	34	30	35	38	38	34	38	37	36	36
東京						41	40	34	33	29	28	3	4	4	2	1	4	1	1	1	1
埼玉他		50	50	58	58	13	13	13	12	11	12	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
関東計		50	50	58	58	54	53	47	45	40	40	3	4	4	3	1	4	1	1	1	1
全国計		315	311	334	329	317	312	303	293	284	272	37	34	39	41	39	38	39	38	37	37

※会員数は毎年8月1日現在

## 2-2. 従業者規模別にみる製革業者の現状

今回の調査回答企業数269社（無回答1社除く）を、従業者数別に1～4人、5～9人、10～19人、20～39人、40人以上の5分類としてその現状をみた。また、休業中の企業は1～4人の企業に含めている。下記の図2-1は、今回の調査回答企業について従業者数別の構成を表したものである。1～4人規模の企業が全体の53.9%（145社）、5～9人規模の企業が26.8%（72社）となり、合わせて10人未満の企業が全体の8割強を占める状況は、少なくとも令和1年からの6年間は継続した結果となっている。その他、10～19人規模の企業が13.4%（36社）、20～39人規模の企業が3.7%（10社）、40人以上の企業が2.2%（6社）となった。

また令和2年調査結果から今回調査結果までの直近5年間の推移（表2-2）をみると、1～4人規模の企業の構成比に関しては今回僅かに増加したが、社数の減少トレンドは継続している。これは全体の企業数の減少と関連しているとみられる。また全体の従業者数も減少トレンドは続いているが、令和6年調査においては、前年調査結果とほぼ横ばいで推移しており、よって1企業平均の数値はここ3年連続で上がっている。但し、調査結果を令和2年と比較すると企業数で43社の減少、従業者数で173人の減少となっており、製革業者の直近5年間の変化としてはかなり深刻な状況といえる。

図2-1. 従業者規模別企業数構成比（令和6年）

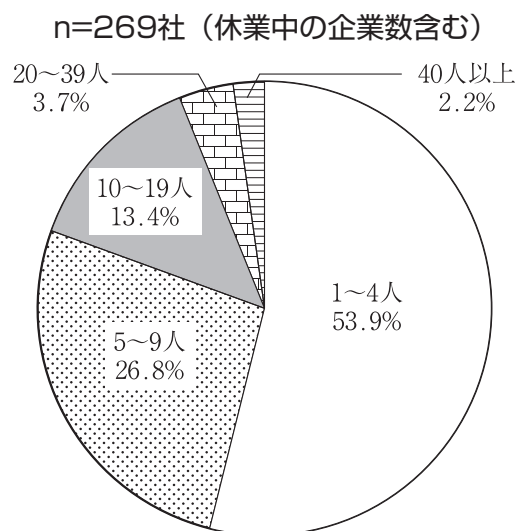


表2-2. 従業者数別企業数構成比の推移

	企業数	1～4人	5～9人	10～19人	20～39人	40人以上	従業者数	1企業平均
令2	312社	175社 (56.1%)	77社 (24.7%)	43社 (13.8%)	11社 (3.5%)	6社 (1.9%)	2,508人	8.0人
令3	305社	174社 (57.0%)	74社 (24.3%)	40社 (13.1%)	11社 (3.6%)	6社 (2.0%)	2,425人	8.0人
令4	290社	161社 (55.5%)	72社 (24.8%)	40社 (13.8%)	10社 (3.4%)	7社 (2.4%)	2,431人	8.4人
令5	277社	149社 (53.8%)	79社 (28.5%)	34社 (12.3%)	10社 (3.6%)	5社 (1.8%)	2,337人	8.4人
令6	269社	145社 (53.9%)	72社 (26.8%)	36社 (13.4%)	10社 (3.7%)	6社 (2.2%)	2,335人	8.7人

※（ ）内の数字は従業者数別の企業数の構成比

表 2 - 3. 従業者数別企業数と男女別従業者数（令和 6 年）

（社・人）

地区	従業者規模	企業数	従業者数			地区	従業者規模	企業数	従業者数			地区	従業者規模	企業数	従業者数		
			男	女	計				男	女	計				男	女	計
松原	1～4	28	46	25	71	御着	1～4	5	8	4	12	関西計	1～4	100	169	88	257
	5～9	18	77	53	130		5～9	10	53	13	66		5～9	59	268	135	403
	10～19	6	56	33	89		10～19	2	14	9	23		10～19	27	243	121	364
	20～39	3	52	26	78		20～39	1	15	14	29		20～39	7	116	68	184
	40～69	0	0	0	0		40～69	0	0	0	0		40～69	1	50	13	63
	70以上	1	41	69	110		70以上	0	0	0	0		70以上	2	96	85	181
	休業中	13	8	5	13		休業中	4	4	1	5		休業中	36	26	12	38
	小計	69	280	211	491		小計	22	94	41	135		合計	232	968	522	1,490
誉田	1～4	25	40	22	62	姫路計	1～4	32	56	27	83	東京	1～4	8	20	2	22
	5～9	8	36	21	57		5～9	22	106	39	145		5～9	10	51	14	65
	10～19	1	11	5	16		10～19	15	129	67	196		10～19	8	74	24	98
	20～39	0	0	0	0		20～39	1	15	14	29		20～39	2	50	10	60
	40～69	0	0	0	0		40～69	0	0	0	0		40～69	0	0	0	0
	70以上	0	0	0	0		70以上	0	0	0	0		70以上	0	0	0	0
	休業中	8	4	4	8		休業中	14	13	3	16		休業中	1	2	0	2
	小計	42	91	52	143		小計	84	319	150	469		小計	29	197	50	247
沢田	1～4	4	8	0	8	川西	1～4	7	11	7	18	埼玉他	1～4	1	2	0	2
	5～9	5	20	8	28		5～9	1	6	2	8		5～9	3	18	5	23
	10～19	1	6	5	11		10～19	2	22	7	29		10～19	1	9	1	10
	20～39	2	31	22	53		20～39	0	0	0	0		20～39	1	18	9	27
	40～69	0	0	0	0		40～69	0	0	0	0		40～69	2	82	19	101
	70以上	0	0	0	0		70以上	0	0	0	0		70以上	1	302	133	435
	休業中	0	0	0	0		休業中	0	0	0	0		休業中	0	0	0	0
	小計	12	65	35	100		小計	10	39	16	55		小計	9	431	167	598
たつの計	1～4	57	94	47	141	大阪他	1～4	2	5	3	8	関東計	1～4	9	22	2	24
	5～9	31	133	82	215		5～9	2	9	8	17		5～9	13	69	19	88
	10～19	8	73	43	116		10～19	0	0	0	0		10～19	9	83	25	108
	20～39	5	83	48	131		20～39	1	18	6	24		20～39	3	68	19	87
	40～69	0	0	0	0		40～69	1	50	13	63		40～69	2	82	19	101
	70以上	1	41	69	110		70以上	1	55	16	71		70以上	1	302	133	435
	休業中	21	12	9	21		休業中	1	1	0	1		休業中	1	2	0	2
	小計	123	436	298	734		小計	8	138	46	184		合計	38	628	217	845
高木	1～4	27	48	23	71	和歌山	1～4	2	3	4	7	全国計	1～4	109	191	90	281
	5～9	12	53	26	79		5～9	3	14	4	18		5～9	72	337	154	491
	10～19	13	115	58	173		10～19	2	19	4	23		10～19	36	326	146	472
	20～39	0	0	0	0		20～39	0	0	0	0		20～39	10	184	87	271
	40～69	0	0	0	0		40～69	0	0	0	0		40～69	3	132	32	164
	70以上	0	0	0	0		70以上	0	0	0	0		70以上	3	398	218	616
	休業中	10	9	2	11		休業中	0	0	0	0		休業中	37	28	12	40
	小計	62	225	109	334		小計	7	36	12	48		合計	270	1,596	739	2,335

図 2 - 2. 地区別従業員数別企業数構成比推移

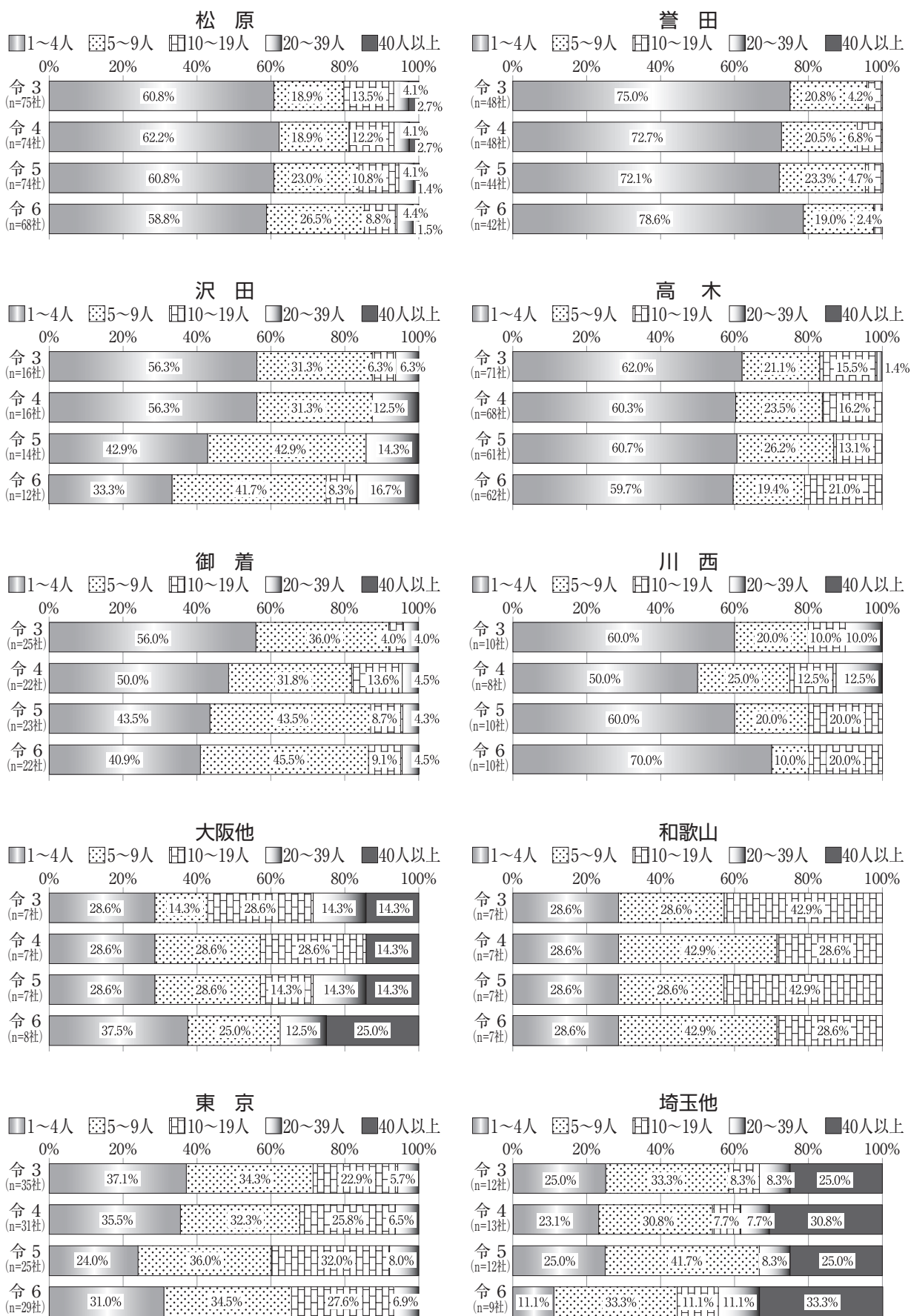
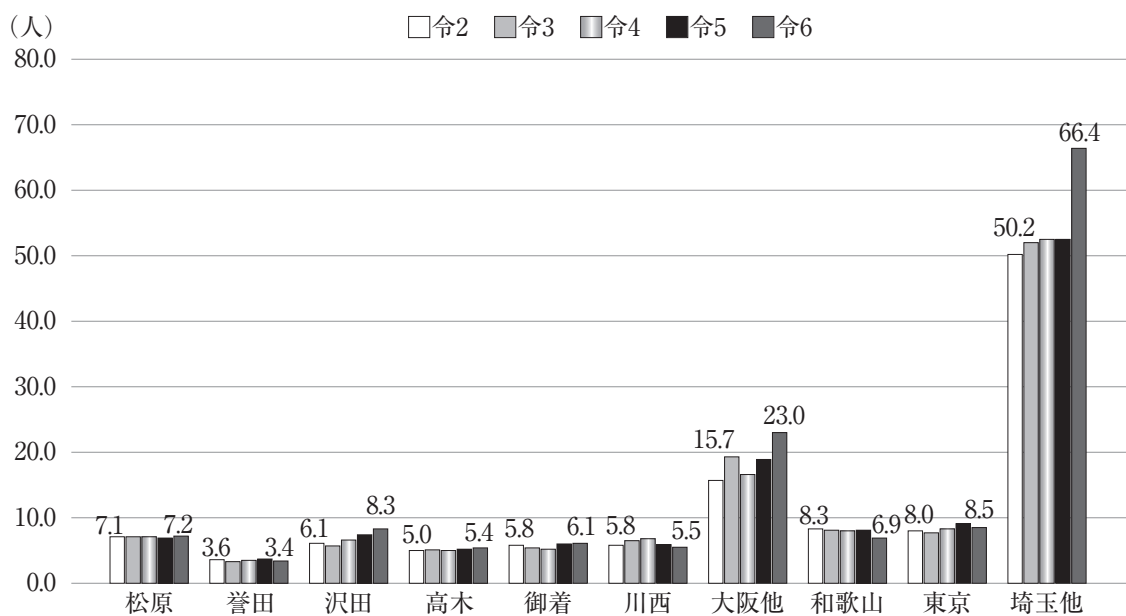


表2-3及び図2-2は、今回の調査における地区別の従業者数別の企業数及び男女別の従業者数の集計と、従業者数別企業数比率の推移を表したものである。前記したように業界全体として、企業数、従業者数とも減少トレンドが続いているが、地区別にみても企業数の少ない地区を除いて、ほぼ同様に減少トレンドにある。一方で男女別の従業者数において、男性従業者数の全体平均の比率は68%、女性従業者の比率は32%となった。地区別の傾向をみると、松原地区において女性従業者の比率は43%に達しており、地区間比較で最も高い比率となっている。逆に女性従業者の比率が最も低いのは東京地区で20%となっている。

次に地区別に従業者数別企業数の比率を経年推移でみた場合、特に従業者数1～4人の企業の構成比の変化度合いは地区別で差が見られ、沢田地区、御着地区、東京地区、埼玉他地区ではその比率が減少傾向にある。その他の地区は増加、もしくはほぼ横ばい状態にある。もちろんこれには廃業していった企業が集計対象から外れているので、その比率が減少傾向にある地区でも、一概に1企業あたりの従業者数が増えているという見方はできない。

図2-3は、地区別の1企業あたりの平均従業者数の推移を表したものである。今回の調査結果では規模の大きい企業が存在する埼玉他地区や大阪他地区の数字が大きく伸びている事が目立つ。その他、令和2年の集計結果を令和6年の集計結果が上回ったのは松原地区、沢田地区、高木地区、御着地区、東京地区となり、それ以外の地区は平均従業者数が減少している。

図2-3. 地区別1企業あたり平均従業者数推移



(人)

	松原	誉田	沢田	高木	御着	川西	大阪他	和歌山	東京	埼玉他
令2	7.1	3.6	6.1	5.0	5.8	5.8	15.7	8.3	8.0	50.2
令3	7.1	3.3	5.7	5.1	5.4	6.5	19.3	8.1	7.7	52.0
令4	7.1	3.5	6.6	5.0	5.2	6.8	16.6	8.0	8.3	52.5
令5	6.9	3.7	7.4	5.2	6.0	5.9	18.9	8.1	9.1	52.5
令6	7.2	3.4	8.3	5.4	6.1	5.5	23.0	6.9	8.5	66.4

### 2-3. 年代別・性別従業者数にみる製革業者の現状

次に各企業の年代を30歳未満、30歳代、40歳代、50歳以上の4分類として、現在の製革業者の従業者の構造をみた。図2-4はその分類を基に年代別従業者数の比率を表したものである。その結果、従業者が50歳以上の比率が53.4%となり、前年の比率（54.6%）よりはやや下がったものの、従業者全体において50歳以上が過半数である状況は、業界の高齢化を顕著に表している。

また図2-5ではここ数年の比率の推移を表したものであるが、高齢者の比率が高止まりしている一方で、また30歳未満の比率も少しずつではあるが高まっていることが表れている。これは製革業者の中でも比較的規模の大きい企業の状況が大きく貢献したものであると思われる。その分、中間的な層である30-50才までの従業者の比率低下が続いている。こうした状況を総合的に考えると、従業者の高齢化を要因として廃業した企業が毎年一定数出ていることによって、全体の集計結果として高齢者の高止まり、若年層の増加といった結果に繋がっているとも考えられる。

図2-6は地区別の年代構成の推移を表したものであるが、地区別に見ても令和6年の結果においては、50歳以上の従業者数比率が前年との比較で僅かに下がっている地区が多くなっている。逆に誉田地区、沢田地区、御着地区の3地区においてはその比率が上がっており、特に誉田地区は4年連続でその比率が高まっている。

また表2-4は地区別にその年代別従業者数に男女数を加えたものであるが、ここでは20代以下の男女比に注目すると、関西地区の合計においては男女ほぼ同数に近い比率となっているが、関東地区はおおよそ65：35の比率で男性従業者数が多い結果となっている。

図2-4. 年代別従業者数比率（令和6年）  
（全国・n=2,335人）

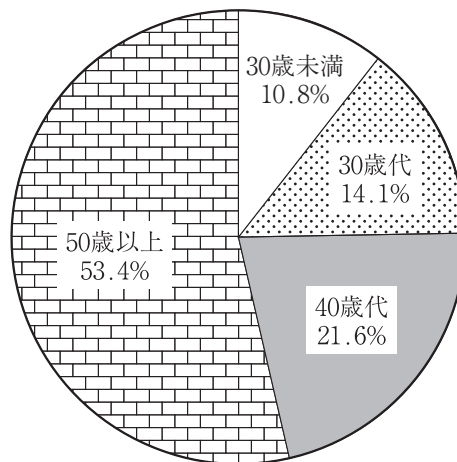


図2-5. 年代別従業者数比率推移

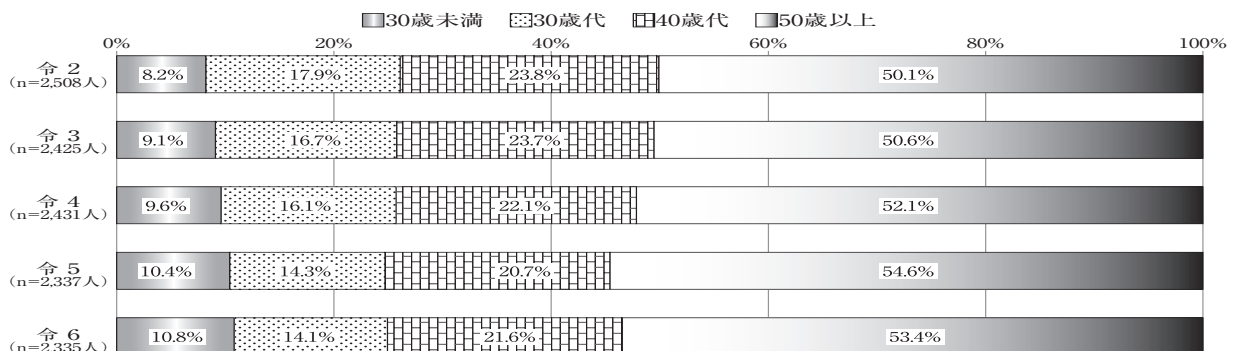


図2-6. 地区別従業者年代別構成比推移

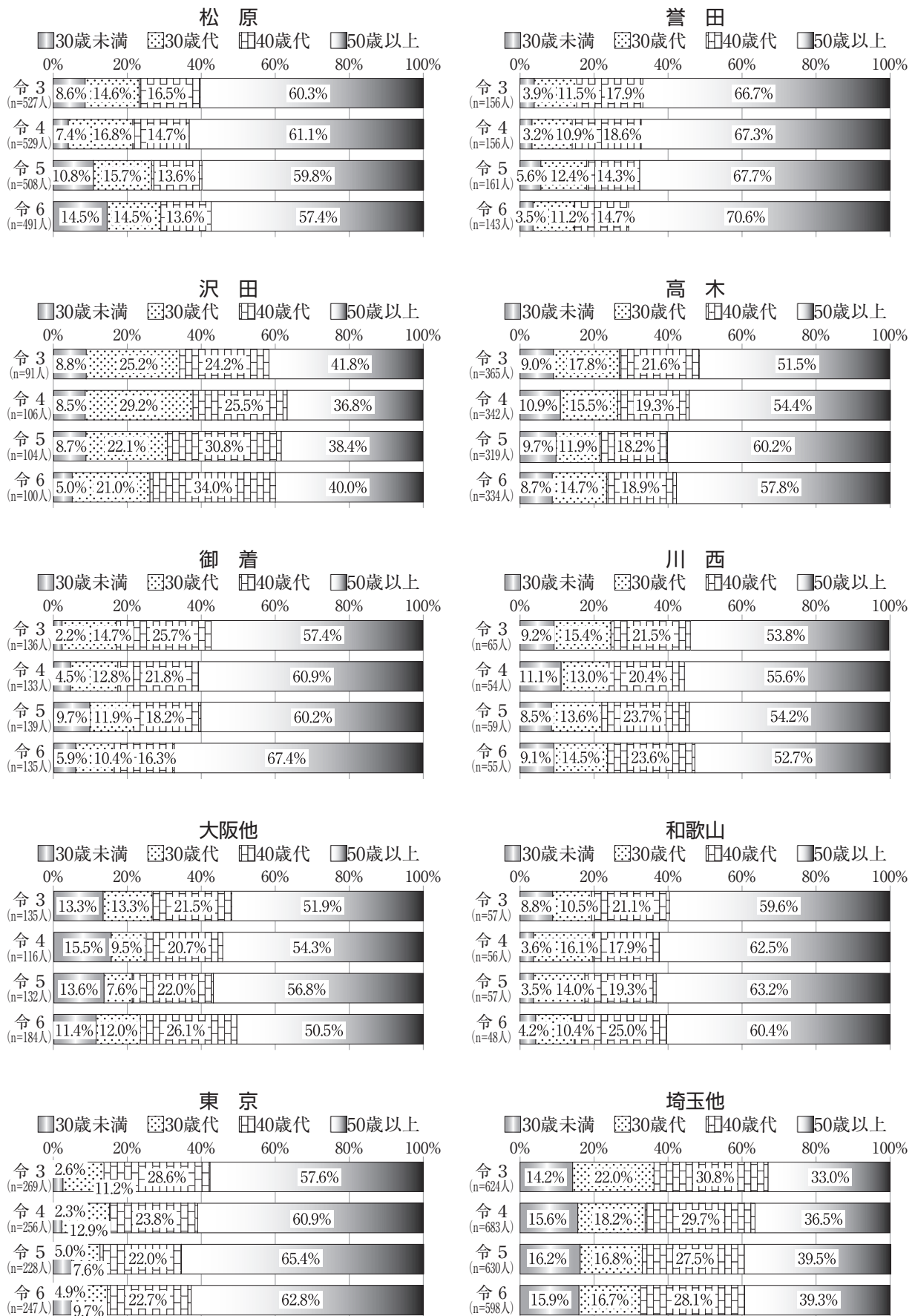


表 2 - 4. 従業者年代別地区別従業者数 (令和 6 年)

(人)

地区		年齢		20歳未満		20歳代		30歳代		40歳代		50歳以上		合 計		
		性別		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
松 原	従業者数	1	3	20	47	43	28	47	20	169	113	280	211	491		
	年代別比率(%)	0.8		13.6		14.5		13.6		57.4		57.0	43.0			
誉 田	従業者数			4	1	8	8	16	5	63	38	91	52	143		
	年代別比率(%)			3.5		11.2		14.7		70.6		63.6	36.4			
沢 田	従業者数	1		2	2	11	10	21	13	30	10	65	35	100		
	年代別比率(%)	1.0		4.0		21.0		34.0		40.0		65.0	35.0			
高 木	従業者数	4		18	7	30	19	41	22	132	61	225	109	334		
	年代別比率(%)	1.2		7.5		14.7		18.9		57.8		67.4	32.6			
御 着	従業者数			4	4	11	3	15	7	64	27	94	41	135		
	年代別比率(%)			5.9		10.4		16.3		67.4		69.6	30.4			
川 西	従業者数			5		4	4	13		17	12	39	16	55		
	年代別比率(%)			9.1		14.5		23.6		52.7		70.9	29.1			
大 阪 他	従業者数			14	7	21	1	37	11	66	27	138	46	184		
	年代別比率(%)			11.4		12.0		26.1		50.5		75.0	25.0			
和 歌 山	従業者数			2		2	3	10	2	22	7	36	12	48		
	年代別比率(%)			4.2		10.4		25.0		60.4		75.0	25.0			
関 西 計	従業者数	6	3	69	68	130	76	200	80	563	295	968	522	1,490		
	年代別比率(%)	0.6		9.2		13.8		18.8		57.6		65.0	35.0			
東 京	従業者数			8	4	22	2	46	10	121	34	197	50	247		
	年代別比率(%)			4.9		9.7		22.7		62.8		79.8	20.2			
埼 玉 他	従業者数	1	1	61	32	70	30	127	41	172	63	431	167	598		
	年代別比率(%)	0.3		15.6		16.7		28.1		39.3		72.1	27.9			
関 東 計	従業者数	1	1	69	36	92	32	173	51	293	97	628	217	845		
	年代別比率(%)	0.2		12.4		14.7		26.5		46.2		74.3	25.7			
全 国 計	従業者数	7	4	138	104	222	108	373	131	856	392	1,596	739	2,335		
	年代別比率(%)	0.5		10.4		14.1		21.6		53.4		68.4	31.6			

## 2-4. 製革業者代表者の年齢構成

ここでは日本の製革業者の代表者の年齢についてまとめた。現在、日本のどの産業においても企業の後継者問題が課題となっており、その意味でもここでは代表者の年齢構成に注目した。その結果、現状の製革業者の状況は図2-7のような結果（代表者の年齢不明の企業を除く）となった。

この結果、代表者の年齢は全国平均で64.6歳となり、代表者が60歳以上の企業が66%を占めており、70歳以上だけでも全体の37%を占めている。これらの数値は前年よりも上昇しており、代表者の高齢化はさらに進んでいるとみられる。また表2-5では各地区の傾向をまとめたが、地区別の代表者の平均年齢が60歳以下の地区が御着地区、川西地区、大阪他地区の3地区で、それ以外の地区はいずれも60歳以上となっている。最も高齢となったのは和歌山地区で平均年齢が70歳を超えている。こうした状況から代表者の若返りが今後どこまで進むのか、注視していく必要がある。

図2-7. 代表者年齢構成（令和6年/n=270社）

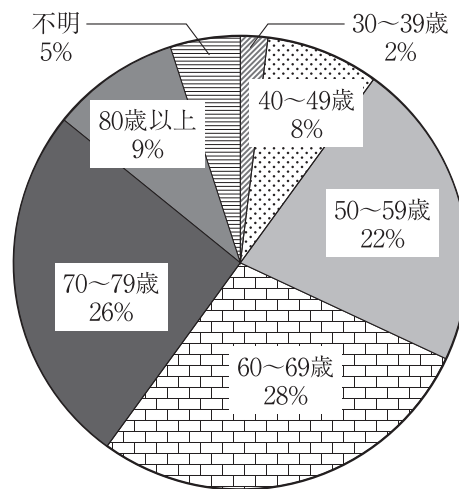


表2-5. 地区別年齢別代表者数及び構成比（令和6年） 上段：代表者数（人）下段：構成比（%）

	調査数(社)	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	不明	平均(歳)
松原	69	1 1.4	4 5.8	12 17.4	19 27.5	26 37.7	6 8.7	1 1.4	66.9
誉田	42		2 4.8	10 23.8	11 26.2	9 21.4	6 14.3	4 9.5	66.8
沢田	12	1 8.3	1 8.3		3 25.0	6 50.0	1 8.3		67.3
高木	62	2 3.2	4 6.5	14 22.6	21 33.9	14 22.6	5 8.1	2 3.2	63.9
御着	22		2 9.1	7 31.8	7 31.8	3 13.6		3 13.6	59.9
川西	10		3 30.0	3 30.0	3 30.0	1 10.0			58.3
大阪他	8		3 37.5	2 25.0	2 25.0			1 12.5	53.0
和歌山	7			2 28.6	1 14.3	1 14.3	2 28.6	1 14.3	70.3
関西計	232	4 1.7	19 8.2	50 21.6	67 28.9	60 25.9	20 8.6	12 5.2	64.7
東京	29	1 3.4	3 10.3	6 20.7	7 24.1	7 24.1	4 13.8	1 3.4	63.3
埼玉他	9		1 11.1	2 22.2	2 22.2	4 44.4			66.4
関東計	38	1 2.6	4 10.5	8 21.1	9 23.7	11 28.9	4 10.5	1 2.6	63.6
全国計	270	5 1.9	23 8.5	58 21.5	76 28.1	71 26.3	24 8.9	13 4.8	64.6

## 2-5. なめしの区分

図2-8は、製革業者のなめし区分を集計したもので、複数回答してもらった結果を、「クロム鞣しのみ」、「タンニン鞣しのみ」、「クロム鞣し+その他鞣し」に新たに分類、再集計した結果である。

その結果、無回答が全体の39%程度あるため、あくまでも回答企業だけの集計結果であるが、「クロム鞣しのみ」を行っている企業は全体の30.4%、「タンニン鞣しのみ」を行っている企業は6.7%、「クロム鞣し+その他の鞣し」として行っている企業は24.1%となった。今回の集計は前回調査と集計方法を少し変えたこともあって、全てが前年との比較はできないが、「クロム鞣しのみ」の企業は前年に続いて4ポイントほど減少している。

表2-6は関西、関東、全国としてなめし区分を、複数回答のまま集計した結果であり、その結果、全体の54.4%の企業がクロム鞣しを行っている一方、タンニン鞣しを行っている企業は全体の22.2%のレベルにあるという結果となった。特に関東、関西で分けてみると、クロム鞣しを行っている企業の比率は変わらないが、タンニン鞣しを行っている企業の比率に差があり、関西では18.1%、関東では47.4%となった。もちろんこれには扱っている革種の違いということも大きいと思われるが、昨今、サステナビリティの重要性が問われ、製革産業における環境問題が問われる中、製品メーカーからタンニン鞣しを要求される機会が今後ますます増えてくると予想されるため、クロム鞣し一辺倒の事業運営の企業はさらに経営的にも厳しくなってくると思われる。

また図2-9は地区別に集計したものであるが、埼玉他地区はクロム鞣し、タンニン鞣し、それぞれを行っている企業比率がほぼ同率であり、東京地区もそれに近い結果となっている。一方タンニン鞣しを行っている企業比率が低い地区としては、川西地区の10%、誉田地区の11.9%、和歌山地区の14.3%、松原地区の14.5%などが挙げられる。それ以外の地区は20%以上となっている。

図2-8. なめし区分 (全国・n=270社)

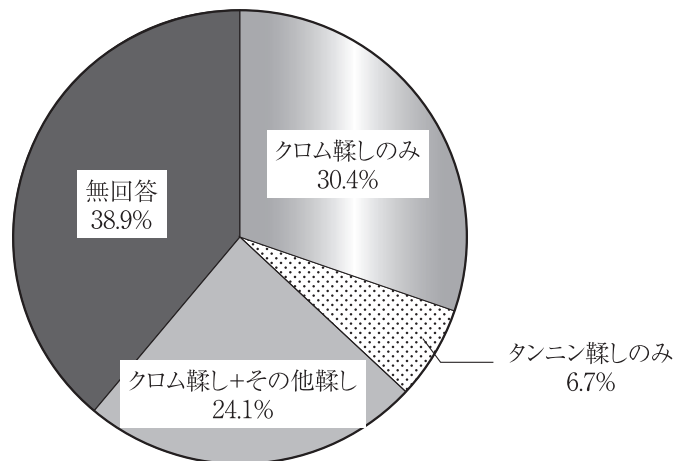
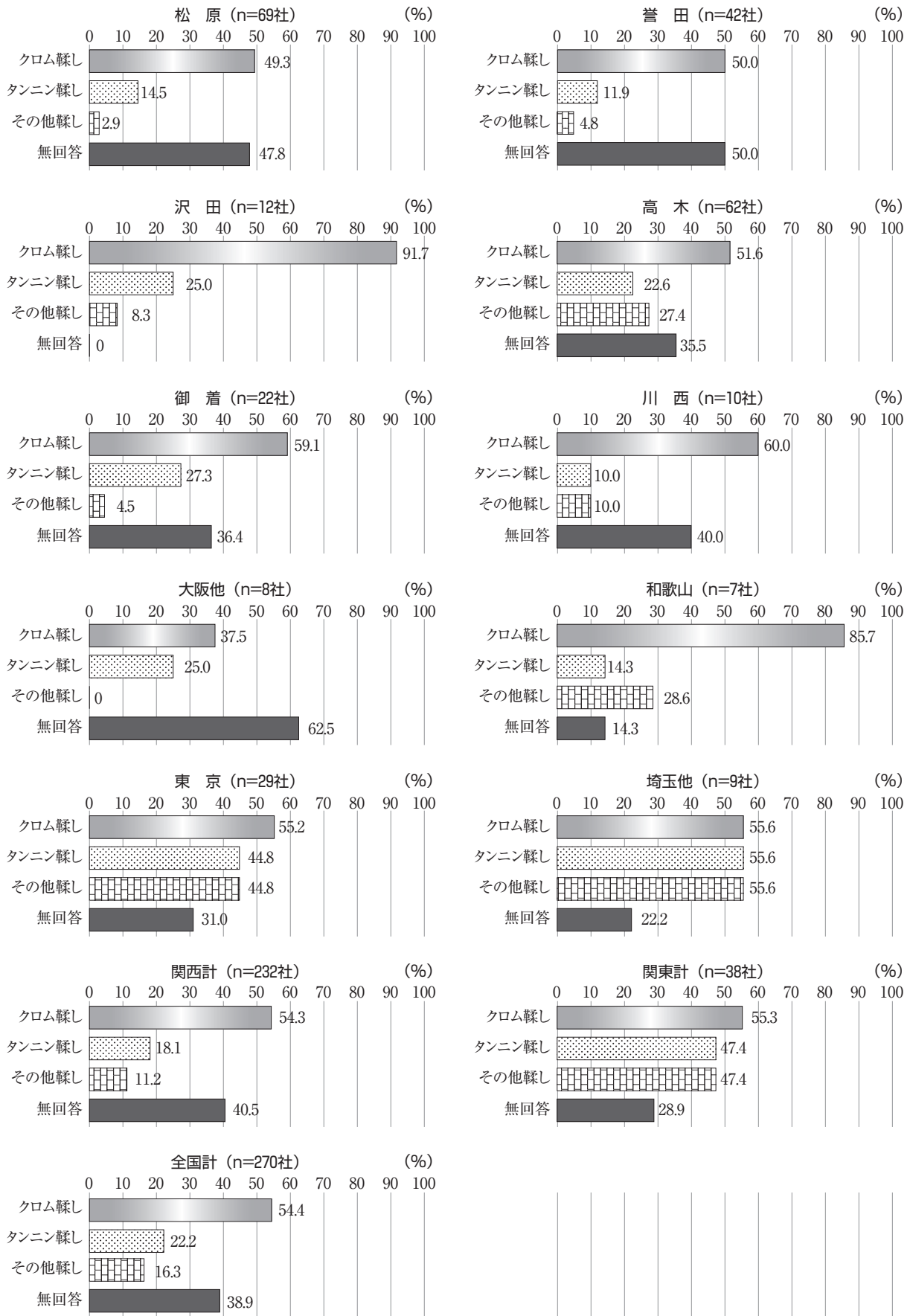


表2-6. 関西地区/関東地区別なめし区分 (複数回答)

地区	なめし区分		クロム鞣し		タンニン鞣し		その他鞣し		無回答		計 企業数
	企業数	比率 (%)	企業数	比率 (%)	企業数	比率 (%)	企業数	比率 (%)	企業数	比率 (%)	
関西計	126	54.3	42	18.1	26	11.2	94	40.5	232		
関東計	21	55.3	18	47.4	18	47.4	11	28.9	38		
全国計	147	54.4	60	22.2	44	16.3	105	38.9	270		

図 2 - 9. 地区別なめし区分 (複数回答)



## 2-6. 主な使用原皮

各製革業者で使用している原皮について、図2-10でまとめた。尚、ここでは回答のあった176社の回答を100%として集計している。全体の集計結果としては、「内地調達成牛皮」が全体の59.7%（前年63.2%）の企業が使用、また「外地調達成牛皮」を全体の35.8%（同39.2%）にあたる企業が使用している。それ以外の皮種とは差があり、次いで多くなったのは「中小牛皮」と「牛床皮」で、ともに13.1%（同14.6%・17.0%）となり、これらの皮が10%以上の使用率となっている。前年11.1%あった「豚皮」は7.4%と使用率を落としている。今回の調査結果で、使用率が前年を上回ったのは「中小牛皮」「山羊皮」「羊皮」「その他皮」であるが、いずれも僅かな上昇率である。

表2-7は地区別に使用している原皮の詳細を記載したものであるが、扱いが多い皮種としては、内地調達の「一毛」47.2%（前年50.9%）、「ホルス」が39.8%（同40.9%）という高い使用率となっており、次いで「ヘビーステア」が18.8%（同19.3%）、「デイリーステア」が16.5%（同20.5%）、という順で使用率が高くなっている。これに「中小牛皮」「牛床皮」を加えた皮種が10%以上の使用率となっている。

また昨年調査との比較として、扱いのある企業数を表2-8にまとめた。その結果、扱いが増えている皮種は「山羊皮」など8種となり、減少しているのは7種という結果となった。但し、減少している皮種については、増えている皮種と比べると減少している企業数が多く、内地調達の「一毛」「デイリーステア」「豚皮」などの扱いが減っている企業数が多くなっている。

図2-11は地区別の皮種の扱い率をグラフ化したものであるが、関西は「牛皮」中心、関東は「豚皮」や「山羊皮」「羊皮」を中心とした展開という構造に大きな変化はみられないが、全体的に外地から調達する成牛皮の比率が低下傾向にある。もちろんこれは為替（円安）の問題も大きく影響しているとみられる。

図2-10. 主な原皮使用率（n=176社・複数回答）

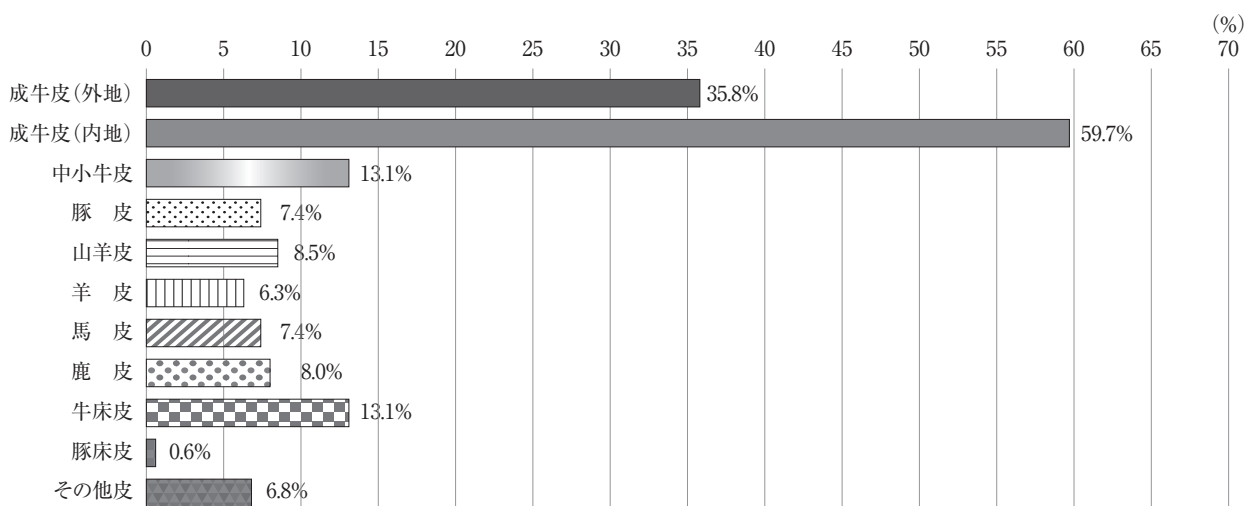


表 2 - 7. 地区別主な使用原皮

上段：社 下段：%

地区	原皮の種類 回答社数	牝牛皮 (プル)	ヘビーステア	ライトステア	カウヘツファー	デイリーステア	デイリーカウ	豪州 NZ		内地		中 小 牛 皮	馬 皮	豚 皮	山 羊 皮	羊 皮	鹿 皮	牛 床 皮	豚 床 皮	その 他の 皮
								ジャージー	カウオックス	ホ ル ス	一 毛									
松原	38	1	11	1		10				22	17	3	1			1	1	6		1
		2.6	28.9	2.6		26.3				57.9	44.7	7.9	2.6			2.6	2.6	15.8		2.6
誉田	24		3			4				13	16	2		1				1		
			12.5			16.7				54.2	66.7	8.3		4.2				4.2		
沢田	12	2	1	1						4	8		1				1	7		
		16.7	8.3	8.3						33.3	66.7		8.3				8.3	58.3		
高木	40	3	8	2	1	8	1		1	12	21	7		2	2	5	4	5		2
		7.5	20.0	5.0	2.5	20.0	2.5		2.5	30.0	52.5	17.5		5.0	5.0	12.5	10.0	12.5		5.0
御着	14	3	5			2				5	8			1			1			
		21.4	35.7			14.3				35.7	57.1			7.1			7.1			
川西	8					2				5	5	1					1	1		
						25.0				62.5	62.5	12.5					12.5	12.5		
大阪他	6		1			1				3	2	1	1							
			16.7			16.7				50.0	33.3	16.7	16.7							
和歌山	6	2		3						2		2		1	3	1		2		1
		33.3		50.0						33.3		33.3		16.7	50.0	16.7		33.3		16.7
関西計	148	11	29	7	1	27	1		1	66	77	16	3	5	5	7	8	22		4
		7.4	19.6	4.7	0.7	18.2	0.7		0.7	44.6	52.0	10.8	2.0	3.4	3.4	4.7	5.4	14.9		2.7
東京	20		1			1				2	3	5	9	9	5	4	3	1	1	6
			5.0			5.0				10.0	15.0	25.0	45.0	45.0	25.0	20.0	15.0	5.0	5.0	30.0
埼玉他	8		3	1	1	1	1			2	3	2	1	1	1	2	3			2
			37.5	12.5	12.5	12.5	12.5			25.0	37.5	25.0	12.5	12.5	12.5	25.0	37.5			25.0
関東計	28		4	1	1	2	1			4	6	7	10	10	6	6	6	1	1	8
			14.3	3.6	3.6	7.1	3.6			14.3	21.4	25.0	35.7	35.7	21.4	21.4	21.4	3.6	3.6	28.6
全国計	176	11	33	8	2	29	2		1	70	83	23	13	15	11	13	14	23	1	12
		6.3	18.8	4.5	1.1	16.5	1.1		0.6	39.8	47.2	13.1	7.4	8.5	6.3	7.4	8.0	13.1	0.6	6.8

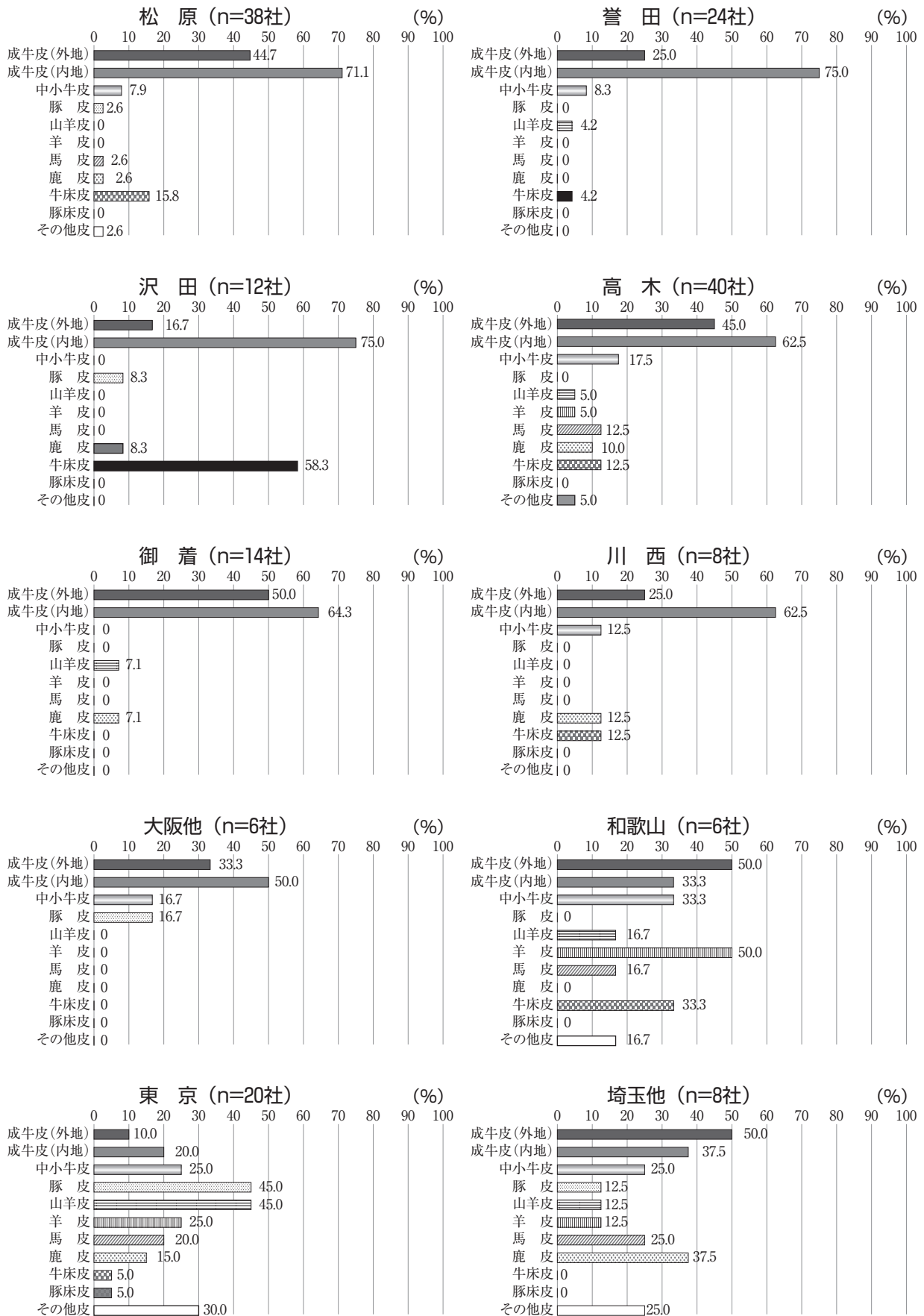
表 2 - 8. 地区別主な使用原皮・令和5年調査結果からの増減

(社)

地区	原皮の種類 牝牛皮 (プル)	ヘビーステア	ライトステア	カウヘツファー	デイリーステア	デイリーカウ	豪州 NZ		内地		中 牛 皮	馬 皮	豚 皮	山 羊 皮	羊 皮	鹿 皮	牛 床 皮	豚 床 皮	その 他の 皮
							ジャージー	カウオックス	ホ ル ス	一 毛									
松原	0	-1	0	-	-4	-	-	-1	+2	-4	0	0	-	-	+1	0	-3	-	+1
誉田	-1	0	-	-	-1	-	-	-	-2	-2	0	-	+1	-	-	-	-1	-	-
沢田	+1	+1	0	-	-1	-	-	-	0	-1	-	0	-	-	-	0	0	-	-
高木	+1	-1	0	0	+1	+1	-1	+1	-1	+1	-1	-	-1	-2	-2	-2	+5	-1	0
御着	0	0	-	-	-1	-	-	-	0	0	-	-	-1	-	-	0	-1	-	-
川西	-	-	-	-	0	-	-	-	0	+1	0	-	-	-	-	0	-1	-	-
大阪他	0	0	-	-	0	-	-	-	0	-1	0	-1	-	-	-	+1	-	-	
和歌山	-	-	0	-	-	-	-	-	+2	-	0	-	-1	+1	0	-	0	-	0
関西計	+1	-1	0	0	-6	+1	-1	0	+1	-6	-1	-1	-2	-1	-1	-2	0	-1	+1
東京	-	+1	-	-	0	-	-	-	+1	+1	0	-1	+4	+2	-1	+1	+1	-1	+2
埼玉他	-	0	+1	+1	0	0	-	-	-2	-1	-1	-2	0	0	+1	+1	-	-1	0
関東計	0	+1	+1	+1	0	0	0	0	-1	0	-1	-3	+4	+2	0	+2	+1	-2	+2
全国計	+1	0	+1	+1	-6	+1	-1	0	0	-6	-2	-4	+2	+1	-1	0	+1	-3	+3

※-は令和5年調査でも扱いがなかった皮

図 2 - 11. 地区別主な原皮使用率（複数回答）



### 3. 生産販売動向

生産販売量は各企業の令和6年1月～令和6年7月の実績を基に、その1ヶ月の平均量を求めたものであり、文中及び図表の数量は全て丸革での月間生産販売数量である。

#### 3-1. 国内革種別生産販売枚数・仕向け先別生産販売（月間平均）動向

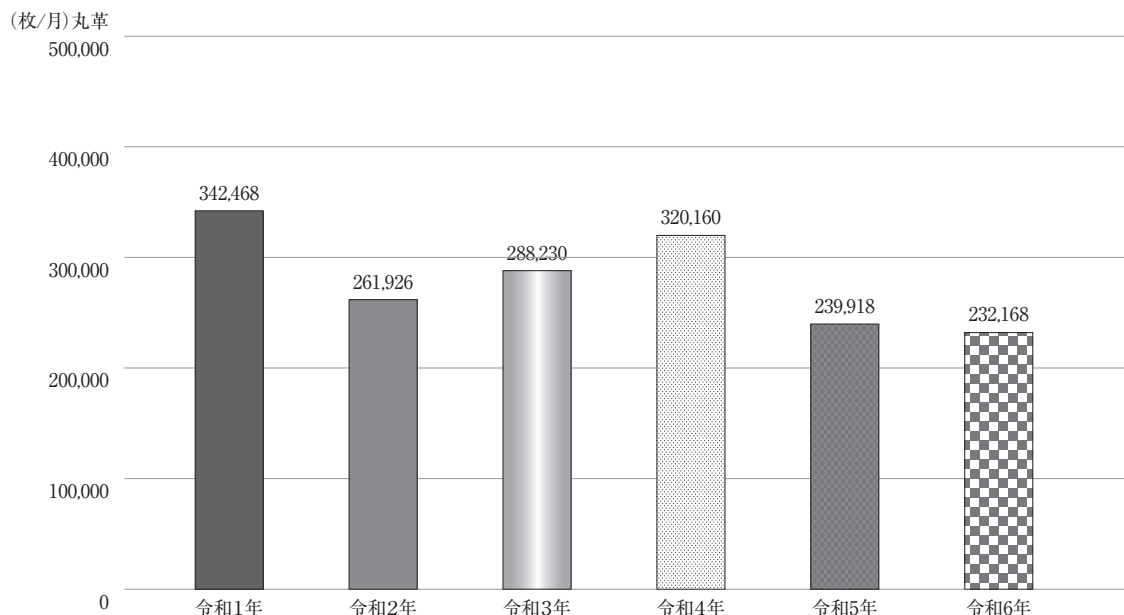
ここでは、まず全国で生産されている全ての革種の令和6年の生産販売枚数（月間平均）についてまとめた。

令和6年の日本産なめし革のひと月あたり平均の総生産販売枚数は232,168枚/月となった。図3-1は平成30年からの日本産なめし革のひと月あたり平均の総生産販売枚数の推移を表わしたものであるが、コロナ禍以前から減少傾向にあった月間平均生産販売枚数は、コロナ禍の令和2年に底を打ち、令和3年、4年とやや持ち直しつつあったが、令和5年はコロナ禍をさらに下回るまで減少し、令和6年はさらにそれを下回った結果となった。

現在の市場では皮革製品に逆風が吹いており、一部の海外高級ブランドの人気は変わらず売上を伸ばしている一方で、サステナビリティの観点から皮革そのものに対する偏見によるイメージ悪化が消費者の間で進み、自動車メーカーやファッションメーカーにおいてもアニマルフリーを掲げる企業が増えているなど、日本の皮革産業にとっては厳しい事業環境となっている。その状況下では当然日本国内の靴メーカー、皮革製品メーカーの業績は芳しくなく、コスト面からも高価格製品になってしまう皮革に代わる素材の活用に動いているメーカーも少なくない。

製革業者にとって、そうした環境に加え、為替（円安）の問題、原料費高騰など、逆風に繋がる多くの要因が重なっている現状では、今回の調査結果はある意味当然ともいえる結果であり、今後もこうした状況が続く可能性が高いといえよう。

図3-1. 日本産なめし革（ひと月あたり平均）生産販売枚数推移

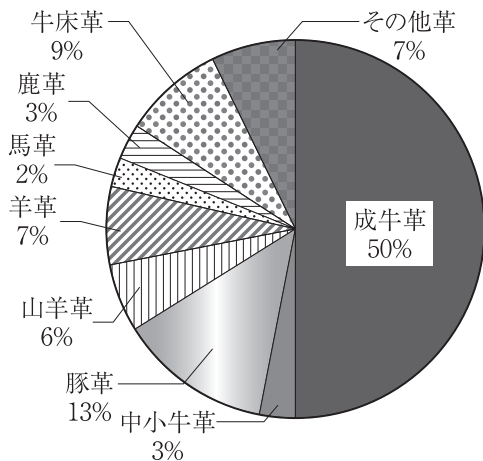


次に、図3-2は、全国で生産されているなめし革について、革種毎の月間平均生産販売枚数及びその比率を表したものである。その結果、「成牛革」が116,240枚/月（前年127,211枚/月）となり、全体の50.1%を占めている。ただこの比率も前年からは下がっており、徐々に扱う革種が分散している傾向が窺える。次いで比率が高くなったのは「豚革」で30,645枚/月（同33,059枚/

月)で全体の13.2%となった。今回の調査において10%以上の比率となったのはこの2種だけとなった。

また革種毎の月間平均生産販売枚数を、令和2年からのトレンドをみると、令和2年の月間平均生産販売枚数より令和6年の月間平均生産販売枚数が増えているのは「成牛革」と「中小牛革」の2種のみとなっている。逆に「豚革」、「山羊革」「牛床革」などは減少幅が大きい。ただし、前年対比でみれば「成牛革」も今年は「牛床革」に次いで大きい減少幅となっている。

図3-2. 革種別生産販売枚数構成比  
(n=232,168枚)



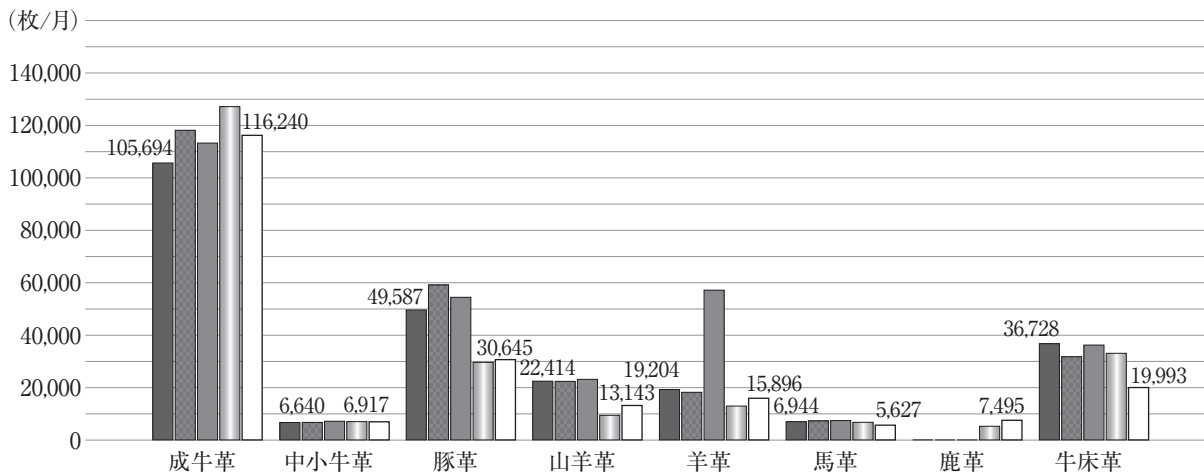
(枚/月)丸革

全 国	販売枚数	構成比
成牛革	116,240	50.1%
中小牛革	6,917	3.0%
豚革	30,645	13.2%
馬革	13,143	5.7%
鹿革	15,896	6.8%
山羊革	5,627	2.4%
羊革	7,495	3.2%
牛床革	19,993	8.6%
豚床革	0	0.0%
その他革	16,212	7.0%
計	232,168	100.0%

※販売枚数は一ヶ月あたりの平均販売枚数

図3-3. 主要革種の月間平均生産販売枚数推移

■令和2年 ■令和3年 ■令和4年 ■令和5年 □令和6年



(枚)

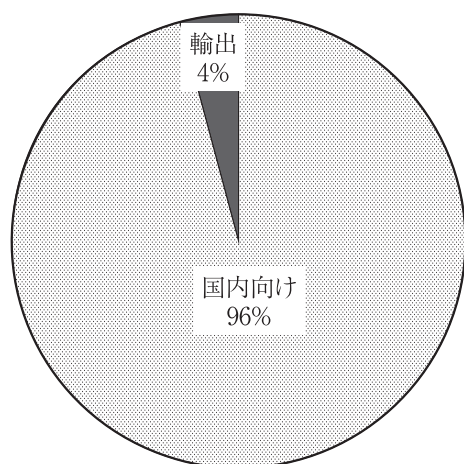
	成牛革	中小牛革	豚革	山羊革	羊革	馬革	鹿革	牛床革	その他革
令和2年	105,694	6,640	49,587	22,414	19,204	6,944	※	36,728	14,715
令和3年	118,176	6,685	59,128	22,348	18,173	7,251	※	31,740	24,729
令和4年	113,292	7,125	54,428	23,119	57,162	7,371	※	36,203	21,460
令和5年	127,211	6,978	29,598	9,392	12,928	6,718	5,210	33,059	8,824
令和6年	116,240	6,917	30,645	13,143	15,896	5,627	7,495	19,993	16,212
令6/令2	+10.0%	+4.2%	-38.2%	-41.4%	-17.2%	-19.0%	-	-45.6%	+10.2%

※令和2年～令和4年の「鹿革」の生産販売量は「その他革」に含まれる。

生産されたなめし革の仕向け先として、国内向けと輸出の比率をみたのが図3-4であるが、令和6年の集計においては、国内向け比率が全体の95.7%（222,254枚/月）、輸出比率は4.3%（9,914枚/月）となり、前年調査時に大きく減少した輸出枚数は、数量、比率とも少しだけ戻した結果となった。

また革種別に国内向け、輸出の比率をみたのが図3-5であるが、輸出比率に注目すると、「牛床革」の29.0%が他皮革と比べると抜けて高く、次いで「その他革」の6.9%、「中小牛革」の2.9%、「豚革」の2.8%となっている。

図3-4. 全革種月間平均生産販売枚数における仕向け先比率  
(n=232,168枚)

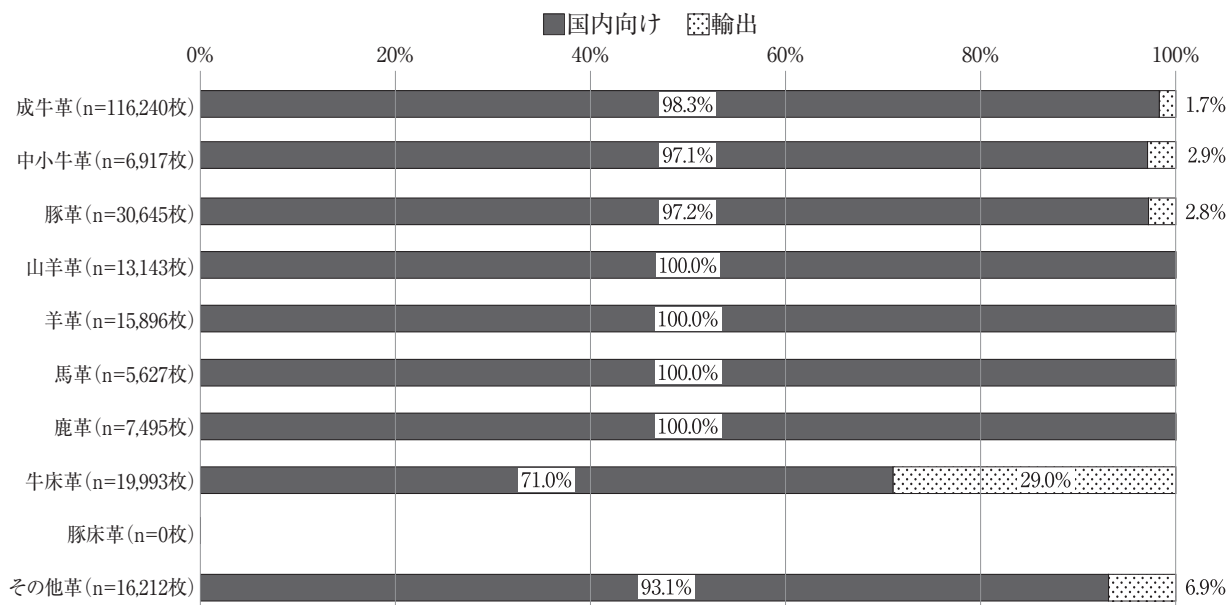


(枚/月) 丸革

全 体	販売枚数	構成比
国内向け	222,254	95.7%
輸 出	9,914	4.3%
	232,168	100.0%

※販売枚数は一ヶ月あたりの平均販売枚数

図3-5. 革種別月間平均生産販売枚数における仕向け先比率



その輸出枚数について、経年変化をみたのが図3-6である。令和2年からの5年間の変化として、令和5年から大きく減少していることがわかる。ここ5年間で最も多かった令和3年の月間平均輸出枚数（48,667枚/月）の2割程度にまで減少している。

また同様に革種ごとに月間平均輸出枚数の推移（図3-7）をみると、唯一「牛床革」だけがこの5年間で輸出枚数を増やした革種となっている。逆に「豚革」が大きく輸出枚数を減らしている。同じく「豚床革」もほぼ輸出用として生産されていたため、輸出の需要がなくなると、生産販売枚数もなくなるといった状況になっている。「成牛革」は比較的、毎年輸出需要が発生しているが、それも減少傾向にある。

図3-6. 月間平均輸出枚数推移（全革種計）

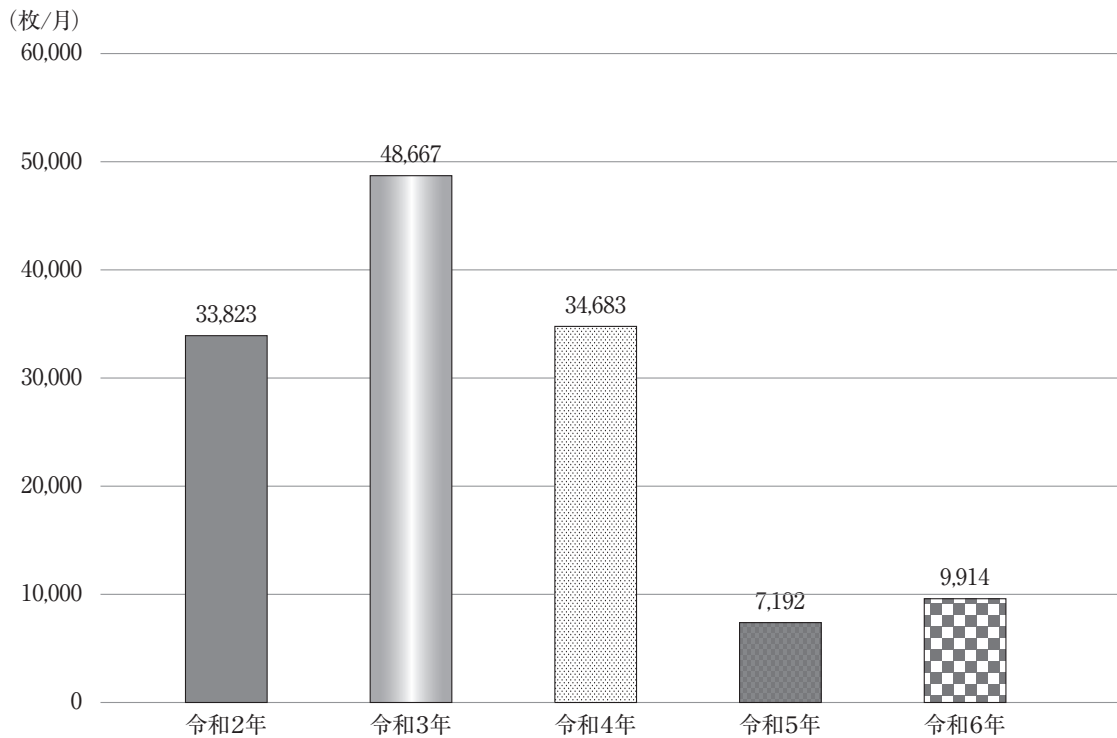
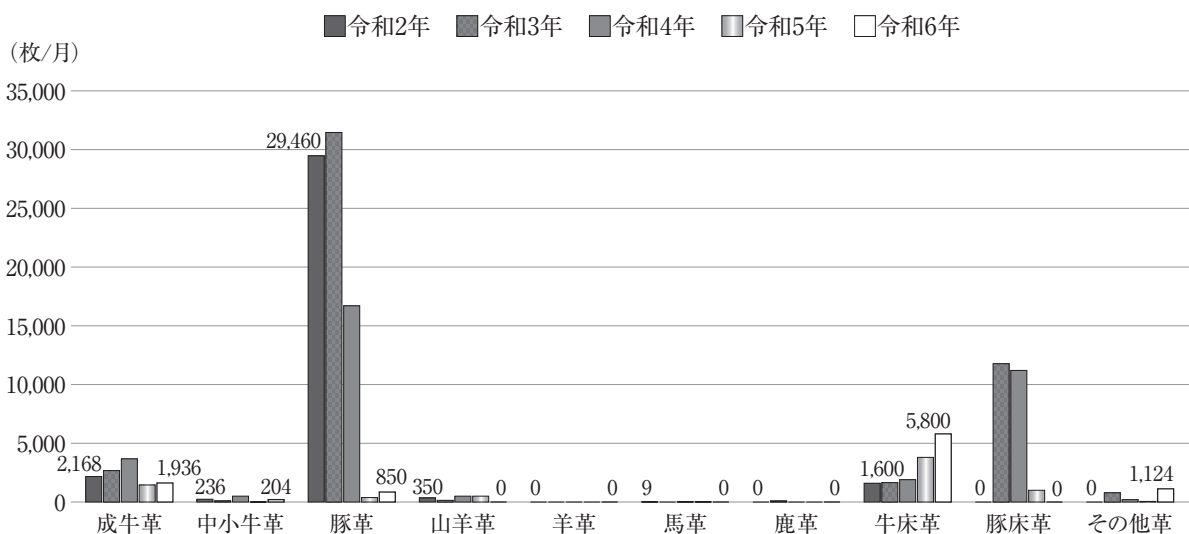


図3-7. 革種別月間平均輸出枚数推移



次に地区別に生産しているなめし革の革種別の月間平均生産販売枚数の構成をまとめた。図3-8は、地区別に生産販売している革種の比率を表したものである。

松原地区は製革業者数が最も多い地区で、扱い革種としては「成牛革」と「牛床革」を中心とした構造であったが、今回の集計においては「牛床革」の生産販売数が大きく減少し、「成牛革」の比率が全体の88.5%を占めるに至った。全体の生産販売枚数も「牛床革」が減少した分がおおよそそのまま減少した形となっている。

誉田地区は「成牛革」の生産が主であるが、今回は「中小牛革」「牛床革」の他に「山羊革」の生産が加わっている。「牛」以外の革種の扱いを拡げていることがわかる。

沢田地区は前年とほぼ同じ状況で、「成牛革」と「牛床革」の2種が生産のほとんどを占める。今回は「牛床革」の比率が少し高まっている。それ以外には「豚革」「鹿革」の生産が少し行われている。

高木地区は製革業を展開する地区の中でもほぼ全種類の革種を扱っている地区で、「成牛革」を中心としながら「牛床革」「馬革」なども一定の数量を生産しており、それ以外にも「中小牛革」「山羊革」「羊革」「鹿革」「その他革」なども扱っている。革種それぞれの生産販売枚数の構成比に関しては前年と大きく変化していない。

御着地区は「成牛革」が大部分を占める構造であり、今回の調査集計でも全体の96%を占めている。それ以外には少量ではあるが「鹿革」「山羊革」を手掛けている。

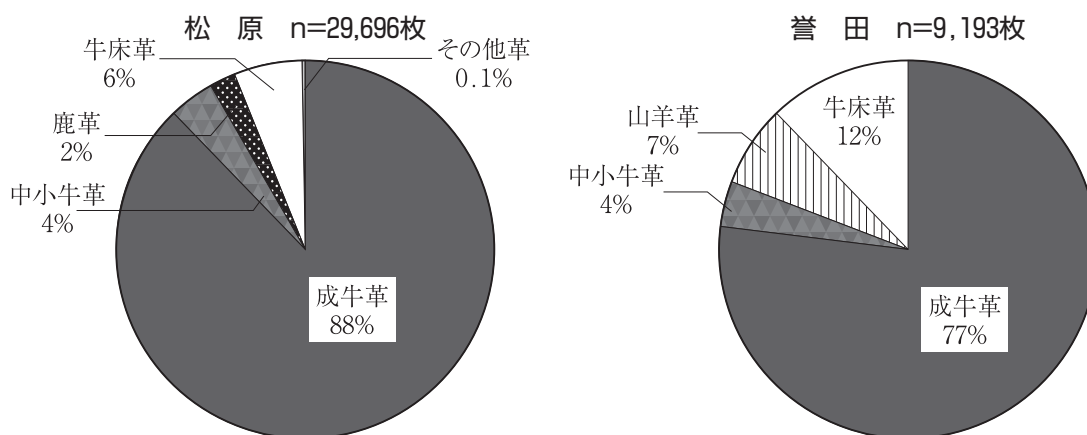
川西地区は「成牛革」と「鹿革」の2種の生産販売枚数が大半を占め、それ以外に「中小牛革」を生産している構造である。構成比も前年とほぼ同様の状況である。また大阪他地区も「成牛革」と「中小牛革」の2種のみを展開で、その構成比も前年からほとんど変化していない。

和歌山地区は他地区とは異なった構成で、「牛床革」の比率が最も高く、その他では「成牛革」「中小牛革」「羊革」「山羊革」「馬革」など多種を扱う地域となっている。今回調査では「牛床革」が50%超の比率となった。

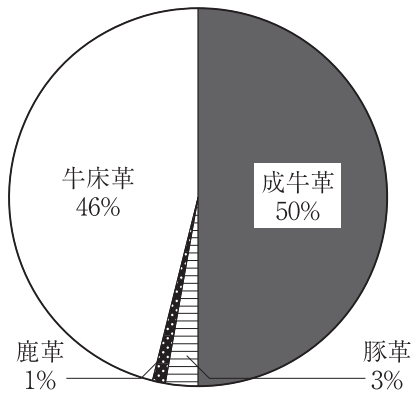
東京地区は「床革」を除いてほぼ全種類の革種を扱う地区で、生産の中心は「豚革」であるが、今回の調査では43%の比率となり、全体の半分以下となった。その分「羊革」「山羊革」「その他革」の生産比率が少し高くなっている。

埼玉他地区は「成牛革」の生産が大半を占めるが、ここも「中小牛革」「羊革」「鹿革」「馬革」「豚革」「山羊革」など、「その他革」も含め、多品種を展開している。

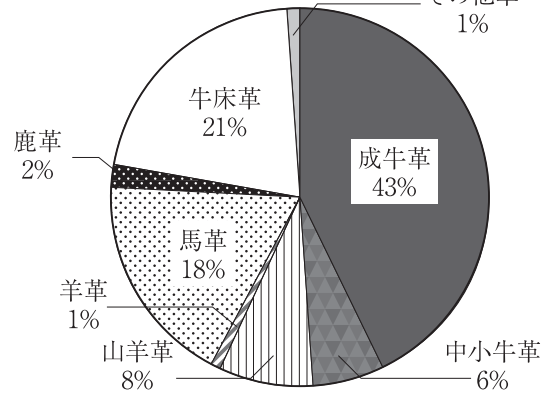
図3-8. 地区別月間平均生産販売枚数における革種比率



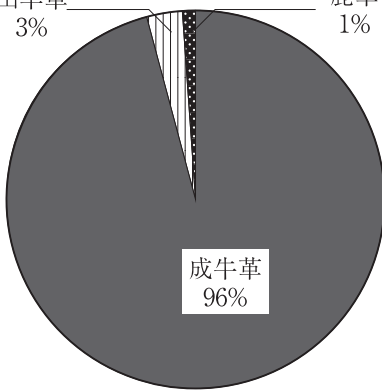
沢田 n=13,395枚



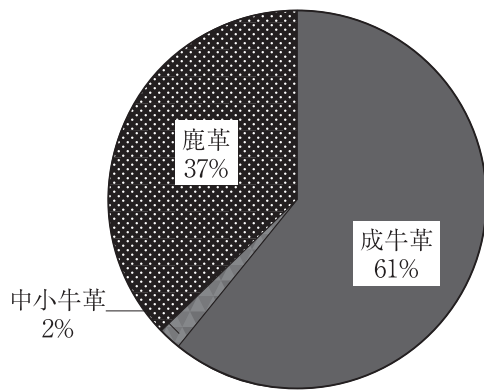
高木 n=24,749枚



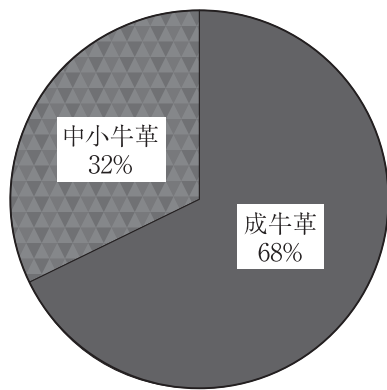
御着 n=9,983枚



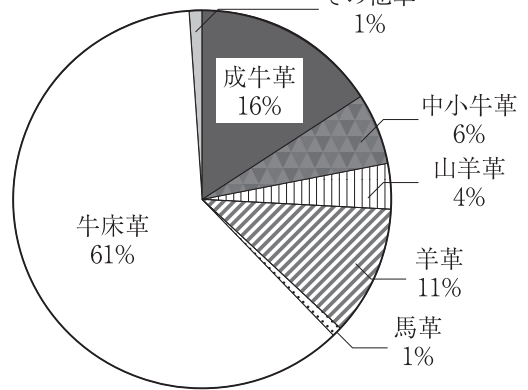
川西 n=4,090枚



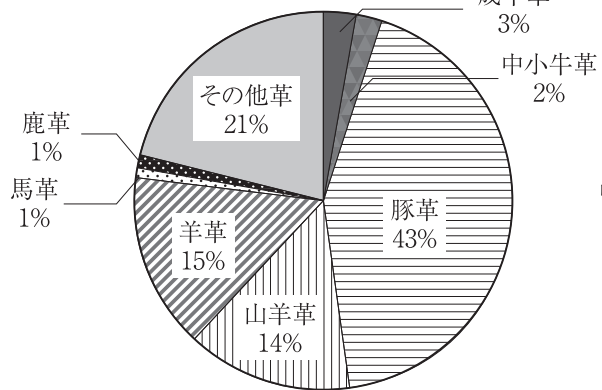
大阪他 n=3,103枚



和歌山 n=9,515枚



東京 n=69,274枚



埼玉他 n=59,170枚

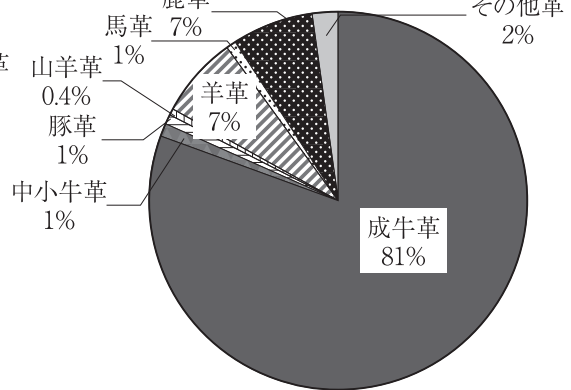


図3-9及び表3-1は、全体及び地区別に月間平均生産販売枚数別の企業数をカウントしたものであり、月間平均生産販売枚数が100枚以下の企業から10,000枚を超える企業までの分布を表している。

まず全体でみると、月間平均生産販売枚数が100-499枚の企業が53社で最も多く、次いで1,000-4,999枚の企業が49社、500-999枚の企業が33社となった。月間平均生産販売枚数が5,000枚を超える企業が10社となり、逆に100枚以下の企業が19社という構成となった。

また地区別にみた場合、無回答の企業が相当数いるため、あくまでも回答社だけの傾向となるが、やはり関西地区と関東地区の分布の違いが見て取れる。関西地区の製革業者は、和歌山地区を除いて月間平均生産販売枚数が5,000枚以上の企業はなく、1,000枚/月以下の企業数が60-80%を占める構成となっている。関東地区の企業はその逆の構成で、月間平均生産販売枚数1,000枚以上の企業が70-80%程度を占める構成となっている。

また表3-2では、地区ごとの生産されている革種を令和2年から経年で比較した。これを見ても成牛革を中心とした生産販売を行っている関西地区と、革種を拡げて生産販売している関東地区の違いは明確であるが、その需要と共に企業の業績が左右されないように、関西地区の製革業者などは成牛革以外の革種の扱いを拡げている様子が窺える。例えば誉田地区などは令和4年からは「牛床革」を、令和6年から「山羊革」を扱うようになっている。和歌山地区の製革業者が「その他革」の扱いを増やしているなどの状況である。また東京地区などは広く革種を扱いながらもさらに「その他革」の扱いが増えていることなども注目される。

表3-3は、令和6年の地区別の月間平均生産販売枚数の構成を革種別、仕向け先別に表したものである。今回の調査結果において輸出を行った地区は松原地区、沢田地区、高木地区、大阪他地区、和歌山地区、東京地区の6地区となり、最も輸出枚数が多かったのは和歌山地区の5,000枚/月となった。その他、少量であった大阪他地区を除いた4地区の輸出枚数は、1,000枚/月～1,500枚/月程度の輸出枚数となっている。

図 3 - 9. なめし革月間平均生産販売枚数別企業数構成 (地区別)

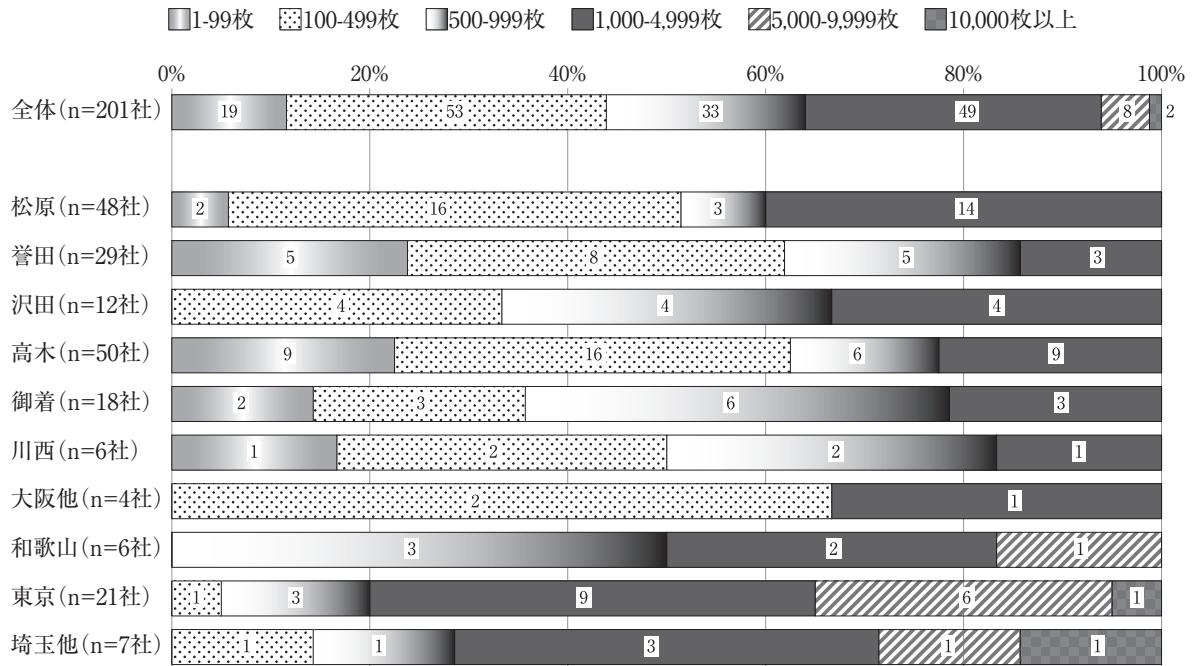


表 3 - 1. 地区別なめし革月間平均生産販売枚数別企業数 (社)

	企業数	1-99枚	100-499枚	500-999枚	1000-4999枚	5000-9999枚	10000枚以上	休業中	無回答
松原	69	2	16	3	14	0	0	13	21
誉田	42	5	8	5	3	0	0	8	13
沢田	12	0	4	4	4	0	0	0	0
高木	62	9	16	6	9	0	0	10	12
御着	22	2	3	6	3	0	0	4	4
川西	10	1	2	2	1	0	0	0	4
大阪他	8	0	2	0	1	0	0	1	4
和歌山	7	0	0	3	2	1	0	0	1
東京	29	0	1	3	9	6	1	1	8
埼玉他	9	0	1	1	3	1	1	0	2
計	270	19	53	33	49	8	2	37	69

表3-2. 草種別地区別月間平均生産販売枚数5年間推移

丸草 / 月産

地区及び年	草種	成牛草		中小牛草		豚草		山羊草		羊草		馬草		鹿草		牛床草		豚床草		その他草		計		
		枚数	(%)	枚数	(%)	枚数	(%)	枚数	(%)	枚数	(%)	枚数	(%)	枚数	(%)	枚数	(%)	枚数	(%)	枚数	(%)	枚数	(%)	
松原	令2	23,415	22.2	310	4.7									※	-	15,362	41.8			150	1.5	39,237	15.2	
	令3	23,635	20.0	260	3.9						50	0.7		※	-	17,620	55.5			220	2.2	41,785	14.7	
	令4	25,684	22.7	850	11.9	1,000	1.8							※	-	18,900	52.2			500	4.9	46,934	14.7	
	令5	27,778	21.8	800	11.5									※	9.6	17,576	53.2					46,654	19.4	
	令6	26,281	22.6	1,200	17.3									※	6.7	1,690	8.5			25	0.2	29,696	12.8	
	令6	10,136	9.6	300	4.5									※	-								10,436	4.0
誉田	令2	8,437	7.1	200	3.0									※	-								8,637	3.0
	令3	8,245	7.3	650	9.1									※	-	1,000	2.8						9,895	3.1
	令4	9,376	7.4	580	8.3									※	-	1,400	4.2						11,356	4.7
	令5	7,113	6.1	380	5.5			600	4.6					※	-	1,100	5.5						9,193	4.0
	令6	5,872	5.6			275	0.6							※	-	8,815	24.0						14,962	5.8
	令6	7,650	6.5											※	-	1,800	5.7						9,450	3.3
沢田	令2	4,650	4.1											※	-	4,300	11.9			100	1.0	9,050	2.8	
	令3	6,280	4.9			250	0.8							※	-	20	0.4	3,730	11.3			10,280	4.3	
	令4	6,645	5.7			450	1.5							※	2.7	6,100	30.5					13,395	5.8	
	令5	11,899	11.3	1,639	24.7	20,000	40.3	850	3.8	330	1.7	5,172	74.5	※	-	9,501	25.9			537	5.3	49,928	19.3	
	令6	11,687	9.9	1,909	28.6	20,000	33.8	500	2.2	200	1.1	5,292	73.0	※	-	7,920	25.0	10,000	85.0	90	0.9	57,598	20.2	
	令6	15,315	13.5	1,813	25.4					300	0.5	5,336	72.4	※	-	8,403	23.2	10,000	89.3	336	3.3	41,503	13.0	
高木	令2	10,983	8.6	1,599	22.9			2,000	21.3					※	5.5	6,453	19.5			50	0.6	26,548	11.1	
	令3	10,661	9.2	1,592	23.0			2,000	15.2	200	1.3	4,427	78.7	※	4.9	5,303	26.5			200	1.2	24,749	10.7	
	令4	8,720	8.3	160	2.4			1,000	4.5					※	-	800	2.2			20	0.2	10,700	4.1	
	令5	11,556	9.8	200	3.0			1,200	5.4					※	-	200	0.6			50	0.5	13,206	4.6	
	令6	9,650	8.5											※	-	100	0.3			70	0.7	9,820	3.1	
	令6	9,728	7.6	150	2.1			200	2.1					※	1.0	100	0.3					10,228	4.3	
御着	令6	9,613	8.3					300	2.3					※	0.9	70						9,983	4.3	
	令2	2,211	2.1	540	8.1			1,000	4.5			20	0.3	※	-							3,771	1.5	
	令3	2,369	2.0	700	10.5									※	-							3,069	1.1	
	令4	1,770	1.6	100	1.4			1,500	6.5	1,500	2.6			※	-					1,500	14.6	6,370	2.0	
	令5	2,495	2.0	150	2.1									※	28.8	1,500						4,145	1.7	
	令6	2,490	2.1	100	1.4									※	20.0	1,500						4,090	1.8	
大坂他	令2	2,998	2.8	1,292	19.5									※	-								4,290	1.7
	令3	2,557	2.2	885	13.2									※	-								3,522	1.2
	令4	2,970	2.6	1,510	21.2									※	-								4,480	1.4
	令5	2,730	2.1	1,146	16.4									※	-								3,876	1.6
	令6	2,097	1.8	1,006	14.5									※	-								3,103	1.3
	令6	1,180	1.1	1,000	15.1			400	1.8	500	2.6	300	4.3	※	-	2,050	5.6					5,430	2.1	
和歌山	令3	1,230	1.0	550	8.2			1,400	6.3	500	2.8			※	-	4,200	13.2					7,880	2.8	
	令4	940	0.8	480	6.7			400	1.7	500	0.9	100	1.4	※	-	3,500	9.7			16	0.2	5,936	1.9	
	令5	1,856	1.5	660	9.5			700	7.5	1,000	7.7	200	3.0	※	-	3,800	11.5			16	0.2	8,232	3.4	
	令6	1,520	1.3	585	8.5			400	3.0	1,010	6.4	100	1.8	※	-	5,800	29.0			100	0.6	9,515	4.1	
	令2	66,431	62.9	5,241	78.9	20,275	40.9	3,250	14.5	830	4.3	5,492	79.1	※	-	36,528	99.5	0	-	707	7.0	138,754	53.6	
	令3	69,121	58.5	4,704	70.4	20,000	33.8	3,100	13.9	700	3.9	5,422	74.8	※	-	31,740	100.0	10,000	85.0	360	3.6	145,147	50.9	
令4	69,224	61.1	5,403	75.8	1,000	1.8	1,900	8.2	2,300	4.0	5,436	73.7	※	-	36,203	100.0	10,000	89.3	2,522	24.6	133,988	41.9		
令5	71,226	56.0	5,085	72.9	250	0.8	2,900	30.9	1,000	7.7	5,379	80.1	2,354	45.2	33,059	100.0	0	-	66	0.8	121,319	50.6		
令6	66,420	57.1	4,863	70.3	450	1.5	3,300	25.1	1,210	7.6	4,527	80.5	2,636	35.2	19,993	100.0	0	-	325	2.0	103,724	44.7		
東京	令2	2,083	2.0	1,104	16.6	27,812	56.1	18,764	83.7	15,474	80.6	295	4.2	※	-	200	0.5	1,600	100.0	2,508	24.9	69,840	27.0	
	令3	1,935	1.6	1,801	26.9	37,628	63.6	18,908	84.6	13,933	76.7	235	3.2	※	-	1,770	15.0	2,769	27.9	78,979	27.7			
	令4	1,948	1.7	1,542	21.6	52,828	97.1	20,759	89.8	51,002	89.2	10	0.1	※	-	1,200	10.7	5,718	55.7	7,738	75.4	186,172	58.1	
	令5	1,665	1.3	1,553	22.3	27,948	94.4	6,242	66.5	7,568	58.5	10	0.1	156	3.0	1,000	100.0	7,485	95.7	7,485	95.7	53,627	22.4	
	令6	1,880	1.6	1,524	22.0	29,595	96.6	9,583	72.9	10,746	67.6	600	10.7	559	7.5			14,787	91.2	69,274	29.8			
	令2	37,180	35.2	295	4.4	1,500	3.0	400	1.8	2,900	15.1	1,157	16.7	※	-					6,850	68.1	50,282	19.4	
令3	47,120	39.9	180	2.7	1,500	2.5	340	1.5	3,540	19.5	1,594	22.0	※	-					6,810	68.5	61,084	21.4		
令4	42,120	37.2	180	2.5	600	1.1	460	2.0	3,860	6.8	1,925	26.1	※	-					2,020	19.7	51,165	16.0		
令5	54,320	42.7	340	4.9	1,400	4.7	250	2.7	4,360	33.7	1,329	19.8	2,700	51.8					273	3.5	64,972	27.1		
令6	47,940	41.2	530	7.7	600	2.0	260	2.0	3,940	24.8	500	8.9	4,300	57.4					1,100	6.8	59,170	25.5		
関東計	令2	39,263	37.1	1,399	21.1	29,312	59.1	19,164	85.5	18,374	95.7	1,452	20.9	※	-	200	0.5	1,600	100.0	9,358	93.0	120,122	46.4	
	令3	49,055	41.5	1,981	29.6	39,128	66.2	19,248	86.1	17,473	96.1	1,829	25.2	※	-	0	-	1,770	15.0	9,579	96.4	140,063	49.1	
	令4	44,068	38.9	1,722	24.2	53,428	98.2	21,219	91.8	54,862	96.0	1,935	26.3	※	-	0	-	1,200	10.7	7,738	75.4	186,172	58.1	
	令5	55,985	44.0	1,893	27.1	29,348	99.2	6,492	69.1	11,928	92.3	1,339	19.9	2,856	54.8	0	-	1,000	100.0	7,758	99.2	118,599	49.4	
	令6	49,820	42.9	2,054	29.7	30,195	98.5	9,843	74.9	14,686	92.4	1,100	19.5	4,859	64.8	0	-	0	-	15,887	98.0	128,444	53.3	
	令2	105,694	100.0	6,640</																				

表 3 - 3. 革種別地区別仕向け先別月間平均生産販売枚数

(枚) 丸革 / 月産

地区	成牛革		中小牛革		豚革		馬革		鹿革	
	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出
松原	25,481	800	1,000	200						
誉田	7,113		380				600			
沢田	6,645					450				
高木	9,540	1,121	1,592				2,000		200	
御着	9,613						300			
川西	2,490		100							
大阪他	2,082	15	1,006							
和歌山	1,520		585				400		1,010	
関西計	64,484	1,936	4,663	200	0	450	3,300	0	1,210	0
	97.1%	2.9%	95.9%	4.1%	-	100.0%	100.0%	-	100.0%	-
	66,420		4,863		450		3,300		1,210	
	57.1%		70.3%		1.5%		25.1%		7.6%	
東京	1,880		1,520	4	29,195	400	9,583		10,746	
埼玉他	47,940		530		600		260		3,940	
関東計	49,820	0	2,050	4	29,795	400	9,843	0	14,686	0
	100.0%	-	99.8%	0.2%	98.7%	1.3%	100.0%	-	100.0%	-
	49,820		2,054		30,195		9,843		14,686	
	42.9%		29.7%		98.5%		74.9%		92.4%	
全国計	114,304	1,936	6,713	204	29,795	850	13,143	0	15,896	0
	98.3%	1.7%	97.1%	2.9%	97.2%	2.8%	100.0%	-	100.0%	-
	116,240		6,917		30,645		13,143		15,896	
	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	

地区	山羊革		羊革		牛床革		豚床革		その他革	
	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出
松原			500		1,690				25	
誉田					1,100					
沢田			200		5,300	800				
高木	4,427		366		5,303				200	
御着			70							
川西			1,500							
大阪他										
和歌山	100				800	5,000			100	
関西計	4,527	0	2,636	0	14,193	5,800	0	0	325	0
	100.0%	-	100.0%	-	71.0%	29.0%	-	-	100.0%	-
	4,527		2,636		19,993		0		325	
	80.5%		35.2%		100.0%		-		2.0%	
東京	600		559						13,663	1,124
埼玉他	500		4,300						1,100	
関東計	1,100	0	4,859	0	0	0	0	0	14,763	1,124
	100.0%	-	100.0%	-	-	-	-	-	92.9%	7.1%
	1,100		4,859		0		0		15,887	
	19.5%		64.8%		-		-		98.0%	
全国計	5,627	0	7,495	0	14,193	5,800	0	0	15,088	1,124
	100.0%	-	100.0%	-	71.0%	29.0%	-	-	93.1%	6.9%
	5,627		7,495		19,993		0		16,212	
	100.0%		100.0%		100.0%		-		100.0%	

### 3-2. 革種による用途別・仕向け先別生産販売（月間平均）動向

ここでは全国で生産されている全ての革種のその用途別及び仕向け先別の状況を、図と表を用いて報告する。

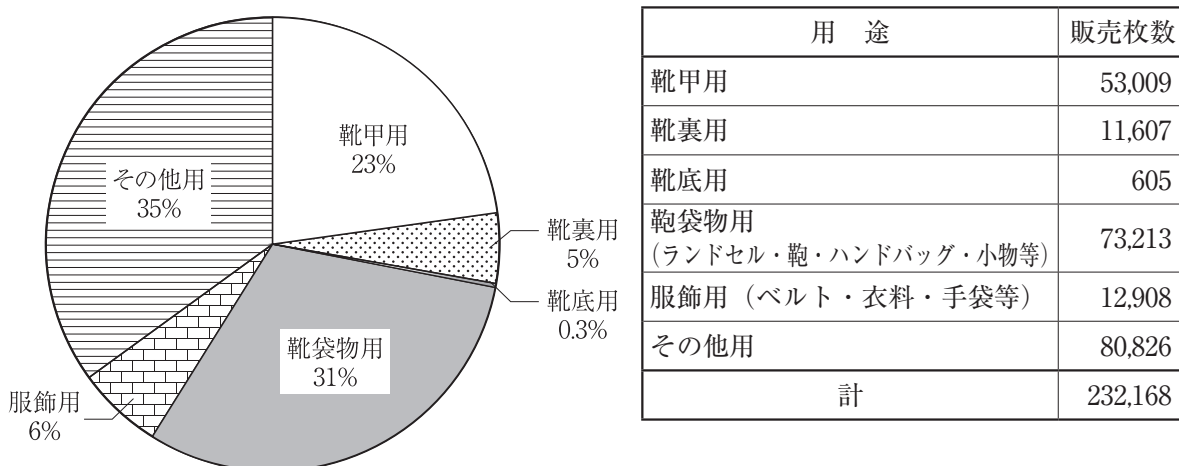
令和6年の生産販売枚数232,168枚/月の用途別の構成比を表したものが図3-10である。その結果、「靴甲用」が全体の22.8%（53,009枚/月）、「鞆袋物用」が全体の31.5%（73,212枚/月）となり、この2つの用途で50%超を占める構造は変わっていないが、今回の調査結果においては順序は「鞆袋物用」が「靴甲用」を上回った。さらにそれを上回ったのは「その他用」で、全体の34.8%（80,826枚/月）となったが、前年調査結果との比較においては「靴甲用」と「その他用」は前年の生産販売枚数から減少している。比率を高めた「鞆袋物用」は枚数、比率とも増加しており、「服飾用」も同じく枚数、比率とも増加している。

最も高い比率を保っている「その他用」の内訳としては、「カーシート用」が43,400枚/月、「グローブミット等運動具用」が14,124枚/月などが多くなっている。「カーシート用」は前年からほぼ横ばい、「グローブミット等運動具用」は前年から増加している。それらに次ぐ生産販売枚数となっているのは「工業手袋等安全具用」（11,670枚/月）や「家具、インテリア用」（4,965枚/月）で、特に「工業手袋等安全具用」が前年からも大きく伸びている。

図3-10. 全革種月間平均生産販売枚数用途構成比

(n=232,168枚)

(枚/月) 丸革



その他用途	枚/月
グローブミット等運動具用	14,124
手芸工芸用	903
家具、インテリア用	4,965
カーシート用	43,400
工業手袋等安全具用	11,670
伝導ベルトサドルパッキング等工業用	10
ウェットブルー	200
その他	5,554
計	80,826

次に表3-4及び図3-11において、革種毎に用途をみると、まず<成牛革>においては最も枚数が多く使われている用途は「その他用」であり、<成牛革>の56%が使われている。その比率は少しずつではあるが年々拡大している。「鞆袋物用」がそれに次ぐ用途で、成牛革の23%が使われており、次いで「靴甲用」が15%となっている。<中小牛革>の用途は「靴甲用」が最も多く、全体の48%が使用されている。次いで「鞆袋物用」が28%の使用率となっている。ただ両方とも比率は落ちており、ここも<その他用>が少し増えている状況である。<豚革>は前年と比べると変化があり、今回の調査では「鞆袋物用」が46%と最も高くなった。次いで「靴裏用」で31%、「その他用」12%となり、前年調査で最も多かった「靴甲用」は9%で、前年調査時の55%から大幅な低下となった。<羊革>は「靴甲用」が63%となり、次いで「鞆袋物用」が16%、「服飾用」が15%となった。<山羊革>は「靴甲用」が全体の90%となり、ここは前年調査結果からほとんど変化がない。次いで「鞆袋物用」が7%となっている。<馬革>は「鞆袋物用」が41%、「服飾用」が35%、「靴裏用」が15%となった。前年との比較では「鞆袋物用」が縮小、「服飾用」が拡大といった結果となっている。<鹿革>の用途としては「鞆袋物用」が全体の88%を占めており、次いで「服飾用」が7%、「その他用」が4%と続いている。<牛床革>は「その他用」が45%と最も高くなったが、「靴甲用」が30%、「鞆袋物用」が18%となり、前年より「その他用」の比率が少し低下したため、比較的用途が分かれた結果となった。また<その他革>の用途については、「鞆袋物用」が大部分を占めており、全体の88%という結果となっている。

表 3 - 4. 革種別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数

(枚) 丸革 / 月産

用途 革種	靴 甲 用		靴 裏 用		靴 底 用		鞆袋物用		服 飾 用		その他用		合 計	
	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出
成牛革	17,853	120	942		105		26,892	5	5,624	1	62,888	1,810	114,304	1,936
	99.3%	0.7%	100.0%		100.0%		99.98%	0.02%	99.98%	0.02%	97.2%	2.8%	98.3%	1.7%
	17,973		942		105		26,897		5,625		64,698		116,240	
	15.5%		0.8%		0.1%		23.1%		4.8%		55.7%		100.0%	
中 小 牛 革	3,347						1,943		313	4	1,110	200	6,713	204
	100.0%						100.0%		98.7%	1.3%	84.7%	15.3%	97.1%	2.9%
	3,347						1,943		317		1,310		6,917	
	48.4%						28.1%		4.6%		18.9%		100.0%	
豚 革	2,400	450	9,415		500		14,180	100			3,300	300	29,795	850
	84.2%	15.8%	100.0%		100.0%		99.3%	0.7%			91.7%	8.3%	97.2%	2.8%
	2,850		9,415		500		14,280				3,600		30,645	
	9.3%		30.7%		1.6%		46.6%				11.7%		100.0%	
山羊革	11,829		300				948		66				13,143	0
	100.0%		100.0%				100.0%		100.0%				100.0%	-
	11,829		300				948		66				13,143	
	90.0%		2.3%				7.2%		0.5%				100.0%	
羊 革	10,036						2,490		2,370		1,000		15,896	0
	100.0%						100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	-
	10,036						2,490		2,370		1,000		15,896	
	63.1%						15.7%		14.9%		6.3%		100.0%	
馬 革	264		850				2,321		1,991		201		5,627	0
	100.0%		100.0%				100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	-
	264		850				2,321		1,991		201		5,627	
	4.7%		15.1%				41.2%		35.4%		3.6%		100.0%	
鹿 革	100						6,599		524		272		7,495	0
	100.0%						100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	-
	100						6,599		524		272		7,495	
	1.3%						88.0%		7.0%		3.6%		100.0%	
牛床革	3,500	2,500	100				2,000	1,500	300	1,000	8,293	800	14,193	5,800
	58.3%	41.7%	100.0%				57.1%	42.9%	23.1%	76.9%	91.2%	8.8%	71.0%	29.0%
	6,000		100				3,500		1,300		9,093		19,993	
	30.0%		0.5%				17.5%		6.5%		45.5%		100.0%	
豚床革													0	0
													-	-
													0	
													-	
その他 革	610						13,235	1,000	715		528	124	15,088	1,124
	100.0%						93.0%	7.0%	100.0%		81.0%	19.0%	93.1%	6.9%
	610						14,235		715		652		16,212	
	3.8%						87.8%		4.4%		4.0%		100.0%	
合 計	49,939	3,070	11,607	0	605	0	70,608	2,605	11,903	1,005	77,592	3,234	222,254	9,914
	94.2%	5.8%	100.0%	-	100.0%	-	96.4%	3.6%	92.2%	7.8%	96.0%	4.0%	95.7%	4.3%
	53,009		11,607		605		73,213		12,908		80,826		232,168	
	22.8%		5.0%		0.3%		31.5%		5.6%		34.8%		100.0%	

図3-11. 革種別月間平均生産販売枚数における用途構成比

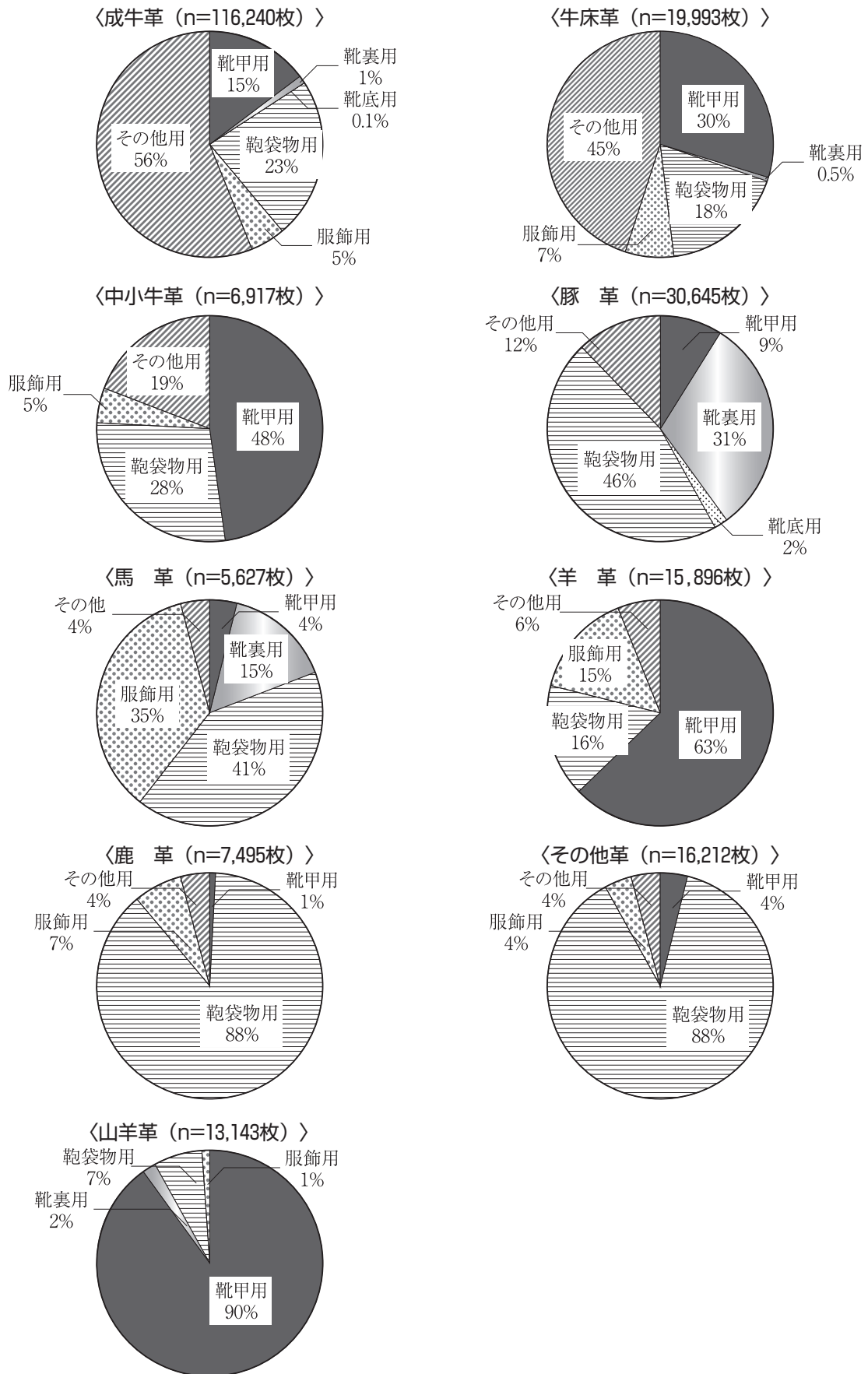


表3-5は革種別に用途別の月間平均生産販売枚数について経年変化をみたものである。その傾向として目立つところとしては、＜成牛革＞において「靴甲用」「鞆袋物用」の数量が少しずつ減少してきていることや、＜豚革＞においてはいずれの用途においても年ごとの増減が激しく、今回は「鞆袋物用」が大きく増加し、「靴甲用」は大きく減少している。＜山羊革＞の需要がいずれの用途も減少傾向であることや、＜羊革＞の用途が「靴甲用」だけではなく他用途に拡がりつつあること、また＜馬革＞においては「鞆袋物用」の比率が低下し、「服飾用」の比率が少し上昇していること、＜牛床革＞は「靴甲用」「その他用」の需要が大きく減少していることなどが挙げられる。

表3-5. 革種別用途別月間平均生産販売枚数5年間推移

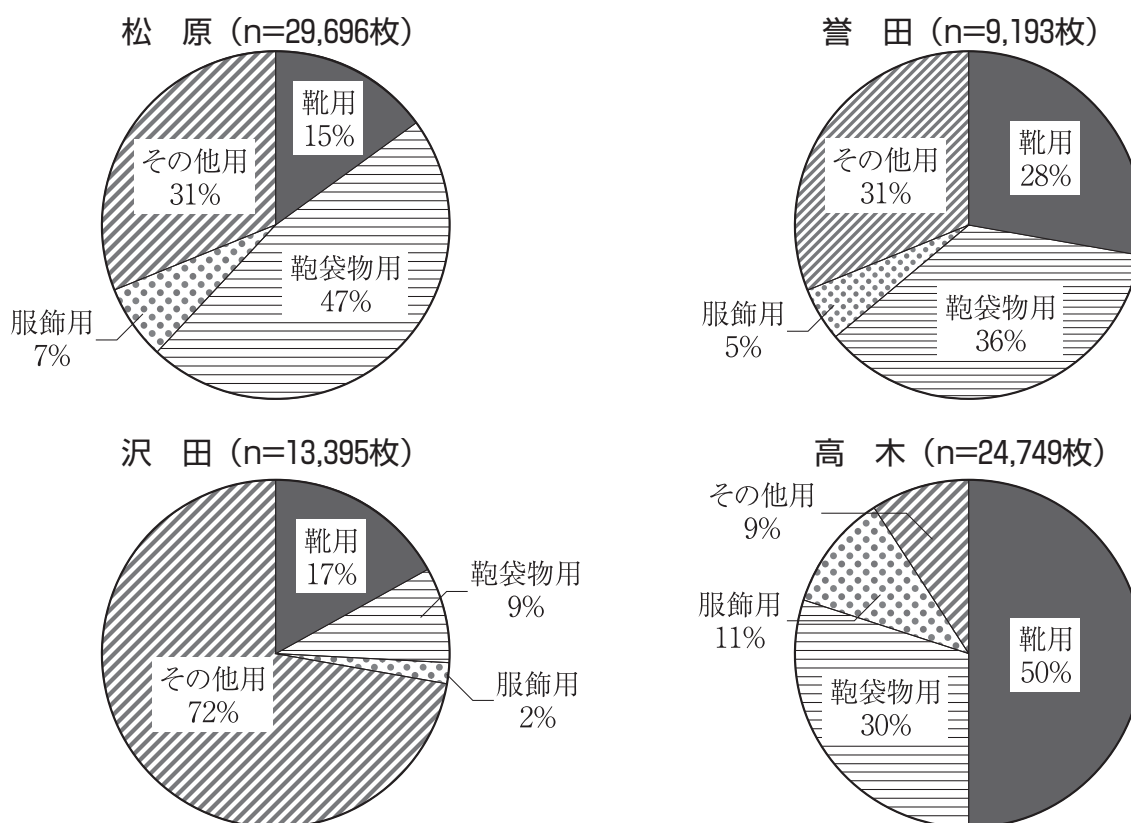
丸革/月産

革種 及び年	用途	靴甲用		靴裏用		靴底用		鞆袋物用		服飾用		その他用		合計(革種別)			
		枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	令6/令5 対比	令6/令2 対比
成牛革	令2	20,150	19.1	223	0.2	115	0.1	35,954	34.0	3,275	3.1	45,977	43.5	105,694	40.4	-8.6%	+10.0%
	令3	18,077	15.3	567	0.5	275	0.2	31,990	27.1	3,839	3.2	63,428	53.7	118,176	41.0		
	令4	19,263	17.0	710	0.6	160	0.1	34,912	30.8	4,415	3.9	53,832	47.5	113,292	35.4		
	令5	20,252	15.9	865	0.7	95	0.1	34,371	27.0	5,693	4.5	65,935	51.8	127,211	53.0		
	令6	17,973	15.5	942	0.8	105	0.1	26,897	23.1	5,625	4.8	64,698	55.7	116,240	50.1		
中小牛革	令2	3,726	56.1					2,011	30.3	307	4.6	596	9.0	6,640	2.5	-0.9%	+4.2%
	令3	3,385	50.6					2,636	39.4	392	5.9	272	4.1	6,685	2.3		
	令4	3,645	51.2					2,140	30.0	321	4.5	1,019	14.3	7,125	2.2		
	令5	3,805	54.5					2,059	29.5	303	4.3	811	11.6	6,978	2.9		
	令6	3,347	48.4					1,943	28.1	317	4.6	1,310	18.9	6,917	3.0		
豚革	令2	8,025	16.2	7,817	15.8	1,500	3.0	2,335	4.7	400	0.8	29,510	59.5	49,587	18.9	+3.5%	-38.2%
	令3	12,110	20.5	9,890	16.7	1,500	2.5	7,458	12.6	580	1.0	27,590	46.7	59,128	20.5		
	令4	6,250	11.5	13,167	24.2			15,411	28.3	620	1.1	18,980	34.9	54,428	17.0		
	令5	16,398	55.4	9,380	31.7			2,100	7.1	220	0.7	1,500	5.1	29,598	12.3		
	令6	2,850	9.3	9,415	30.7	500	1.6	14,280	46.6			3,600	11.7	30,645	13.2		
山羊革	令2	20,237	90.3					1,648	7.4	529	2.4			22,414	8.6	+39.9%	-41.4%
	令3	17,277	77.3	2,300	10.3			1,583	7.1	1,188	5.3			22,348	7.8		
	令4	20,232	87.5	1,000	4.3			1,751	7.6	136	0.6			23,119	7.2		
	令5	8,601	91.6					786	8.4	5	0.1			9,392	3.9		
	令6	11,829	90.0	300	2.3			948	7.2	66	0.5			13,143	5.7		
羊革	令2	14,836	77.3	500	2.6			2,022	10.5	1,346	7.0	500	2.6	19,204	7.3	+23.0%	-17.2%
	令3	13,137	72.3					2,870	15.8	1,666	9.2	500	2.8	18,173	6.3		
	令4	50,113	87.7					4,563	8.0	1,986	3.5	500	0.9	57,162	17.9		
	令5	6,995	54.1					2,584	20.0	2,349	18.2	1,000	7.7	12,928	5.4		
	令6	10,036	63.1					2,490	15.7	2,370	14.9	1,000	6.3	15,896	6.8		
馬革	令2	854	12.3	855	12.3			3,870	55.7	1,254	18.1	111	1.6	6,944	2.7	-16.2%	-19.0%
	令3	584	8.1	855	11.8			4,051	55.9	1,660	22.9	101	1.4	7,251	2.5		
	令4	711	9.6	980	13.3			4,270	57.9	1,199	16.3	211	2.9	7,371	2.3		
	令5	661	9.8	780	11.6	50	0.7	3,570	53.1	1,546	23.0	111	1.7	6,718	2.8		
	令6	264	4.7	850	15.1			2,321	41.2	1,991	35.4	201	3.6	5,627	2.4		
鹿革	令2	※	-	※	-	※	-	※	-	※	-	※	-	※	-	+43.9%	-
	令3	※	-	※	-	※	-	※	-	※	-	※	-	※	-		
	令4	※	-	※	-	※	-	※	-	※	-	※	-	※	-		
	令5	50	1.0	10	0.2			4,456	85.5	518	9.9	176	3.4	5,210	2.2		
	令6	100	1.3					6,599	88.0	524	7.0	272	3.6	7,495	3.2		
牛床革	令2	10,471	28.5					3,750	10.2	1,194	3.3	21,313	58.0	36,728	14.0	-39.5%	-45.6%
	令3	8,800	27.7			100	0.3	1,520	4.8	800	2.5	20,520	64.7	31,740	11.0		
	令4	7,750	21.4	500	1.4	50	0.1	1,400	3.9	2,200	6.1	24,303	67.1	36,203	11.3		
	令5	7,705	23.3	100	0.3			1,906	5.8	785	2.4	22,563	68.3	33,059	13.8		
	令6	6,000	30.0	100	0.5			3,500	17.5	1,300	6.5	9,093	45.5	19,993	8.6		
豚床革	令2											1,600	100.0	1,600	0.6	-100%	-100%
	令3											11,770	100.0	11,770	4.1		
	令4											11,200	100.0	11,200	3.5		
	令5											1,000	100.0	1,000	0.4		
	令6											0	-	0	-		
その他革	令2	1,400	10.7					9,581	73.1	404	3.1	1,730	13.2	13,115	5.0	+107.2%	+23.6%
	令3	360	2.8					6,571	50.7	522	4.0	5,506	42.5	12,959	4.5		
	令4	226	2.2					7,216	70.3	2,092	20.4	726	7.1	10,260	3.2		
	令5	16	0.2					6,813	87.1	135	1.7	860	11.0	7,824	3.3		
	令6	610	3.8					14,235	87.8	715	4.4	652	4.0	16,212	7.0		
合計(用途別)	令2	79,699	30.4	9,395	3.6	1,615	0.6	61,171	23.4	8,709	3.3	101,337	38.7	261,926	100.0	-3.2%	-11.4%
	令3	73,730	25.6	13,612	4.7	1,875	0.7	58,679	20.4	10,647	3.7	129,687	45.0	288,230	100.0		
	令4	108,190	33.8	16,357	5.1	210	0.1	71,663	22.4	12,969	4.1	110,771	34.6	320,160	100.0		
	令5	64,483	26.9	11,135	4.6	145	0.1	58,645	24.4	11,554	4.8	93,956	39.2	239,918	100.0		
	令6	53,009	22.8	11,607	5.0	605	0.3	73,213	31.5	12,908	5.6	80,826	34.8	232,168	100.0		

※鹿革は令和4年度まで集計なし

図3-12は地区別にそれぞれの用途に向けた生産販売状況をまとめた。＜松原地区＞は今回の調査結果では「鞆袋物用」が最も高い比率となり全体の47%を占め、前年から需要が拡大している。次いで「その他用」で31%、「靴用」で15%という結果となった。＜誉田地区＞は「鞆袋物用」「靴用」「その他用」の用途がそれぞれでおおよそ3分の1を占めている。＜沢田地区＞は「その他用」が72%を占め、「靴用」が17%、「鞆袋物用」が9%となった。＜誉田地区＞＜沢田地区＞とも用途別の構成に関しては前年から大きな変化はない。＜高木地区＞は「靴用」が50%を占めたが、前年よりは比率を落としている。全体的な用途の構成には大きな変化がみられない。＜御着地区＞は「靴用」「鞆袋物用」「服飾用」「その他用」にそれぞれバランス良く使われている。＜川西地区＞は「鞆袋物用」が全体の58%を占め、「靴用」23%、「服飾用」が17%となり、前年からは「服飾用」が少し拡大している。＜大阪他地区＞は「靴用」が全体の75%を占め、前年から比率が上がっている。次いで「鞆袋物用」が16%となっている。＜和歌山地区＞は「靴用」が57%を占めたが、前年より比率が下がっており、逆に比率が上がっているのが「服飾用」で前年の6%から今回は11%となっている。＜東京地区＞は「靴用」が46%、「鞆袋物用」が43%となり、2つの用途で約90%を占めたが、今回の調査では「鞆袋物用」が前年より比率が大幅に高くなった。＜埼玉他＞地区は「その他用」が81%を占め、前年よりさらにその比率が高くなった。次いで「鞆袋物用」が16%となっている。

図3-12. 地区別月間平均生産販売枚数における用途構成比



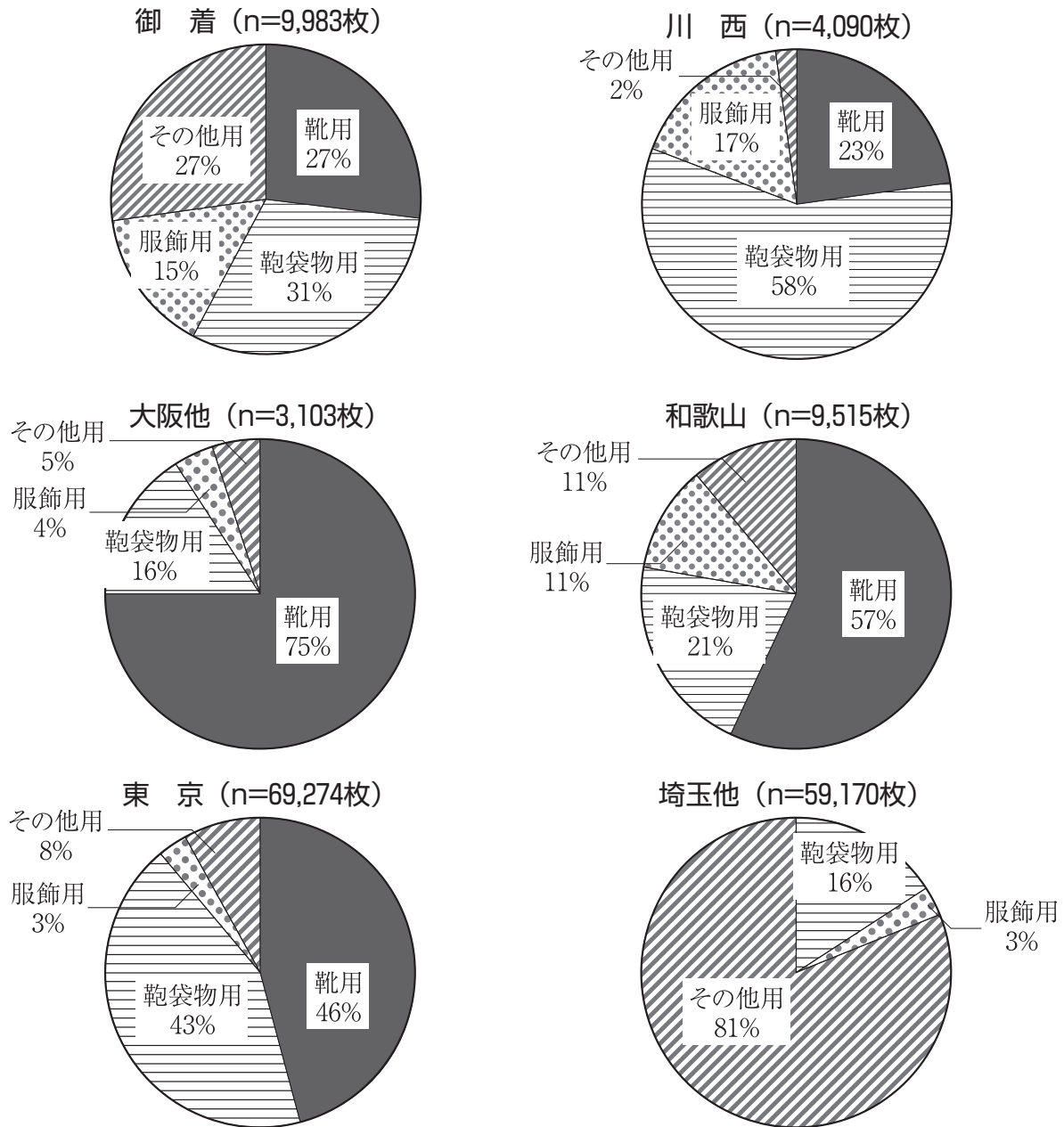


表3-6は、さらに地区別の用途の詳細にみたものである。＜松原地区＞の特徴としては、他地区と比べて最も生産販売枚数が多いのが「カバン用」で、「ハンドバッグ用」「小物用」なども比較的生产販売枚数が多い点が特徴である。＜沢田地区＞の特徴は、「その他用」の「工業手袋等安全具用」が他地区と比べて最も生産販売枚数が多い点である。＜高木地区＞においては「スポーツ靴甲用」「衣料用」が他地区と比べて最も生産販売枚数が多い用途となっている。＜御着地区＞において他地区と比べて生産販売枚数が多い用途は見当たらないが、「草履用」など他地区では生産を行っていない用途がある点が特徴である。＜東京地区＞は「靴甲用」「靴裏用」「ランドセル用」「ハンドバッグ用」「小物用」「手芸工芸用」といった用途用の生産販売枚数が他地区と比べて最も多い。＜埼玉他地区＞は「家具、インテリア用」「カーシート用」において、他地区を大きく引き離して生産販売枚数が多い点が特徴である。

表3-6. なめし革の地区別用途別月間平均生産販売枚数(詳細)

上段:(枚)丸革/月産 下段:用途別地区シェア

	靴甲用	安全・官 需靴甲用	スポーツ 靴甲用	その他の 靴甲用	靴裏用	靴底用	靴用計	ランド セル用	カバン 用	ハンド バッグ用	小物用	鞆袋物 用計	服飾ベ ルト用
松原	4,568 10.0%						4,568 7.0%	50 1.3%	3,475 27.0%	5,868 28.4%	4,475 12.5%	13,868 18.9%	560 14.8%
誉田	2,520 5.5%					50 8.3%	2,570 3.9%	360 9.1%	1,793 13.9%	570 2.8%	560 1.6%	3,283 4.5%	
沢田	440 1.0%	1,750 40.8%			55 0.5%	30 5.0%	2,275 3.5%		400 3.1%	800 3.9%	50 0.1%	1,250 1.7%	
高木	7,640 16.7%	1,588 37.0%	1,409 54.0%	500 100.0%	1,180 10.2%		12,317 18.9%	49 1.2%	3,067 23.8%	1,325 6.4%	3,127 8.8%	7,568 10.3%	389 10.3%
御着	1,813 4.0%		300 11.5%		557 4.8%	20 3.3%	2,690 4.1%		1,192 9.2%	600 2.9%	1,298 3.6%	3,090 4.2%	950 25.2%
川西	950 2.1%						950 1.5%		850 6.6%	100 0.5%	1,420 4.0%	2,370 3.2%	50 1.3%
大阪他	2,316 5.1%					5 0.8%	2,321 3.6%		127 1.0%	55 0.3%	310 0.9%	492 0.7%	115 3.0%
和歌山	4,250 9.3%	950 22.2%	100 3.8%		100 0.9%		5,400 8.3%	1,000 25.3%	760 5.9%	20 0.1%	260 0.7%	2,040 2.8%	1,000 26.5%
関西計	24,497 53.7%	4,288 100.0%	1,809 69.3%	500 100.0%	1,892 16.3%	105 17.4%	33,091 50.7%	1,459 36.9%	11,664 90.5%	9,338 45.2%	11,500 32.2%	33,961 46.4%	3,064 81.2%
東京	21,115 46.3%		800 30.7%		9,715 83.7%	500 82.6%	32,130 49.3%	1,300 32.8%	1,230 9.5%	10,365 50.2%	16,657 46.6%	29,552 40.4%	570 15.1%
埼玉他							0 -	1,200 30.3%		950 4.6%	7,550 21.1%	9,700 13.2%	140 3.7%
関東計	21,115 46.3%	0 -	800 30.7%	0 -	9,715 83.7%	500 82.6%	32,130 49.3%	2,500 63.1%	1,230 9.5%	11,315 54.8%	24,207 67.8%	39,252 53.6%	710 18.8%
全国計	45,612 100.0%	4,288 100.0%	2,609 100.0%	500 100.0%	11,607 100.0%	605 100.0%	65,221 100.0%	3,959 100.0%	12,894 100.0%	20,653 100.0%	35,707 100.0%	73,213 100.0%	3,774 100.0%

	衣料用	服飾 手袋用	草履用	服飾用計	グローブ ミット等	手芸工 芸用	家具、イン テリア用	カーシート 用	工業手袋等 安全具用他	ウェット ブルー	その他	その他 計	総計
松原	1,440 18.3%	200 19.2%		2,200 17.0%	6,730 47.6%		500 10.1%		1,830 15.7%			9,060 11.2%	29,696 12.8%
誉田	500 6.4%			500 3.9%	1,540 10.9%	200 22.1%	400 8.1%		700 6.0%			2,840 3.5%	9,193 4.0%
沢田	200 2.5%	100 9.6%		300 2.3%	1,680 11.9%	50 5.5%			7,840 67.2%			9,570 11.8%	13,395 5.8%
高木	2,305 29.3%			2,694 20.9%	1,246 8.8%	3 0.3%	125 2.5%		500 4.3%	200 100.0%	96 1.7%	2,170 2.7%	24,749 10.7%
御着	330 4.2%		200 88.9%	1,480 11.5%	400 2.8%	260 28.8%	153 3.1%	100 0.2%			1,810 32.5%	2,723 3.4%	9,983 4.3%
川西	280 3.6%	350 33.7%		680 5.3%							90 1.6%	90 0.1%	4,090 1.8%
大阪他				115 0.9%	28 0.2%		147 3.0%					175 0.2%	3,103 1.3%
和歌山	50 0.6%		25 11.1%	1,075 8.3%	1,000 7.1%							1,000 1.2%	9,515 4.1%
関西計	5,105 64.9%	650 62.5%	225 100.0%	9,044 70.1%	12,624 89.4%	513 56.8%	1,325 26.7%	100 0.2%	10,870 93.1%	200 100.0%	1,996 35.9%	27,628 34.2%	103,724 44.7%
東京	1,524 19.4%			2,094 16.2%	1,500 10.6%	390 43.2%	40 0.8%		800 6.9%		2,768 49.7%	5,498 6.8%	69,274 29.8%
埼玉他	1,240 15.8%	390 37.5%		1,770 13.7%			3,600 72.5%	43,300 99.8%			800 14.4%	47,700 59.0%	59,170 25.5%
関東計	2,764 35.1%	390 37.5%	0 -	3,864 29.9%	1,500 10.6%	390 43.2%	3,640 73.3%	43,300 99.8%	800 6.9%	0 -	3,568 64.1%	53,198 65.8%	128,444 55.3%
全国計	7,869 100.0%	1,040 100.0%	225 100.0%	12,908 100.0%	14,124 100.0%	903 100.0%	4,965 100.0%	43,400 100.0%	11,670 100.0%	200 100.0%	5,564 100.0%	80,826 100.0%	232,168 100.0%

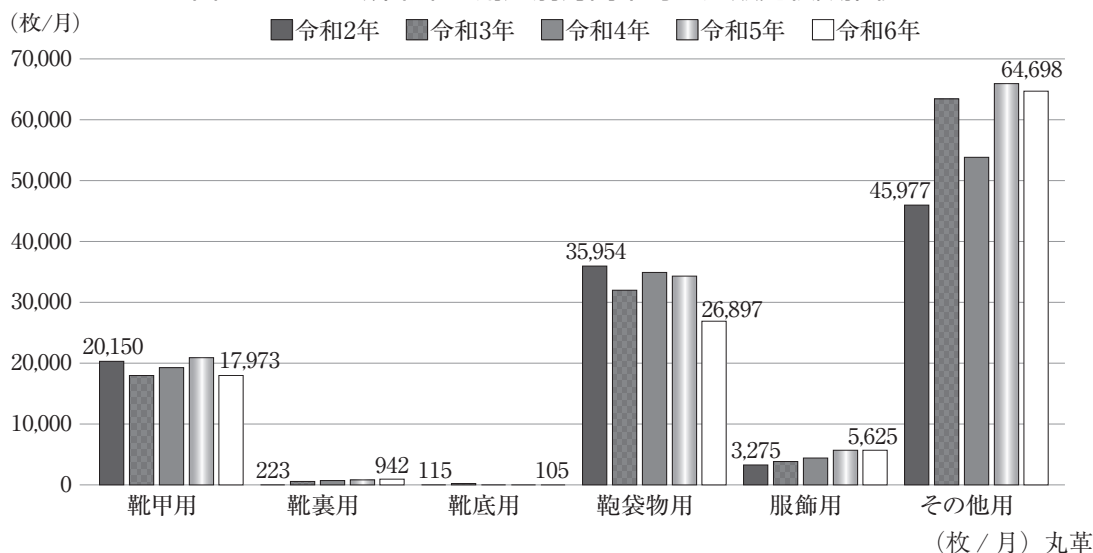
### 3-3. 主要革種別地域別・用途別生産販売動向（詳細）

ここでは日本で生産している主要な革種ごとに、生産販売枚数実態の詳細をまとめた。

#### ① 成牛革

まず、＜成牛革＞の用途別月間平均生産販売枚数を令和2年から経年で集計したものが図3-13である。用途としては毎年「その他用」の生産販売枚数が最も多く、令和6年で64,698枚/月となり、前年より僅かに減少したが、他革種と比較すると安定的に推移している。次いで用途が多い「鞆袋物用」は令和6年の生産販売枚数は26,897枚/月となり、今回は生産販売枚数を大きく落としている。「靴甲用」の生産販売枚数も今回は落としており、17,973枚/月となった。また量的には少ないが、「靴裏用」は毎年増加しており、「服飾用」も今回は僅かに生産販売枚数を落としたが、ここ数年で見れば増加傾向にある。

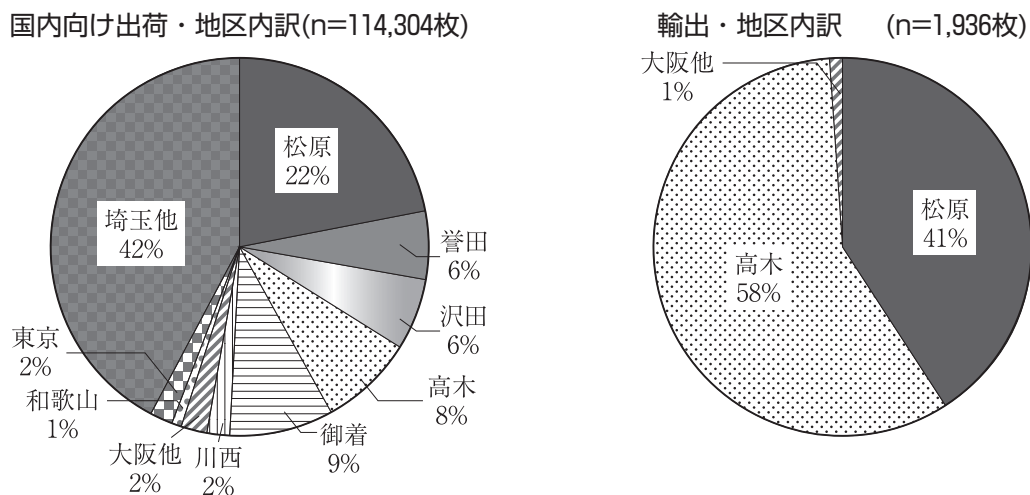
図3-13. 成牛革の用途別月間平均生産販売枚数推移



	靴甲用	靴裏用	靴底用	鞆袋物用	服飾用	その他用	計
令和2年	20,150	223	115	35,954	3,275	45,977	105,694
令和3年	18,077	567	275	31,990	3,839	63,428	118,176
令和4年	19,263	710	160	34,912	4,415	53,832	113,292
令和5年	20,252	865	95	34,371	5,693	65,935	127,211
令和6年	17,973	942	105	26,897	5,625	64,698	116,240
令6/令2	-10.8%	+322.4%	-8.7%	-25.2%	+71.8%	+40.7%	+10.0%

図3-14は、成牛革の国内向け出荷枚数の地区別比率と、輸出枚数の地区別比率を表したものである。国内向け出荷枚数114,304枚/月の生産地区の内訳としては、埼玉他地区が42%と大きな比率となっている。次いで松原地区が22%の比率となっており、この上位2地区で全体の約3分の2（64%）を占める。それ以外の地区はいずれも10%以下の比率となっている。輸出枚数1,936枚/月の生産地区の内訳としては、松原地区が全体の41%、高木地区が全体の58%を占める構造となっている。その他大阪他地区が1%程度となり、この3地区だけが輸出を行っている地区となっている。

図 3 - 14. 成牛革の仕向け先別月間平均生産販売枚数における地区比率



次に成牛革の生産について、各地区で月間平均生産販売枚数別に製革業者数をカウントしたのが表 3 - 7 である。今回の調査においては、無回答の企業も多く、一概に企業数の増減だけでは判断できない点もあるが、全体のバランスをみると、1-99枚/月の小規模企業が21社（前年22社）、100-499枚/月の企業が55社（前年53社）、500-999枚/月の企業が26社（前年27社）、そして1,000枚以上/月の規模の大きい企業数が26社（前年27社）となった。全体的に前年からの大きな変化は見られなかった。

また地区別に見ると、比較的生産販売枚数が大きい企業が多く存在しているのが松原地区で、1,000枚以上/月の生産を行っている企業が12社存在している。松原地区に次いで成牛革を生産する企業数の多い高木地区は、生産規模が中小規模の企業が多い地区となっている。埼玉他地区は前年には1,000枚以上/月の企業が3社存在していたが、今回は1社に留まった。

表 3 - 7. 成牛革の地区別月間平均生産販売枚数別企業数 (社)

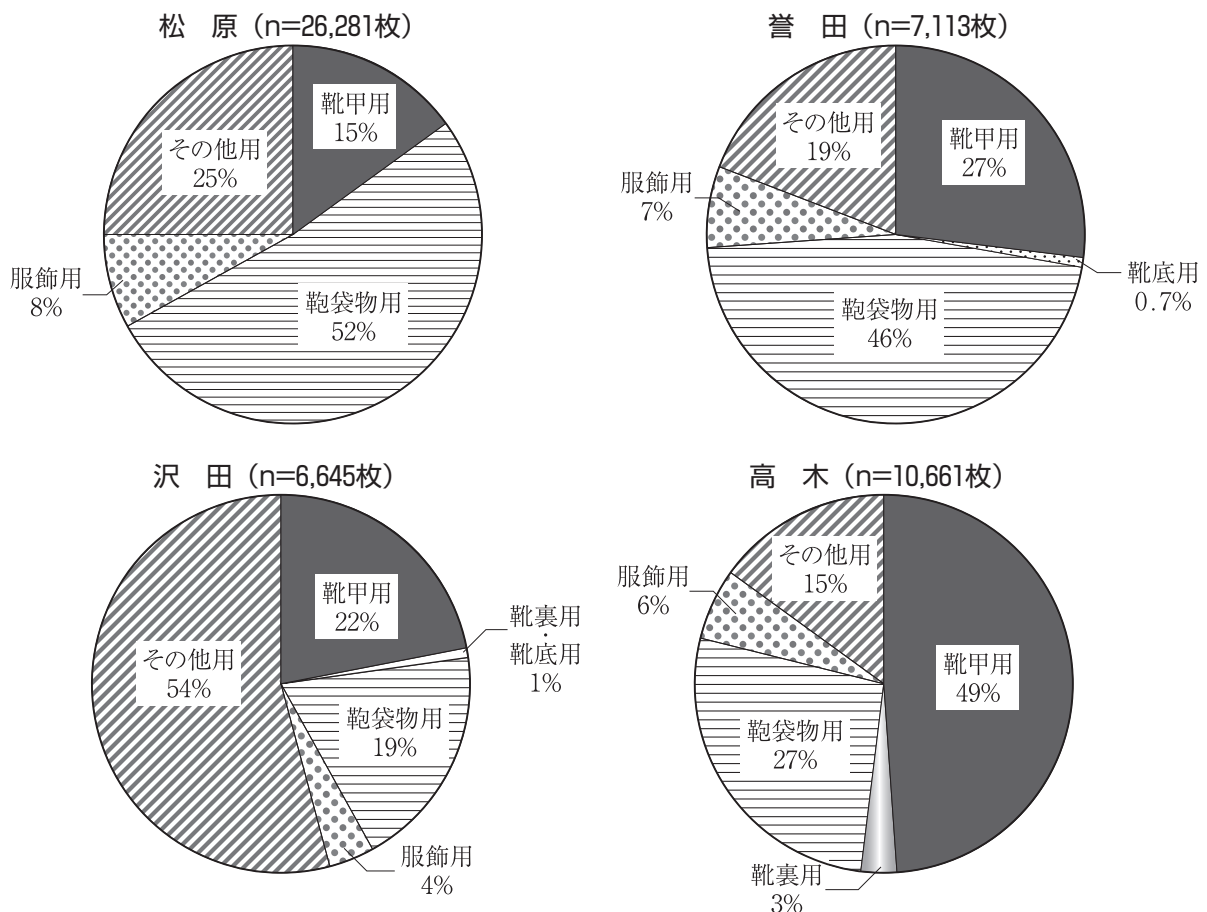
	企業数	1-99枚	100-499枚	500-999枚	1000枚以上	扱いなし	無回答	休業中
松原	69	2	15	3	12	16	21	13
誉田	42	5	8	6	1	9	13	8
沢田	12	1	2	6	1	2	0	0
高木	62	9	16	2	5	18	12	10
御着	22	2	3	6	3	4	4	4
川西	10	1	4	1	0	0	4	0
大阪他	8	0	2	0	1	1	4	1
和歌山	7	1	1	0	1	3	1	0
東京	29	0	2	0	1	18	8	1
埼玉他	9	0	2	2	1	2	2	0
計	270	21	55	26	26	73	69	37

図3-15及び表3-8では、成牛革の地区別に月間平均生産販売枚数を用途別別に集計したものであるが、成牛革の生産販売枚数が最も多い<埼玉他地区>は、令和6年の生産販売枚数47,940枚/月で、前年の54,320枚/月から大きく減少したが、今回の内訳をみると「その他用」が98%を占めており、前年まで9%あった「鞆袋物」の比率が今回は2%まで縮小している。つまり生産販売枚数の減少分はほぼこの「鞆袋物」の減少が要因と思われる。次いで生産販売枚数の多い<松原地区>は「鞆袋物用」が52%、「その他用」が25%、「靴甲用」が15%、「服飾用」が8%の比率になっている構造は前年とほとんど変わっていない。今回、生産販売枚数を僅かに減少させた<高木地区>は「靴甲用」の比率が低下しており、逆に「その他用」「服飾用」「靴裏用」等の用途の比率が増加している。

それ以外の地区の傾向としては、いずれの地区も用途の構成に変化はほとんど見られないが、それぞれのトップ用途に変化が見られ、<誉田地区>は「鞆袋物用」が50%を切っており、<沢田地区>は逆に「その他用」の比率が50%超となった。<御着地区>は「鞆袋物用」が少し比率を高めて最も多い用途になっている。また<川西地区>は「服飾用」が大きく拡大している。<大阪他地区>は最も多い用途の「靴甲用」の比率がより高まっている。<和歌山地区>は全体の85%を占めた「靴甲用」は前年と比べると僅かに比率を落としている。<東京地区>は「その他用」が全体の92%にまで拡大している。

また成牛革における令和6年の輸出に関しては、<高木地区><松原地区>と<大阪他地区>の3地区だけで行われた。<高木地区>は数量は大きくはないが、いずれの用途においても輸出を行っている。<高木地区>は「その他用」、<大阪他地区>は「靴用」だけで輸出を行っている。

図3-15. 成牛革の地区別月間平均生産販売枚数における用途比率



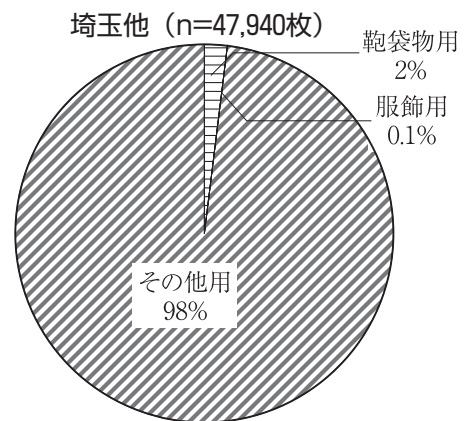
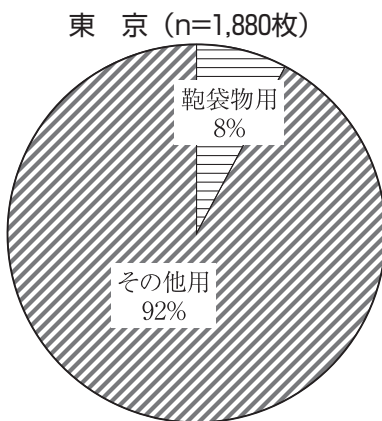
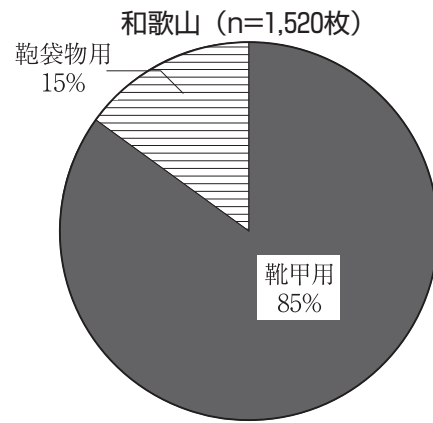
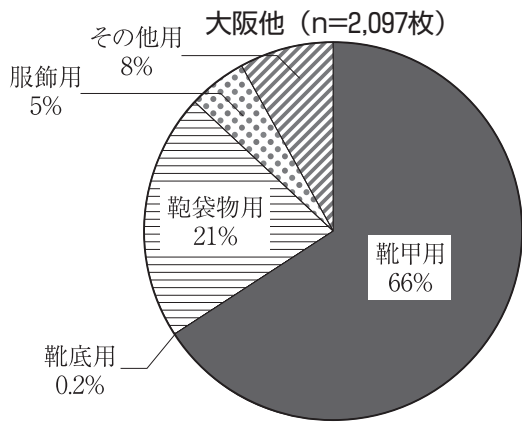
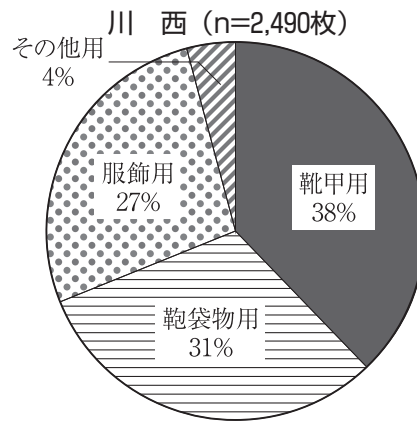
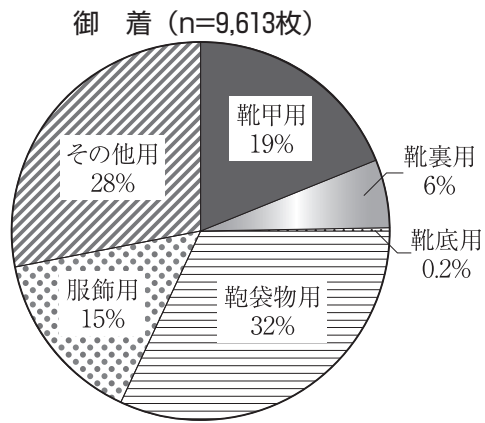


表 3 - 8. 成牛革の地区別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数（令和6年）（枚）丸革 / 月産

用途 地区	靴 用		鞆袋物用		服 飾 用		その他用		合 計		総合計
	国 内	輸 出	国 内	輸 出	国 内	輸 出	国 内	輸 出	国 内	輸 出	
松 原	3,958		13,668		1,985		5,870	800	25,481 (97.0%)	800 (3.0%)	26,281 (22.6%)
誉 田	1,970		3,283		500		1,360		7,113 (100.0%)	0 -	7,113 (6.1%)
沢 田	1,525		1,250		300		3,570		6,645 (100.0%)	0 -	6,645 (5.7%)
高 木	5,446	105	2,906	5	603	1	585	1,010	9,540 (89.5%)	1,121 (10.5%)	10,661 (9.2%)
御 着	2,390		3,090		1,410		2,723		9,613 (100.0%)	0 -	9,613 (8.3%)
川 西	950		770		680		90		2,490 (100.0%)	0 -	2,490 (2.1%)
大阪他	1,371	15	445		106		160		2,082 (99.3%)	15 (0.7%)	2,097 (1.8%)
和歌山	1,290		230						1,520 (100.0%)	0 -	1,520 (1.3%)
関西計	18,900 (99.4%)	120 (0.6%)	25,642 (99.98%)	5 (0.02%)	5,584 (99.98%)	1 (0.02%)	14,358 (88.8%)	1,810 (11.2%)	64,484 (97.1%)	1,936 (2.9%)	66,420 (57.1%)
	19,020 (28.6%)		25,647 (38.6%)		5,585 (8.4%)		16,168 (24.3%)		66,420 (100.0%)		
東 京			150				1,730		1,880 (100.0%)	0 -	1,880 (1.6%)
埼玉他			1,100		40		46,800		47,940 (100.0%)	0 -	47,940 (41.2%)
関東計	0 -	0 -	1,250 (100.0%)	0 -	40 (100.0%)	0 -	48,530 (100.0%)	0 -	49,820 (100.0%)	0 -	49,820 (42.9%)
	0 -		1,250 (2.5%)		40 (0.1%)		48,530 (97.4%)		49,820 (100.0%)		
全国計	18,900 (99.4%)	120 (0.6%)	26,892 (99.98%)	5 (0.02%)	5,624 (99.98%)	1 (0.02%)	62,888 (97.2%)	1,810 (2.8%)	114,304 (98.3%)	1,936 (1.7%)	116,240 (100.0%)
	19,020 (16.4%)		26,897 (23.1%)		5,625 (4.8%)		64,698 (55.7%)		116,240 (100.0%)		

その用途の詳細を表した表3-9をみると、全体の月間平均生産販売枚数の比較では、主に<埼玉他地区>で生産されている「カーシート用」が最も大きく、43,200枚/月の生産販売枚数となっており、前年とほぼ同量となった。次いで生産販売枚数が大きいのは、「靴甲用」で15,232枚/月の生産販売枚数となった。こちらは前年と比べると1,700枚/月ほど減少している。前年調査では10,000枚/月あった用途は他にも「小物用」「カバン用」「グローブミット等運動具用」とあったが、今回の調査では「グローブミット等運動具用」の10,496枚/月のみとなった。その他では、「衣料用」「工業手袋等安全具用」「スポーツ靴甲用」「ハンドバッグ用」「服飾手袋用」といった用途が僅かながらも伸びている。

表3-10は各地区の用途別月間平均生産販売枚数を経年比較したものであるが、この5年間というスパンで見れば、成牛革に関しては極端に変化している地区も、また用途別でも見られず、ほぼ横ばいに近い状況で推移していることが分かる。

表 3 - 9. 成牛革の地区別用途別月間平均生産販売枚数 (令和6年/ 詳細) 上段: (枚) 丸革/月産 下段: 用途別地区シェア

	靴甲用	安全・官 需靴甲用	スポーツ 靴甲用	その他の 靴甲用	靴裏用	靴底用	靴用計	ランド セル用	カバン 用	ハンド バッグ用	小物用	鞆袋物 用計	服飾ベ ルト用
松 原	3,958 26.0%						3,958 20.8%	50 3.5%	3,425 41.7%	5,818 62.7%	4,375 54.8%	13,668 50.8%	560 32.0%
誉 田	1,920 12.6%					50 47.6%	1,970 10.4%	360 25.4%	1,793 21.8%	570 6.1%	560 7.0%	3,283 12.2%	
沢 田	440 2.9%	1,000 42.8%			55 5.8%	30 28.6%	1,525 8.0%		400 4.9%	800 8.6%	50 0.6%	1,250 4.6%	
高 木	4,230 27.8%	588 25.1%	403 100.0%		330 35.0%		5,551 29.2%	5 0.4%	644 7.8%	1,215 13.1%	1,047 13.1%	2,911 10.8%	42 2.4%
御 着	1,813 11.9%				557 59.1%	20 19.0%	2,390 12.6%		1,192 14.5%	600 6.5%	1,298 16.3%	3,090 11.5%	950 54.3%
川 西	950 6.2%						950 5.0%		300 3.7%	100 1.1%	370 4.6%	770 2.9%	50 2.9%
大阪他	1,381 9.1%					5 4.8%	1,386 7.3%		105 1.3%	55 0.6%	285 3.6%	445 1.7%	106 6.1%
和歌山	540 3.5%	750 32.1%					1,290 6.8%		210 2.6%	20 0.2%		230 0.9%	
関西計	15,232 100.0%	2,338 100.0%	403 100.0%	0 -	942 100.0%	105 100.0%	19,020 100.0%	415 29.3%	8,069 98.2%	9,178 98.9%	7,985 100.0%	25,647 95.4%	1,708 97.7%
東 京							0 -		150 1.8%			150 0.6%	
埼玉他							0 -	1,000 70.7%		100 1.1%		1,100 4.1%	40 2.3%
関東計	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	1,000 70.7%	150 1.8%	100 1.1%	0 -	1,250 4.6%	40 2.3%
全国計	15,232 100.0%	2,338 100.0%	403 100.0%	0 -	942 100.0%	105 100.0%	19,020 100.0%	1,415 100.0%	8,219 100.0%	9,278 100.0%	7,985 100.0%	26,897 100.0%	1,748 100.0%

	衣料用	服飾 手袋用	草履用	服飾用計	グローブ ミット等	手芸工 芸用	家具、イン テリア用	カーシート 用	工業手袋等 安全具用他	ウェット ブルー	その他	その他 計	総計
松 原	1,225 40.5%	200 30.8%		1,985 35.3%	6,030 57.5%		500 10.1%		140 5.0%			6,670 10.3%	26,281 22.6%
誉 田	500 16.5%			500 8.9%	760 7.2%	200 33.2%	400 8.1%					1,360 2.1%	7,113 6.1%
沢 田	200 6.6%	100 15.4%		300 5.3%	880 8.4%	50 8.3%			2,640 95.0%			3,570 5.5%	6,645 5.7%
高 木	562 18.6%			604 10.7%	1,213 11.6%	2 0.3%	125 2.5%			200 100.0%	55 2.2%	1,595 2.5%	10,661 9.2%
御 着	260 8.6%		200 100.0%	1,410 25.1%	400 3.8%	260 43.2%	153 3.1%	100 0.2%			1,810 73.7%	2,723 4.2%	9,613 8.3%
川 西	280 9.3%	350 53.8%		680 12.1%							90 3.7%	90 0.1%	2,490 2.1%
大阪他				106 1.9%	13 0.1%		147 3.0%					160 0.2%	2,097 1.8%
和歌山				0 -								0 -	1,520 1.3%
関西計	3,027 100.0%	650 100.0%	200 100.0%	5,585 99.3%	9,296 88.6%	512 85.0%	1,325 26.7%	100 0.2%	2,780 100.0%	200 100.0%	1,955 79.6%	16,168 25.0%	66,420 57.1%
東 京				0 -	1,200 11.4%	90 15.0%	40 0.8%				400 16.3%	1,730 2.7%	1,880 1.6%
埼玉他				40 0.7%			3,600 72.5%	43,100 99.8%			100 4.1%	46,800 72.3%	47,940 41.2%
関東計	0 -	0 -	0 -	40 0.7%	1,200 11.4%	90 15.0%	3,640 73.3%	43,100 99.8%	0 -	0 -	500 20.4%	48,530 75.0%	49,820 42.9%
全国計	3,027 100.0%	650 100.0%	200 100.0%	5,625 100.0%	10,496 100.0%	602 100.0%	4,965 100.0%	43,200 100.0%	2,780 100.0%	200 100.0%	2,455 100.0%	64,698 100.0%	116,240 100.0%

表3-10. 成牛革の地区別用途別月間平均生産販売枚数5年間推移

(枚) 丸革 / 月産

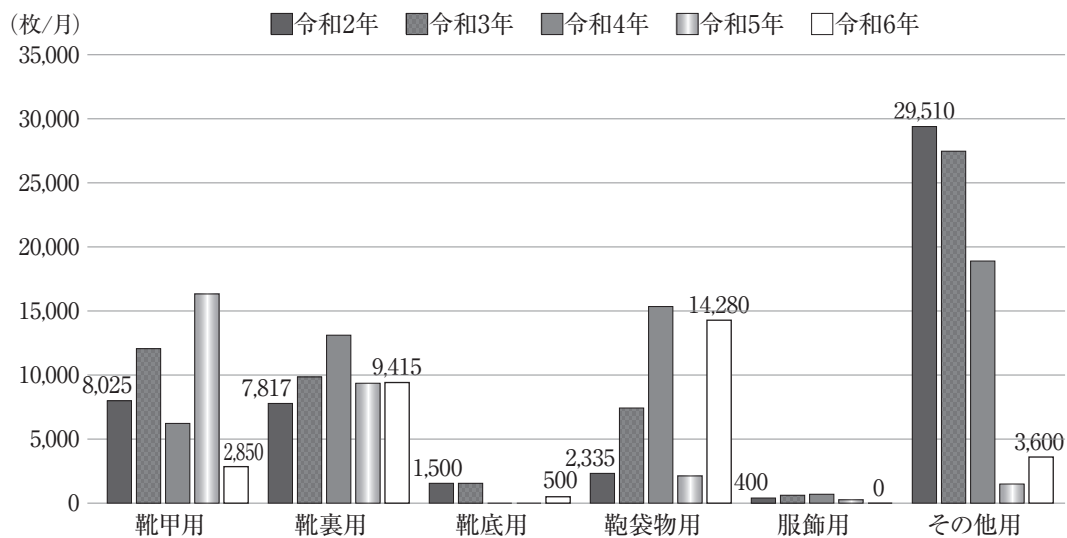
地区 及び年	革種	靴甲用		靴裏用		靴底用		鞆袋物用		服飾用		その他用		合計	
		枚数	用途別(%)	枚数	用途別(%)	枚数	用途別(%)	枚数	用途別(%)	枚数	用途別(%)	枚数	用途別(%)	枚数	用途別(%)
松原	令2	3,590	17.8					13,200	36.7	850	26.0	5,775	12.6	23,415	22.2
	令3	3,691	20.4					11,505	36.0	1,323	34.5	7,116	11.2	23,635	20.0
	令4	4,438	23.0					12,929	37.0	1,483	33.6	6,834	12.7	25,684	22.7
	令5	4,251	21.0					14,751	42.9	1,840	32.3	6,936	10.5	27,778	21.8
	令6	3,958	22.0					13,668	50.8	1,985	35.3	6,670	10.3	26,281	22.6
誉田	令2	2,975	14.8	70	31.4			6,127	17.0	306	9.3	658	1.4	10,136	9.6
	令3	2,545	14.1					5,080	15.9	362	9.4	450	0.7	8,437	7.1
	令4	2,210	11.5	200	28.2			4,220	12.1	570	12.9	1,045	1.9	8,245	7.3
	令5	2,395	11.8	350	40.5			4,751	13.8	630	11.1	1,250	1.9	9,376	7.4
	令6	1,920	10.7			50	47.6	3,283	12.2	500	8.9	1,360	2.1	7,113	6.1
沢田	令2	1,390	6.9					1,985	5.5	100	3.1	2,397	5.2	5,872	5.6
	令3	1,770	9.8					1,800	5.6	230	6.0	3,850	6.1	7,650	6.5
	令4	700	3.6					1,550	4.4	200	4.5	2,200	4.1	4,650	4.1
	令5	1,650	8.1	50	5.8			1,730	5.0	110	1.9	2,740	4.2	6,280	4.9
	令6	1,440	8.0	55	5.8	30	28.6	1,250	4.6	300	5.3	3,570	5.5	6,645	5.7
高木	令2	6,271	31.1	40	17.9			3,772	10.5	58	1.8	1,758	3.8	11,899	11.3
	令3	6,070	33.6	10	1.8			2,360	7.4	213	5.5	3,034	4.8	11,687	9.9
	令4	6,825	35.4	10	1.4			5,634	16.1	275	6.2	2,571	4.8	15,315	13.5
	令5	6,180	30.5	20	2.3			2,920	8.5	393	6.9	1,470	2.2	10,983	8.6
	令6	5,221	29.0	330	35.0			2,911	10.8	604	10.7	1,595	2.5	10,661	9.2
御着	令2	2,500	12.4	113	50.7	65	56.5	3,795	10.6	1,235	37.7	1,012	2.2	8,720	8.3
	令3	1,376	7.6	507	89.4	215	78.2	3,737	11.7	1,005	26.2	4,716	7.4	11,556	9.8
	令4	1,800	9.3	500	70.4	140	87.5	2,650	7.6	1,425	32.3	3,135	5.8	9,650	8.5
	令5	1,771	8.7	415	48.0	70	73.7	3,068	8.9	1,325	23.3	3,079	4.7	9,728	7.6
	令6	1,813	10.1	557	59.1	20	19.0	3,090	11.5	1,410	25.1	2,723	4.2	9,613	8.3
川西	令2	560	2.8					1,200	3.3	451	13.8			2,211	2.1
	令3	500	2.8					1,410	4.4	379	9.9	80	0.1	2,369	2.0
	令4	800	4.2					760	2.2	180	4.1	30	0.1	1,770	1.6
	令5	980	4.8	30	3.5			1,015	3.0	235	4.1	235	0.4	2,495	2.0
	令6	950	5.3					770	2.9	680	12.1	90	0.1	2,490	2.1
大阪他	令2	1,864	9.3					685	1.9	75	2.3	374	0.8	2,998	2.8
	令3	1,425	7.9	50	8.8	10	3.6	564	1.8	99	2.6	409	0.6	2,557	2.2
	令4	1,680	8.7			20	12.5	700	2.0	85	1.9	485	0.9	2,970	2.6
	令5	1,405	6.9			25	26.3	790	2.3	160	2.8	350	0.5	2,730	2.1
	令6	1,381	7.7			5	4.8	445	1.7	106	1.9	160	0.2	2,097	1.8
和歌山	令2	800	4.0					380	1.1					1,180	1.1
	令3	550	3.0					680	2.1					1,230	1.0
	令4	800	4.2					140	0.4					940	0.8
	令5	1,620	8.0					236	0.7					1,856	1.5
	令6	1,290	7.2					230	0.9					1,520	1.3
関西計	令2	19,950	99.0	223	100.0	65	56.5	31,144	86.6	3,075	93.9	11,974	26.0	66,431	62.9
	令3	17,927	99.2	567	100.0	225	81.8	27,136	84.8	3,611	94.1	19,655	31.0	69,121	58.5
	令4	19,253	99.9	710	100.0	160	100.0	28,583	81.9	4,218	95.5	16,300	30.3	69,224	61.1
	令5	20,252	100.0	865	100.0	95	100.0	29,261	85.1	4,693	82.4	16,060	24.4	71,226	56.0
	令6	17,973	100.0	942	100.0	105	100.0	25,647	95.4	5,585	99.3	16,168	25.0	66,420	57.1
東京	令2							749	2.1			1,334	2.9	2,083	2.0
	令3							504	1.6	28	0.7	1,403	2.2	1,935	1.6
	令4							504	1.4	72	1.6	1,372	2.5	1,948	1.7
	令5							310	0.9			1,355	2.1	1,665	1.3
	令6							150	0.6			1,730	2.7	1,880	1.6
埼玉他	令2	200	1.0			50	43.5	4,061	11.3	200	6.1	32,669	71.1	37,180	35.2
	令3	150	0.8			50	18.2	4,350	13.6	200	5.2	42,370	66.8	47,120	39.9
	令4	10	0.1					5,825	16.7	125	2.8	36,160	67.2	42,120	37.2
	令5							4,800	14.0	1,000	17.6	48,520	73.6	54,320	42.7
	令6							1,100	4.1	40	0.7	46,800	72.3	47,940	41.2
関東計	令2	200	1.0	0	-	50	43.5	4,810	13.4	200	6.1	34,003	74.0	39,263	37.1
	令3	150	0.8	0	-	50	18.2	4,854	15.2	228	5.9	43,773	69.0	49,055	41.5
	令4	10	0.1	0	-	0	-	6,329	18.1	197	4.5	37,532	69.7	44,068	38.9
	令5	0	-	0	-	0	-	5,110	14.9	1,000	17.6	49,875	75.6	55,985	44.0
	令6	0	-	0	-	0	-	1,250	4.6	40	0.7	48,530	75.0	49,820	42.9
全国計	令2	20,150	100.0	223	100.0	115	100.0	35,954	100.0	3,275	100.0	45,977	100.0	105,694	100.0
	令3	18,077	100.0	567	100.0	275	100.0	31,990	100.0	3,839	100.0	63,428	100.0	118,176	100.0
	令4	19,263	100.0	710	100.0	160	100.0	34,912	100.0	4,415	100.0	53,832	100.0	113,292	100.0
	令5	20,252	100.0	865	100.0	95	100.0	34,371	100.0	5,693	100.0	65,935	100.0	127,211	100.0
	令6	17,973	100.0	942	100.0	105	100.0	26,897	100.0	5,625	100.0	64,698	100.0	116,240	100.0

## ② 豚 革

＜豚革＞の用途別月間平均生産販売枚数を令和2年から経年で集計したものが図3-16である。全体の生産販売枚数としては、令和6年で30,645枚/月となり、前年からは僅かに盛り返したが、前年が大幅に減少した年であったため、需要は低迷したままの状況と言える。令和5年の大きな減少の要因は、それまで10,000枚/月を越す輸出があったものがなくなったことが大きな要因であり、今回もその需要は戻っていないため、ほぼ横ばいの推移となっている。ただ国内需要だけを一昨年と比較しても7,000枚/月程度減少しており、総数でみても令和2年と比べても4割近い減少となっている。

用途別にみると、今回最も大きな生産販売枚数となったのは「鞆袋物用」で、14,280枚/月となった。豚革における「鞆袋物用」は需要に波があり、今回は一昨年と同様に大口需要が入ったことによるものと思われる。またこちらも毎年需要に波のある「靴甲用」は、逆に需要が入らず、前年と比べて大きく減少している。「その他用」には「ウェットブルー」も含まれることで、前年から「ウェットブルー」の需要（輸出）がなくなっていることも減少の大きな要因である。

図3-16. 豚革の用途別月間平均生産販売枚数推移



(枚/月) 丸革

	靴甲用	靴裏用	靴底用	鞆袋物用	服飾用	その他用	計
令和2年	8,025	7,817	1,500	2,335	400	29,510	49,587
令和3年	12,110	9,890	1,500	7,458	580	27,590	59,128
令和4年	6,250	13,167	0	15,411	620	18,980	54,428
令和5年	16,398	9,380	0	2,100	220	1,500	29,598
令和6年	2,850	9,415	500	14,280	0	3,600	30,645
令6/令2	-64.5%	+20.4%	-66.7%	+511.6%	-100.0%	-87.8%	-38.2%

豚革の地区別の生産販売枚数比率と輸出の地区別比率をまとめたのが図3-17である。地区別の生産販売枚数比率をみると、東京地区が全体の97%を占めており、残り3%は沢田地区と埼玉他地区で生産されている。この状況は以前から変化はなく、豚革の生産地は東京地区というイメージが定着している。

また輸出は全体の2.8%の850枚/月に過ぎないが、その構成としては<東京地区>が47%、<沢田地区>が53%という比率となっている。

図3-17. 豚革の仕向け先別月間平均生産販売枚数における地区比率

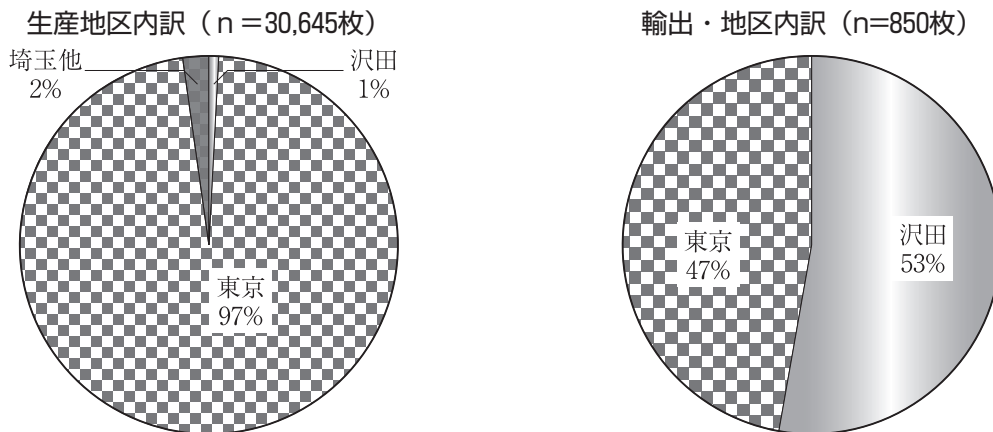


図3-18は、豚革を生産している地区ごとの用途の構成を表したものである。沢田地区は「靴用」の生産が100%、東京地区は「靴用」の生産が42%と「鞆袋物用」が48%、「その他用」が10%という構成になった。前年から「鞆袋物用」の比率が大きく拡大した。埼玉他地区は前年、「靴用」「鞆袋物用」の2つの用途であったが、今回は「その他用」が100%という構成に大きく変化している。

表3-11は、それらの地区で生産されている豚革が用途別に国内向け及び輸出の振り分けを表したもので、表3-12は豚革の用途をさらに詳細に記したものである。今回調査結果では、「小物用」が最も多く、11,000枚/月となった。次いで「靴裏用」で9,415枚/月となった。前年で最も多く生産されていた「靴甲用」の2,400枚/月となっており、今回は「小物用」が大きく増加した形となった。その他では「カバン用」「ハンドバッグ用」「ランドセル用」「グローブミット等運動具用」「手芸工芸用」「工業手袋等安全具用」「安全・官需靴甲用」などの用途向けにも生産されている。

図 3 - 18. 豚革の地区別月間平均生産販売枚数における用途比率

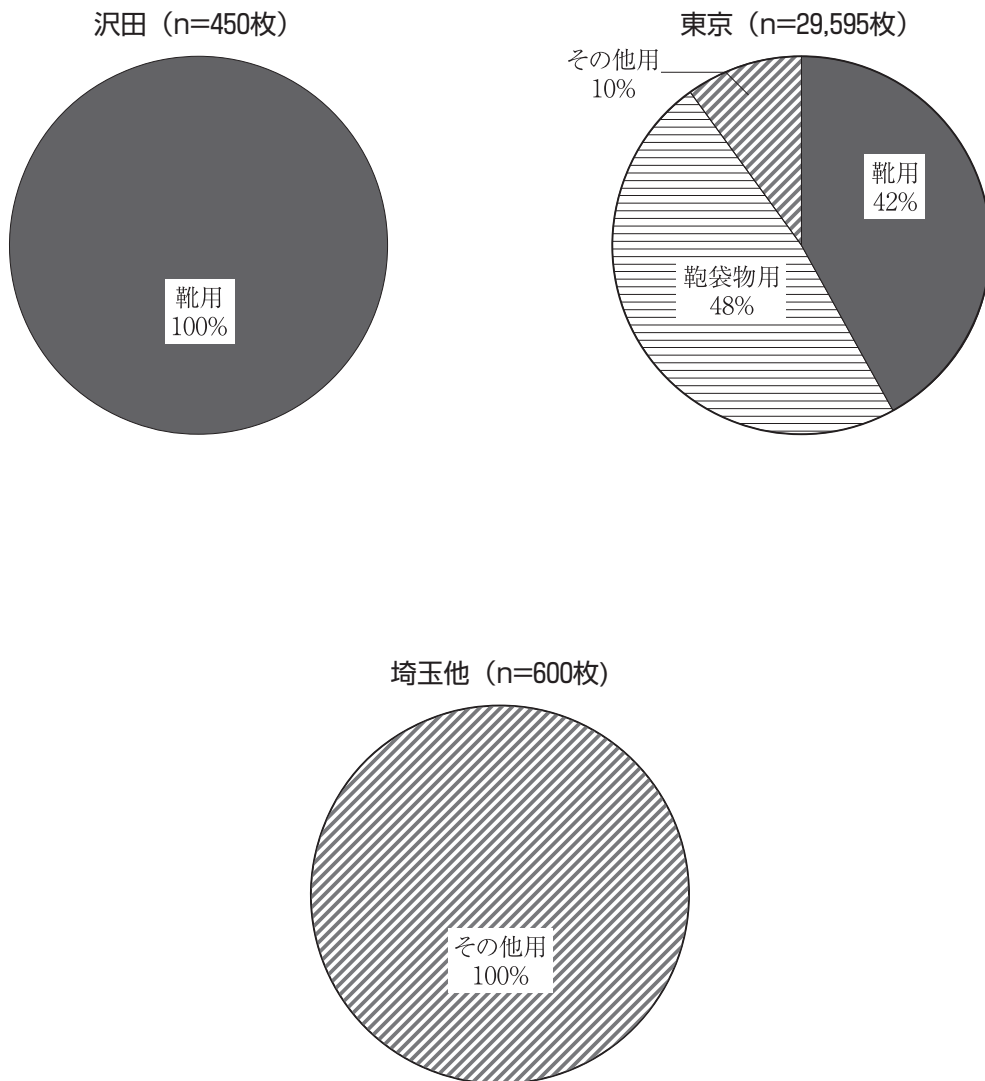


表 3 - 11. 豚革の地区別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数(令和6年) (枚) 丸革/月産

用途 地区	靴 用		鞆袋物用		服 飾 用		その他用		合 計		総合計
	国 内	輸 出	国 内	輸 出	国 内	輸 出	国 内	輸 出	国 内	輸 出	
松 原									0 -	0 -	0 -
誉 田									0 -	0 -	0 -
沢 田		450							0 -	450 (100.0%)	450 (1.5%)
高 木									0 -	0 -	0 -
御 着									0 -	0 -	0 -
川 西									0 -	0 -	0 -
大阪他									0 -	0 -	0 -
和歌山									0 -	0 -	0 -
関西計	0 -	450 (100.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	450 (100.0%)	450 (1.5%)
	450 (100.0%)		0 -		0 -		0 -		450 (100.0%)		
東 京	12,315		14,180	100			2,700	300	29,195 (98.6%)	400 (1.4%)	29,595 (96.6%)
埼玉他							600		600 (100.0%)	0 -	600 (2.0%)
関東計	12,315 (100.0%)	0 -	14,180 (99.3%)	100 (0.7%)	0 -	0 -	3,300 (91.7%)	300 (8.3%)	29,795 (98.7%)	400 (1.3%)	30,195 (98.5%)
	12,315 (40.8%)		14,280 (47.3%)		0 -		3,600 (11.9%)		30,195 (100.0%)		
全国計	12,315 (96.5%)	450 (3.5%)	14,180 (99.3%)	100 (0.7%)	0 -	0 -	3,300 (91.7%)	300 (8.3%)	29,795 (97.2%)	850 (2.8%)	30,645 (100.0%)
	12,765 (41.7%)		14,280 (46.6%)		0 -		3,600 (11.7%)		30,645 (100.0%)		

表3-12. 豚革の地区別用途別月間平均生産販売枚数（令和6年/詳細） 上段：(枚) 丸革/月産 下段：用途別地区シェア

	靴甲用	安全・官 需靴甲用	スポーツ 靴甲用	その他の 靴甲用	靴裏用	靴底用	靴用計	ランド セル用	カバン 用	ハンド バッグ用	小物用	鞆袋物 用計	服飾ベ ルト用
松原							0					0	
誉田							0					0	
沢田		450 100.0%					450 3.5%					0	
高木							0					0	
御着							0					0	
川西							0					0	
大阪他							0					0	
和歌山							0					0	
関西計	0 -	450 100.0%	0 -	0 -	0 -	0 -	450 3.5%	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
東京	2,400 100.0%				9,415 100.0%	500 100.0%	12,315 96.5%	1,300 100.0%	880 100.0%	1,100 100.0%	11,000 100.0%	14,280 100.0%	
埼玉他							0					0	
関東計	2,400 100.0%	0 -	0 -	0 -	9,415 100.0%	500 100.0%	12,315 96.5%	1,300 100.0%	880 100.0%	1,100 100.0%	11,000 100.0%	14,280 100.0%	0 -
全国計	2,400 100.0%	450 100.0%	0 -	0 -	9,415 100.0%	500 100.0%	12,765 100.0%	1,300 100.0%	880 100.0%	1,100 100.0%	11,000 100.0%	14,280 100.0%	0 -

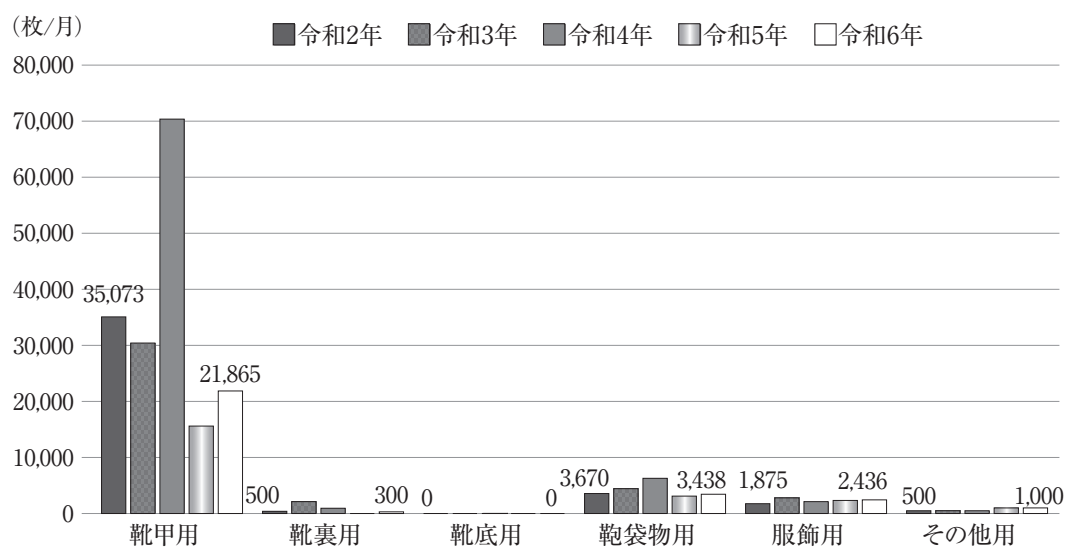
	衣料用	服飾 手袋用	草履用	服飾用計	グローブ ミット等	手芸工 芸用	家具、インテ リア用	カーシート 用	工業手袋等 安全具用他	ウェット ブルー	その他	その他 計	総計
松原				0								0	0
誉田				0								0	0
沢田				0								0	450 1.5%
高木				0								0	0
御着				0								0	0
川西				0								0	0
大阪他				0								0	0
和歌山				0								0	0
関西計	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	450 1.5%
東京				0	300 100.0%	300 100.0%			800 100.0%		1,600 72.7%	3,000 83.3%	29,595 96.6%
埼玉他				0							600 27.3%	600 16.7%	600 2.0%
関東計	0 -	0 -	0 -	0 -	300 100.0%	300 100.0%	0 -	0 -	800 100.0%	0 -	2,200 100.0%	3,600 100.0%	30,195 98.5%
全国計	0 -	0 -	0 -	0 -	300 100.0%	300 100.0%	0 -	0 -	800 100.0%	0 -	2,200 100.0%	3,600 100.0%	30,645 100.0%

### ③ 山羊・羊革

山羊・羊革の用途別月間平均生産販売枚数を令和2年から経年で集計したものが図3-19である。山羊・羊革の令和6年の全体の月間平均生産販売枚数は29,039枚/月となり、令和5年からは増加した結果となった。但し、豚革と同様に昨年に生産販売枚数が大幅に減少しており、令和2年の生産販売枚数と比較するとまだ7割程度に過ぎない量である。

用途としては「靴甲用」の生産販売枚数が最も多く、令和6年で21,865枚/月の生産販売枚数となった。ここも前年との比較では増加しているが、令和2年との比較では37.7%の減少である。他の用途としては、「鞆袋物用」「服飾用」「その他用」向けに生産されており、その中では「服飾用」「その他用」が徐々に生産販売枚数を増やしている。

図3-19. 山羊・羊革の用途別月間平均生産販売枚数推移



(枚/月) 丸革

	靴甲用	靴裏用	靴底用	鞆袋物用	服飾用	その他用	計
令和2年	35,073	500	0	3,670	1,875	500	41,618
令和3年	30,414	2,300	0	4,453	2,854	500	40,521
令和4年	70,345	1,000	0	6,314	2,122	500	80,281
令和5年	15,596	0	0	3,370	2,354	1,000	22,320
令和6年	21,865	300	0	3,438	2,436	1,000	29,039
令6/令2	-37.7%	-40.0%	-	-6.3%	+29.9%	+100.0%	-30.2%

図3-20は山羊・羊革の月間平均生産販売枚数の地区別比率を表したものであるが、その結果としては<東京地区>が全体の70%を占めている。その比率は昨年より拡大している。次いで<埼玉他地区>で14.5%、<高木地区>が7.6%、<和歌山地区>が4.9%、<御着地区>が1.0%、そして<誉田地区>が2.1%という結果となった。また仕向け先としては、令和6年は輸出がなくなり、国内向けが100%となった。

図 3 - 20. 山羊・羊革の仕向け先別月間平均生産販売枚数における地区比率

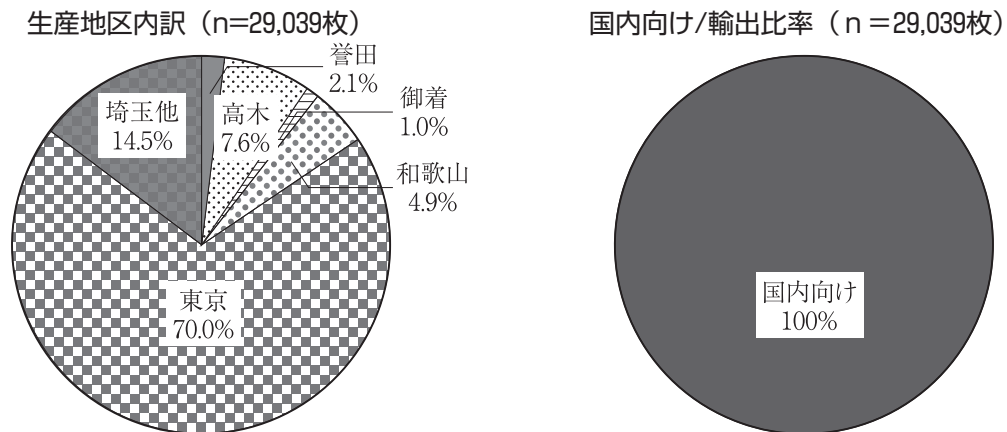
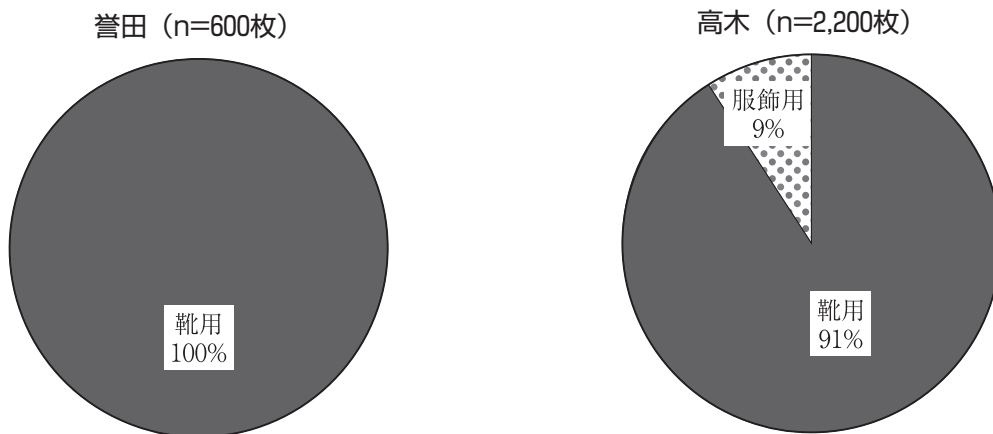
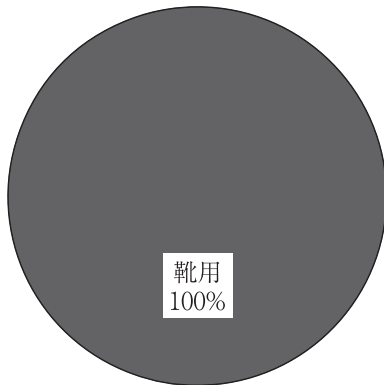


図 3 - 21は、地区ごとの用途別比率を表したものである。＜誉田地区＞及び＜御着地区＞は「靴用」が100%となり、高木地区は「靴用」91%、「服飾用」が9%となった。＜和歌山地区＞は「靴用」が28%、「その他用」が71%、「鞆袋物用」が1%という結果となった。最も生産販売枚数の多い＜東京地区＞は、「靴用」が93%を占め、残りは「鞆袋物用」が3%、「服飾用」が4%となっている。＜埼玉他地区＞は「鞆袋物用」と「服飾用」を生産しており、65%と35%の比率で生産されている。

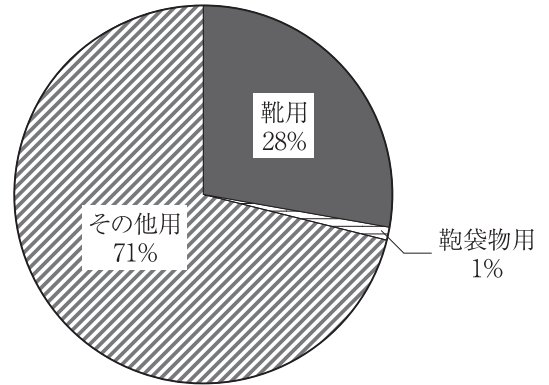
図 3 - 21. 山羊・羊革の地区別月間平均生産販売枚数における用途比率



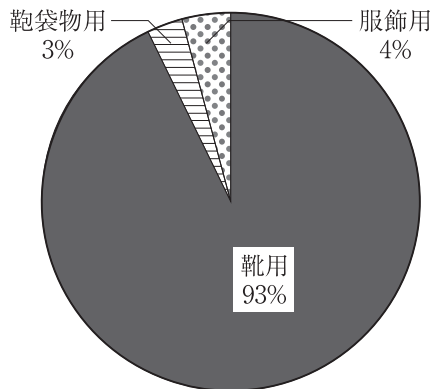
御着 (n=300枚)



和歌山 (n=1,410枚)



東京 (n=20,329枚)



埼玉他 (n=4,200枚)

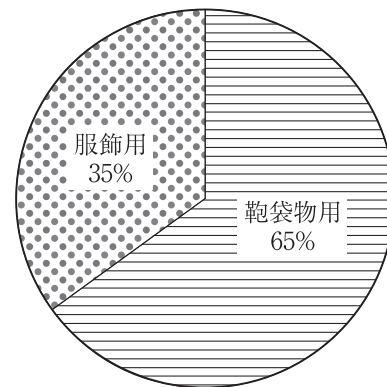


表3-13は、それぞれの地区で生産されている山羊・羊革が用途別に国内向け及び輸出の割り振りを表したもので、表3-14は用途の詳細を記したものである。その用途の詳細をみると、「靴甲用」が21,065枚/月と最も多く、全体の72.5%を占めている他、「小物用」が3,388枚/月、「衣料用」が2,046枚/月などが比較的大きい生産販売枚数である。その他、生産販売枚数が少ない用途としては、「服飾手袋用」「スポーツ靴甲用」「靴裏用」向けにも生産されている。

表3-13. 山羊・羊革の地区別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数(令和6年)(枚) 丸革/月産

用途 地区	靴用		鞆袋物用		服飾用		その他用		合計		総合計
	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	
松原									0	0	0
誉田	600								600 (100.0%)	0	600 (2.1%)
沢田									0	0	0
高木	2,000				200				2,200 (100.0%)	0	2,200 (7.6%)
御着	300								300 (100.0%)	0	300 (1.0%)
川西									0	0	0
大阪他									0	0	0
和歌山	400		10				1,000		1,410 (100.0%)	0	1,410 (4.9%)
関西計	3,300 (100.0%)	0	10 (100.0%)	0	200 (100.0%)	0	1,000 (100.0%)	0	4,510 (100.0%)	0	4,510 (15.5%)
	3,300 (73.2%)		10 (0.2%)		200 (4.4%)		1,000 (22.2%)		4,510 (100.0%)		
東京	18,865		708		756				20,329 (100.0%)	0	20,329 (70.0%)
埼玉他			2,720		1,480				4,200 (100.0%)	0	4,200 (14.5%)
関東計	18,865 (100.0%)	0	3,428 (100.0%)	0	2,236 (100.0%)	0	0	0	24,529 (100.0%)	0	24,529 (84.5%)
	18,865 (76.9%)		3,428 (14.0%)		2,236 (9.1%)		0		24,529 (100.0%)		
全国計	22,165 (100.0%)	0	3,438 (100.0%)	0	2,436 (100.0%)	0	1,000 (100.0%)	0	29,039 (100.0%)	0	29,039 (100.0%)
	22,165 (76.3%)		3,438 (11.8%)		2,436 (8.4%)		1,000 (3.4%)		29,039 (100.0%)		

表3-14. 山羊・羊革の地区別用途別月間平均生産販売枚数(令和6年/詳細) 上段:(枚) 丸革/月産 下段:用途別地区シェア

	靴甲用	安全・官 需靴甲用	スポーツ 靴甲用	その他の 靴甲用	靴裏用	靴底用	靴用計	ランド セル用	カバン 用	ハンド バッグ用	小物用	鞆袋物 用計	服飾ベ ルト用
松原							0 -					0 -	
誉田	600 2.8%						600 2.7%					0 -	
沢田							0 -					0 -	
高木	2,000 9.5%						2,000 9.0%					0 -	
御着			300 37.5%				300 1.4%					0 -	
川西							0 -					0 -	
大阪他							0 -					0 -	
和歌山	400 1.9%						400 1.8%				10 0.3%	10 0.3%	
関西計	3,000 14.2%	0 -	300 37.5%	0 -	0 -	0 -	3,300 14.9%	0 -	0 -	0 -	10 0.3%	10 0.3%	0 -
東京	18,065 85.8%		500 62.5%		300 100.0%		18,865 85.1%			50 100.0%	658 19.4%	708 20.6%	
埼玉他							0 -				2,720 80.3%	2,720 79.1%	
関東計	18,065 85.8%	0 -	500 62.5%	0 -	300 100.0%	0 -	18,865 85.1%	0 -	0 -	50 100.0%	3,378 99.7%	3,428 99.7%	0 -
全国計	21,065 100.0%	0 -	800 100.0%	0 -	300 100.0%	0 -	22,165 100.0%	0 -	0 -	50 100.0%	3,388 100.0%	3,438 100.0%	0 -

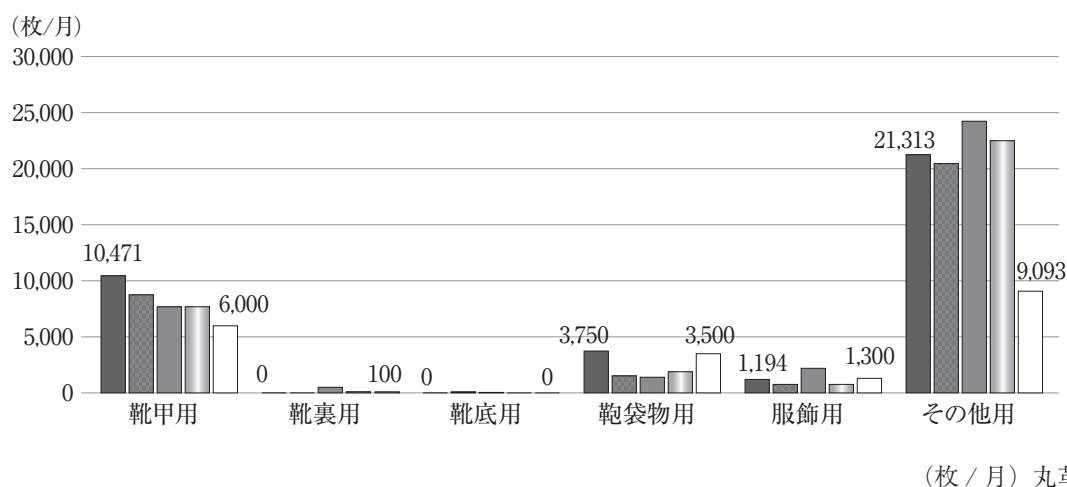
	衣料用	服飾 手袋用	草履用	服飾用計	グローブ ミット等	手芸工 芸用	家具、イン テリア用	カーシート 用	工業手袋等 安全具用他	ウェット ブルー	その他	その他 計	総計
松原				0 -								0 -	0 -
誉田				0 -								0 -	600 2.1%
沢田				0 -								0 -	0 -
高木	200 9.8%			200 8.2%								0 -	2,200 7.6%
御着				0 -								0 -	300 1.0%
川西				0 -								0 -	0 -
大阪他				0 -								0 -	0 -
和歌山				0 -	1,000 100.0%							1,000 100.0%	1,410 4.9%
関西計	200 9.8%	0 -	0 -	200 8.2%	1,000 100.0%	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	1,000 100.0%	4,510 15.5%
東京	756 37.0%			756 31.0%								0 -	20,329 70.0%
埼玉他	1,090 53.3%	390 100.0%		1,480 60.8%								0 -	4,200 14.5%
関東計	1,846 90.2%	390 100.0%	0 -	2,236 91.8%	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	24,529 84.5%
全国計	2,046 100.0%	390 100.0%	0 -	2,436 100.0%	1,000 100.0%	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	1,000 100.0%	29,039 100.0%

#### ④ 牛床革

＜牛床革＞の用途別月間平均生産販売枚数を令和2年から経年で集計したものが図3-22である。令和6年の牛床革の全体の生産販売枚数としては19,993枚/月となり、昨年から10,000枚/月以上の減少となった。他の革種と比べると比較的安定的に推移してきた牛床革であったが、今回は大幅な減少となった。

また用途としては「その他用」の生産販売枚数が最も多く、令和6年で9,093枚/月の生産販売枚数となっているが、前記した総生産販売枚数で大幅に減少した要因は、この「その他用」としての大幅な減少が該当している。他の用途として「靴甲用」も毎年減少しているが、「鞆袋物用」「服飾用」は令和2年当時の生産販売枚数に戻している。その他「靴裏用」向けの生産販売枚数も少量ながらもある。

図3-22. 牛床革の用途別月間平均生産販売枚数推移



	靴甲用	靴裏用	靴底用	鞆袋物用	服飾用	その他用	計
令和2年	10,471	0	0	3,750	1,194	21,313	36,728
令和3年	8,800	0	100	1,520	800	20,520	31,740
令和4年	7,750	500	50	1,400	2,200	24,303	36,203
令和5年	7,705	100	0	1,906	785	22,563	33,059
令和6年	6,000	100	0	3,500	1,300	9,093	19,993
令6/令2	-42.7%	-	-	-6.7%	+8.9%	-57.3%	-45.6%

図3-23と図3-24は、牛床革の生産地区の内訳と仕向け先別比率を表したものであるが、まず牛床革の生産地区別の比率を見ると、前年にはトップの比率であった＜松原地区＞の令和6年の生産販売枚数が1,690枚/月となり、前年から大幅な減少となり、その比率も8.5%となった。牛床革の総数が大きく減少していた要因は、この＜松原地区＞の生産販売枚数の大幅な減少にあるといえる。その他の状況としては、＜沢田地区＞が6,100枚/月（30.5%）、＜和歌山地区＞の5,800枚/月（29.0%）、＜高木地区＞の5,303枚/月（26.5%）、＜誉田地区＞が1,100枚/月（5.5%）という結果となった。尚、令和6年においても関東地区での生産は行われていない。

また生産販売枚数全体に対する輸出の比率は全体の29%となり、前年から大きく伸びている。その輸出を行っている地区は＜和歌山地区＞と＜沢田地区＞で、特に＜和歌山地区＞では生産している5,800枚/月の86.2%が輸出に充てられている。一方の＜沢田地区＞の輸出の比率は13.1%となっている。

図 3 - 23. 牛床革の仕向け先別月間平均生産販売枚数における地区比率

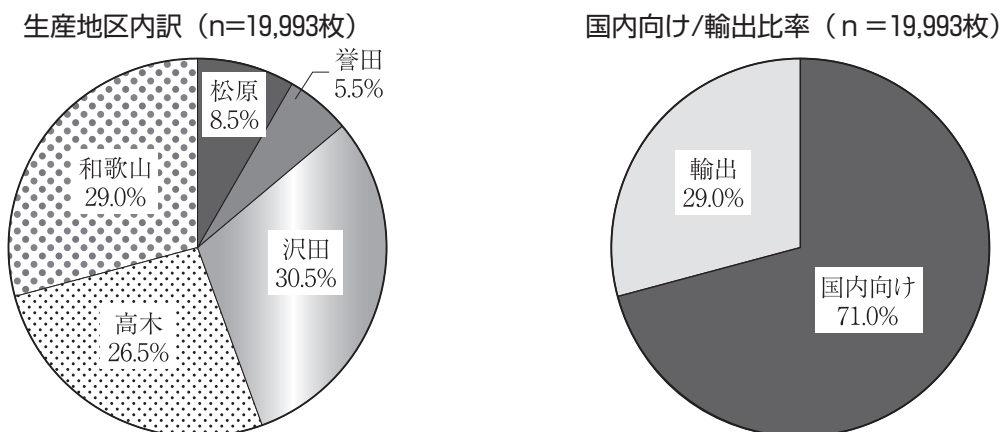
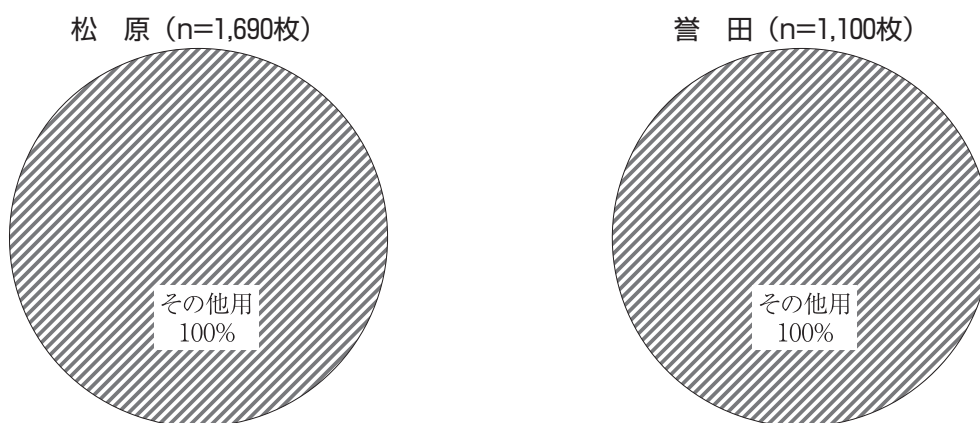


図 3 - 24では、「牛床革」を生産している地区の用途別生産販売枚数の比率を表したものである。ここでは、<松原地区><誉田地区>は全て「その他用」として生産されている。<沢田地区>は「その他用」が95%、「靴用」が5%という比率になっている。<高木地区><和歌山地区>は上記3地区と異なり、用途は複数に亘っており、<高木地区>では「靴用」が47%、「鞆袋物用」が38%、「その他用」が9%、「服飾用」が6%となった。前年では「靴用」が81%を占める構造であったが、今回はその用途が広がった結果となった。<和歌山地区>は「靴用」が57%、「鞆袋物用」が26%、「服飾用」が17%という結果となった。こちらは前年の構成比と大きく変化していない。

図 3 - 24. 牛床革の地区別用途別月間平均生産販売枚数における用途比率



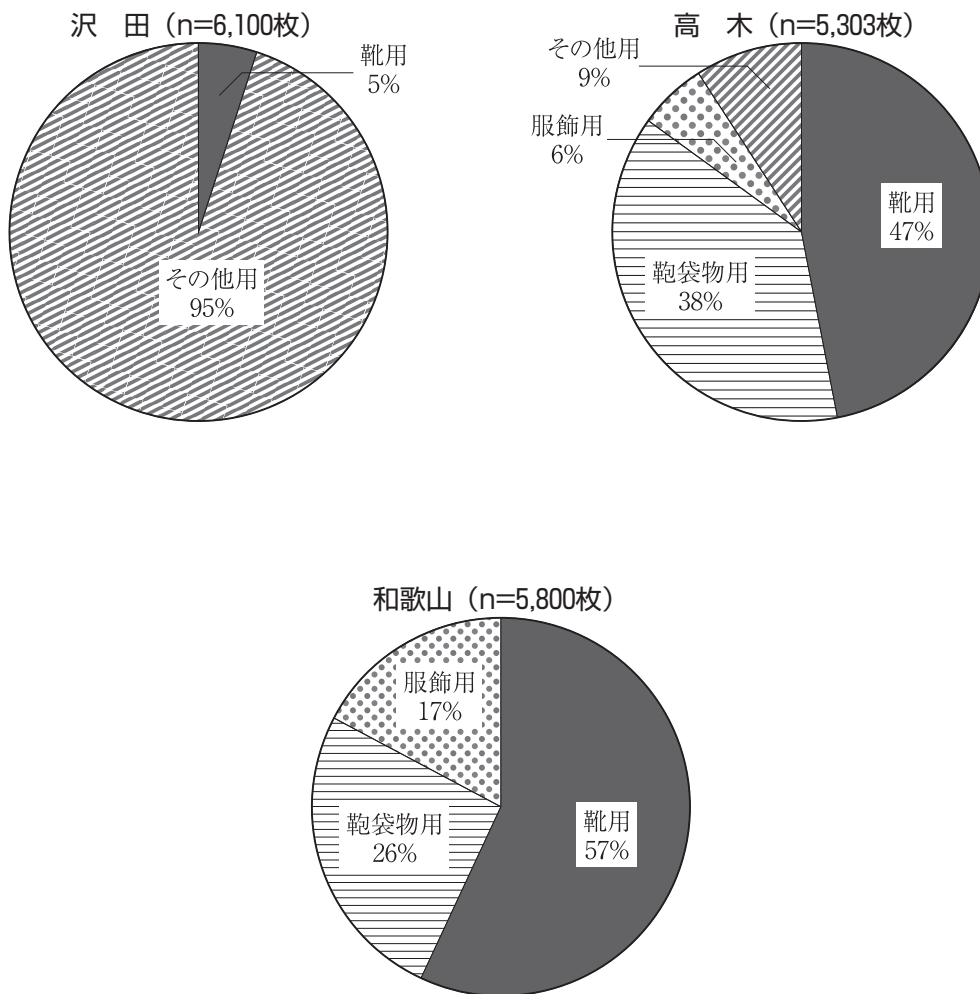


表3-15及び表3-16は、用途別の生産内容をまとめたものであるが、表3-16の用途の詳細をみると、最も多いのは「工業手袋等安全具用」で7,890枚/月となり、前年よりも40%強の増加となった。次いで多いのが「靴甲用」で4,000枚/月の生産販売枚数となった。こちらも前年から17%程度の増加となっている。その他「カバン用」が2,000枚/月、「安全・官需靴甲用」が1,500枚/月、「服飾ベルト用」が1,300枚/月、「グローブミット等運動具用」が1,203枚/月、「ランドセル用」が1,000枚/月となっており、これらの用途が1,000枚/月以上の生産販売枚数となっている。その他少量ではあるが、「スポーツ靴甲用」「靴裏用」「小物用」などの用途用として生産されている。

表3-15. 牛床革の地区別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数（令和6年）（枚）丸革/月産

用途 地区	靴用		鞆袋物用		服飾用		その他用		合計		総合計
	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	
松原							1,690		1,690 (100.0%)	0 -	1,690 (8.5%)
誉田							1,100		1,100 (100.0%)	0 -	1,100 (5.5%)
沢田	300						5,000	800	5,300 (86.9%)	800 (13.1%)	6,100 (30.5%)
高木	2,500		2,000		300		503		5,303 (100.0%)	0 -	5,303 (26.5%)
御着									0 -	0 -	0 -
川西									0 -	0 -	0 -
大阪他									0 -	0 -	0 -
和歌山	800	2,500		1,500		1,000			800 (13.8%)	5,000 (86.2%)	5,800 (29.0%)
関西計	3,600 (59.0%)	2,500 (41.0%)	2,000 (57.1%)	1,500 (42.9%)	300 (23.1%)	1,000 (76.9%)	8,293 (91.2%)	800 (8.8%)	14,193 (71.0%)	5,800 (29.0%)	19,993 (100.0%)
	6,100 (30.5%)		3,500 (17.5%)		1,300 (6.5%)		9,093 (45.5%)		19,993 (100.0%)		
東京									0 -	0 -	0 -
埼玉他									0 -	0 -	0 -
関東計	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	0 -		0 -		0 -		0 -		0 -		
全国計	3,600 (59.0%)	2,500 (41.0%)	2,000 (57.1%)	1,500 (42.9%)	300 (23.1%)	1,000 (76.9%)	8,293 (91.2%)	800 (8.8%)	14,193 (71.0%)	5,800 (29.0%)	19,993 (100.0%)
	6,100 (30.5%)		3,500 (17.5%)		1,300 (6.5%)		9,093 (45.5%)		19,993 (100.0%)		

表3-16. 牛床革の地区別用途別月間平均生産販売枚数(令和6年/詳細) 上段:(枚) 丸革/月産 下段:用途別地区シェア

	靴甲用	安全・官 需靴甲用	スポーツ 靴甲用	その他の 靴甲用	靴裏用	靴底用	靴用計	ランド セル用	カバン 用	ハンド バッグ用	小物用	鞆袋物 用計	服飾ベ ルト用
松原							0					0	
誉田							0					0	
沢田		300 20.0%					300 4.9%					0	
高木	1,000 25.0%	1,000 66.7%	500 100.0%				2,500 41.0%		1,500 75.0%		500 100.0%	2,000 57.1%	300 23.1%
御着							0					0	
川西							0					0	
大阪他							0					0	
和歌山	3,000 75.0%	200 13.3%			100 100.0%		3,300 54.1%	1,000 100.0%	500 25.0%			1,500 42.9%	1,000 76.9%
関西計	4,000 100.0%	1,500 100.0%	500 100.0%	0 -	100 100.0%	0 -	6,100 100.0%	1,000 100.0%	2,000 100.0%	0 -	500 100.0%	3,500 100.0%	1,300 100.0%
東京							0					0	
埼玉他							0					0	
関東計	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
全国計	4,000 100.0%	1,500 100.0%	500 100.0%	0 -	100 100.0%	0 -	6,100 100.0%	1,000 100.0%	2,000 100.0%	0 -	500 100.0%	3,500 100.0%	1,300 100.0%

	衣料用	服飾 手袋用	草履用	服飾用計	グローブ ミット等	手芸工 芸用	家具、イン テリア用	カーシート 用	工業手袋等 安全具用他	ウェット ブルー	その他	その他 計	総計
松原				0					1,690			1,690	1,690
誉田				0	400				700			1,100	1,100
沢田				0	800				5,000			5,800	6,100
高木				300	3				500			503	5,303
御着				0								0	0
川西				0								0	0
大阪他				0								0	0
和歌山				1,000								0	5,800
関西計	0 -	0 -	0 -	1,300 100.0%	1,203 100.0%	0 -	0 -	0 -	7,890 100.0%	0 -	0 -	9,093 100.0%	19,993 100.0%
東京				0								0	0
埼玉他				0								0	0
関東計	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
全国計	0 -	0 -	0 -	1,300 100.0%	1,203 100.0%	0 -	0 -	0 -	7,890 100.0%	0 -	0 -	9,093 100.0%	19,993 100.0%

## 4. 日本の製革業者の生産能力と生産実績

### 4-1. 生産能力と生産実績

生産能力は各企業がフル操業した場合に生産できる月産平均枚数であり、生産実績は令和6年1月～令和6年7月の間に生産した実績の1ヶ月平均を求めた枚数である。そして、操業率は生産実績÷生産能力で算出している。

#### ① 生産能力と生産実績の経年変化及び操業率

図4-1は、全国のなめし革の月間平均生産能力と月間平均生産実績の令和1年から令和6年の調査集計結果を表したものである。令和6年は月間平均生産能力50万2,356枚/月、月間平均生産実績が23万9,294枚/月となり、操業率は47.6%という結果となった。生産能力は少し前年を上回ったが、生産実績は前年をさらに下回った。また操業率も下回っている。前年に生産調整が入ったためか、生産能力、生産実績とも大きく落ち込み、今回の調査結果も前年レベルとなったことで、この2年で生産キャパを無理のない程度に縮小して、効率の良い生産を進めようとするトレンドを形成した感じである。

図4-2は令和1年から令和6年までの、生産能力に対する生産実績の比率（操業率）推移である。コロナ禍の影響で大きく落ち込んだ令和2年の状況から、毎年徐々に回復基調にあった生産実績比率は令和6年は再び低下したが、それでも令和1年に比べても高いレベルにあることは、生産調整がある程度安定してきたことを表している。

図4-1. 月間平均生産能力 / 月間平均生産実績（丸革・全革種計）

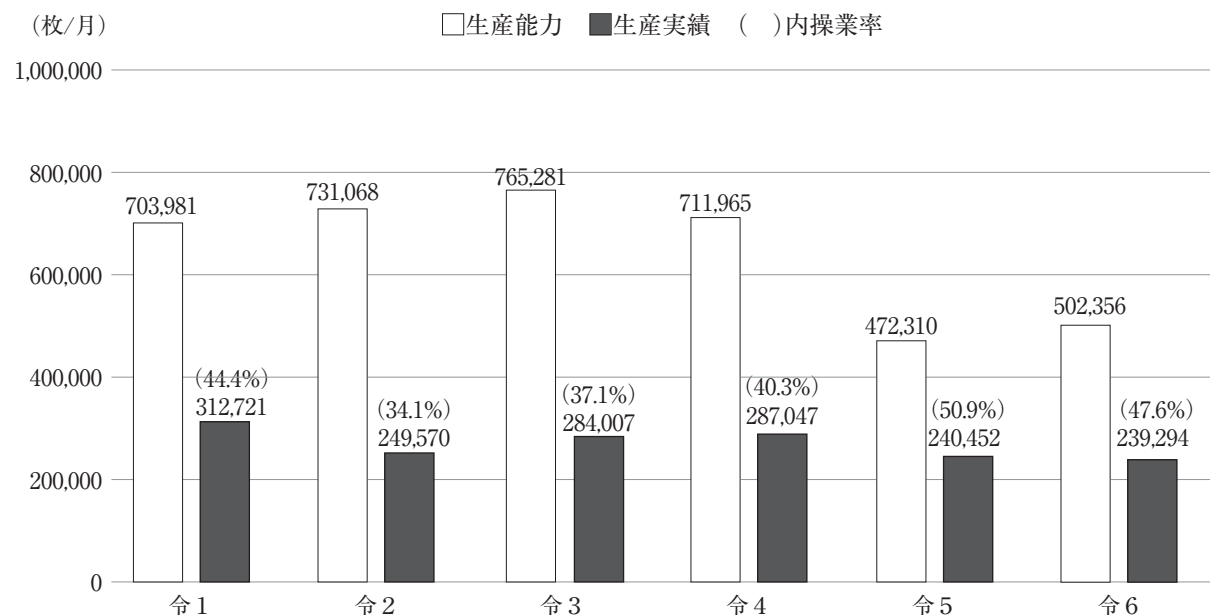


図 4 - 2. 生産能力に対する生産実績比率推移

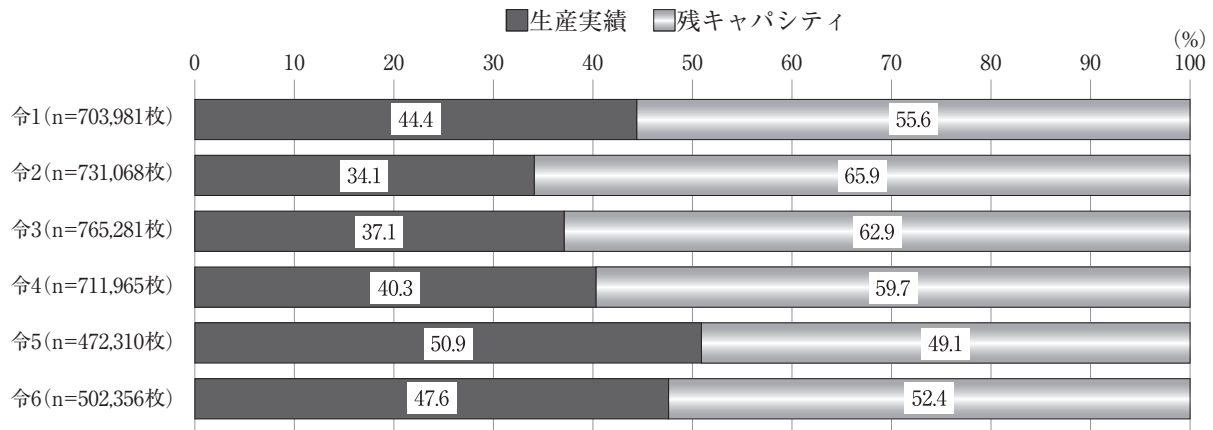


図 4 - 3 及び表 4 - 1 は革種別に生産能力と生産実績の経年変化をグラフ化したものである。成牛革は、令和 6 年の月間平均生産能力が21万8,395枚/月、月間平均生産実績は11万6,205枚/月、操業率53.2%という結果となった。ここ数年、生産能力、生産実績、操業率いずれも減少、低下しており、成牛革の生産に関しては緩やかに右肩下がりのトレンドになっているとみられる。

中小牛革は、令和 6 年の月間平均生産能力が1万5,096枚/月、月間平均生産実績が7,146枚/月、操業率は47.3%という結果となった。今回は生産能力は前年から微増、ここ数年拡大基調にあった生産実績は逆に低下している。ただ中小牛革はコロナ禍以降、生産実績は比較的安定的に推移しており、生産能力もそれに合わせる形で調整した感もある。

豚革は、令和 6 年の月間平均生産能力が10万3,200枚/月、月間平均生産実績が4万595枚/月、操業率は39.3%という結果となった。前年との比較では、生産能力、生産実績とも増加した結果となったが、豚革は全体集計と同様に、前年から生産能力、生産実績とも大きく減少したことで、生産環境としては生産キャパを縮小して、効率のよい体制に移行しているとみるべきであろう。

山羊・羊革は、令和 6 年の月間平均生産能力が7万3,925枚/月、月間平均生産実績が2万8,367枚/月、操業率は38.4%という結果となった。前年との比較において、前年に大きく縮小した生産能力は1.76倍にまで再拡大したが、生産実績は1.25倍の拡大に止まり、操業率は令和4年以前の状況に戻っている。ただ今後も山羊・羊革の生産に対する期待は高く、そのことが生産能力の再拡大に繋がっているとみられる。

馬革は、令和 6 年の月間平均生産能力が8,520枚/月、月間平均生産実績が4,406枚/月、操業率は51.7%という結果となった。馬革は令和1年からのトレンドをみると、生産能力、生産実績とも年々低下している状況にある。前年からは操業率こそ上がったものの、生産能力、生産実績とも縮小した。馬革に関しては、生産販売状況をみても市況は芳しくなく、市況のトレンドは生産実績通りと考えてよさそうである。

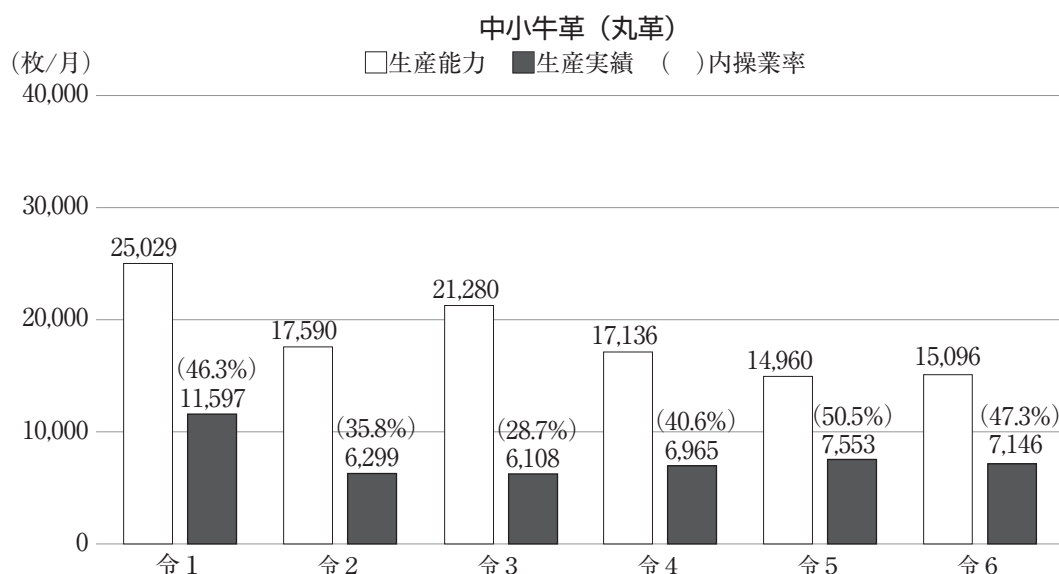
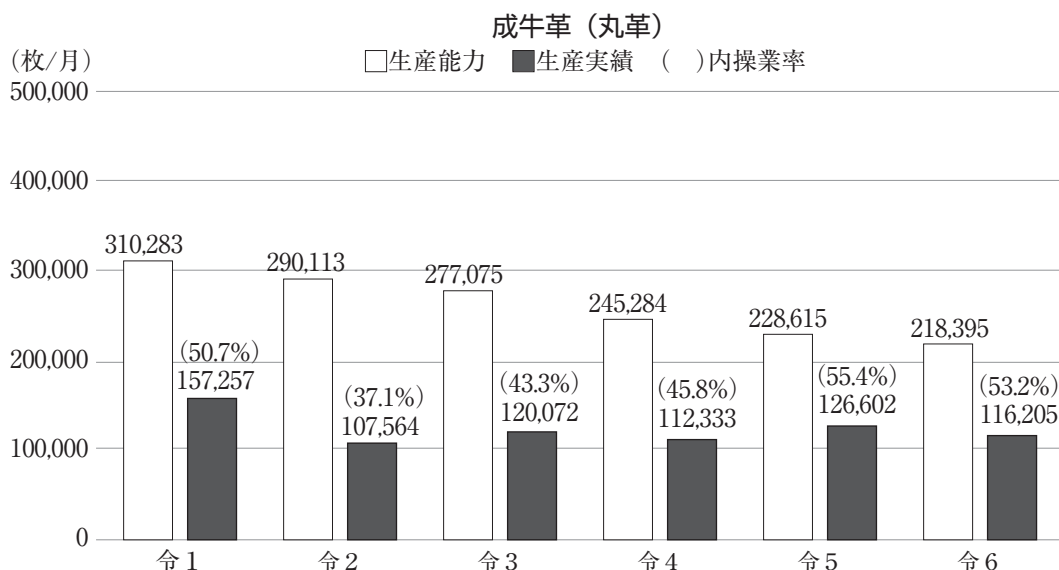
牛床革は、令和 6 年の月間平均生産能力が3万3,150枚/月、月間平均生産実績が1万7,990枚/

月、操業率は54.3%という結果となった。今回の調査結果としては、前年から生産能力、生産実績とも大きく縮小し、令和1年以降では最も小さい生産キャパであり生産販売枚数となった。また操業率も他革種と比較しても高い操業率であったが、今回は成牛革や馬革などと同じレベルの操業率に落ちている。

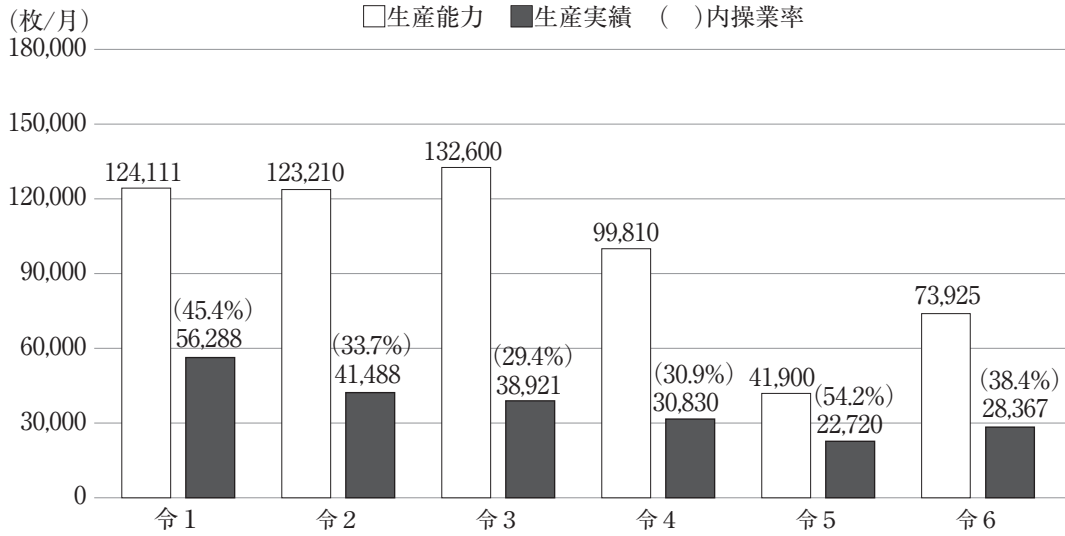
それ以外の革の状況として、鹿革は前年からのデータしか取れていないが、前年との比較においては生産能力、生産実績とも上昇し、ジビエブームに乗って、鹿革の需要も一定数にまでは拡大してきたといえる。現状主に「鞆袋物用」や「服飾用」として活用されているが、今後はどの程度まで対応出来る製品を拡げていけるかが課題といえる。

その他革に関しては、令和4年から3年間のデータでの見解となるが、令和6年は生産能力は大きく縮小した前年から令和4年の水準に復活しており、生産実績はここ数年で大きく増加している。生産販売枚数の状況からもその他革に関しては増加傾向にあり、これまでとは違った革種への取組みを試みている製革業者が増えているとみられる。また豚床革に関しては、令和6年は生産能力、生産実績とも0ベースになっている。

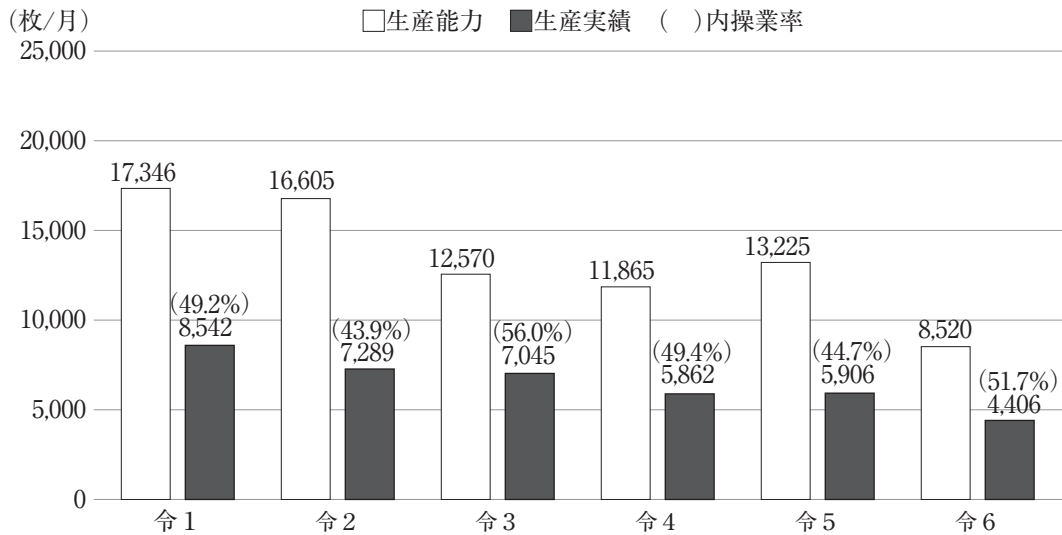
図4-3. 主要革種別月間平均生産能力/月間平均生産実績（令和1年～令和6年）



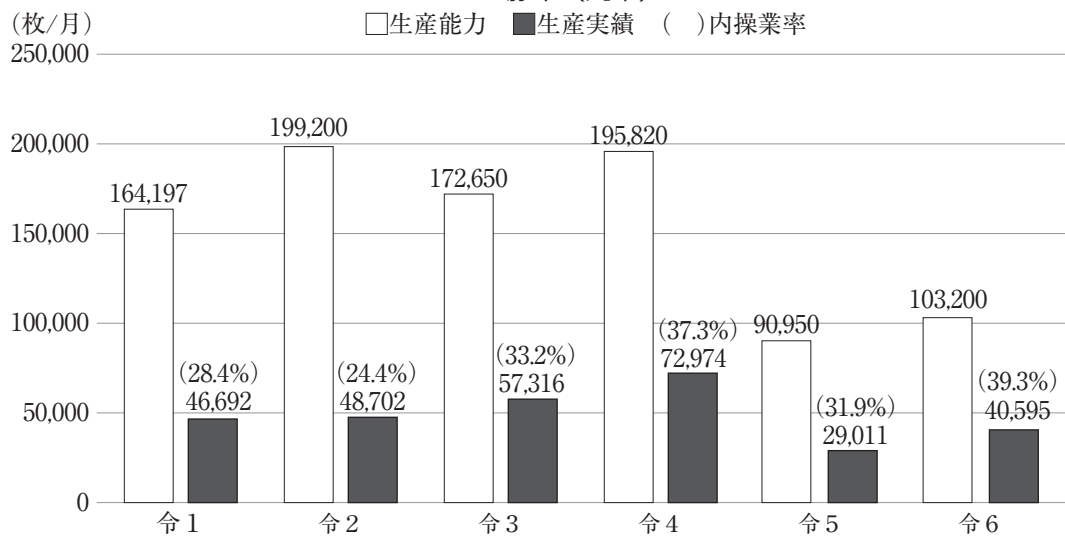
### 山羊・羊革 (丸革)



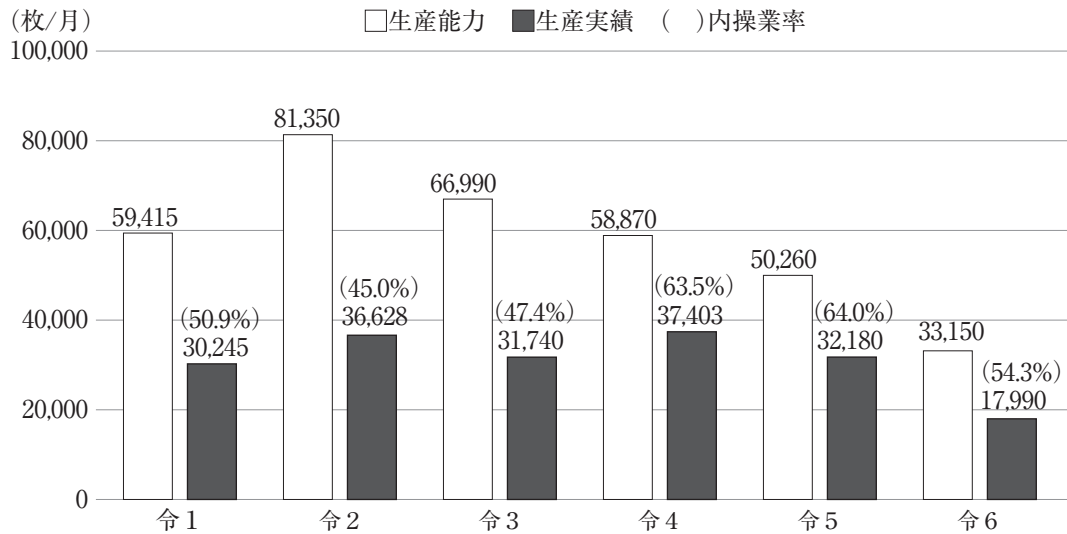
### 馬革 (丸革)



### 豚革 (丸革)



牛床革（丸革）



※令和1年～令和3年までの生産能力及び生産実績には「その他の革」が含まれていない。

表 4 - 1. 革種別月間平均生産能力と月間平均生産実績の対比

(枚) 丸革 / 月産

年 革種	生産能力					生産実績					操業率 (%)				
	令3	令4	令5	令6	令6/令3 (%)	令3	令4	令5	令6	令6/令3 (%)	令3	令4	令5	令6	令6/令3 (%)
成牛革	277,075	245,284	228,615	218,395	-21.2	120,072	112,333	126,602	116,205	-3.2	43.3	45.8	55.4	53.2	+9.9
中小牛革	21,280	17,136	14,960	15,096	-29.1	6,108	6,965	7,553	7,146	+17.0	28.7	40.6	50.5	47.3	+18.6
豚革	172,650	195,820	90,950	103,200	-40.2	57,316	72,974	29,011	40,595	-29.2	33.2	37.3	31.9	39.3	+6.1
山羊革	80,900	57,560	18,700	51,925	-35.8	22,948	12,469	9,612	15,473	-32.6	28.4	21.7	51.4	29.8	+1.4
羊革	51,700	42,250	23,200	22,000	-57.4	15,973	18,361	13,108	12,894	-19.3	30.9	43.5	56.5	58.6	+27.7
馬革	12,570	11,865	13,225	8,520	-32.2	7,045	5,862	5,906	4,406	-37.5	56.0	49.4	44.7	51.7	-7.7
鹿革	※	※	13,230	16,360	-	※	※	5,342	7,465	-	-	-	40.4	45.6	-
牛床革	66,990	58,870	50,260	33,150	-50.5	31,740	37,403	32,180	17,990	-43.3	47.4	63.5	64.0	54.3	+6.9
豚床革	53,200	51,800	3,700	-	-100.0	11,200	11,200	1,900	-	-100.0	21.1	21.6	51.4	-	-
その他革	28,916	31,380	15,470	33,710	+16.6	11,605	9,480	9,238	17,120	+47.5	40.1	30.2	59.7	50.8	+10.7
合計	765,281	711,965	472,310	502,356	-34.4	284,007	287,047	240,452	239,294	-15.7	37.1	40.3	50.9	47.6	+10.5

※「鹿革」は、令和4年度までは「その他革」に含まれる

## ② 地区別・革種別生産能力と生産実績

表4-2において、令和6年の地区別の月間平均生産能力と月間平均生産実績をまとめた。

＜松原地区＞は、令和6年の月間平均生産能力が6万1,185枚/月（前年8万930枚/月）、月間平均生産実績が2万9,975枚/月（同4万7,530枚/月）で、操業率49.0%（同58.7%）という結果となった。生産能力、生産実績とも関西エリアでは最も大きい生産地区としての地位は維持した形となったが、令和5年と比較すると、生産能力、生産実績とも大きく落としており、牛床革の減少がそのまま全体量の減少に繋がっている。また操業率も前年から10ポイント近く落としている。

＜誉田地区＞は、令和6年の月間平均生産能力が2万3,650枚/月（前年2万4,780枚/月）、月間平均生産実績が9,670枚（同1万1,785枚/月）で、操業率40.9%（同47.6%）という結果となった。前年から生産能力、生産実績とも減少、操業率も低下している。量の減少も成牛革、牛床革の減少分が影響した形である。

＜沢田地区＞は、令和6年の月間平均生産能力が2万3,380枚/月（前年1万9,020枚/月）、月間平均生産実績が1万3,510枚/月（同1万280枚/月）で、操業率57.8%（同54.0%）という結果となった。今回の調査結果において、唯一、生産能力、生産実績、操業率の3つとも前年から上昇した地区となった。これは前年に続いての傾向となっており、ここ1、2年は安定的な生産が行われている。また生産している革種毎の数字をみても、生産能力、実績ともいずれも僅かながらも増加している。

＜高木地区＞は、令和6年の月間平均生産能力が5万4,956枚/月（前年6万2,350枚/月）、月間平均生産実績が2万4,111枚（同2万6,400枚/月）で、操業率43.9%（同42.3%）という結果となった。令和5年に生産能力が前年の3分の1以下に、また生産実績も半分以下の実績にまで落ち込んだが、今回の調査においてもさらにそれぞれの数字を落としている。ただ今回の落ち幅はそれほど大きくなく、生産の調整段階にあると推測される。また革種別にみた場合はそれぞれの革種で増減にバラつきがあるが、生産実績においてはいずれもほぼ横ばい状態で推移している。

＜御着地区＞は、令和6年の月間平均生産能力が1万6,415枚/月（前年2万245枚/月）、月間平均生産実績が1万8枚/月（同1万353枚/月）で、操業率61.0%（同51.1%）という結果となった。前年と比較して生産能力は大きく減少、生産実績もわずかに減少という結果となった。ただ操業率は10ポイント程度上昇している。生産能力の縮小に関しては、牛床革の生産がなくなったことと、成牛革の生産能力が縮小したことがその要因となっている。

＜川西地区＞は、令和6年の月間平均生産能力が1万1,380枚/月（前年1万450枚/月）、月間平均生産実績が4,140枚/月（同4,100枚/月）で、操業率36.4%（同39.2%）という結果となった。生産能力、生産実績とも少量ではあるが前年から増加しており、操業率こそやや低下したが、これまでの縮小トレンドに歯止めが掛かった結果となった。革種別にみると、生産している成牛革、鹿革、中小牛革ともほぼ横ばいに近い状態で推移している。しかし操業率は他地区との比較では最低の数字となっている。

＜大阪他地区＞は、令和6年の月間平均生産能力が6,700枚/月（前年7,330枚/月）、月間平均生産実績が3,110枚/月（同3,957枚/月）で、操業率46.4%（同54.0%）という結果となり、いずれの数値とも前年から減少、低下した結果となった。同地区では現状、成牛革と中小牛革の2種しか生産していないが、両種とも生産能力、生産実績の数字を落としている。

＜和歌山地区＞は、令和6年の月間平均生産能力が1万7,950枚/月（前年1万5,350枚/月）、月間平均生産実績が6,766枚/月（同6,320枚/月）で、操業率37.7%（同41.2%）となった。生産能力、生産実績とも前年を上回った。特に生産実績は2年連続の増加となっている。革種別

の状況としては、成牛革、中小牛革、山羊・羊革などは生産実績を少し落としているが、牛床革がやや増加、そしてその他革の生産が新たに加わったことで、全体の増加に繋がったとみられる。

<東京地区>は、令和6年の月間平均生産能力が20万1,330枚/月（前年13万7,935枚/月）、月間平均生産実績が7万8,734枚/月（同5万5,207枚/月）で、操業率39.1%（同40.0%）となった。生産能力及び生産実績とも最大の生産販売枚数を誇る地区であるが、前年に生産能力、生産実績とも大きく落としていたこともあり、今回は生産能力、生産実績とも大きく増加した。特に生産能力は令和4年当時に近い規模に戻った結果となった。革種別の状況としては、前年に大きく減少していた主力の豚革、山羊・羊革とも増加に転じ、その他革も大きく増加している。

<埼玉他地区>は、令和6年の月間平均生産能力が8万5,410枚/月（前年9万3,920枚/月）、月間平均生産実績が5万9,270枚/月（同6万4,520枚/月）で、操業率69.4%（同68.7%）という結果となり、生産能力、生産実績とも前年から減少した結果となった。規模の大きい企業が存在し、その実績に左右されやすいということもあるが、革種別の状況をもても、中小牛革と鹿革は生産能力、生産実績とも増加しているが、他の革種においては生産能力、実績とも減少、もしくはどちらかは減少した結果となった。また稼働率は地区別の比較では最も高い数値となっている。

表4-2. 地区別月間平均生産能力/月間平均生産実績 (枚/月)

<松原>	生産能力	生産実績	操業率	<誉田>	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	55,720	26,465	47.5%	成牛革	18,550	7,390	39.8%
中小牛革	1,375	1,250	90.9%	中小牛革	1,100	480	43.6%
豚革			-	豚革			-
山羊・羊革			-	山羊・羊革	1,000	600	60.0%
馬革	140	70	50.0%	馬革			-
鹿革	1,000	500	50.0%	鹿革			-
牛床革	2,900	1,690	58.3%	牛床革	3,000	1,200	40.0%
豚床革			-	豚床革			-
その他革	50	0	0.0%	その他革			-
計	61,185	29,975	49.0%	計	23,650	9,670	40.9%

<沢田>	生産能力	生産実績	操業率	<高木>	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	12,280	6,760	55.0%	成牛革	28,825	10,977	38.1%
中小牛革			-	中小牛革	3,671	1,682	45.8%
豚革	500	450	90.0%	豚革			-
山羊・羊革			-	山羊・羊革	4,400	2,200	50.0%
馬革			-	馬革	6,180	3,286	53.2%
鹿革	350	200	57.1%	鹿革	1,280	406	31.7%
牛床革	10,250	6,100	59.5%	牛床革	10,000	5,300	53.0%
豚床革			-	豚床革			-
その他革			-	その他革	600	260	43.3%
計	23,380	13,510	57.8%	計	54,956	24,111	43.9%

<御着>	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	15,190	9,408	61.9%
中小牛革			-
山羊・羊革			-
豚革	925	500	54.1%
馬革			-
鹿革	300	100	33.3%
牛床革			-
豚床革			-
その他革			-
計	16,415	10,008	61.0%

<川西>	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	7,280	2,540	34.9%
中小牛革	100	100	100.0%
山羊・羊革			-
豚革			-
馬革			-
鹿革	4,000	1,500	37.5%
牛床革			-
豚床革			-
その他革			-
計	11,380	4,140	36.4%

<大阪他>	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	5,500	2,110	38.4%
中小牛革	1,200	1,000	83.3%
山羊・羊革			-
豚革			-
馬革			-
鹿革			-
牛床革			-
豚床革			-
その他革			-
計	6,700	3,110	46.4%

<和歌山>	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	3,000	925	30.8%
中小牛革	2,650	600	22.6%
山羊・羊革			-
豚革	4,300	1,408	32.7%
馬革	500	50	10.0%
鹿革			-
牛床革	7,000	3,700	52.9%
豚床革			-
その他革	500	83	16.6%
計	17,950	6,766	37.7%

<東京>	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	6,100	1,590	26.1%
中小牛革	4,100	1,504	36.7%
山羊・羊革	101,800	39,545	38.8%
豚革	55,800	19,459	34.9%
馬革	1,200	500	41.7%
鹿革	1,330	459	34.5%
牛床革			-
豚床革			-
その他革	31,000	15,677	50.6%
計	201,330	78,734	39.1%

<埼玉他>	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	65,950	48,040	72.8%
中小牛革	900	530	58.9%
山羊・羊革	900	600	66.7%
豚革	7,500	4,200	56.0%
馬革	500	500	100.0%
鹿革	8,100	4,300	53.1%
牛床革			-
豚床革			-
その他革	1,560	1,100	70.5%
計	85,410	59,270	69.4%

表 4 - 3. 地区別月間平均生産能力と月間平均生産実績の5年間推移①

(枚) 丸革 / 月産

地区 及び年	革種	成 牛 革			中 小 牛 革			豚 革			山 羊 革			羊 革		
		生産能力	生産実績	操業率(%)	生産能力	生産実績	操業率(%)	生産能力	生産実績	操業率(%)	生産能力	生産実績	操業率(%)	生産能力	生産実績	操業率(%)
松 原	令 2	71,721	23,717	33.1	400	310	77.5									
	令 3	63,190	25,638	40.6	400	360	90.0									
	令 4	61,090	27,216	44.6	1,050	950	90.5	1,000	1,000	100.0						
	令 5	57,080	27,980	49.0	1,150	1,050	91.3									
	令 6	55,720	26,465	47.5	1,375	1,250	90.9									
誉 田	令 2	36,250	12,190	33.6												
	令 3	33,050	10,550	31.9												
	令 4	27,100	8,900	32.8	1,000	650	65.0									
	令 5	21,750	9,805	45.1	730	580	79.5									
	令 6	18,550	7,390	39.8	1,100	480	43.6				1,000	600	60.0			
沢 田	令 2	10,850	5,922	54.6				500	275	55.0						
	令 3	17,450	7,650	43.8												
	令 4	8,300	4,650	56.0												
	令 5	11,260	6,280	55.8				300	250	83.3						
	令 6	12,280	6,760	55.0				500	450	90.0						
高 木	令 2	49,500	11,379	23.0	3,810	1,589	41.7	60,000	20,000	33.3	2,160	850	39.4	700	350	50.0
	令 3	51,155	11,689	22.9	6,280	1,911	30.4	70,000	20,000	28.6	1,000	500	50.0	400	200	50.0
	令 4	44,564	15,289	34.3	3,636	1,463	40.2	70,000	20,000	28.6	660	200	30.3	600	300	50.0
	令 5	32,670	11,847	36.3	3,300	1,820	55.2				4,100	2,020	49.3	200	100	50.0
	令 6	28,825	10,977	38.1	3,671	1,682	45.8				4,000	2,000	50.0	400	200	50.0
御 着	令 2	18,050	7,633	42.3	500	200	40.0				2,000	1,000	50.0	500	50	10.0
	令 3	19,540	9,616	49.2	1,000	200	20.0				1,500	1,200	80.0	500	50	10.0
	令 4	16,240	9,460	58.3										500	50	10.0
	令 5	17,345	9,653	55.7							1,100	500	45.5			
	令 6	15,190	9,408	61.9							925	500	54.1			
川 西	令 2	7,400	2,400	32.4	950	350	36.8				4,000	300	7.5			
	令 3	7,320	2,369	32.4	2,000	600	30.0									
	令 4	5,230	1,770	33.8							7,500	1,200	16.0	7,500	1,500	20.0
	令 5	6,150	2,450	39.8	300	150	50.0									
	令 6	7,280	2,540	34.9	100	100	100.0									
大 阪 他	令 2	7,292	3,083	42.3	2,850	1,451	50.9									
	令 3	7,100	2,815	39.6	2,100	896	42.7									
	令 4	6,190	2,710	43.8	2,600	1,800	69.2									
	令 5	5,700	2,527	44.3	1,630	1,430	87.7									
	令 6	5,500	2,110	38.4	1,200	1,000	83.3									
和 歌 山	令 2	4,250	1,180	27.8	5,650	1,000	17.7				1,300	400	30.8	1,000	500	50.0
	令 3	2,500	680	27.2	5,650	550	9.7				21,300	1,400	6.6	1,000	500	50.0
	令 4	2,400	940	39.2	4,650	480	10.3				1,300	400	30.8	1,500	500	33.3
	令 5	2,400	1,240	51.7	4,650	680	14.6				1,300	700	53.8	2,000	1,000	50.0
	令 6	3,000	925	30.8	2,650	600	22.6				1,300	400	30.8	3,000	1,008	33.6
関 西 計	令 2	205,313	67,504	32.9	14,160	4,900	34.6	60,500	20,275	33.5	9,460	2,550	27.0	2,200	900	40.9
	令 3	201,305	71,007	35.3	17,430	4,517	25.9	70,000	20,000	28.6	23,800	3,100	13.0	1,900	750	39.5
	令 4	171,114	70,935	41.5	12,936	5,343	41.3	71,000	21,000	29.6	9,460	1,800	19.0	10,100	2,350	23.3
	令 5	154,355	71,782	46.5	11,760	5,710	48.6	300	250	83.3	6,500	3,220	49.5	2,200	1,100	50.0
	令 6	146,345	66,575	45.5	10,096	5,112	50.6	500	450	90.0	7,225	3,500	48.4	3,400	1,208	35.5
東 京	令 2	5,500	1,883	34.2	1,830	1,104	60.3	136,600	26,927	19.7	44,350	18,764	42.3	55,200	15,974	28.9
	令 3	3,520	1,945	55.3	3,250	1,411	43.4	101,150	36,316	35.9	55,600	19,508	35.1	41,800	11,683	27.9
	令 4	3,320	1,928	58.1	3,800	1,442	37.9	124,020	51,374	41.4	46,600	10,209	21.9	26,150	12,151	46.5
	令 5	2,625	1,700	64.8	2,800	1,553	55.5	89,400	28,761	32.2	10,700	6,142	57.4	15,000	7,648	51.0
	令 6	6,100	1,590	26.1	4,100	1,504	36.7	101,800	39,545	38.8	43,200	11,713	27.1	12,600	7,746	61.5
埼 玉 他	令 2	79,300	38,177	48.1	1,600	295	18.4	2,100	1,500	71.4	2,000	400	20.0	10,000	2,900	29.0
	令 3	72,250	47,120	65.2	600	180	30.0	1,500	1,000	66.7	1,500	340	22.7	8,000	3,540	44.3
	令 4	70,850	39,460	55.7	400	180	45.0	800	600	75.0	1,500	460	30.7	6,000	3,860	64.3
	令 5	71,635	53,120	74.2	400	290	72.5	1,250	0	0.0	1,500	250	16.7	6,000	4,360	72.7
	令 6	65,950	48,040	72.8	900	530	58.9	900	600	66.7	1,500	260	17.3	6,000	3,940	65.7
関 東 計	令 2	84,800	40,060	47.2	3,430	1,399	40.8	138,700	28,427	20.5	46,350	19,164	41.3	65,200	18,874	28.9
	令 3	75,770	49,065	64.8	3,850	1,591	41.3	102,650	37,316	36.4	57,100	19,848	34.8	49,800	15,223	30.6
	令 4	74,170	41,388	55.8	4,200	1,622	38.6	124,820	51,974	41.6	48,100	10,669	22.2	32,150	16,011	49.8
	令 5	74,260	54,820	73.8	3,200	1,843	57.6	90,650	28,761	31.7	12,200	6,392	52.4	21,000	12,008	57.2
	令 6	72,050	49,630	68.9	5,000	2,034	40.7	102,700	40,145	39.1	44,700	11,973	26.8	18,600	11,686	62.8
全 国 計	令 2	290,113	107,564	37.1	17,590	6,299	35.8	199,200	48,702	24.4	55,810	21,714	38.9	67,400	19,774	29.3
	令 3	277,075	120,072	43.3	21,280	6,108	28.7	172,650	57,316	33.2	80,900	22,948	28.4	51,700	15,973	30.9
	令 4	245,284	112,323	45.8	17,136	6,965	40.6	195,820	72,974	37.3	57,560	12,469	21.7	42,250	18,361	43.5
	令 5	228,615	126,602	55.4	14,960	7,553	50.5	90,950	29,011	31.9	18,700	9,612	51.4	23,200	13,108	56.5
	令 6	218,395	116,205	53.2	15,096	7,146	47.3	103,200	40,595	39.3	51,925	15,473	29.8	22,000	12,894	58.6

表 4 - 3. 地区別月間平均生産能力と月間平均生産実績の5年間推移②

(枚) 丸革 / 月産

地区 及び年	革種	馬 革			鹿 革			牛 床 革			豚 床 革			そ の 他 革		
		生産能力	生産実績	操業率(%)	生産能力	生産実績	操業率(%)	生産能力	生産実績	操業率(%)	生産能力	生産実績	操業率(%)	生産能力	生産実績	操業率(%)
松 原	令 2				※	※	-	34,200	15,262	44.6				428	150	35.0
	令 3	500	50	10.0	※	※	-	38,860	17,620	45.3				150	150	100.0
	令 4				※	※	-	21,250	18,900	88.9				1,650	500	30.3
	令 5				1,000	500	50.0	21,700	18,000	82.9						
	令 6	140	70	50.0	1,000	500	50.0	2,900	1,690	58.3				50	0	0.0
誉 田	令 2				※	※	-			-						
	令 3				※	※	-			-						
	令 4				※	※	-	5,500	1,000	18.2						
	令 5							2,300	1,400	60.9						
	令 6						3,000	1,200	40.0							
沢 田	令 2				※	※	-	14,230	9,015	63.4						
	令 3				※	※	-	3,450	1,800	52.2						
	令 4				※	※	-	8,200	4,300	52.4				160	100	62.5
	令 5				100	20	20.0	7,360	3,730	50.7						
	令 6				350	200	57.1	10,250	6,100	59.5						
高 木	令 2	12,890	5,767	44.7	※	※	-	14,420	9,500	65.9				2,200	537	24.4
	令 3	9,300	5,283	56.8	※	※	-	17,180	7,920	46.1	50,000	10,000	20.0	1,180	90	7.6
	令 4	8,500	3,652	43.0	※	※	-	15,220	8,403	55.2	50,000	10,000	20.0	12,230	356	2.9
	令 5	7,550	3,647	48.3	1,330	366	27.5	12,900	6,450	50.0				300	150	50.0
	令 6	6,180	3,286	53.2	1,280	406	31.7	10,000	5,300	53.0				600	260	43.3
御 着	令 2				※	※	-	9,300	950	10.2				300	20	6.7
	令 3				※	※	-	500	200	40.0				300	50	16.7
	令 4				※	※	-	200	100	50.0				300	70	23.3
	令 5				300	100	33.3	1,500	100	6.7						
	令 6				300	100	33.3									
川 西	令 2	200	20	10.0	※	※	-									
	令 3				※	※	-									
	令 4				※	※	-									
	令 5				4,000	1,500	37.5							4,000	1,500	37.5
	令 6				4,000	1,500	37.5									
大 阪 他	令 2				※	※	-									
	令 3				※	※	-									
	令 4				※	※	-									
	令 5															
	令 6															
和 歌 山	令 2	1,500	300	20.0	※	※	-	9,000	1,700	18.9						
	令 3	400	100	25.0	※	※	-	7,000	4,200	60.0						
	令 4	500	200	40.0	※	※	-	6,000	3,500	58.3				800	16	2.0
	令 5	500	200	40.0				4,500	2,500	55.6						
	令 6	500	50	10.0				7,000	3,700	52.9				500	83	16.6
関 西 計	令 2	14,590	6,087	41.7	※	※	-	81,150	36,427	44.9	0	0	-	2,928	707	24.1
	令 3	10,200	5,433	53.3	※	※	-	66,990	31,740	47.4	50,000	10,000	20.0	1,630	290	17.8
	令 4	9,000	3,852	42.8	※	※	-	56,370	36,203	64.2	50,000	10,000	20.0	19,140	2,542	13.3
	令 5	8,050	3,847	47.8	6,730	2,486	36.9	50,260	32,180	64.0	0	0	-	300	150	20.0
	令 6	6,820	3,406	49.9	6,930	2,706	39.0	33,150	17,990	54.3	0	0	-	1,150	343	20.0
東 京	令 2	115	45	39.1	※	※	-	200	200	100.0	3,000	1,600	53.3	6,810	2,508	36.8
	令 3	20	18	90.0	※	※	-				3,200	1,200	37.5	9,286	4,505	48.5
	令 4	15	10	66.7	※	※	-	2,500	1,200	48.0	1,800	1,200	66.7	9,100	5,518	60.6
	令 5	2,040	130	6.4	500	156	31.2				2,500	1,000	40.0	12,370	8,117	65.6
	令 6	1,200	500	41.7	1,330	459	34.5							31,000	15,677	50.6
埼 玉 他	令 2	1,900	1,157	60.9	※	※	-							38,500	6,750	17.5
	令 3	2,350	1,594	67.8	※	※	-							18,000	6,810	37.8
	令 4	2,850	2,000	70.2	※	※	-							3,140	1,420	45.2
	令 5	3,135	1,929	61.5	6,000	2,700	45.0				1,200	900	75.0	2,800	971	34.7
	令 6	500	500	100.0	8,100	4,300	53.1							1,560	1,100	70.5
関 東 計	令 2	2,015	1,202	59.7	※	※	-	200	200	100.0	3,000	1,600	53.3	45,310	9,258	20.4
	令 3	2,370	1,612	68.0	※	※	-	0	0	-	3,200	1,200	37.5	27,286	11,315	41.5
	令 4	2,865	2,010	70.2	※	※	-	2,500	1,200	48.0	1,800	1,200	66.7	12,240	6,938	56.7
	令 5	5,175	2,059	39.8	6,500	2,856	43.9	0	0	-	3,700	1,900	51.4	15,170	9,088	59.9
	令 6	1,700	1,000	58.8	9,430	4,759	50.5	0	0	-	0	0	-	32,560	16,777	51.5
全 国 計	令 2	16,605	7,289	43.9	※	※	-	81,350	36,627	45.0	3,000	1,600	53.3	48,238	9,965	20.7
	令 3	12,570	7,045	56.0	※	※	-	66,990	31,740	47.4	53,200	11,200	21.1	28,916	11,605	40.1
	令 4	11,865	5,862	49.4	※	※	-	58,870	37,403	63.5	51,800	11,200	21.6	31,380	9,480	30.2
	令 5	13,225	5,906	44.7	13,230	5,342	40.4	50,260	32,180	64.0	3,700	1,900	51.4	15,470	9,238	59.7
	令 6	8,520	4,406	51.7	16,360	7,465	45.6	33,150	17,990	54.3	0	0	-	33,710	17,120	50.8

※鹿革は令和4年度まで集計なし

表4-4. 革種別月間平均生産能力と月間平均生産実績①

## 成 牛 革

(枚) 丸革/月産

	生産能力				生産実績				操業率	
	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合 計	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合 計		
松 原	48,620	4,950	2,150	55,720	23,555	2,740	170	26,465	47.5%	
誉 田	16,550	2,000		18,550	6,440	950		7,390	39.8%	
沢 田	11,730	250	300	12,280	6,300	250	210	6,760	55.0%	
たつの 計	76,900	7,200	2,450	86,550	36,295	3,940	380	40,615	46.9%	
高 木	23,176	1,723	3,926	28,825	8,634	380	1,963	10,977	38.1%	
御 着	13,450	1,740		15,190	8,543	865		9,408	61.9%	
姫 路 計	36,626	3,463	3,926	44,015	17,177	1,245	1,963	20,385	46.3%	
川 西	7,040	100	140	7,280	2,350	50	140	2,540	34.9%	
大 阪 他	4,100	1,400		5,500	1,720	390		2,110	38.4%	
和 歌 山			3,000	3,000			925	925	30.8%	
関 西	計	124,666	12,163	9,516	146,345	57,542	5,625	3,408	66,575	45.5%
	操業率					46.2%	46.2%	35.8%	45.5%	-
東 京		200	5,900	6,100		80	1,510	1,590	26.1%	
埼 玉 他	15,300	1,650	49,000	65,950	12,100	140	35,800	48,040	72.8%	
関 東	計	15,300	1,850	54,900	72,050	12,100	220	37,310	49,630	68.9%
	操業率					79.1%	11.9%	68.0%	68.9%	-
全 国	合 計	139,966	14,013	64,416	218,395	69,642	5,845	40,718	116,205	53.2%
	操業率					49.8%	41.7%	63.2%	53.2%	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

## 中 小 牛 革

(枚) 丸革/月産

	生産能力				生産実績				操業率	
	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合 計	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合 計		
松 原	1,375			1,375	1,250			1,250	90.9%	
誉 田	600		500	1,100	380		100	480	43.6%	
沢 田				0				0	-	
たつの 計	1,975	0	500	2,475	1,630	0	100	1,730	69.9%	
高 木	2,880	530	261	3,671	1,266	220	196	1,682	45.8%	
御 着				0				0	-	
姫 路 計	2,880	530	261	3,671	1,266	220	196	1,682	45.8%	
川 西	100			100	100			100	100.0%	
大 阪 他	1,200			1,200	1,000			1,000	83.3%	
和 歌 山			2,650	2,650			600	600	22.6%	
関 西	計	6,155	530	3,411	10,096	3,996	220	896	5,112	50.6%
	操業率					64.9%	41.5%	26.3%	50.6%	-
東 京			4,100	4,100			1,504	1,504	36.7%	
埼 玉 他	400		500	900	330		200	530	58.9%	
関 東	計	400	0	4,600	5,000	330	0	1,704	2,034	40.7%
	操業率					82.5%	-	37.0%	40.7%	-
全 国	合 計	6,555	530	8,011	15,096	4,326	220	2,600	7,146	47.3%
	操業率					66.0%	41.5%	32.5%	47.3%	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

表4-4. 革種別月間平均生産能力と月間平均生産実績②

## 豚 革

(枚) 丸革/月産

	生産能力				生産実績				操業率
	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合計	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合計	
松原				0				0	-
誉田				0				0	-
沢田	500			500	450			450	90.0%
たつの計	500	0	0	500	450	0	0	450	90.0%
高木				0				0	-
御着				0				0	-
姫路計	0	0	0	0	0	0	0	0	-
川西				0				0	-
大阪他				0				0	-
和歌山				0				0	-
関西計	500	0	0	500	450	0	0	450	90.0%
関西操業率					90.0%	-	-	90.0%	-
東京	89,320	8,980	3,500	101,800	35,195	2,950	1,400	39,545	38.8%
埼玉他		900		900		600		600	66.7%
関東計	89,320	9,880	3,500	102,700	35,195	3,550	1,400	40,145	39.1%
関東操業率					39.4%	35.9%	40.0%	39.1%	-
全国合計	89,820	9,880	3,500	103,200	35,645	3,550	1,400	40,595	39.3%
全国操業率					39.7%	35.9%	40.0%	39.3%	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

## 山 羊 革

(枚) 丸革/月産

	生産能力				生産実績				操業率
	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合計	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合計	
松原				0				0	-
誉田			1,000	1,000			600	600	60.0%
沢田				0				0	-
たつの計	0	0	1,000	1,000	0	0	600	600	60.0%
高木			4,000	4,000			2,000	2,000	50.0%
御着	300	125	500	925	200	100	200	500	54.1%
姫路計	300	125	4,500	4,925	200	100	2,200	2,500	50.8%
川西				0				0	-
大阪他				0				0	-
和歌山			1,300	1,300			400	400	30.8%
関西計	300	125	6,800	7,225	200	100	3,200	3,500	48.4%
関西操業率					66.7%	80.0%	47.1%	48.4%	-
東京	4,000	500	38,700	43,200	3,000		8,713	11,713	27.1%
埼玉他			1,500	1,500			260	260	17.3%
関東計	4,000	500	40,200	44,700	3,000	0	8,973	11,973	26.8%
関東操業率					75.0%	0.0%	22.3%	26.8%	-
全国合計	4,300	625	47,000	51,925	3,200	100	12,173	15,473	29.8%
全国操業率					74.4%	16.0%	25.9%	29.8%	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

表4-4. 革種別月間平均生産能力と月間平均生産実績③

## 羊 革

(枚) 丸革/月産

	生産能力				生産実績				操業率	
	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合 計	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合 計		
松 原				0				0	-	
誉 田				0				0	-	
沢 田				0				0	-	
たつの 計	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
高 木			400	400			200	200	50.0%	
御 着				0				0	-	
姫 路 計	0	0	400	400	0	0	200	200	50.0%	
川 西				0				0	-	
大 阪 他				0				0	-	
和 歌 山	2,000	0	1,000	3,000	1,000	0	8	1,008	33.6%	
関 西	計	2,000	0	1,400	3,400	1,000	0	208	1,208	35.5%
	操業率					50.0%	-	14.9%	35.5%	-
東 京	3,600		9,000	12,600	2,058		5,688	7,746	61.5%	
埼 玉 他			6,000	6,000			3,940	3,940	65.7%	
関 東	計	3,600	0	15,000	18,600	2,058	0	9,628	11,686	62.8%
	操業率					57.2%	-	64.2%	62.8%	-
全 国	合 計	5,600	0	16,400	22,000	3,058	0	9,836	12,894	58.6%
	操業率					54.6%	-	60.0%	58.6%	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

## 馬 革

(枚) 丸革/月産

	生産能力				生産実績				操業率	
	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合 計	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合 計		
松 原		140		140		70		70	50.0%	
誉 田				0				0	-	
沢 田				0				0	-	
たつの 計	0	140	0	140	0	70	0	70	50.0%	
高 木	4,280	1,900		6,180	1,846	1,440		3,286	53.2%	
御 着				0				0	-	
姫 路 計	4,280	1,900	0	6,180	1,846	1,440	0	3,286	53.2%	
川 西				0				0	-	
大 阪 他				0				0	-	
和 歌 山		500		500		50		50	10.0%	
関 西	計	4,280	2,540	0	6,820	1,846	1,560	0	3,406	49.9%
	操業率					43.1%	61.4%	-	49.9%	-
東 京			1,200	1,200			500	500	41.7%	
埼 玉 他		400	100	500		400	100	500	100.0%	
関 東	計	0	400	1,300	1,700	0	400	600	1,000	58.8%
	操業率					-	100.0%	46.2%	58.8%	-
全 国	合 計	4,280	2,940	1,300	8,520	1,846	1,960	600	4,406	51.7%
	操業率					43.1%	66.7%	46.2%	51.7%	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

表4-4. 革種別月間平均生産能力と月間平均生産実績④

## 鹿 革

(枚) 丸革/月産

	生産能力				生産実績				操業率	
	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合計	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合計		
松原	200	600	200	1,000	100	300	100	500	50.0%	
誉田				0				0	-	
沢田	175	175		350	100	100		200	57.1%	
たつの計	375	775	200	1,350	200	400	100	700	51.9%	
高木	500	640	140	1,280	90	286	30	406	31.7%	
御着	150	150		300	50	50		100	33.3%	
姫路計	650	790	140	1,580	140	336	30	506	32.0%	
川西	4,000			4,000	1,500			1,500	37.5%	
大阪他				0				0	-	
和歌山				0				0	-	
関西	計	5,025	1,565	340	6,930	1,840	736	130	2,706	39.0%
	操業率					36.6%	47.0%	38.2%	39.0%	-
東京	500		830	1,330	103		356	459	34.5%	
埼玉他	1,100	5,000	2,000	8,100	220	3,000	1,080	4,300	53.1%	
関東	計	1,600	5,000	2,830	9,430	323	3,000	1,436	4,759	50.5%
	操業率					20.2%	60.0%	50.7%	50.5%	-
全国	合計	6,625	6,565	3,170	16,360	2,163	3,736	1,566	7,465	45.6%
	操業率					32.6%	56.9%	49.4%	45.6%	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

## 牛 床 革

(枚) 丸革/月産

	生産能力				生産実績				操業率	
	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合計	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合計		
松原	2,900			2,900	1,690			1,690	58.3%	
誉田	3,000			3,000	1,200			1,200	40.0%	
沢田	9,050		1,200	10,250	5,300		800	6,100	59.5%	
たつの計	14,950	0	1,200	16,150	8,190	0	800	8,990	55.7%	
高木	10,000			10,000	5,300			5,300	53.0%	
御着				0				0	-	
姫路計	10,000	0	0	10,000	5,300	0	0	5,300	53.0%	
川西				0				0	-	
大阪他				0				0	-	
和歌山	6,000		1,000	7,000	3,200		500	3,700	52.9%	
関西	計	30,950	0	2,200	33,150	16,690	0	1,300	17,990	54.3%
	操業率					53.9%	-	59.1%	54.3%	-
東京				0				0	-	
埼玉他				0				0	-	
関東	計	0	0	0	0	0	0	0	-	
	操業率					-	-	-	-	
全国	合計	30,950	0	2,200	33,150	16,690	0	1,300	17,990	54.3%
	操業率					53.9%	-	59.1%	54.3%	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

表4-4. 革種別月間平均生産能力と月間平均生産実績⑤

## 豚 床 革

(枚) 丸革 / 月産

	生産能力				生産実績				操業率
	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合 計	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合 計	
松 原				0				0	-
誉 田				0				0	-
沢 田				0				0	-
たつの 計	0	0	0	0	0	0	0	0	-
高 木				0				0	-
御 着				0				0	-
姫路 計	0	0	0	0	0	0	0	0	-
川 西				0				0	-
大 阪 他				0				0	-
和 歌 山				0				0	-
関 西	計	0	0	0	0	0	0	0	-
	操業率				-	-	-	-	-
東 京				0				0	-
埼 玉 他				0				0	-
関 東	計	0	0	0	0	0	0	0	-
	操業率				-	-	-	-	-
全 国	合 計	0	0	0	0	0	0	0	-
	操業率				-	-	-	-	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

## そ の 他 革

(枚) 丸革 / 月産

	生産能力				生産実績				操業率
	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合 計	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	染革・ その他	合 計	
松 原		50		50				0	0.0%
誉 田				0				0	-
沢 田				0				0	-
たつの 計	0	50	0	50	0	0	0	0	0.0%
高 木		440	160	600		220	40	260	43.3%
御 着				0				0	-
姫路 計	0	440	160	600	0	220	40	260	43.3%
川 西				0				0	-
大 阪 他				0				0	-
和 歌 山	500			500	83			83	16.6%
関 西	計	500	490	1,150	83	220	40	343	29.8%
	操業率				16.6%	44.9%	25.0%	29.8%	-
東 京	17,000	3,000	11,000	31,000	9,977	1,000	4,700	15,677	50.6%
埼 玉 他	720	420	420	1,560	520	170	410	1,100	70.5%
関 東	計	17,720	3,420	11,420	10,497	1,170	5,110	16,777	51.5%
	操業率				59.2%	34.2%	44.7%	51.5%	-
全 国	合 計	18,220	3,910	11,580	10,580	1,390	5,150	17,120	50.8%
	操業率				58.1%	35.5%	44.5%	50.8%	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

### ③ 革種別なめし工法・なめし製造工程比率

ここでは革種別に、なめし工法となめし製造工程の比率を算出している。まず、なめし工法別にみると、依然として「クロム鞣し」による生産が多数を占めており、生産販売枚数の多い成牛革、豚革、山羊革、牛床革などは前年からさらにその比率が上昇している。逆に馬革、鹿革、その他革においては僅かながらも「タンニン鞣し」の比率が前年よりも上昇している。

なめし製造工程の比率に関しては、革の性質上、また原皮の調達背景などの影響で、それぞれの革種に適している工程からの生産が多くなっているため、毎年その比率に大きな変化は生じにくい。その上で、前年からの変化で目立つ処としては、中小牛革、牛床革において「ウェットブルー」からの製造が増加していること、山羊革と羊革において「クラスト」からの製造が増加していること等が挙げられる。

図 4 - 5. 革種別なめし工法比率

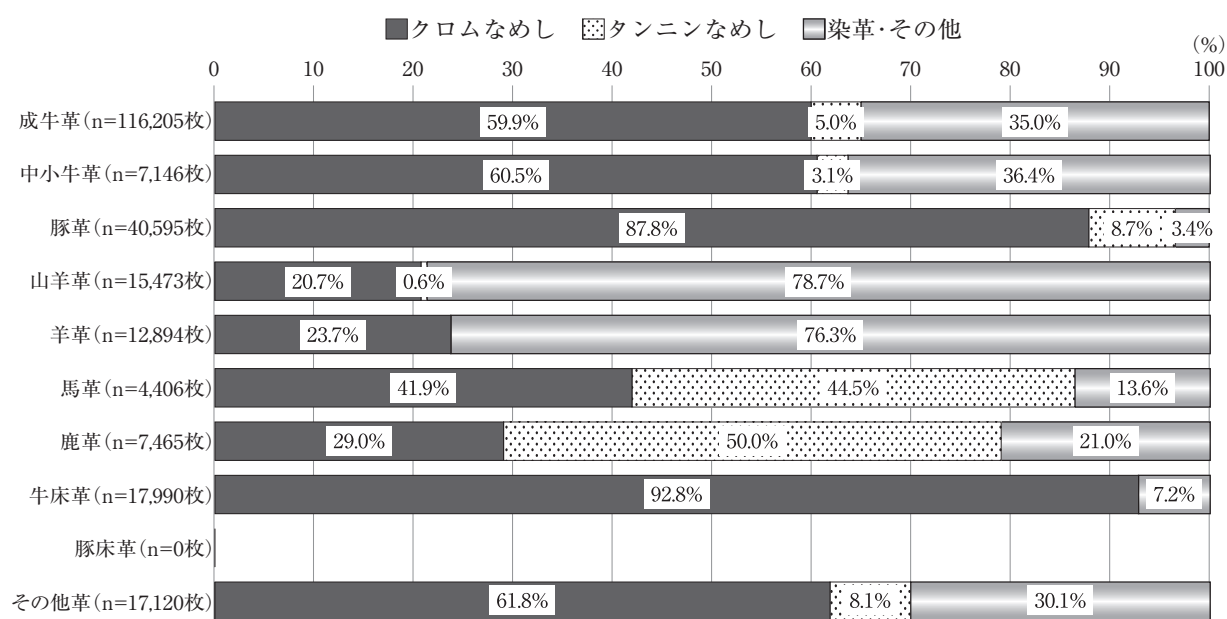
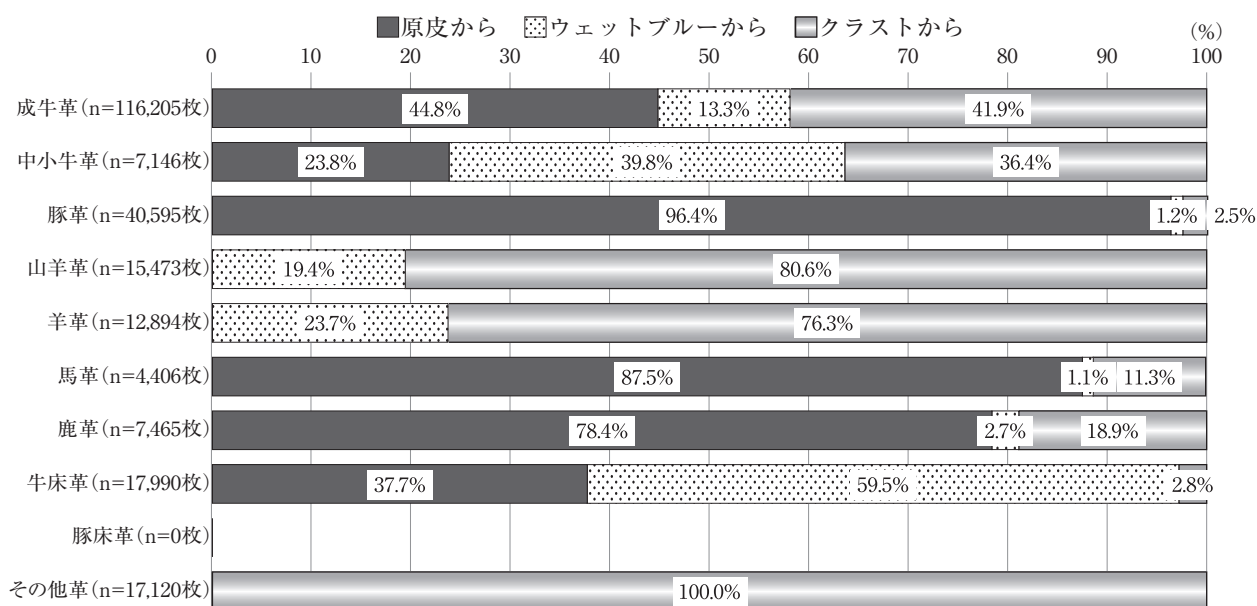


図 4 - 6. 革種別なめし製造工程比率



## 5. 日本の製革業者の経営についての意識

### 5-1. 今後の経営について

この項では各企業の経営者が現在の経営状態についてどのように考えているか、またその主な理由は何かなどを知るために、今後の経営に対するアンケートによる調査を行った。主な理由に関する回答については複数回答である。

#### ① 経営に対する考え方

図5-1は今後の経営についてどのように考えるかに関して、「1. 経営維持に確信」、「2. 経営維持に努力」、「3. 経営維持に限界」、「4. 転廃休業を考える」、「5. 既に休業している」の5つの選択肢のいずれに自社が該当するかを問うた結果、製革業者270社全社の回答を得た。その結果、令和6年の各製革業者の状況としては、「経営は維持できる」が全体の4.8%（13社）、「経営維持の努力をしている」が全体の58.1%（157社）、「経営維持に限界を感じている」が全体の17.0%（46社）、「事業の転換、廃業、休業を考えている」が6.3%（17社）という結果となった。尚、全体の13.7%（37社）が「既に休業をしている」という回答となった。

「1. 経営維持に確信」、「2. 経営維持に努力」の回答の合計は、全体の62.9%（170社）となり、前年の回答率とほぼ同じ結果となった。「3. 経営維持に限界」と「4. 事業の転換、廃業、休業を考えている」と経営に限界を感じている企業は全体の23.3%（63社）となり、こちらも前年とほぼ同じレベルの回答率となった。また「既に休業している」が全体の13.7%という数字も前年からの変化はほとんどないが、回答社数が毎年減少していること、つまり廃業している企業が毎年何社かあることを踏まえて回答社数の増減に注目して考えなければならない。そう考えると、製革業界としては状況が芳しくない状態で横ばいが続いているとみられる。

図5-1. 経営に対する考え方 (全国計・n=270社)

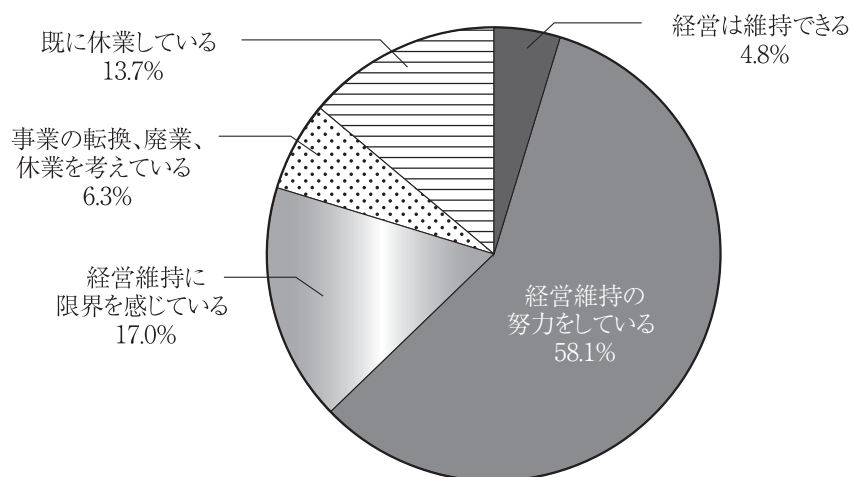
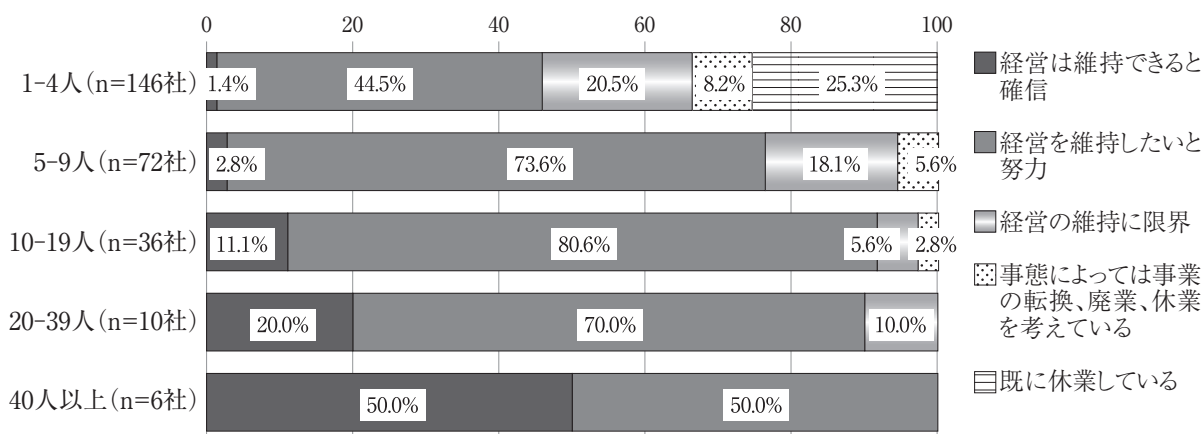


表5-1. 「経営に対する考え方」の4年間回答対比

地区	考え方及び年	回答企業数				1. 経営は維持出来る と確信している				2. 経営は維持したいと 努力している				3. 経営の維持に限界を 感じている				4. 事業の転換、廃業、 休業を考える				5. 既に休業している			
		令3	令4	令5	令6	令3	令4	令5	令6	令3	令4	令5	令6	令3	令4	令5	令6	令3	令4	令5	令6	令3	令4	令5	令6
たつの	松原	74	74	74	69	1	2	3	3	44	44	39	38	13	12	15	13	4	3	3	2	12	13	14	13
	誉田	48	44	43	42	3	1	3		18	20	17	19	12	13	11	14	4	1	3	1	11	9	9	8
	沢田	16	16	14	12		4	1	1	10	7	10	8	1			2	1	1	1	1	4	4	2	
	小計	138	134	131	123	4	7	7	4	72	71	66	65	26	25	26	29	9	5	7	4	27	26	25	21
姫路	高木	70	68	61	62	1	5	2	2	36	41	37	37	22	7	8	5	4	6	6	8	7	8	8	10
	御着	25	22	23	22		1			15	13	16	16	5	2	2	2	1	3	2		4	3	3	4
	小計	95	90	84	84	1	6	2	2	51	54	53	53	27	9	10	7	5	9	8	8	11	11	11	14
川西	10	8	10	10			1	1	7	7	7	7	2		2	2	1	1							
大阪その他	7	7	7	8	1	1	1	4	5	5	5	2					1	1	1	1				1	
和歌山	7	7	7	7			1		5	6	4	4	1		2	3	1	1							
関西計	257	246	239	232	6	14	12	11	140	143	135	131	56	34	40	41	17	16	16	13	38	37	36	36	
東京			31	26	29		1	3	2		23	14	18		3	4	4		3	4	4		1	1	1
	埼玉他	47	13	12	9	4.3%	3.2%	11.5%	6.9%	30	74.2%	53.8%	62.1%	7	9.7%	15.4%	13.8%	7	9.7%	15.4%	13.8%	1	3.2%	3.8%	3.4%
関東計	47	44	38	38	2	2	3	2	30	32	24	26	7	4	6	5	7	5	4	4	1	1	1	1	
合計	304	290	277	270	8	16	15	13	170	175	159	157	63	38	46	46	24	21	20	17	39	38	37	37	

また、この回答を従業員数別に集計した図5-2をみると、「経営を維持できるレベル（選択肢1.+2.）」と回答した企業は、<40人以上の規模の企業>においては100%、また<20-39人>規模の企業で90%、<10人-19人>規模の企業で91.7%、<5-9人>規模の企業で76.4%となった。前年の回答率と比べると、<5-9人>規模の企業の回答率がやや落ちている。そして<1人-4人>の企業の回答率をみると、「経営を維持できるレベル（選択肢1.+2.）」と回答したのは146社中の45.9%という結果となった。これは前年との比較においては僅かに上昇、また「経営に限界を感じている（選択肢3.+4.+5）」との回答率は全体の28.7%となり、これも前年から3.7ポイント減少している。この結果からは少なくとも令和5年の状況よりは少し好転しているとみられる。ただ社数で考えると、全270社中100社（休業中37社含む）が「経営に限界を感じている（選択肢3.+4.+5）」状況にあるということは、まだまだ予断の許さない状況であることには違いない。

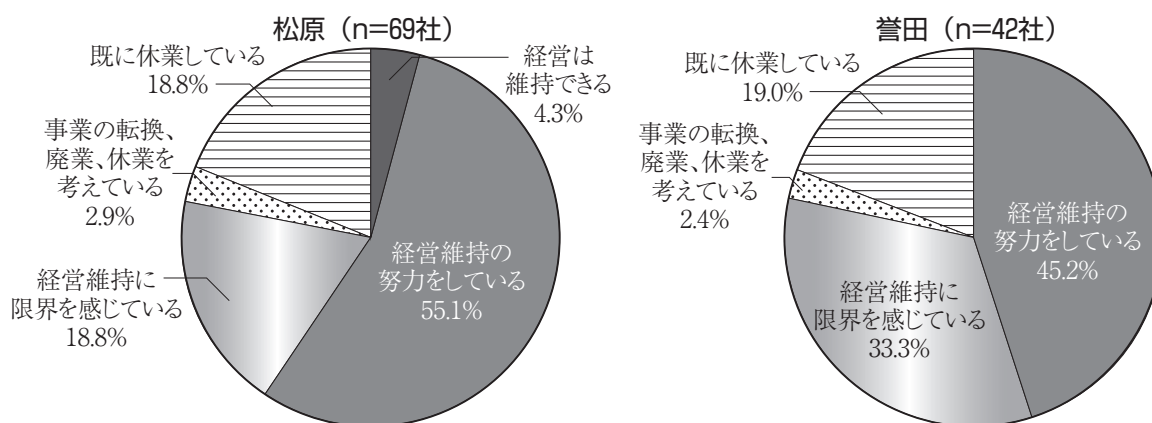
図5-2. 従業員数別にみる経営に対する考え方（令和6年）

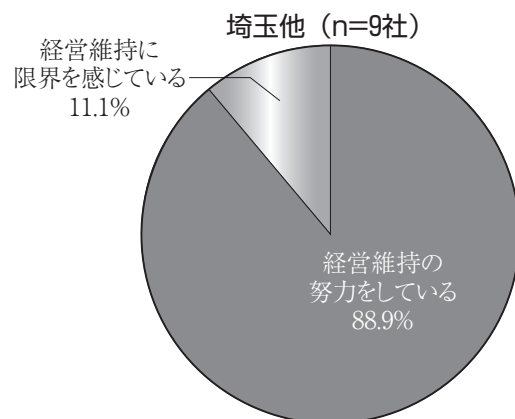
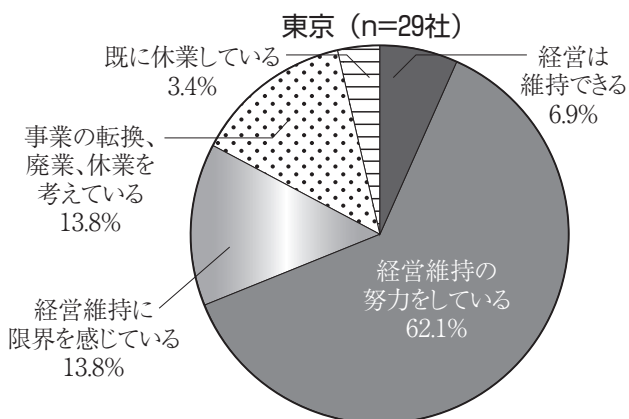
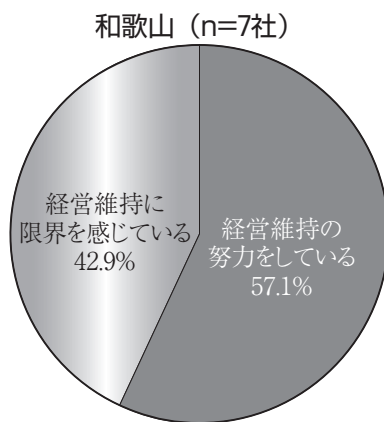
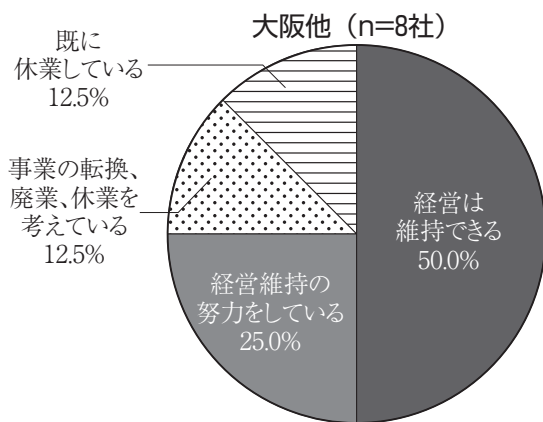
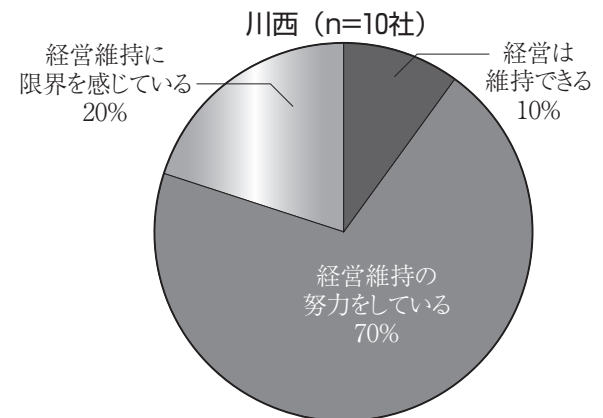
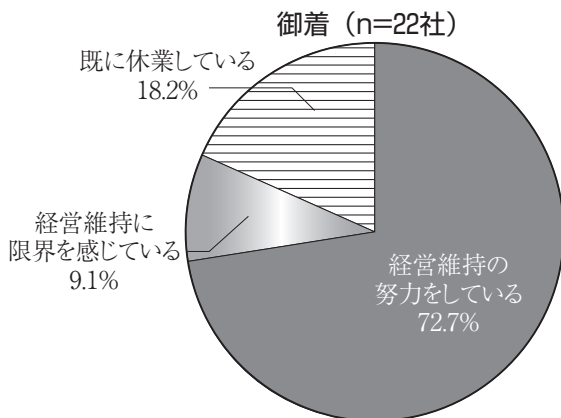
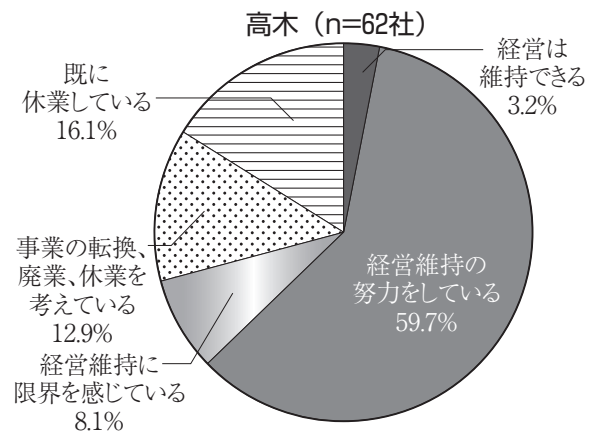
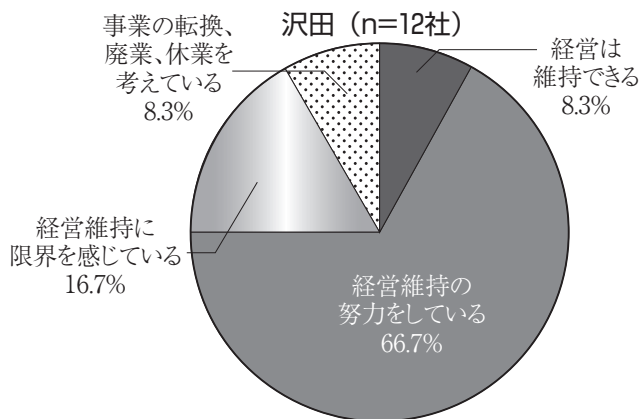


次に地区別でその回答結果を見ると、「経営を維持できるレベル（選択肢1.+2.）」の回答率が50%を割り込んでいるのが<誉田地区>で全体の45.2%、次いで<和歌山地区>の57.1%が低い回答率となっている。その他<松原地区>の59.4%や<高木地区>の62.9%も比較的低い回答率である。逆に「経営に限界を感じている（選択肢3.+4.+5）」の回答結果から状況をみると、ここでも<誉田地区>の回答率が54.7%で最も高くなり、次いで<和歌山地区>の42.9%、<松原地区>の40.5%という回答率となっている。この結果からは<誉田地区><和歌山地区><松原地区>等の状況の厳しさがより強く表れている。

また前年の調査結果との比較においては、<和歌山地区>の「経営を維持」が13.9ポイント減少、「経営に限界」が13.9ポイント増えている。両方とも10ポイント以上減少、増加したのは<和歌山地区>だけとなった。<誉田地区>に関しては、前年からの回答比率の増減はさほどなく、前年から良くない状況が継続しているという結果である。それ以外の地区では<大阪他地区>の回答率が、「経営を維持」が11ポイント減少、「経営に限界」が11ポイント増えていることで、ここも厳しさが増していることが表れている。

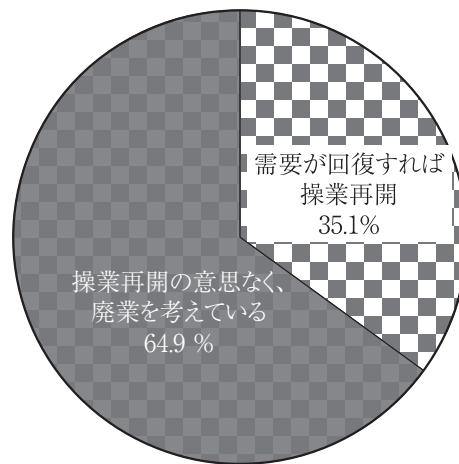
図5-3. 地区別経営に対する考え方・回答構成比





また、「既に休業している」37社（いずれも1 - 4人規模の企業）に対し、今後の意向も確認したが、37社中、35.1%にあたる13社が「需要が回復すれば操業再開する」と回答しており、前年より2社、回答社数が増えている。

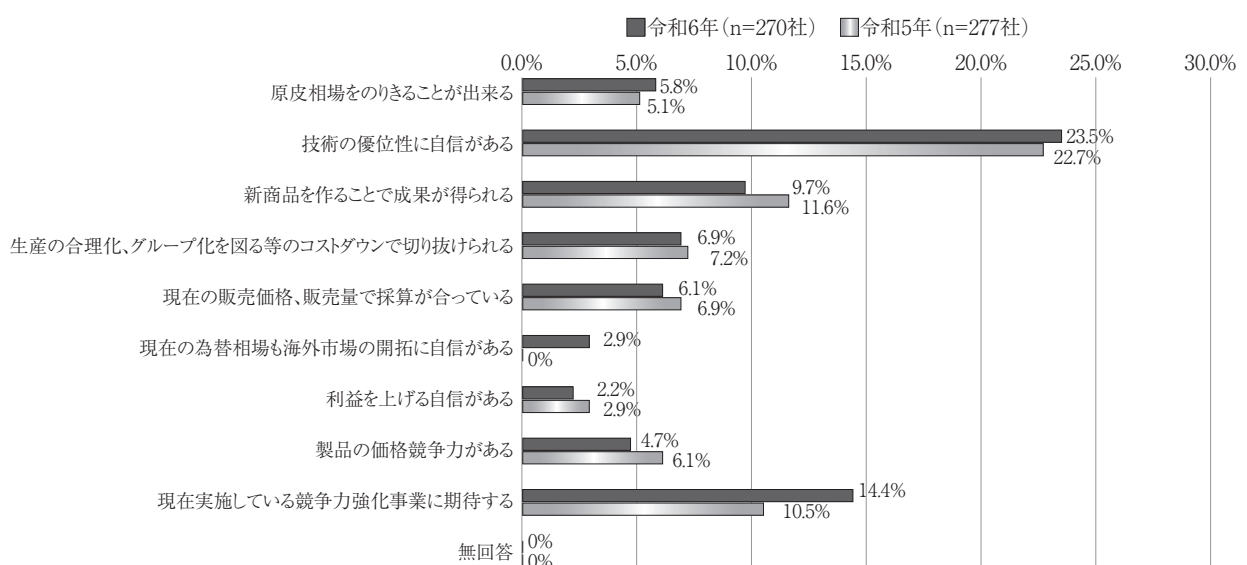
図5 - 4. 休業後の意向 (n=37社)



## ② 経営に対する考え方の理由

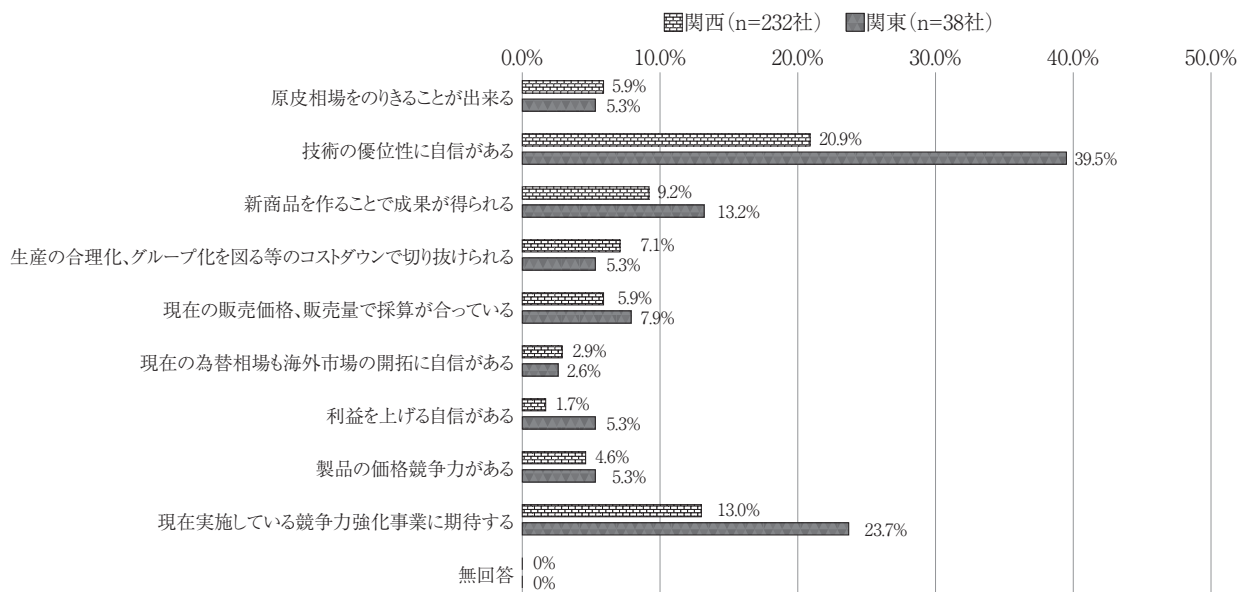
ここでは、現在、また今後の経営に対する考え方を確認し、270社全社の回答を得た。まず、経営に前向きな要因について集計した結果が図5 - 5である。グラフは令和6年調査と前年の令和5年調査の結果を並べて表した。その結果、最も多い回答率となっている「技術の優位性に自信がある」は、令和6年で全体の23.5%となり前年の回答率22.7%を僅かに上回った。次いで「現在実施している競争力強化事業に期待する」が14.4%の回答率となり、こちらは前年の10.5%から4ポイント近く回答率を伸ばしている。前年、2番目の回答率となっていた「新商品を作ることで成果が得られる」は9.7%となり、前年の回答率11.6%から回答率を下げている。その他の回答率はいずれも10%以下であるが、前年より回答率を上げたのは「原皮相場を乗り切ることが出来る」(0.7ポイント上昇)と前年0回答であった「現在の為替相場も海外市場の開拓に自信がある」が2.9%の回答率となっている。

図5 - 5. 経営に前向きな要因



また図5-6では、令和6年調査結果の関東地区と関西地区の回答率の差をみたものである。両地区で最も高い回答率となったのが「技術の優位性に自信がある」であるが、関西と関東の差は大きく、関西地区が20.9%、関東地区が39.5%とダブルスコアに近い回答率の差となった。また同様に、「現在実施している競争力強化事業に期待する」も関西地区が13.0%に対し、関東地区は23.7%となり、ここも10ポイント以上の差が付いている。回答率は高くはないものの、関西地区の回答率が関東地区の回答率を上回ったものとしては、「生産の合理化、グループ化を図る等のコストダウンで切り抜けられる」が関西地区が7.1%、関東地区が5.3%となり、「原皮相場をのりきることが出来る」も関西地区が5.9%、関東地区が5.3%と、関西地区の回答率が僅かに上回っている。

図5-6. 経営に前向きな要因(関西/関東比較)



次に経営の不安材料について、こちらも令和6年調査結果と令和5年調査結果を並べてグラフ化した。その結果、今回の回答結果もほぼ前年とほぼ似た結果となった。その中で最も高い回答率となった「コスト高で採算が取れない」で全体の44.8%となり、前年と全く同じ回答率となっている。次いで「注文が不安定」との回答で、36.5%となった。これは前年から1.8ポイント回答率が上昇している。その次が「製品価格を上げられない」が24.2%、「人手の確保が困難」が21.7%となったが、これらの回答率はそれぞれ3ポイントと2ポイント程度前年を下回っている。その他で、今回の回答率が前年を上回ったのが「販売先が不安」(1.5ポイント上昇)、「生産過剰、過当競争市場のため」(1.1ポイント上昇)となった。

また図5-8の関西と関東の比較をみると、回答率の最も高い「コスト高で採算が取れない」が関西地区で41.4%の回答率に対し、関東地区は65.8%と24ポイント以上の差となった。また次いで回答率の高い「注文が不安定」も関西地区が36.0%に対し、関東地区は39.5%と、3.5ポイントの差を付けて関東地区が上回っている。「製品価格が上げられない」「人手の確保が困難」の回答率も同様の結果となっている。逆に関西地区の回答率が上回ったのが「生産過剰、過当競争市場のため」、「資金難が著しい」となった。

前記した経営に前向きな要因の回答率と経営の不安材料の回答率をみると、両方とも関東地区の製革業者の方が反応しており、一見、矛盾を感じるが、それほど関東地区の製革業者の方が、現状の動きが活発であることの表れでもあると見る事が出来る。

次に経営の不安材料について、こちらも令和6年調査結果と令和5年調査結果を並べてグラフ化した。その結果、今回の回答結果もほぼ前年とほぼ似た結果となった。その中で最も高い回答率となった「コスト高で採算が取れない」で全体の44.8%となり、前年と全く同じ回答率となっている。次いで「注文が不安定」との回答で、36.5%となった。これは前年から1.8ポイント回答率が上昇している。その次が「製品価格を上げられない」が24.2%、「人手の確保が困難」が21.7%となったが、これらの回答率はそれぞれ3ポイントと2ポイント程度前年を下回っている。その他で、今回の回答率が前年を上回ったのが「販売先が不安」（1.5ポイント上昇）、「生産過剰、過当競争市場のため」（1.1ポイント上昇）となった。

また図5-8の関西と関東の比較をみると、回答率の最も高い「コスト高で採算が取れない」が関西地区で41.4%の回答率に対し、関東地区は65.8%と24ポイント以上の差となった。また次いで回答率の高い「注文が不安定」も関西地区が36.0%に対し、関東地区は39.5%と、3.5ポイントの差を付けて関東地区が上回っている。「製品価格が上げられない」「人手の確保が困難」の回答率も同様の結果となっている。逆に関西地区の回答率が上回ったのが「生産過剰、過当競争市場のため」、「資金難が著しい」となった。

前記した経営に前向きな要因の回答率と経営の不安材料の回答率をみると、両方とも関東地区の製革業者の方が反応しており、一見、矛盾を感じるが、それほど関東地区の製革業者の方が、現状の動きが活発であることの表れでもあると見る事が出来る。

図5-7. 経営の不安材料

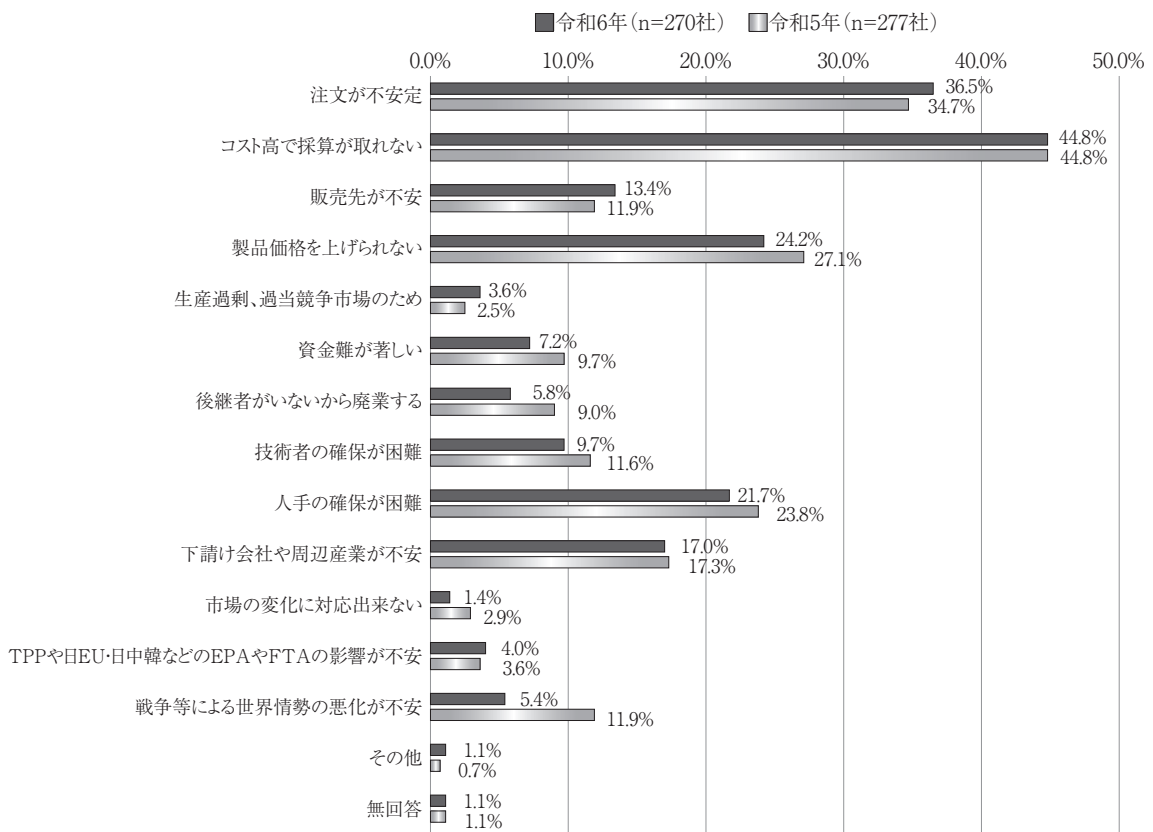


図5-8. 経営の不安材料(関西/関東比較)

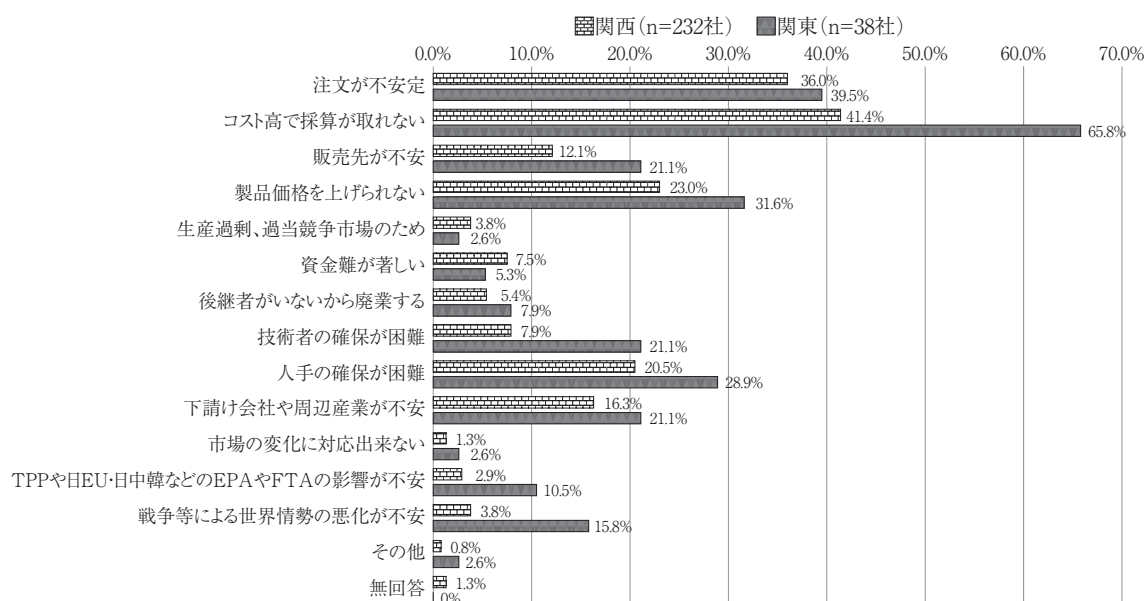
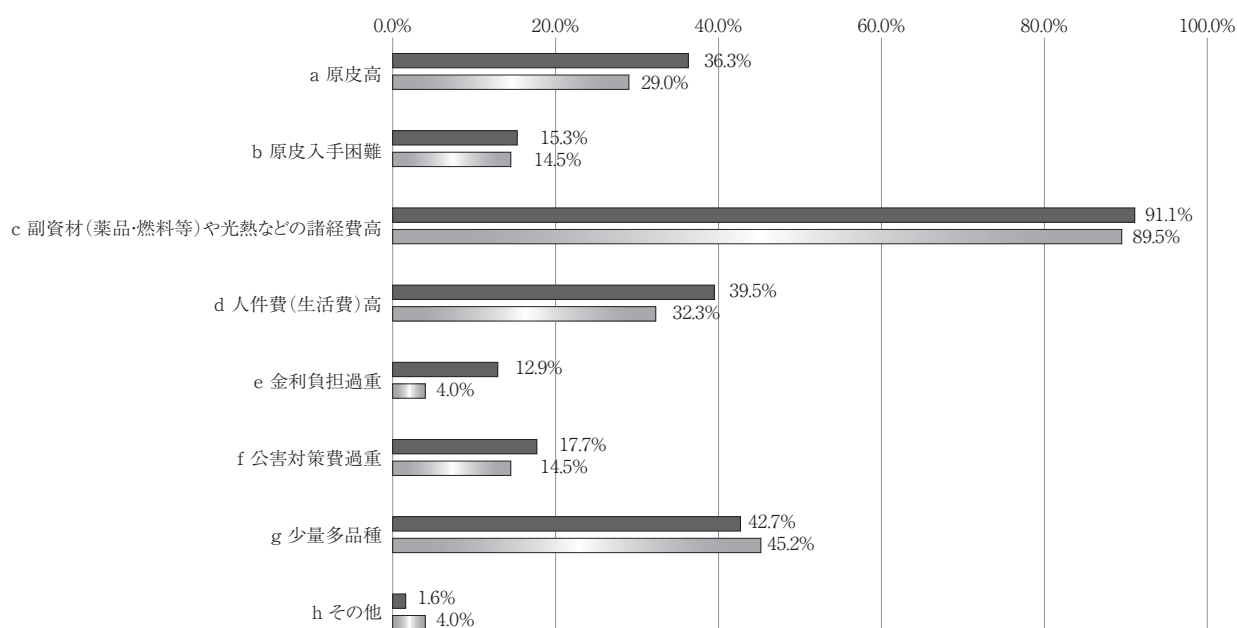


図5-9は前質問で「コスト高で採算が取れない」と回答した124社に対し、改めてその要因を確認した結果で、ここも前年調査結果 (n=124社) との比較を行なった。

その結果、「副資材や光熱などの諸経費高」を挙げた企業が全体の91.1% (前年89.5%) となり、大部分の企業がこの要因を挙げている。次いで「少量多品種」で42.7% (前年45.2%) となった。前者は前年と比べてもさらに回答率を伸ばしており、ほとんどの企業が抱えている課題となっている。また後者も以前からずっと挙げられている課題であるが、今回は僅かながら前年から2.5ポイント下げた。その他では、「人件費高」が39.5% (前年32.3%)、「原皮高」が36.3% (前年29.0%) などが高い回答率の中で前年の回答率を上回った項目となった。特に「人件費高」は今後もさらに回答率が高まってくることが予想される。

図5-9. コスト高で採算が取れない要因



## 5-2. ビジネス上の通信手段について

今やどのビジネスにおいてもITリテラシーは欠かせない要点となっている。製革業者の現況を見る限りでは、ITリテラシーが高い業界とは決して言えず、今回、その程度を確認する質問として、ビジネス上の通信手段について聞いた。

その結果が図5-10のグラフであるが、「電話」「FAX」の高い回答率は予想できるが、「Eメール」の回答率が全体の40.4%となったことから、まだまだ半数以上の製革業者がこうした通信手段を使えていないことがクローズアップされた。「電話」による連絡や相談事は、通話内容を録音でもしない限り、記録に残らないため、大事な要件となるとこれだけでは対応出来なくなる恐れがある。また「FAX」はその記録には残るが、多くの企業において今や使われていない通信手段であり、また製革業者が「FAX」によるやり取りを要望しても、製品メーカーの見方として、ビジネスに不安を覚える企業も少なくないと思われる。従って「Eメール」によるやり取りは今や最低限のものであり、少なくともここでの回答で80%程度の回答率を得られるような状況に少しでも早くなっていくことが望まれる。また「オンライン会議」が11.5%の回答率となったが、こうしたツールを使いこなせると、特に関西の製革業者などは製品メーカーが関東に多いことも考えれば、その距離感を無くす貴重なツールであることをもっと認識しなければならない。

図5-11は、企業の従業者数別にその回答をみたが、20人以上の従業者数の企業の回答率では、「Eメール」が93.8%、「オンライン会議」も68.8%となり、一般の企業の水準になったが、「Eメール」の使用率を基準として考えると、10人～19人の企業で72.2%、5人～9人の企業で58.3%、そして1人～4人の零細企業では17.9%という回答率となった。やはり10人以下の企業はまだまだ普及していないレベルであり、その10人以下の企業が現在の製革業界のおおよそ80%を占めていることを考えると、何らかの手を打たないと、今後さらにビジネスについていけなくなる製革業者が増えてくること必至である。

図5-12は地区ごとの回答をグラフ化したものである。ここでも「Eメール」の回答率に注目すると、50%以上の回答率となったのが埼玉他地区の88.9%を筆頭に、大阪他地区、東京地区、御着地区、沢田地区の5地区となった。最も低い回答率となったのは誉田地区の21.4%となった。尚、埼玉他地区と大阪他地区は、「オンライン会議」もそれぞれ44.4%と50.0%という回答率となっており、他の地区とは差が付いた結果となっている。

図5-10. 通信手段・企業数集計 (n=270社)

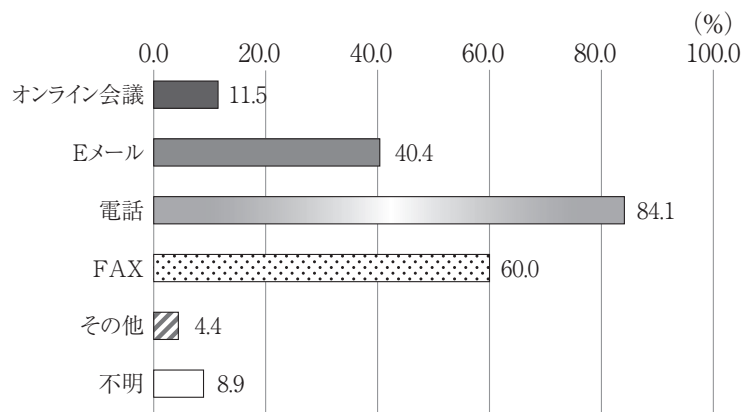


図5-11. 通信手段・従業員数別企業数集計 (n=270社)

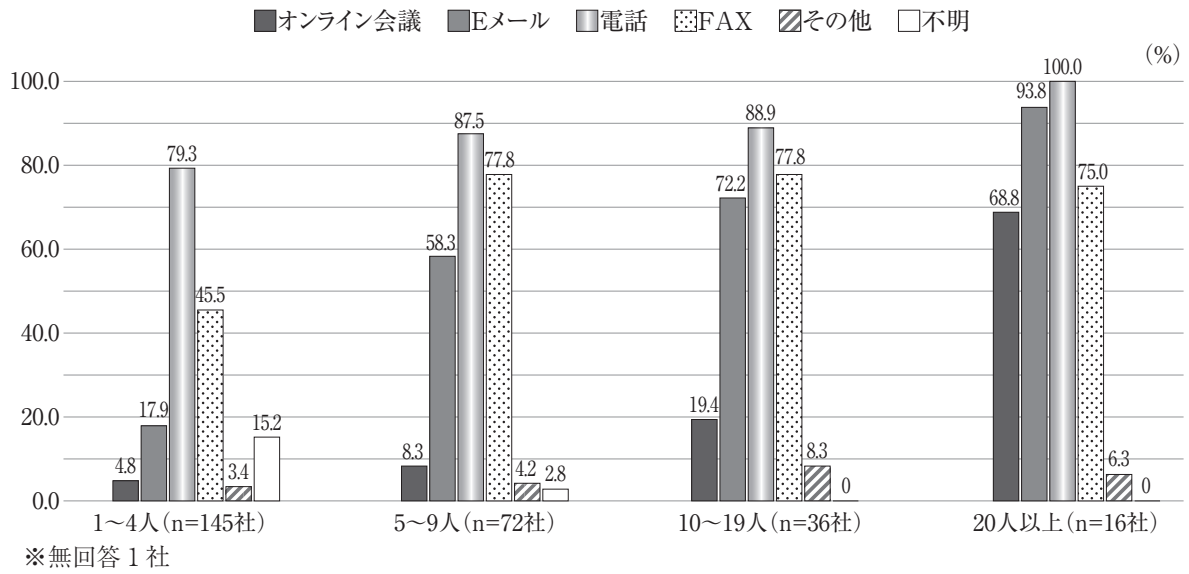
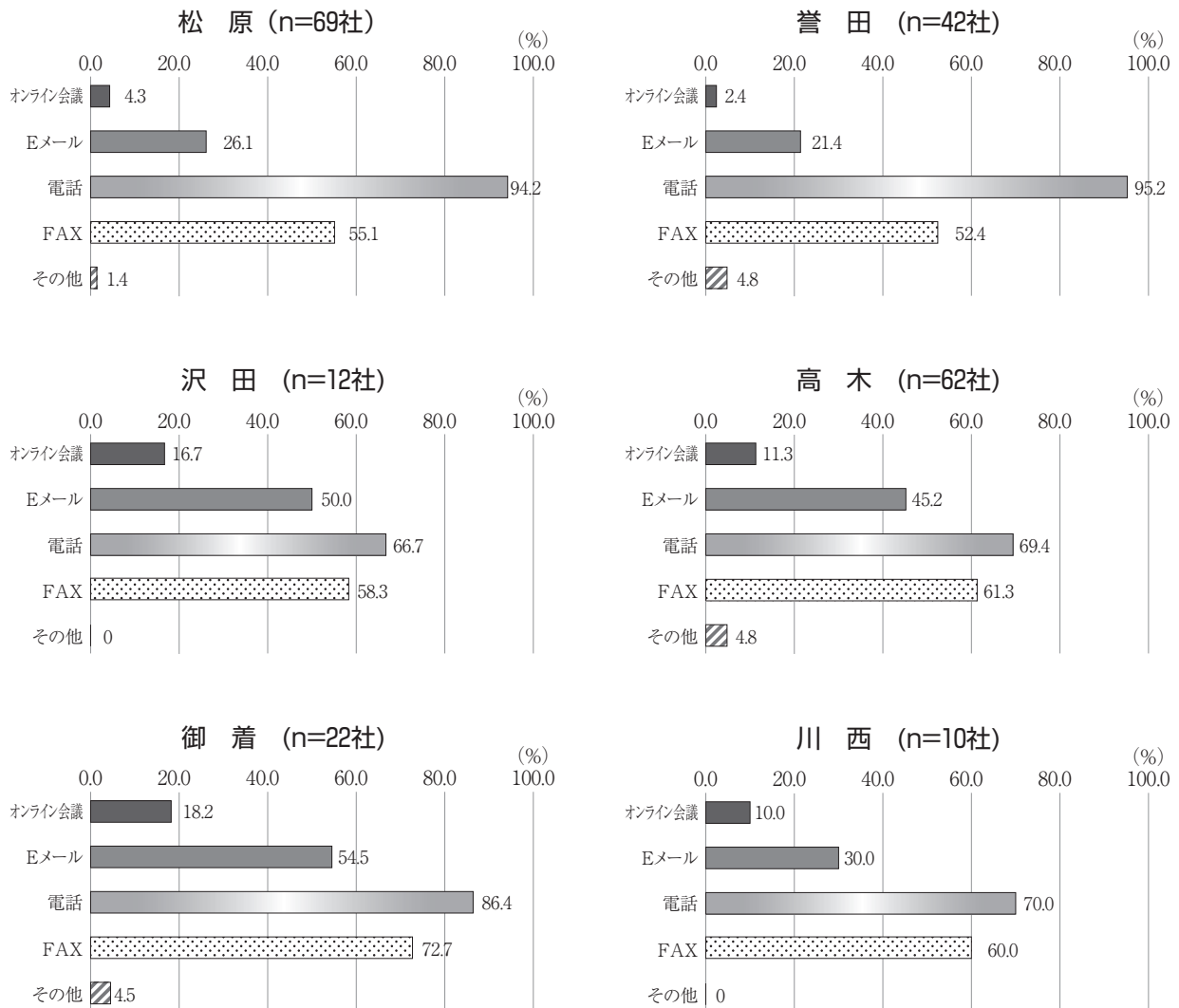
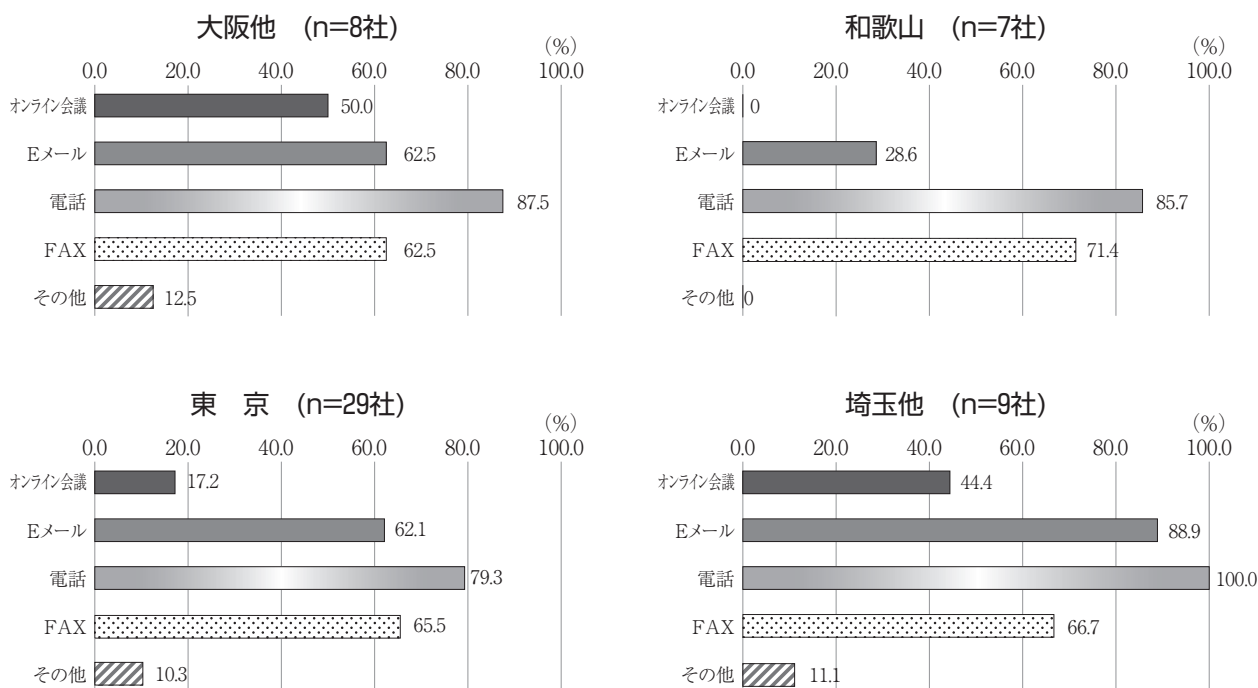


図5-12. 通信手段・地区別集計





### 5-3. 販路開拓のための取組みについて

ビジネスにおいて、コロナ禍の影響はほとんどなくなっているが、主にファッション業界を対象とする既存のビジネスに限界を感じている製革業者も多いと思われる。そのためにも今後のビジネス拡大においては、新たな販路を開拓していく必要がある。現状で、製革業者が販路開拓に向けて、どのような取組みを行っているのか、確認してみた結果が図5-13である。

まず最も多い回答率となったのが「特になし」で全体の38.5%（104社）という回答率となった。業界の3分の1強にあたり製革業者が特に何もせず、目の前のビジネスを粛々とこなしている状況ということで、おそらくこれらの製革業者は先々どんどんビジネスが先細りになっていくことは、製革業界を取り巻く環境の変化を考えれば間違いないであろう。次いで高い回答率となったのは「新商品の開発」であり、全体の32.6%の回答率となった。販路開拓に向けて、この「新商品の開発」という選択がある意味どの企業でも取り組むことは可能であると思われるが、販路開拓を新規販売先開拓と解釈していれば、それでも有効な手段といえようが、ファッション業界以外の業界開拓とみれば、新しい商品を開発しても、業界が違えば誰も気付いてくれない可能性もあり、新たな販路を開拓するやり方としてはあまり効果的ではないと思われる。まずはターゲット（新たな販路）を明確にし、そのターゲットの課題や需要に向けた新商品の開発でなければ、新たな販路の開拓には繋がりにくいと言わざるを得ない。次いで回答率の高かったのは「展示会への出展」で20.7%となった。つまり、「新商品の開発」や「展示会への出展」は受け身の営業であり、自ら販路の開拓を行う時のアプローチとしては、これだけではあまり効果的ではないと思われる。よってこの調査結果からは、「インターネットの販売」以下の項目に対応している企業が、新たな販路の開拓として動いている企業とみることができよう。

ここも従業員数別にそれぞれの企業の回答率をみたのが図5-14であるが、従業員数が20人以

上となると、「インターネットの販売」や「SNSの活用」は40%以上の回答率となり、「異業種とのコラボ」なども18.8%、「SDGsを意識したPR」は25.0%という回答率となっている。また10人～19人規模の企業でも「異業種とのコラボ」が25.0%、「SDGsを意識したPR」は22.2%と、20人以上規模の企業と変わらないレベルで取組みを行っている結果となった。従業員が多い企業は当然販路開拓にかかる費用や人員も充てられるため、こうした動きに取組む事ができるが、製革業者の80%を占める10人以下規模の企業への対策が急務であると言えよう。

また図5-15は地区ごとの回答をグラフ化したものである。総じて見ると、様々な取組みの積極的なのは関東エリアの地区で、埼玉他地区で、「SNSの活用」は33.3%、「異業種とのコラボレーション」は33.3%、「SDGsを意識したPR」は22.2%で、最も高い回答率となっている。また東京地区は、「インターネットの販売」は27.6%、「展示会への出展」は44.8%となっており、他地区と比べて最も高い回答率となっている。逆に「特にない」との回答率においては、誉田地区の69.0%、松原地区の56.5%、御着地区の40.9%などが高い回答率となっている。

図5-13. 販路開拓のための取組み・全体集計 (n=270社)

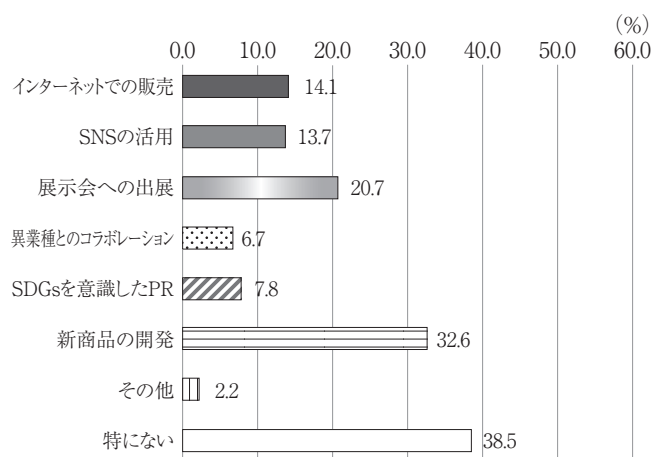
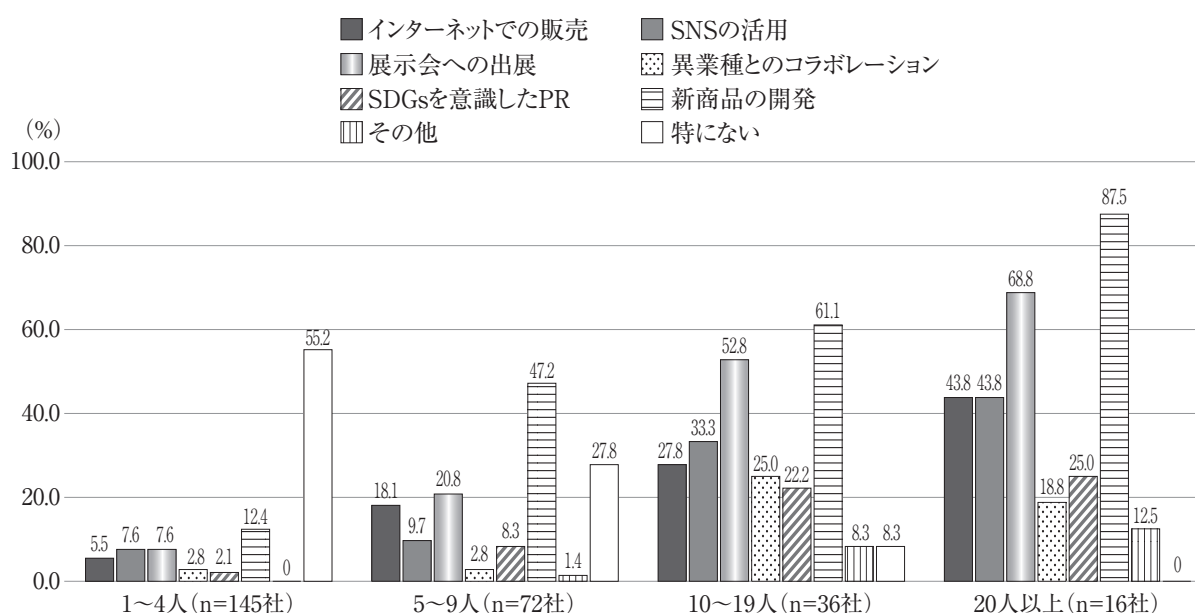
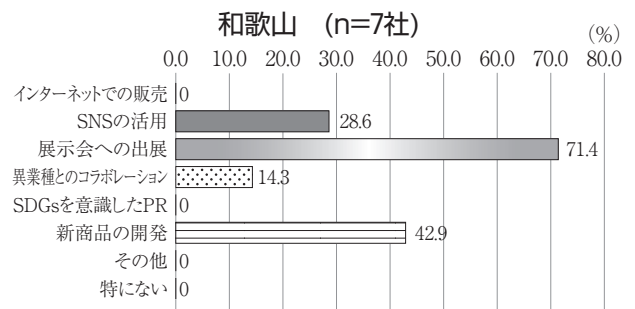
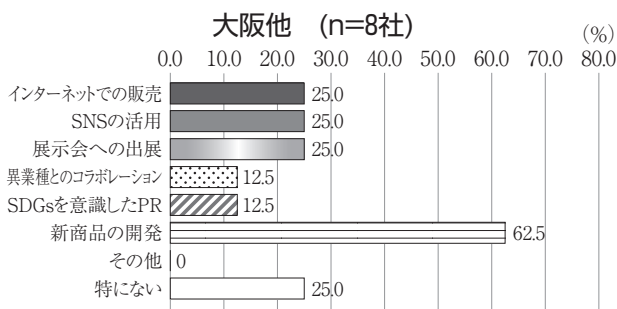
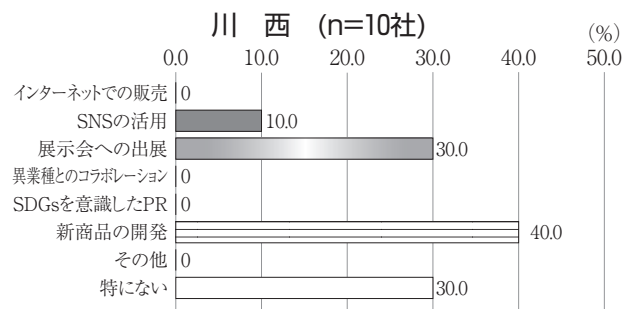
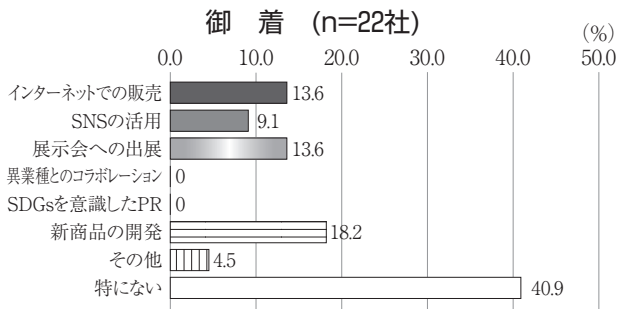
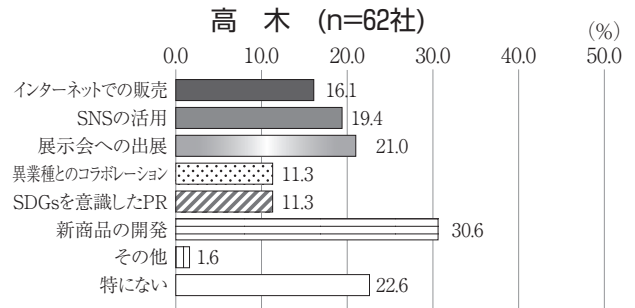
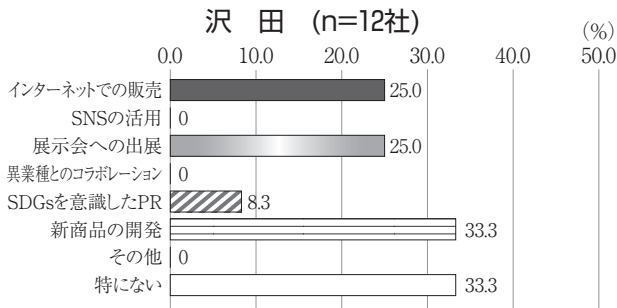
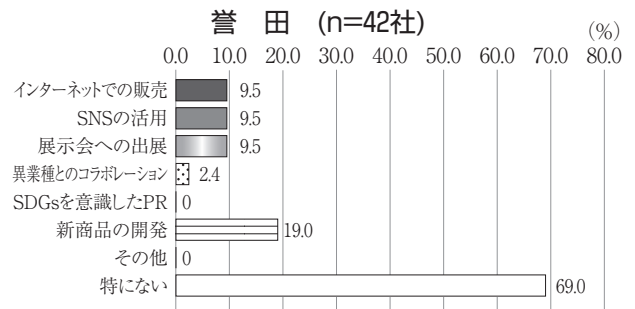
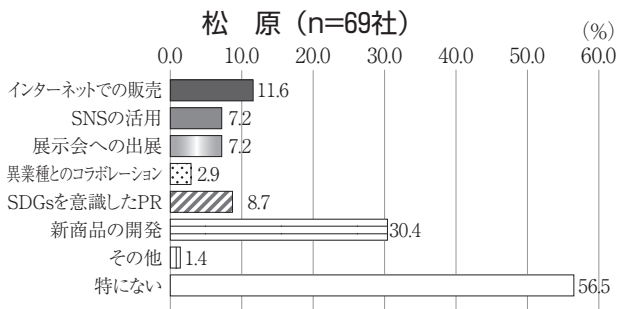


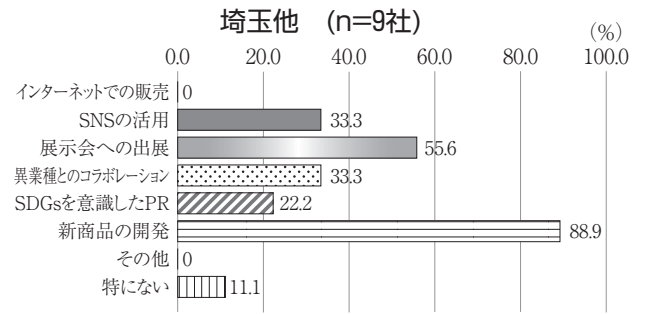
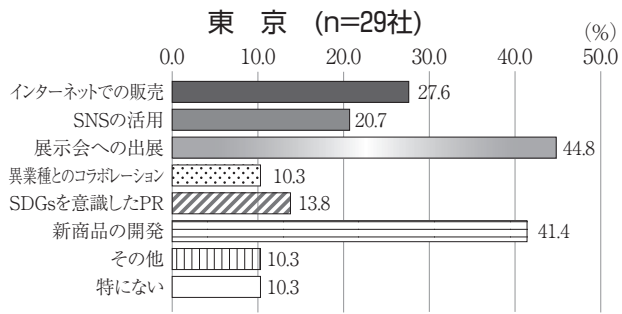
図5-14. 販路開拓のための取組み・従業員数別企業数集計 (n=270社)



※無回答1社

図5-15. 販路開拓のための取組み・地区別集計







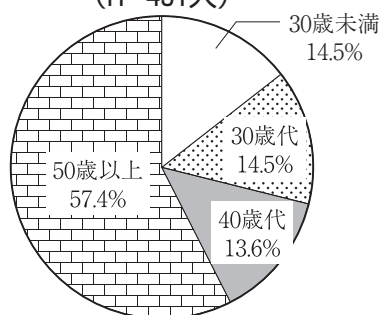
## 6. 地区別集計：①松原地区

### ①製革業者データ

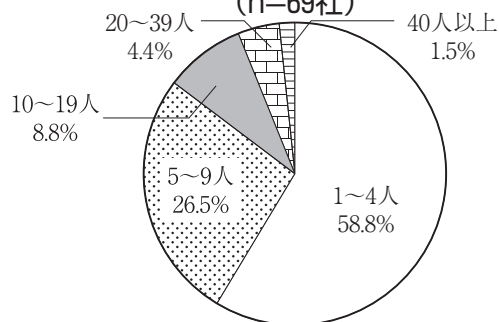
※データはいずれも令和6年調査結果。n数は無回答を除く回答社数

会員数	69社（前年比-5社）
従業者数	491人（前年比：-17人）
性別構成	男性：280人 女性：211人
平均従業者数/1社	7.1人（前年比+0.2人）

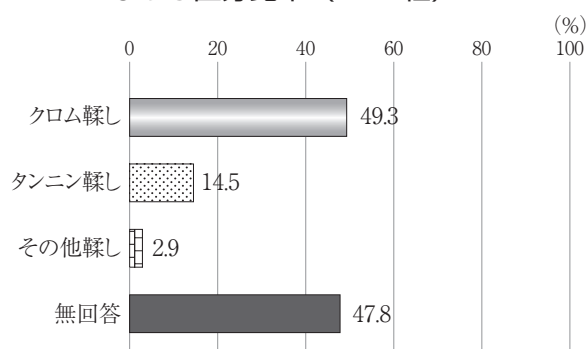
従業者年代別構成比  
(n=491人)



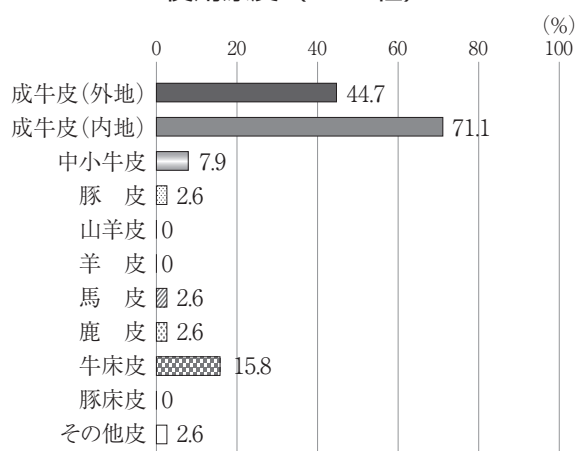
従業者数規模別構成比  
(n=69社)



なめし区分比率 (n=69社)

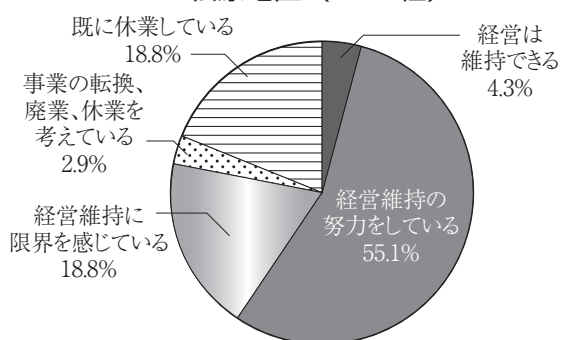


使用原皮 (n=38社)

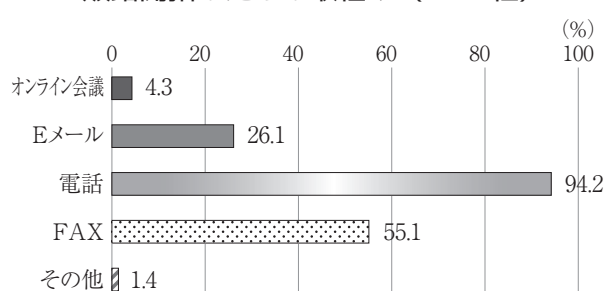


### 〈経営状況・取組み〉

松原地区 (n=69社)

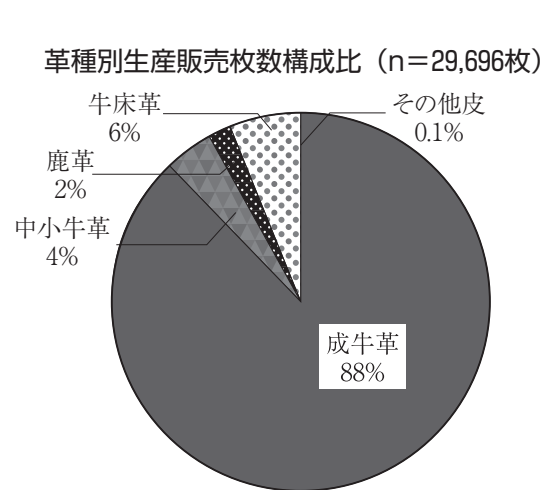


販路開拓のための取組み (n=69社)



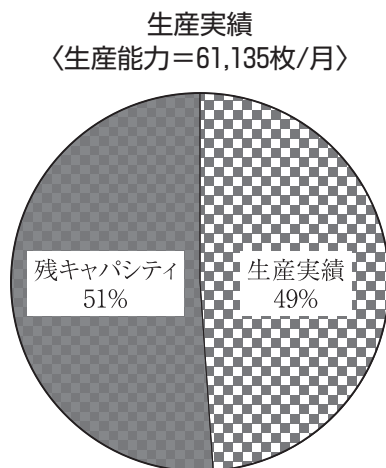
## ②生産販売データ

生産販売枚数（月産 / 丸革）	29,696 枚 / 月（前年比▲ 16,958 枚 / 月）
仕向け先構成比	国内向け：96.6% 輸出：3.4%



(枚 / 月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	26,281	88.5%
中小牛革	1,200	4.0%
豚革	0	-
山羊革	0	-
羊革	0	-
馬革	0	-
鹿革	500	1.7%
牛床革	1,690	5.7%
豚床革	0	-
その他革	25	0.1%
計	29,696	100.0%

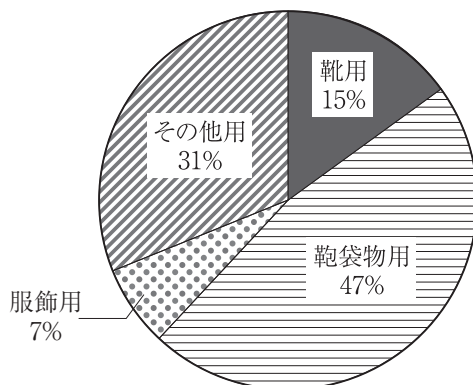


(枚 / 月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	55,720	26,465	47.5%
中小牛革	1,375	1,250	90.9%
豚革	0	0	-
山羊・羊革	0	0	-
馬革	140	70	50.0%
鹿革	1,000	500	50.0%
牛床革	2,900	1,690	58.3%
その他革	50	0	0.0%
計	61,185	29,975	49.0%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

## 用途別生産販売枚数構成比（n=29,696枚）



(枚 / 月産) 丸革

用途	生産販売枚数	構成比
靴用	4,568	15.4%
鞆袋物用	13,868	46.7%
服飾用	2,200	7.4%
その他用	9,060	30.5%
計	29,696	100.0%

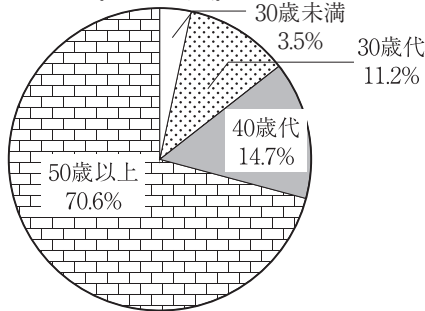
## 6. 地区別集計：②誉田地区

### ①製革業者データ

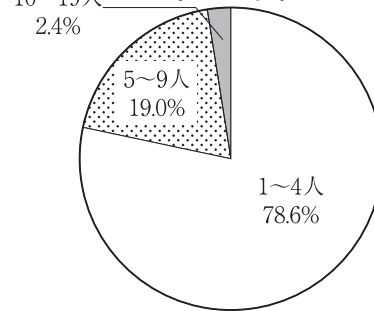
※データはいずれも令和6年調査結果。n数は無回答を除く回答社数

会員数	43社（前年比-1社）	※回答社数42社
従業者数	143人（前年比：-18人）	
性別構成	男性：91人 女性：52人	
平均従業者数/1社	3.4人（前年比-0.3人）	

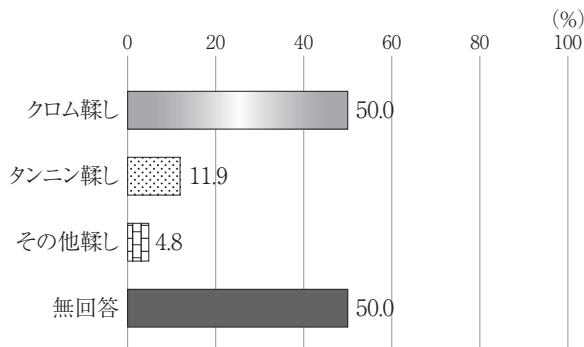
従業者年代別構成比  
(n=143人)



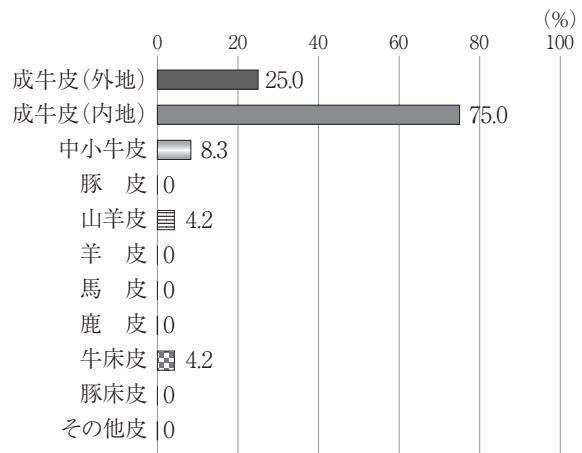
従業者数規模別構成比  
(n=42社)



なめし区分比率 (n=42社)

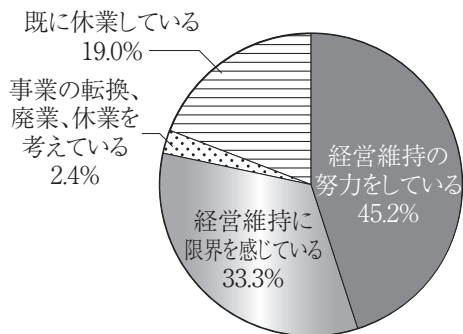


使用原皮 (n=24社)

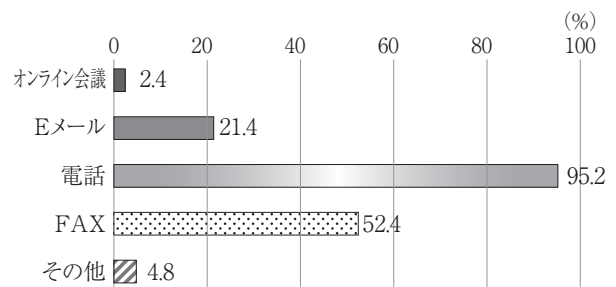


### 〈経営状況・取組み〉

誉田地区 (n=42社)



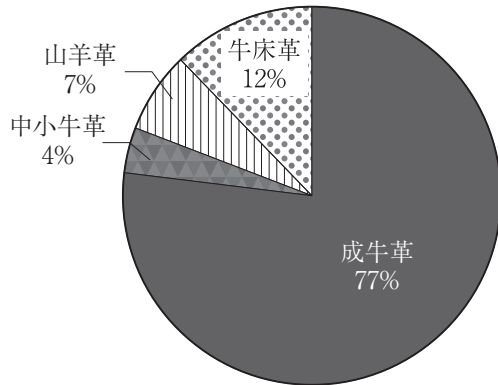
販路開拓のための取組み (n=42社)



## ②生産販売データ

生産販売枚数（月産 / 丸革）	9,193 枚 / 月（前年比▲ 2,163 枚 / 月）
仕向け先構成比	国内向け：100.0% 輸出：0.0%

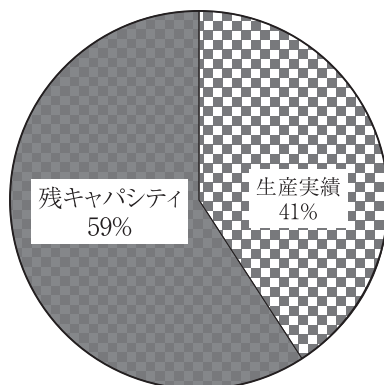
革種別生産販売枚数構成比（n=9,193枚）



(枚 / 月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	7,113	77.4%
中小牛革	380	4.1%
豚革	0	-
山羊革	600	6.5%
羊革	0	-
馬革	0	-
鹿革	0	-
牛床革	1,100	12.0%
豚床革	0	-
その他革	0	-
計	9,193	100.0%

生産実績  
〈生産能力=23,650枚/月〉

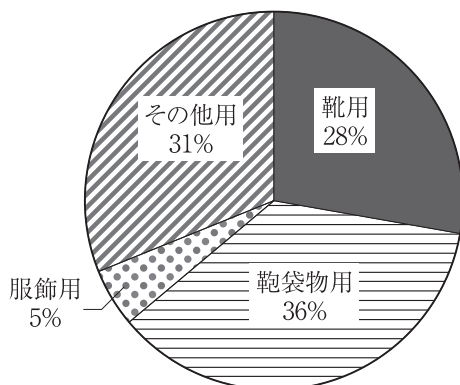


(枚 / 月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	18,550	7,390	39.8%
中小牛革	1,100	480	43.6%
豚革	0	0	-
山羊・羊革	1,000	600	60.0%
馬革	0	0	-
鹿革	0	0	-
牛床革	3,000	1,200	40.0%
その他革	0	0	-
計	23,650	9,670	40.9%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

用途別生産販売枚数構成比（n=9,193枚）



(枚 / 月産) 丸革

用途	生産販売枚数	構成比
靴用	2,570	28.0%
鞆袋物用	3,283	35.7%
服飾用	500	5.4%
その他用	2,840	30.9%
計	9,193	100.0%

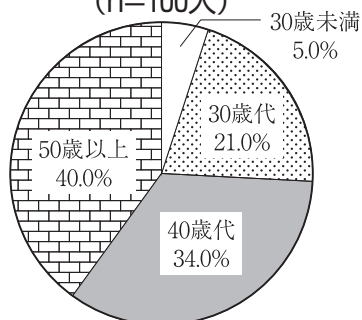
## 6. 地区別集計：③沢田地区

### ①製革業者データ

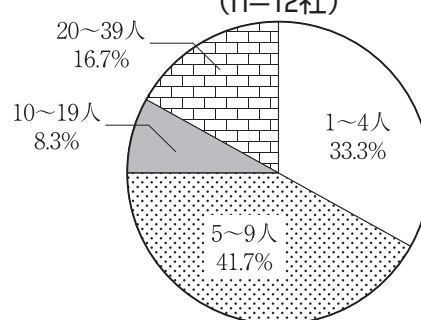
※データはいずれも令和6年調査結果。n数は無回答を除く回答社数

会員数	12社（前年比－2社）
従業者数	100人（前年比：－4人）
性別構成	男性：65人 女性：35人
平均従業者数 / 1社	8.3人（前年比＋0.9人）

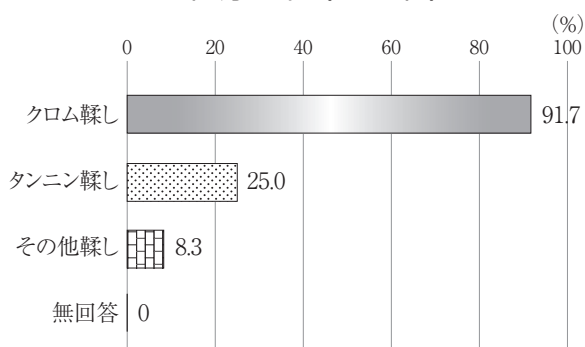
従業者年代別構成比  
(n=100人)



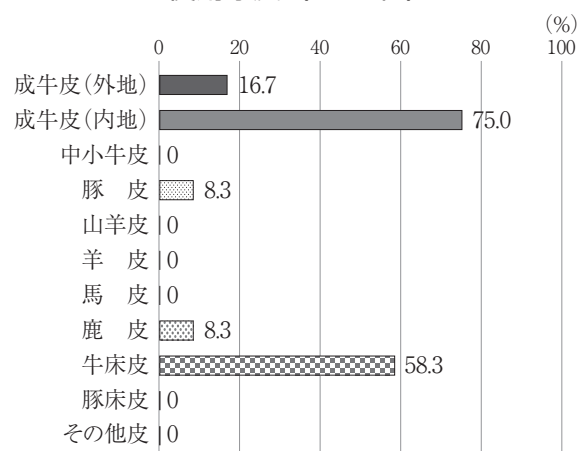
従業者数規模別構成比  
(n=12社)



なめし区分比率 (n=12社)

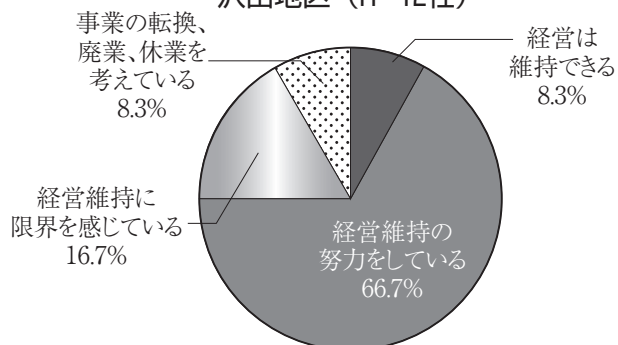


使用原皮 (n=12社)

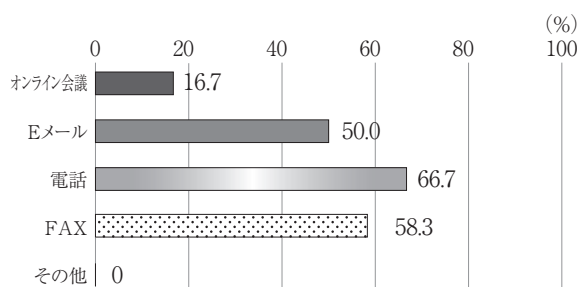


### 〈経営状況・取組み〉

沢田地区 (n=12社)



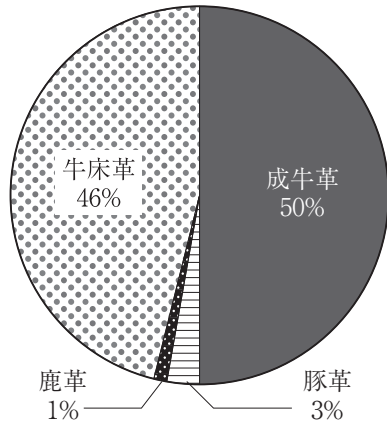
販路開拓のための取組み (n=12社)



## ②生産販売データ

生産販売枚数（月産 / 丸革）	13,395 枚 / 月（前年比 +3,115 枚 / 月）
仕向け先構成比	国内向け：90.7% 輸出：9.3%

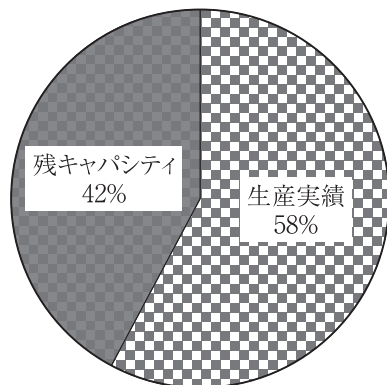
革種別生産販売枚数構成比（n=13,395枚）



(枚 / 月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	6,645	49.6%
中小牛革	0	-
豚革	450	3.4%
山羊革	0	-
羊革	0	-
馬革	0	-
鹿革	200	1.5%
牛床革	6,100	45.5%
豚床革	0	-
その他革	0	-
計	13,395	100.0%

生産実績  
〈生産能力=23,380枚/月〉

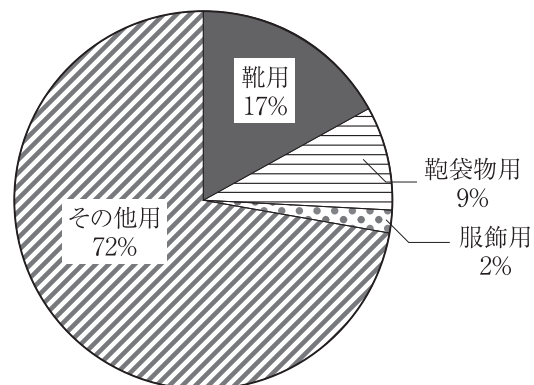


(枚 / 月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	12,280	6,760	55.0%
中小牛革	0	0	-
豚革	500	450	90.0%
山羊・羊革	0	0	-
馬革	0	0	-
鹿革	350	200	57.1%
牛床革	10,250	6,100	59.5%
その他革	0	0	-
計	23,380	13,510	57.8%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

用途別生産販売枚数構成比（n=13,395枚）



(枚 / 月産) 丸革

用途	生産販売枚数	構成比
靴用	2,275	17.0%
鞆袋物用	1,250	9.3%
服飾用	300	2.2%
その他用	9,570	71.4%
計	13,395	100.0%

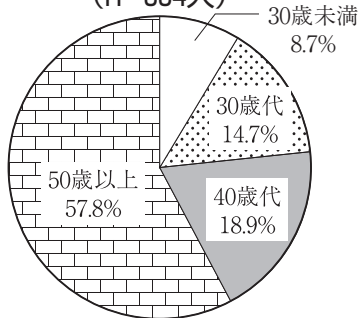
## 6. 地区別集計：④高木地区

### ①製革業者データ

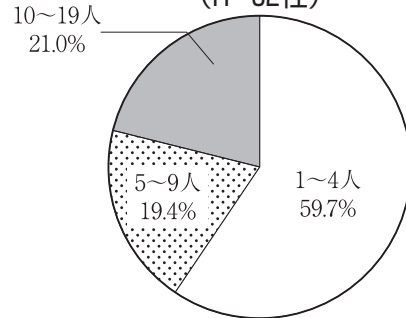
※データはいずれも令和6年調査結果。n数は無回答を除く回答社数

会員数	60社（前年比－2社）	※回答社数62社
従業者数	334人（前年比：+15人）	
性別構成	男性：225人 女性：109人	
平均従業者数/1社	5.4人（前年比+0.2人）	

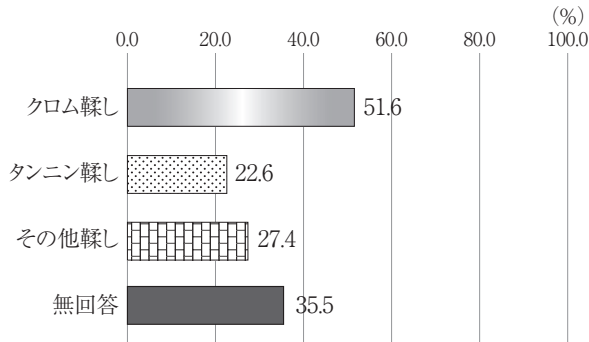
従業者年代別構成比  
(n=334人)



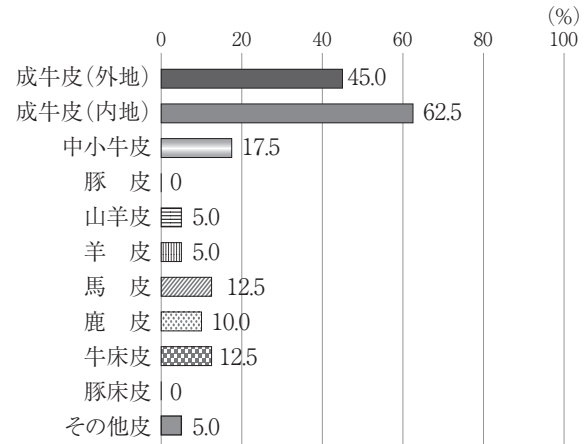
従業者数規模別構成比  
(n=62社)



なめし区分比率 (n=62社)

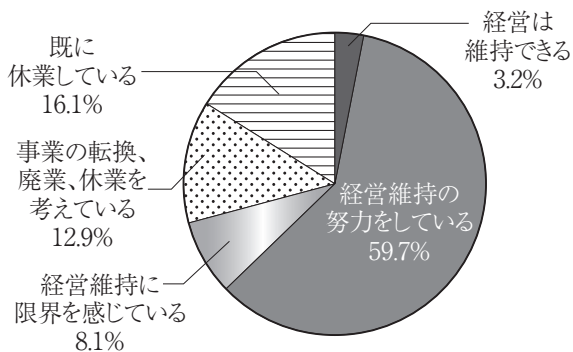


使用原皮 (n=40社)

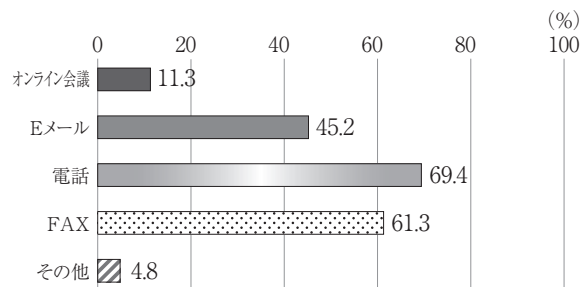


### 〈経営状況・取組み〉

高木地区 (n=62社)

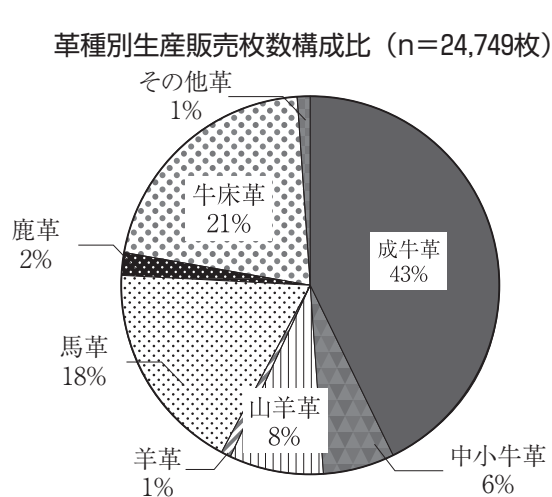


販路開拓のための取組み (n=62社)



## ②生産販売データ

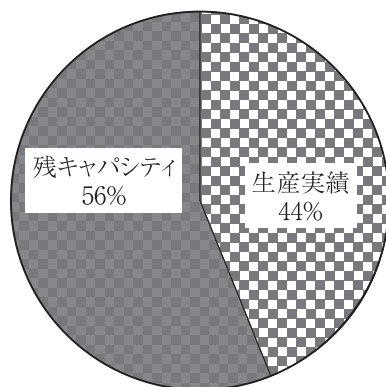
生産販売枚数（月産 / 丸革）	24,749 枚 / 月（前年比▲ 1,799 枚 / 月）
仕向け先構成比	国内向け：95.5% 輸出：4.5%



(枚 / 月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	10,661	43.1%
中小牛革	1,592	6.4%
豚革	0	-
山羊革	2,000	8.1%
羊革	200	0.8%
馬革	4,427	17.9%
鹿革	366	1.5%
牛床革	5,303	21.4%
豚床革	0	-
その他革	200	0.8%
計	24,749	100.0%

生産実績  
〈生産能力=54,956枚/月〉

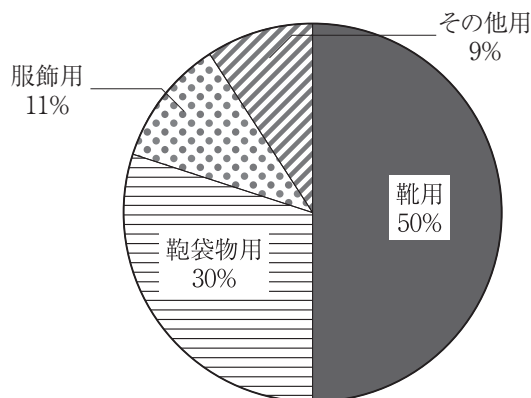


(枚 / 月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	28,825	10,977	38.1%
中小牛革	3,671	1,682	45.8%
豚革	0	0	-
山羊・羊革	4,400	2,200	50.0%
馬革	6,180	3,286	53.2%
鹿革	1,280	406	31.7%
牛床革	10,000	5,300	53.0%
その他革	600	260	43.3%
計	54,956	24,111	43.9%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

用途別生産販売枚数構成比（n=24,749枚）



(枚 / 月産) 丸革

用途	生産販売枚数	構成比
靴用	12,317	49.8%
鞆袋物用	7,568	30.6%
服飾用	2,694	10.9%
その他用	2,170	8.8%
計	24,749	100.0%

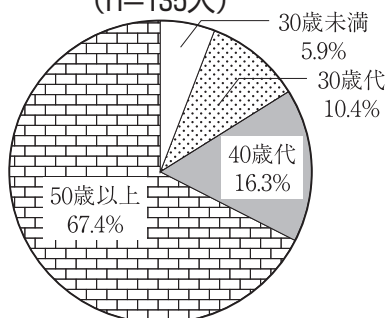
## 6. 地区別集計：⑤御着地区

### ①製革業者データ

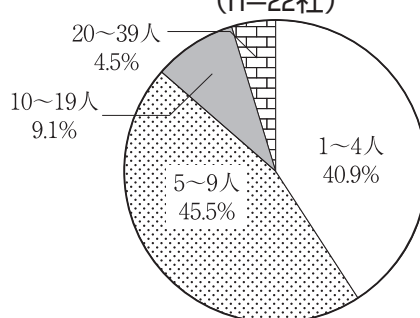
※データはいずれも令和6年調査結果。n数は無回答を除く回答社数

会員数	22社（前年比－2社）
従業者数	135人（前年比：－4人）
性別構成	男性：94人 女性：41人
平均従業者数 / 1社	6.1人（前年比+0.1人）

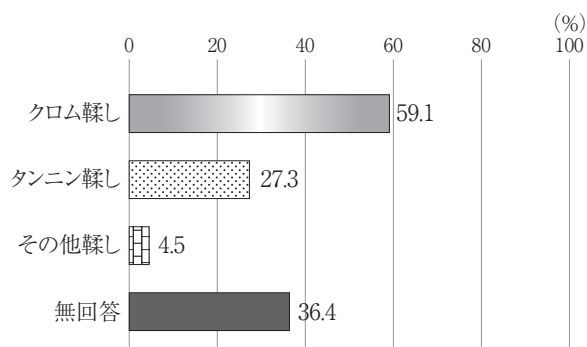
従業者年代別構成比  
(n=135人)



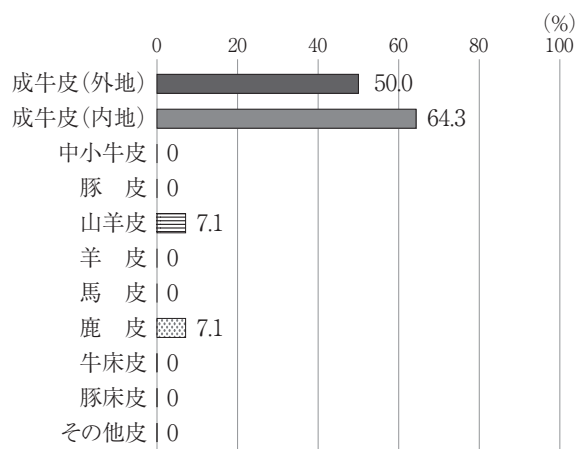
従業者数規模別構成比  
(n=22社)



なめし区分比率 (n=22社)

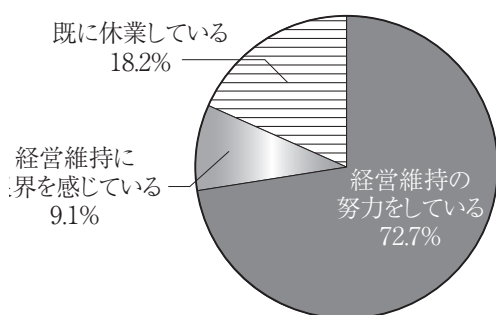


使用原皮 (n=14社)

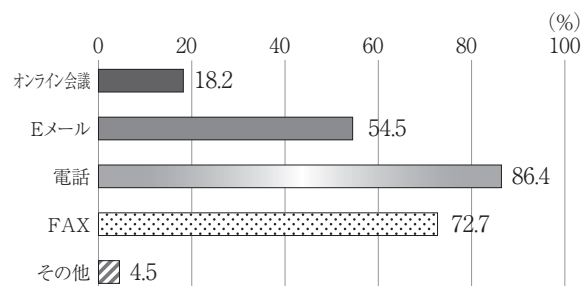


### 〈経営状況・取組み〉

御着 (n=22社)



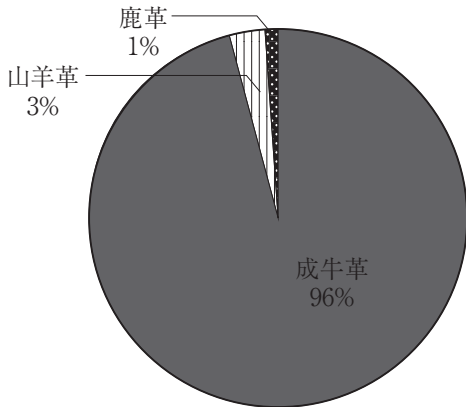
販路開拓のための取組み (n=22社)



## ②生産販売データ

生産販売枚数（月産 / 丸革）	9,983 枚 / 月（前年比▲ 245 枚 / 月）
仕向け先構成比	国内向け：100.0% 輸出：0.0%

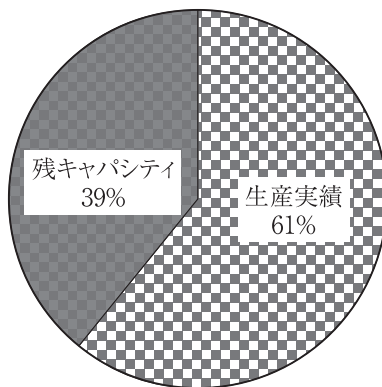
革種別生産販売枚数構成比（n=9,983枚）



(枚 / 月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	9,613	96.3%
中小牛革	0	-
豚革	0	-
山羊革	300	3.0%
羊革	0	-
馬革	0	-
鹿革	70	0.7%
牛床革	0	-
豚床革	0	-
その他革	0	-
計	9,983	100.0%

生産実績  
〈生産能力=16,415枚/月〉

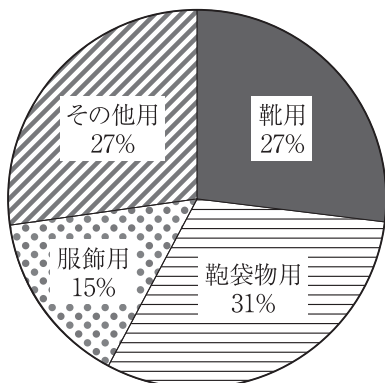


(枚 / 月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	15,190	9,408	61.9%
中小牛革	0	0	-
豚革	0	0	-
山羊・羊革	925	500	54.1%
馬革	0	0	-
鹿革	300	100	33.3%
牛床革	0	0	-
その他革	0	0	-
計	16,415	10,008	61.0%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

用途別生産販売枚数構成比（n=9,983枚）



(枚 / 月産) 丸革

用途	生産販売枚数	構成比
靴用	2,690	26.9%
鞆袋物用	3,090	31.0%
服飾用	1,480	14.8%
その他用	2,723	27.3%
計	9,983	100.0%

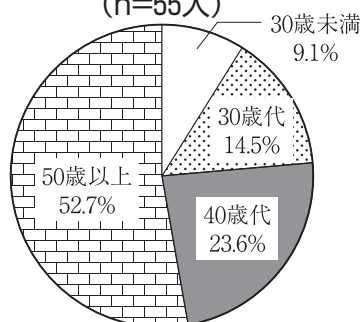
## 6. 地区別集計：⑥川西地区

### ①製革業者データ

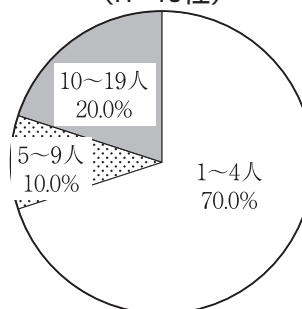
※データはいずれも令和6年調査結果。n数は無回答を除く回答社数

会員数	10社（前年比±0社）
従業者数	55人（前年比：-4人）
性別構成	男性：39人 女性：16人
平均従業者数/1社	5.5人（前年比-0.4人）

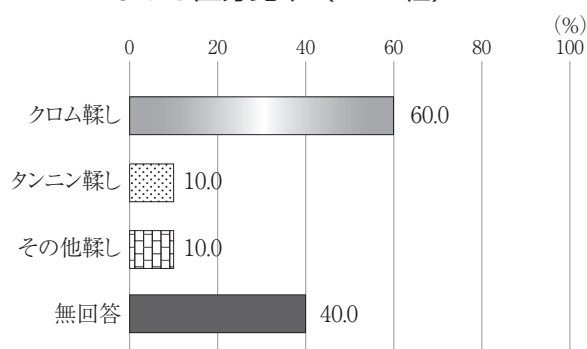
従業者年代別構成比  
(n=55人)



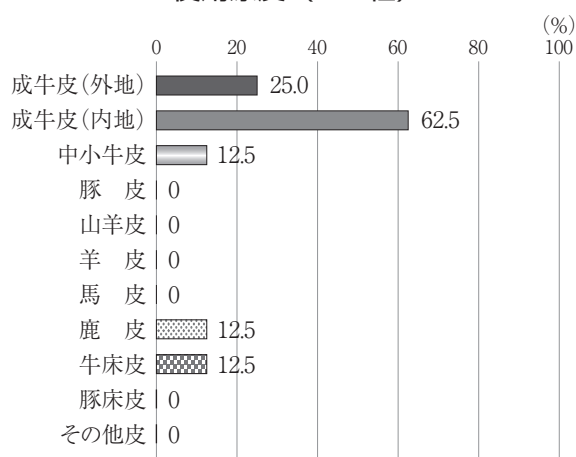
従業者数規模別構成比  
(n=10社)



なめし区分比率 (n=10社)

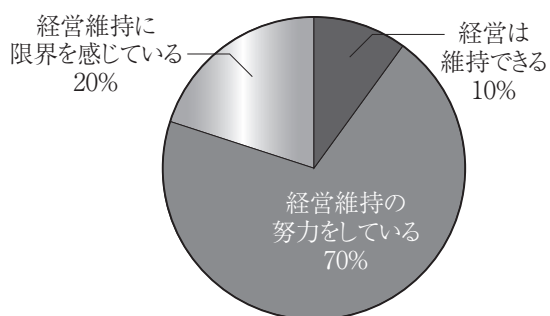


使用原皮 (n=8社)

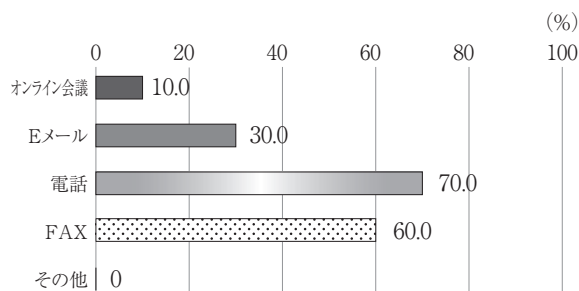


### 〈経営状況・取組み〉

川西地区 (n=10社)



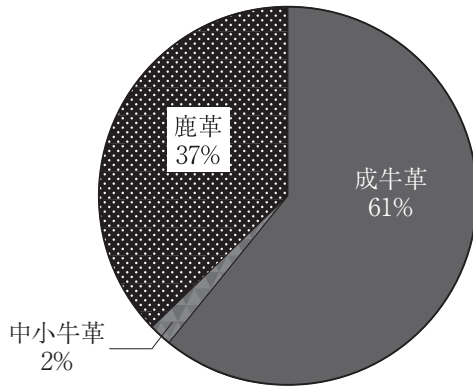
販路開拓のための取組み (n=10社)



## ②生産販売データ

生産販売枚数（月産 / 丸革）	4,090 枚 / 月（前年比▲ 55 枚 / 月）
仕向け先構成比	国内向け：100.0% 輸出：0.0%

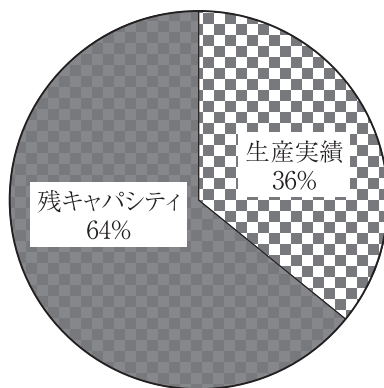
革種別生産販売枚数構成比（n=4,090枚）



(枚 / 月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	2,490	60.9%
中小牛革	100	2.4%
豚革	0	-
山羊革	0	-
羊革	0	-
馬革	0	-
鹿革	1,500	36.7%
牛床革	0	-
豚床革	0	-
その他革	0	-
計	4,090	100.0%

生産実績  
〈生産能力=11,380枚/月〉

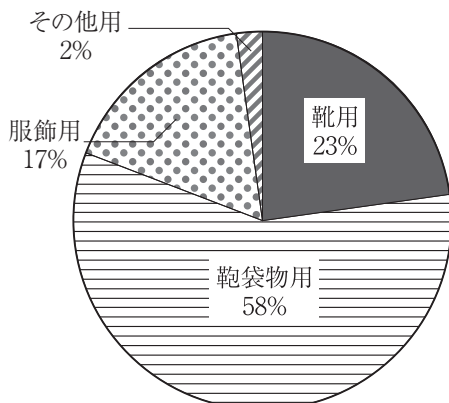


(枚 / 月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	7,280	2,540	34.9%
中小牛革	100	100	100.0%
豚革	0	0	-
山羊・羊革	0	0	-
馬革	0	0	-
鹿革	4,000	1,500	37.5%
牛床革	0	0	-
その他革	0	0	-
計	11,380	4,140	36.4%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

用途別生産販売枚数構成比（n=4,090枚）



(枚 / 月産) 丸革

用途	生産販売枚数	構成比
靴用	950	23.2%
鞆袋物用	2,370	57.9%
服飾用	680	16.6%
その他用	90	2.2%
計	4,090	100.0%

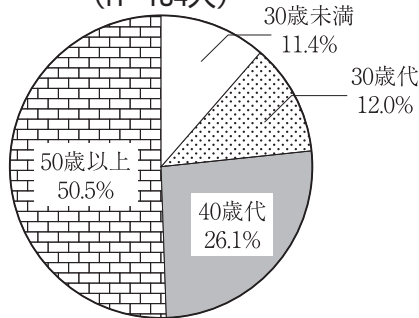
## 6. 地区別集計：⑦大阪他地区

### ①製革業者データ

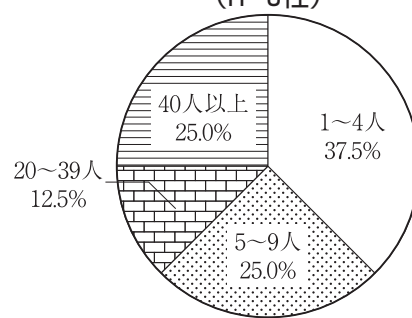
※データはいずれも令和6年調査結果。n数は無回答を除く回答社数

会員数	9社（前年比±0社）	※回答社数8社
従業者数	184人（前年比：+52人）	
性別構成	男性：138人 女性：46人	
平均従業者数/1社	23.0人（前年比+4.1ポイント）	

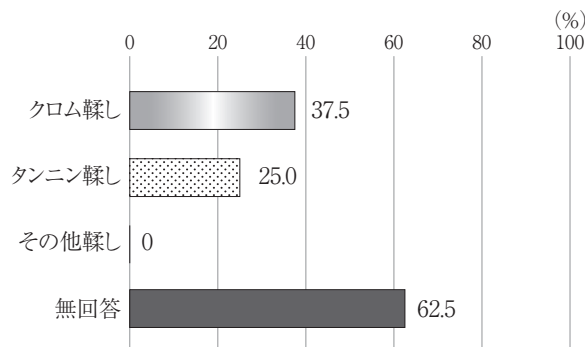
従業者年代別構成比  
(n=184人)



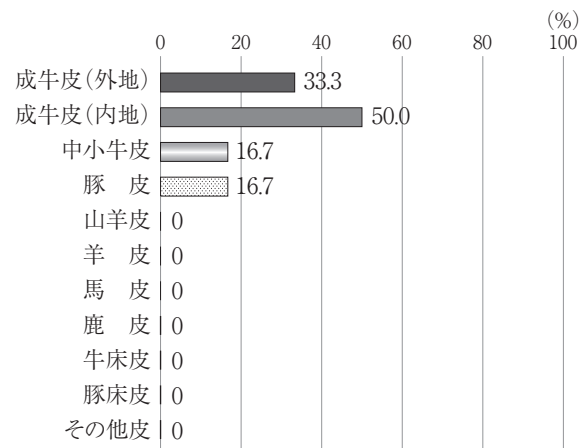
従業者数規模別構成比  
(n=8社)



なめし区分比率 (n=8社)

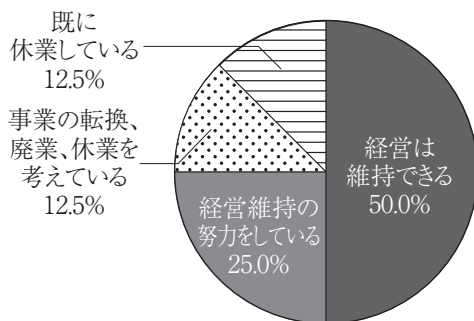


使用原皮 (n=6社)

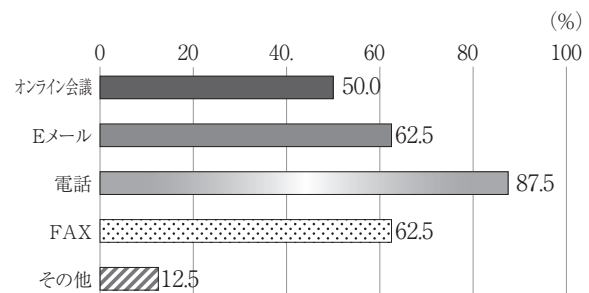


### 〈経営状況・取組み〉

大阪他 (n=8社)



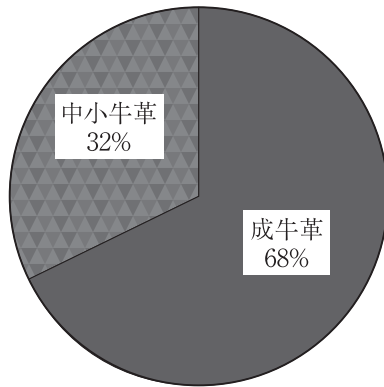
販路開拓のための取組み (n=8社)



## ②生産販売データ

生産販売枚数（月産 / 丸革）	3,103 枚 / 月（前年比▲ 773 枚 / 月）
仕向け先構成比	国内向け：99.5% 輸出：0.5%

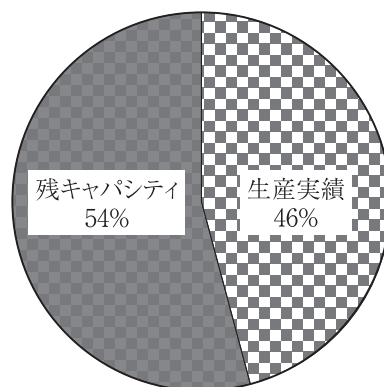
革種別生産販売枚数構成比（n=3,103枚）



(枚 / 月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	2,097	67.6%
中小牛革	1,006	32.4%
豚革	0	-
山羊革	0	-
羊革	0	-
馬革	0	-
鹿革	0	-
牛床革	0	-
豚床革	0	-
その他革	0	-
計	3,103	100.0%

生産実績（令和5年）  
〈生産能力=6,700枚/月〉

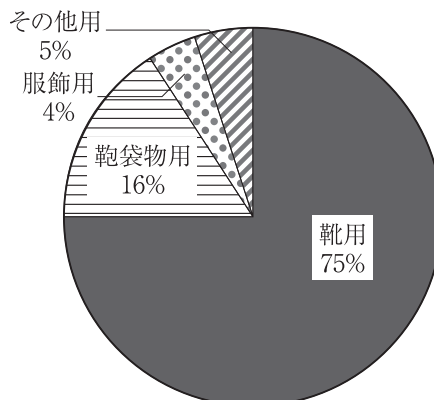


(枚 / 月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	5,500	2,110	38.4%
中小牛革	1,200	1,000	83.3%
豚革	0	0	-
山羊・羊革	0	0	-
馬革	0	0	-
鹿革	0	0	-
牛床革	0	0	-
その他革	0	0	-
計	6,700	3,110	46.4%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

用途別生産販売枚数構成比（n=3,103枚）



(枚 / 月産) 丸革

用途	生産販売枚数	構成比
靴用	2,321	74.8%
鞆袋物用	492	15.9%
服飾用	115	3.7%
その他用	175	5.6%
計	3,103	100.0%

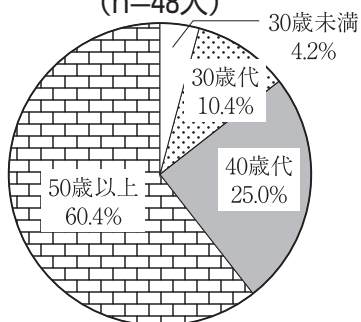
## 6. 地区別集計：⑧和歌山地区

### ①製革業者データ

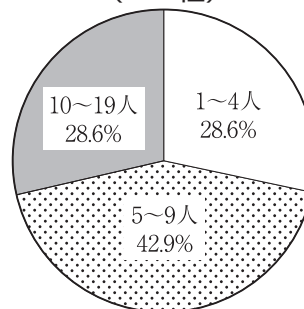
※データはいずれも令和6年調査結果。n数は無回答を除く回答社数

会員数	7社（前年比±0社）
従業者数	48人（前年比：-9人）
性別構成	男性：36人 女性：12人
平均従業者数/1社	6.9人（前年比+1.2人）

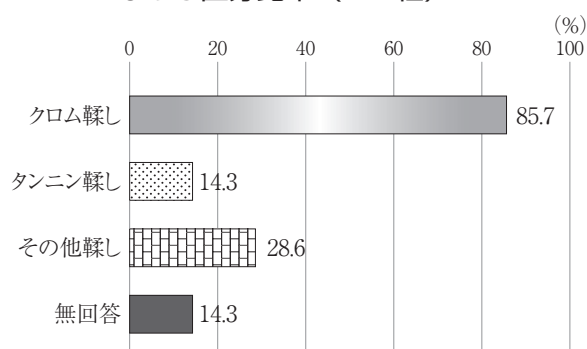
従業者年代別構成比  
(n=48人)



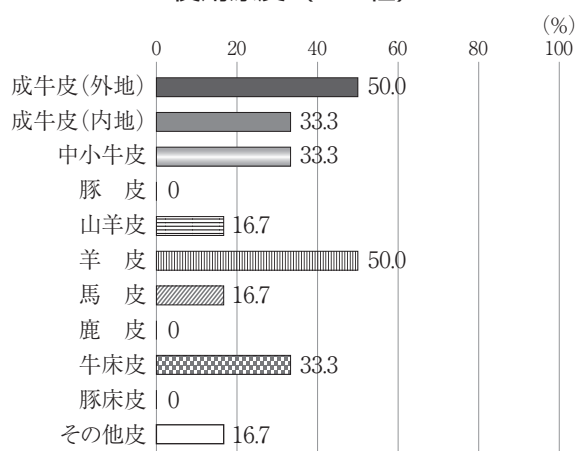
従業者数規模別構成比  
(n=7社)



なめし区分比率 (n=7社)

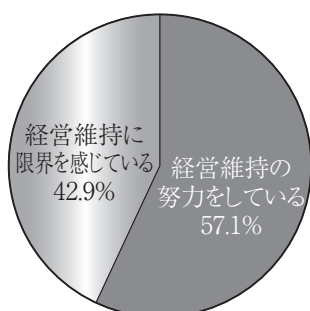


使用原皮 (n=6社)

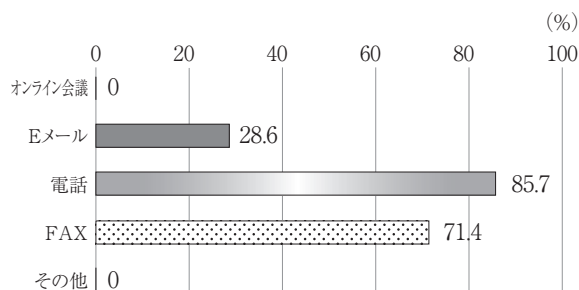


### 〈経営状況・取組み〉

和歌山(n=7社)



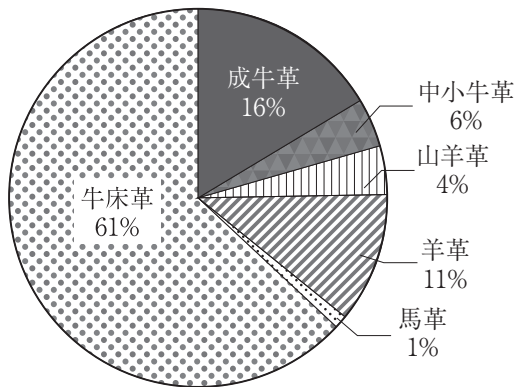
販路開拓のための取組み (n=7社)



## ②生産販売データ

生産販売枚数（月産／丸革）	9,515枚／月（前年比+1,283枚／月）
仕向け先構成比	国内向け：47.5% 輸出：52.5%

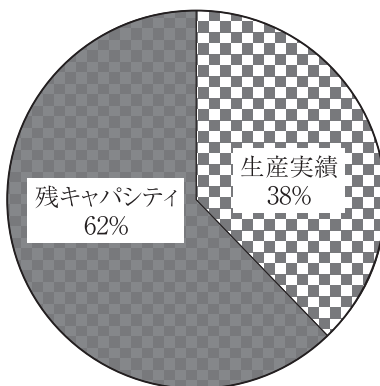
革種別生産販売枚数構成比（n=9,515枚）



(枚／月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	1,520	16.0%
中小牛革	585	6.1%
豚革	0	-
山羊革	400	4.2%
羊革	1,010	10.6%
馬革	100	1.1%
鹿革	0	-
牛床革	5,800	61.0%
豚床革	0	-
その他革	100	1.1%
計	9,515	100.0%

生産実績  
〈生産能力=17,950枚/月〉

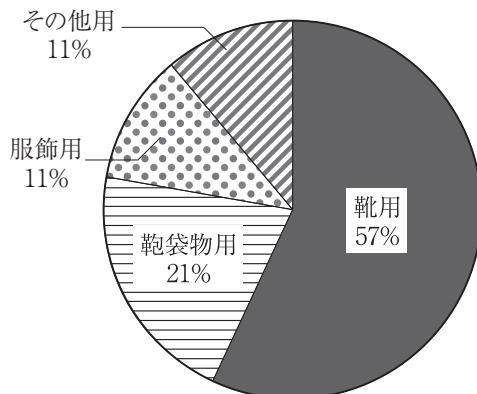


(枚／月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	3,000	925	30.8%
中小牛革	2,650	600	22.6%
豚革	0	0	-
山羊・羊革	4,300	1,408	32.7%
馬革	500	50	10.0%
鹿革	0	0	-
牛床革	7,000	3,700	52.9%
その他革	500	83	16.6%
計	17,950	6,766	37.7%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

用途別生産販売枚数構成比（n=9,515枚）



(枚／月産) 丸革

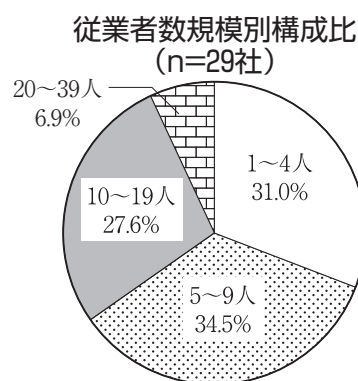
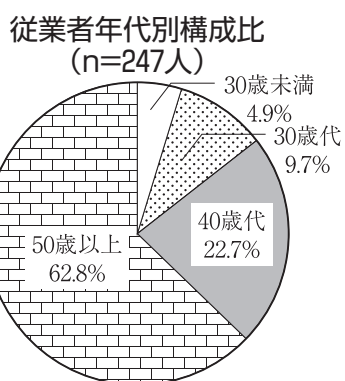
用途	生産販売枚数	構成比
靴用	5,400	56.8%
鞆袋物用	2,040	21.4%
服飾用	1,075	11.3%
その他用	1,000	10.5%
計	9,515	100.0%

## 6. 地区別集計：⑨東京地区

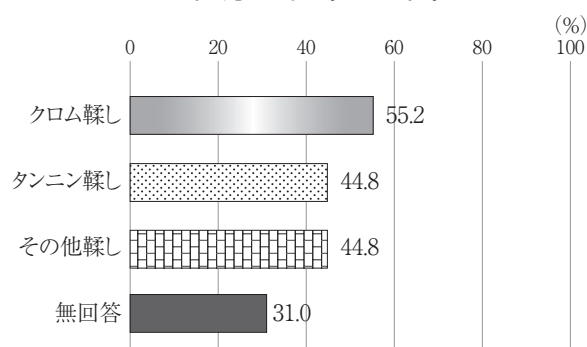
### ①製革業者データ

※データはいずれも令和6年調査結果。n数は無回答を除く回答社数

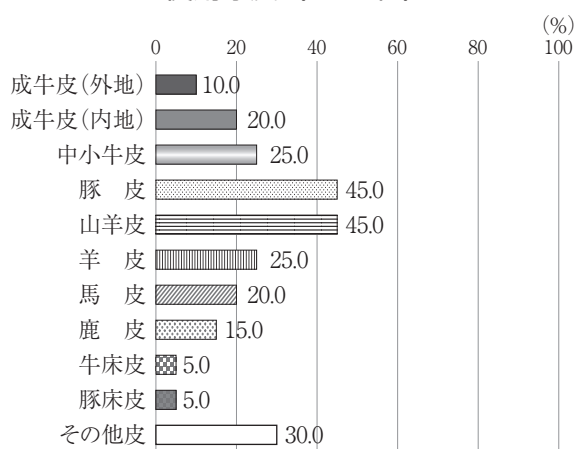
会員数	28社（前年比－1社）	※回答社数29社
従業者数	247人（前年比：－19人）	
性別構成	男性：197人 女性：50人	
平均従業者数/1社	8.5人（前年比+0.6人）	



なめし区分比率 (n=29社)

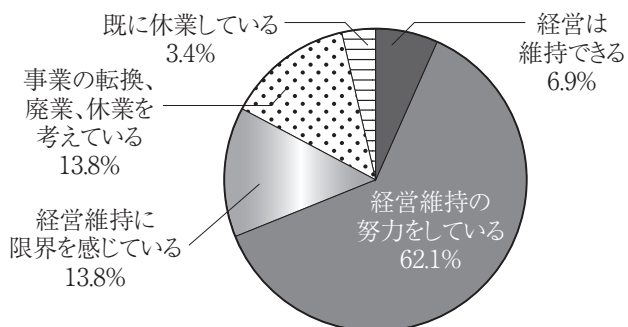


使用原皮 (n=20社)

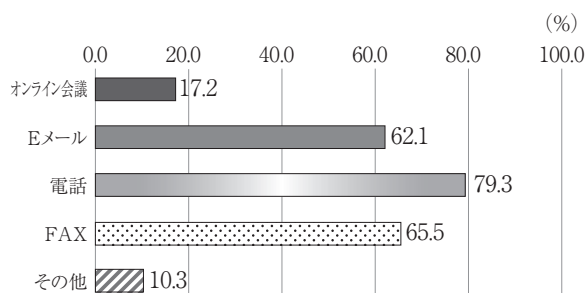


### 〈経営状況・取組み〉

東京 (n=29社)

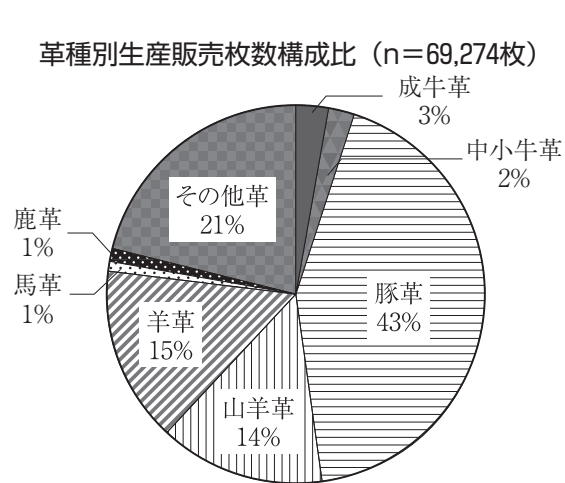


販路開拓のための取組み (n=29社)



## ②生産販売データ

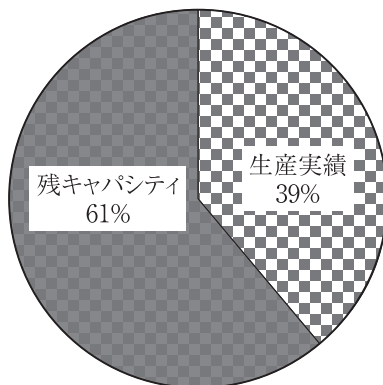
生産販売枚数（月産 / 丸革）	69,274 枚 / 月（前年比 +15,647 枚 / 月）
仕向け先構成比	国内向け：97.8% 輸出：2.2%



(枚 / 月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	1,880	2.7%
中小牛革	1,524	2.2%
豚革	29,595	42.7%
山羊革	9,583	13.8%
羊革	10,746	15.5%
馬革	600	0.9%
鹿革	559	0.8%
牛床革	0	-
豚床革	0	-
その他革	14,787	21.3%
計	69,274	100.0%

生産実績  
〈生産能力=201,330枚/月〉

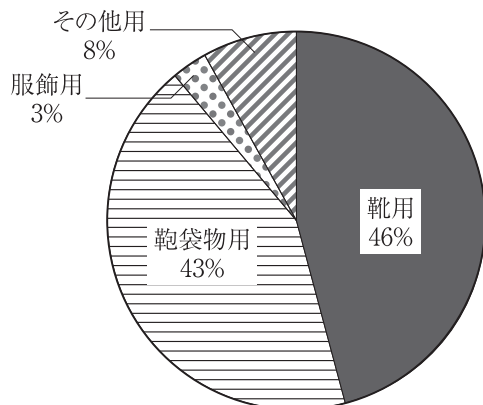


(枚 / 月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	6,100	1,590	26.1%
中小牛革	4,100	1,504	36.7%
豚革	101,800	39,545	38.8%
山羊・羊革	55,800	19,459	34.9%
馬革	1,200	500	41.7%
鹿革	1,330	459	34.5%
牛床革	0	0	-
その他革	31,000	15,677	50.6%
計	201,330	78,734	39.1%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

用途別生産販売枚数構成比（n=69,274枚）



(枚 / 月産) 丸革

用途	生産販売枚数	構成比
靴用	32,130	46.4%
鞆袋物用	29,552	42.7%
服飾用	2,094	3.0%
その他用	5,498	7.9%
計	69,274	100.0%

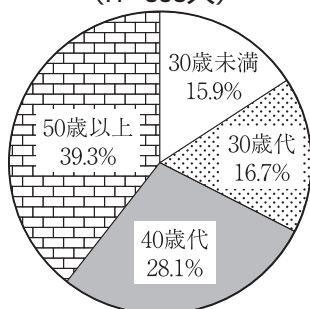
## 6. 地区別集計：⑩埼玉他地区

### ①製革業者データ

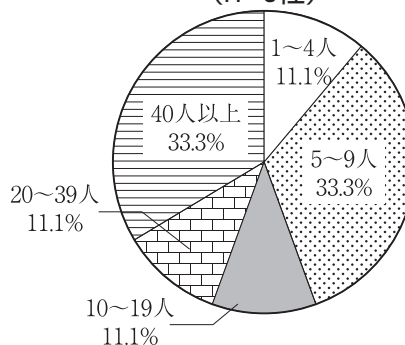
※データはいずれも令和6年調査結果。n数は無回答を除く回答社数

会員数	12社（前年比+1社）	※回答社数9社
従業者数	598人（前年比：-32人）	
性別構成	男性：431人 女性：167人	
平均従業者数/1社	66.4人（前年比-13.9人）	

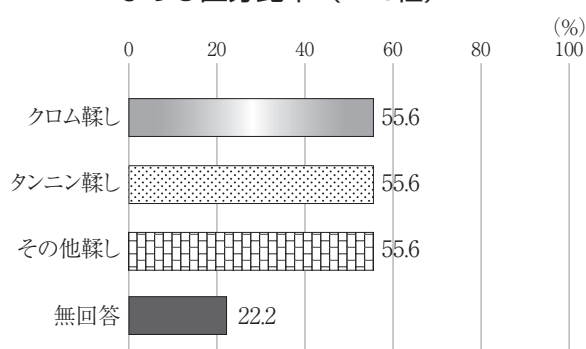
従業者年代別構成比  
(n=598人)



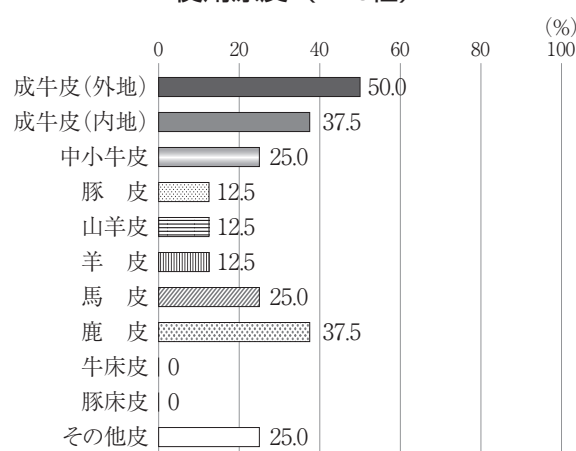
従業者数規模別構成比  
(n=9社)



なめし区分比率 (n=9社)

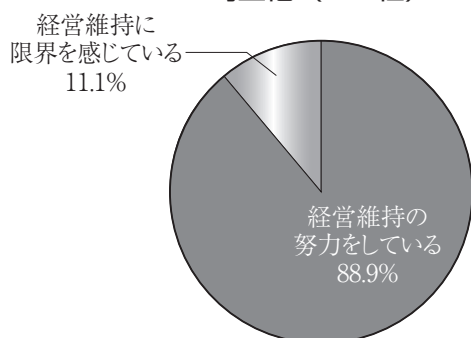


使用原皮 (n=8社)

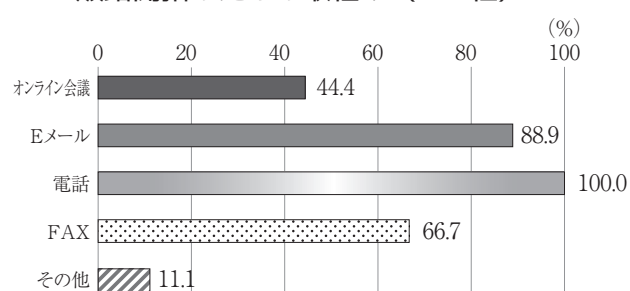


### 〈経営状況・取組み〉

埼玉他 (n=9社)

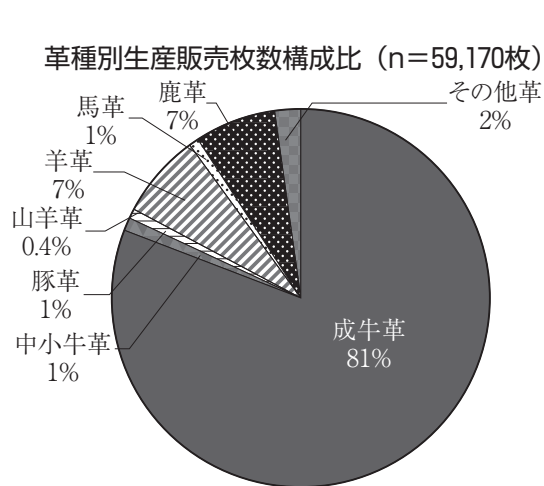


販路開拓のための取組み (n=9社)



## ②生産販売データ

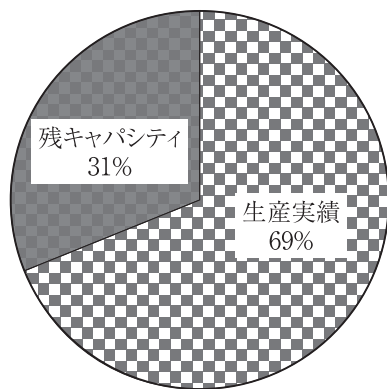
生産販売枚数（月産 / 丸革）	59,170 枚 / 月（前年比▲ 5,802 枚 / 月）
仕向け先構成比	国内向け：100.0% 輸出：0.0%



(枚 / 月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	47,940	81.0%
中小牛革	530	0.9%
豚革	600	1.0%
山羊革	260	0.4%
羊革	3,940	6.7%
馬革	500	0.8%
鹿革	4,300	7.3%
牛床革	0	-
豚床革	0	-
その他革	1,100	1.9%
計	59,170	100.0%

生産実績  
〈生産能力=85,410枚/月〉

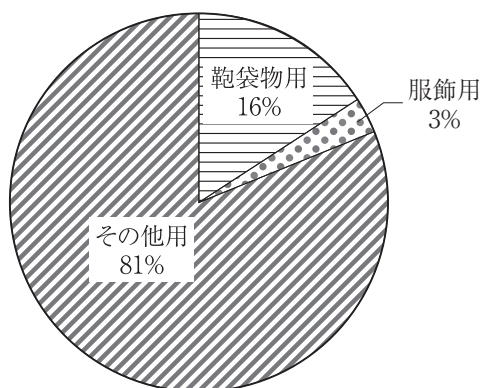


(枚 / 月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	65,950	48,040	72.8%
中小牛革	900	530	58.9%
豚革	900	600	66.7%
山羊・羊革	7,500	4,200	56.0%
馬革	500	500	100.0%
鹿革	8,100	4,300	53.1%
牛床革	0	0	-
その他革	1,560	1,100	70.5%
計	85,410	59,270	69.4%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

用途別生産販売枚数構成比（n=59,170枚）



(枚 / 月産) 丸革

用途	生産販売枚数	構成比
靴用	0	0.0%
鞆袋物用	9,700	16.4%
服飾用	1,770	3.0%
その他用	47,700	80.6%
計	59,170	100.0%

7. 卷末資料

表 7-1. 生産販売実績

(枚)月産/丸革

用途	地区 需要先	松		原		誉		田		沢		田		高		木		御		着		川		西		和歌山		東		京		埼玉		他						
		国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用							
靴	紳士靴	803		420		300		3,148	5	900		200		1,316	15	240																								
	婦人靴	3,155		1,500		140		1,077		913		750		50		300																								
	安全・官需靴					1,000		588								750																								
	スポーツ靴							303	100																															
	その他の靴																																							
	靴裏					55		330			557																													
	靴底				50	30					20				5																									
	ランドセル	50		360					5																															
	かばん	3,425		1,793		400		644			1,192		300		105		210																							
	ハンドバッグ	5,818		570		800		1,215			600		100		55		20																							
小物	4,375		560		50		1,042	5		1,298		370		285																										
服飾ベルト	560						42			950		50		106																										
服料	1,225		500		200		561	1		260		280																												
服飾手袋	200				100							350																												
草履																																								
草履底																																								
グローブミット等運動具	5,230	800	760		880		403	810		400				13																										
手芸工芸			200		50		2			260																														
家具、インテリア	500		400				125			153				147																										
カーシート										100																														
工業手袋等安全具	140				2,640																																			
伝導ベルトサドル																																								
パッキング等工業用																																								
ウエットブルー																																								
その他の																																								
合計	25,481	800	7,113		6,645		9,540	1,121		9,613		2,490		2,082	15	1,520																								

表7-1. 生産販売実績

## 中小牛革

(枚)月産/丸革

用途	地区 需要先	松		原		誉		田		沢		田		高		木		御		着		川		西		和歌山		東		京		埼玉他						
		国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用							
靴	紳士靴	500													994																							
	婦人靴														52																							
	安全・官需靴																																					
	スポーツ靴														6																							
	その他の靴																																					
	靴裏																																					
	靴底																																					
	ランドセル																																					
	かばん															30																						
	ハンドバッグ																																					
鞆袋物	小物																																					
	服飾ベルト																																					
	衣料																																					
	服飾手袋																																					
	草履																																					
	草履底																																					
	グローブミット等運動具	500	200																																			
	手芸工芸																																					
	家具、インテリア																																					
	その他	カーシート																																				
工業手袋等安全具																																						
伝導ベルトサドル																																						
パッキング等工業用																																						
ウエットブル																																						
その他の																																						
合計		1,000	200	380											1,592									100				585	1,520	4				530				















表 7-2. 生産実績内訳

生産実績内訳①

(枚)丸革/月産

種類 地区	成牛革									合 計 枚 数
	クロムなめし			タンニンなめし			染革・その他			
	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	
松 原	20,855	2,700		2,740			70		100	26,465
誉 田	5,380	900	160	950						7,390
沢 田	5,100	1,200		250				50	160	6,760
高 木	3,498	5,136		80	50	250	1,413	100	450	10,977
御 着	5,587	2,956		865						9,408
川 西	2,100	250		50			140			2,540
大阪他	1,020	700		390						2,110
和歌山									925	925
関西計	43,540	13,842	160	5,325	50	250	1,623	150	1,635	66,575
東 京				80			1,260		250	1,590
埼玉他		1,400	10,700	140			100		35,700	48,040
関東計	0	1,400	10,700	220	0	0	1,360	0	35,950	49,630
全国計	43,540	15,242	10,860	5,545	50	250	2,983	150	37,585	116,205

(枚)丸革/月産

種類 地区	中小牛革									合 計 枚 数
	クロムなめし			タンニンなめし			染革・その他			
	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	
松 原	1,000	250								1,250
誉 田	200	180							100	480
沢 田										0
高 木	2	1,264		200	20				196	1,682
御 着										0
川 西	100									100
大阪他	200	800								1,000
和歌山									600	600
関西計	1,502	2,494	0	200	20	0	0	0	896	5,112
東 京									1,504	1,504
埼玉他		330							200	530
関東計	0	330	0	0	0	0	0	0	1,704	2,034
全国計	1,502	2,824	0	200	20	0	0	0	2,600	7,146

(枚)丸革/月産

種類 地区	豚 革									合 計 枚 数
	クロムなめし			タンニンなめし			染革・その他			
	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	
松 原										0
誉 田										0
沢 田		450								450
高 木										0
御 着										0
川 西										0
大阪他										0
和歌山										0
関西計	0	450	0	0	0	0	0	0	0	450
東 京	35,165	30		2,950			400		1,000	39,545
埼玉他				600						600
関東計	35,165	30	0	3,550	0	0	400	0	1,000	40,145
全国計	35,165	480	0	3,550	0	0	400	0	1,000	40,595

## 生産実績内訳②

(枚)丸革/月産

地区	山羊革									合計 枚数
	クロムなめし			タンニンなめし			染革・その他			
	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	
松原										0
誉田									600	600
沢田										0
高木									2,000	2,000
御着			200			100			200	500
川西										0
大阪他										0
和歌山									400	400
関西計	0	0	200	0	0	100	0	0	3,200	3,500
東京		3,000							8,713	11,713
埼玉他									260	260
関東計	0	3,000	0	0	0	0	0	0	8,973	11,973
全国計	0	3,000	200	0	0	100	0	0	12,173	15,473

(枚)丸革/月産

地区	羊革									合計 枚数
	クロムなめし			タンニンなめし			染革・その他			
	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	
松原										0
誉田										0
沢田										0
高木									200	200
御着										0
川西										0
大阪他										0
和歌山		1,000							8	1,008
関西計	0	1,000	0	0	0	0	0	0	208	1,208
東京		2,058							5,688	7,746
埼玉他									3,940	3,940
関東計	0	2,058	0	0	0	0	0	0	9,628	11,686
全国計	0	3,058	0	0	0	0	0	0	9,836	12,894

(枚)丸革/月産

地区	馬革									合計 枚数
	クロムなめし			タンニンなめし			染革・その他			
	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	
松原				70						70
誉田										0
沢田										0
高木	1,796	50		1,440						3,286
御着										0
川西										0
大阪他										0
和歌山				50						50
関西計	1,796	50	0	1,560	0	0	0	0	0	3,406
東京									500	500
埼玉他				400			100			500
関東計	0	0	0	400	0	0	100	0	500	1,000
全国計	1,796	50	0	1,960	0	0	100	0	500	4,406

## 生産実績内訳③

(枚)丸革/月産

種類 地区	鹿 革									合 計 枚 数
	クロムなめし			タンニンなめし			染革・その他			
	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	
松 原	100			300			100			500
誉 田										0
沢 田	100			100						200
高 木	90			286			30			406
御 着		50			50					100
川 西	1,500									1,500
大阪他										0
和歌山										0
関西計	1,790	50	0	686	50	0	130	0	0	2,706
東 京	103						26		330	459
埼玉他	120	100		3,000					1,080	4,300
関東計	223	100	0	3,000	0	0	26	0	1,410	4,759
全国計	2,013	150	0	3,686	50	0	156	0	1,410	7,465

(枚)丸革/月産

種類 地区	牛 床 革									合 計 枚 数
	クロムなめし			タンニンなめし			染革・その他			
	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	
松 原	1,490	200								1,690
誉 田		1,200								1,200
沢 田	2,000	3,300					800			6,100
高 木	3,300	2,000								5,300
御 着										0
川 西										0
大阪他										0
和歌山		3,200							500	3,700
関西計	6,790	9,900	0	0	0	0	0	800	500	17,990
東 京										0
埼玉他										0
関東計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全国計	6,790	9,900	0	0	0	0	0	800	500	17,990

(枚)丸革/月産

種類 地区	豚 床 革									合 計 枚 数
	クロムなめし			タンニンなめし			染革・その他			
	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	原皮から	ウェットブルーから	クラストから	
松 原										0
誉 田										0
沢 田										0
高 木										0
御 着										0
川 西										0
大阪他										0
和歌山										0
関西計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東 京										0
埼玉他										0
関東計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全国計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

生産実績内訳④

(枚)丸革/月産

地区	種類	その他 革								
		クロムなめし			タンニンなめし			染革・その他		合計 枚数
				計			計		計	
松原										0
誉田										0
沢田										0
高木						220			40	260
御着										0
川西										0
大阪他										0
和歌山			83							83
関西計	0	0	83	0	0	220	0	0	40	343
東京			9,977			1,000			4,700	15,677
埼玉他			520			170			410	1,100
関東計	0	0	10,497	0	0	1,170	0	0	5,110	16,777
全国計	0	0	10,580	0	0	1,390	0	0	5,150	17,120

表7-3. なめし革輸入統計 (HSコード: 41.04~41.13の集計)

※数量 (㎡) は判明分のみ集計

	単位	2019	2020	2021	2022	2023	2024
総計	数量 (㎡)	3,044,152	3,664,373	2,261,465	2,060,329	4,581,012	4,349,988
	数量 (kg)	3,758,856	5,149,565	2,955,647	2,795,842	6,057,176	6,428,050
	金額 (1,000 円)	9,851,395	7,209,362	7,612,157	8,483,486	13,987,927	15,514,462
中華人民共和国	数量 (㎡)	849,078	39,997	573,012	572,045	157,627	223,451
	数量 (kg)	821,468	58,914	580,410	555,393	355,303	492,387
	金額 (1,000 円)	3,356,837	249,312	2,170,560	2,352,822	785,571	1,100,928
韓国	数量 (㎡)	105,190	34,497	30,952	34,620	39,871	27,078
	数量 (kg)	169,311	36,042	52,026	68,996	42,557	35,951
	金額 (1,000 円)	187,393	121,859	130,432	134,265	181,144	126,406
ベトナム	数量 (㎡)	435,922	6,118	625,911	506,129	3,913	439
	数量 (kg)	445,623	5,293	676,353	681,664	3,294	455
	金額 (1,000 円)	2,055,512	10,524	1,693,640	2,151,711	12,347	5,358
タイ	数量 (㎡)	201,867	218,577	186,097	170,465	116,291	137,356
	数量 (kg)	201,813	565,817	162,093	166,881	213,992	335,399
	金額 (1,000 円)	1,043,868	388,941	861,815	691,437	212,648	301,059
バングラディシュ	数量 (㎡)	3,579	243,038	12,330	18,404	242,234	217,353
	数量 (kg)	3,196	216,966	11,655	18,382	218,930	202,287
	金額 (1,000 円)	18,240	579,035	52,935	99,673	712,578	664,935
インド	数量 (㎡)	151,124	103,142	5,255	12,641	112,665	108,932
	数量 (kg)	126,883	89,687	2,889	82,921	90,041	98,176
	金額 (1,000 円)	19,908	186,848	9,699	12,853	305,833	302,533
インドネシア	数量 (㎡)	59,726	51,907	30,938	41,790	41,132	24,351
	数量 (kg)	54,375	17,881	43,942	34,578	15,062	11,767
	金額 (1,000 円)	193,683	116,420	101,041	158,804	143,171	135,908
イギリス	数量 (㎡)	1,138	36,058	2,751	1,871	55,334	53,664
	数量 (kg)	1,272	108,009	1,989	1,121	167,088	180,304
	金額 (1,000 円)	10,438	148,516	16,001	14,320	343,218	247,848
フランス	数量 (㎡)	944	24,451	160	190	32,699	26,699
	数量 (kg)	883	24,910	162	230	38,044	32,126
	金額 (1,000 円)	46,375	259,022	9,344	12,317	562,781	578,362
イタリア	数量 (㎡)	1,295	363,855	127	741	436,094	481,570
	数量 (kg)	1,273	539,161	60	206	652,606	727,026
	金額 (1,000 円)	6,193	1,879,312	617	3,798	3,074,905	3,552,816
トルコ	数量 (㎡)	77	36,365	0	0	200,532	280,616
	数量 (kg)	19	32,084	0	0	426,685	633,741
	金額 (1,000 円)	294	116,595	0	0	576,394	820,213
アメリカ	数量 (㎡)	3,496	62,201	2,569	6,529	44,051	60,424
	数量 (kg)	3,246	184,056	1,845	3,905	123,694	224,982
	金額 (1,000 円)	28,645	245,639	17,101	27,482	290,311	380,849
メキシコ	数量 (㎡)	0	1,834,096	112	17	2,311,484	2,112,618
	数量 (kg)	0	2,046,852	101	30	2,114,504	1,955,969
	金額 (1,000 円)	0	1,633,564	290	495	4,383,894	5,113,280
オーストラリア	数量 (㎡)	3,428	202,146	618	583	253,410	191,490
	数量 (kg)	3,512	521,464	301	208	682,929	612,366
	金額 (1,000 円)	9,586	228,372	2,067	2,543	573,421	558,317

## ■革種別集計

※「その他革」の数量 (㎡) は判明分のみ集計

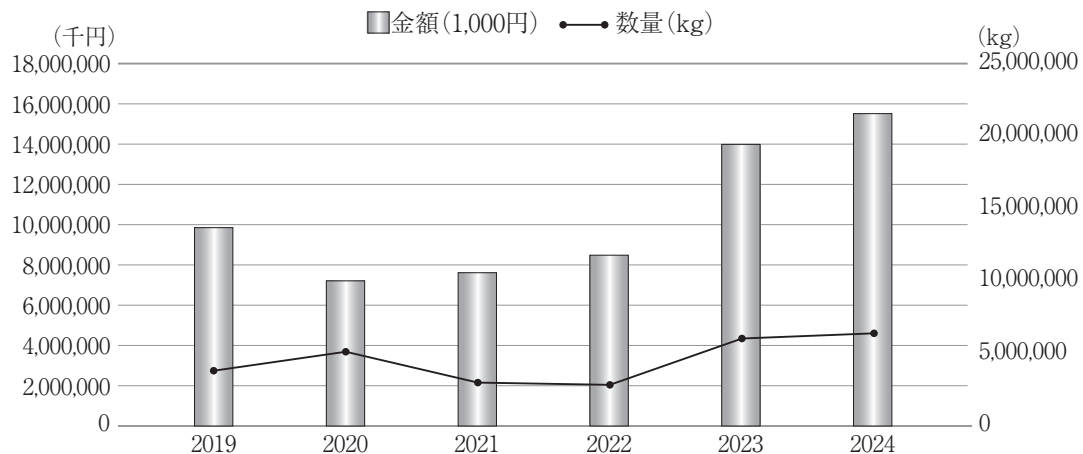
	単位	2019	2020	2021	2022	2023	2024
牛・馬革 41.04、41.07	数量 (㎡)	2,197,934	3,361,332	1,638,787	1,706,254	4,281,691	4,096,628
	数量 (kg)	2,287,578	4,904,701	1,987,599	1,966,495	5,782,922	6,175,974
	金額 (1,000 円)	8,879,325	6,019,943	6,968,861	7,857,501	12,242,302	13,552,703
羊革 41.05、41.12	数量 (㎡)	34,694	178,231	20,804	26,034	208,383	164,844
	数量 (kg)	16,654	123,070	8,004	9,948	158,242	134,131
	金額 (1,000 円)	162,005	400,110	119,118	169,363	644,211	588,040
その他革 41.06、41.13	数量 (㎡)	811,524	124,810	601,874	328,041	90,938	88,516
	数量 (kg)	1,454,624	121,794	960,044	819,399	116,012	117,945
	金額 (1,000 円)	810,065	789,309	524,178	456,622	1,101,414	1,373,719

## ■地域別集計

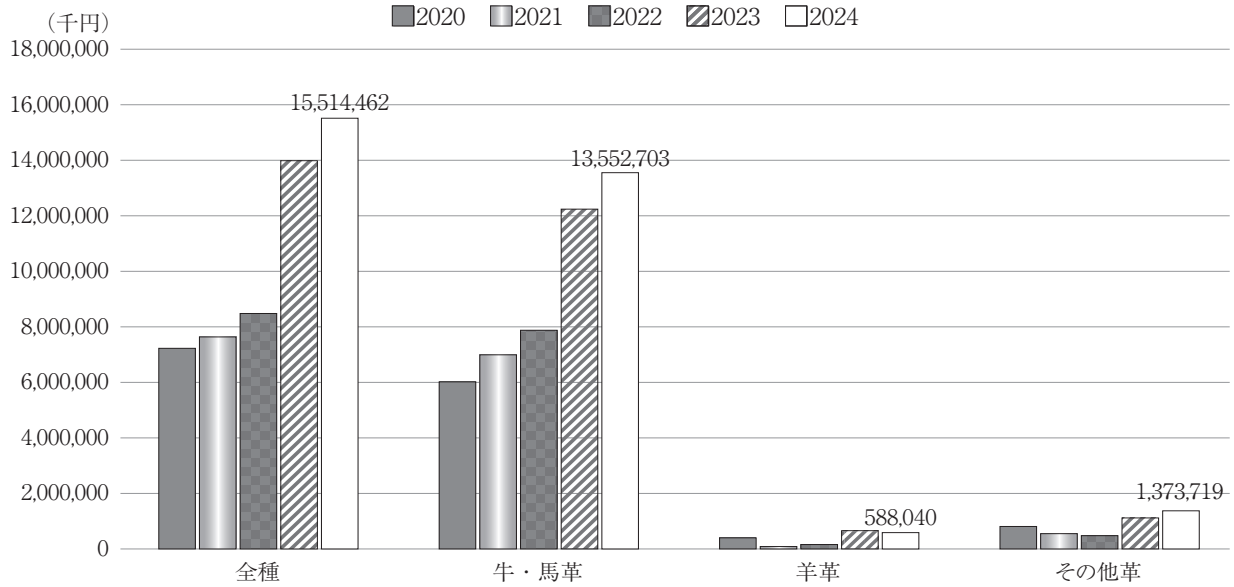
※数量 (㎡) は判明分のみ集計

	単位	2019	2020	2021	2022	2023	2024
東アジア	数量 (㎡)	1,802,532	97,295	1,091,633	951,517	199,993	254,909
	数量 (kg)	2,469,729	139,672	1,670,398	1,347,198	400,874	533,230
	金額 (1,000 円)	4,796,587	389,850	3,175,454	3,285,182	972,925	1,235,701
東南アジア	数量 (㎡)	1,017,516	276,653	1,102,521	1,013,400	162,849	162,511
	数量 (kg)	1,093,476	589,609	1,230,538	1,292,822	234,946	347,941
	金額 (1,000 円)	4,704,822	539,985	4,185,169	4,862,750	393,851	475,398
西アジア	数量 (㎡)	196,790	442,672	54,613	74,006	443,812	405,766
	数量 (kg)	167,348	374,845	46,928	137,624	384,769	367,408
	金額 (1,000 円)	206,783	940,481	190,340	257,786	1,235,718	1,176,771
欧州	数量 (㎡)	14,553	640,031	4,481	9,282	942,597	1,060,293
	数量 (kg)	17,623	1,050,612	2,711	10,413	1,817,488	2,102,334
	金額 (1,000 円)	90,083	2,976,891	34,865	40,382	5,605,014	6,207,866
北アメリカ	数量 (㎡)	9,333	1,896,297	7,599	9,231	2,356,293	2,182,468
	数量 (kg)	7,168	2,230,908	4,771	5,570	2,239,969	2,216,189
	金額 (1,000 円)	43,534	1,879,203	24,262	33,991	4,676,762	5,515,905
オセアニア	数量 (㎡)	3,428	202,146	618	583	253,410	191,490
	数量 (kg)	3,512	521,464	301	208	682,930	612,372
	金額 (1,000 円)	9,586	228,372	2,067	2,543	574,378	560,126

## なめし革輸入数量・金額推移 (世界計)



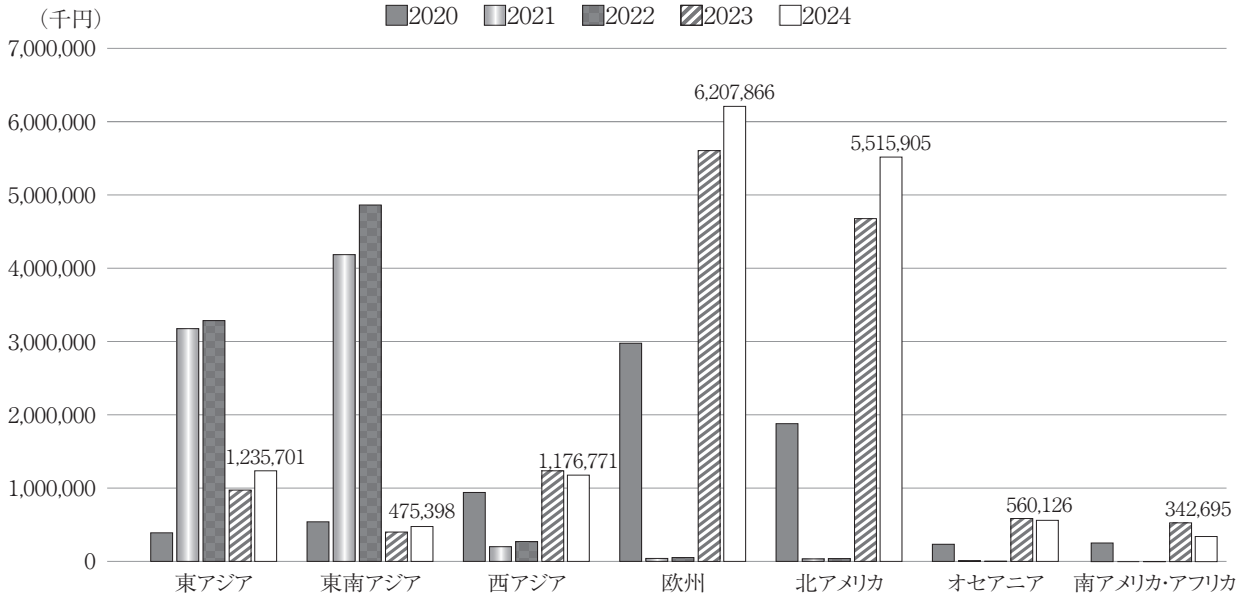
### 革種別なめし革輸入金額推移



単位：千円

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
全種	9,851,395	7,209,362	7,612,157	8,483,486	13,987,927	15,514,462
牛・馬革	8,879,325	6,019,943	6,968,861	7,857,501	12,242,302	13,552,703
羊革	162,005	400,110	119,118	169,363	644,211	588,040
その他革	810,065	789,309	524,178	456,622	1,101,414	1,373,719

### 地域別なめし革輸入金額推移



単位：千円

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
東アジア	4,796,587	389,850	3,175,454	3,285,182	972,925	1,235,701
東南アジア	4,704,822	539,985	4,185,169	4,862,750	393,851	475,398
西アジア	206,783	940,481	190,340	257,786	1,235,718	1,176,771
欧州	90,083	2,976,891	34,865	40,382	5,605,014	6,207,866
北アメリカ	43,534	1,879,203	24,262	33,991	4,676,762	5,515,905
オセアニア	9,586	228,372	2,067	2,543	574,378	560,126
南アメリカ・アフリカ	0	254,580	0	852	529,279	342,695



令和 6 年 度

## 製革業実態調査面接調査票

(一社)日本タンナーズ協会

1. 事業の概要について

企 業 名		年代別従業員数 (代表者及び家族従業員を含める)			
代 表 者 名	( 歳)		男	女	計
		20歳未満	人	人	人
事業所所在地		20 歳 代	人	人	人
		30 歳 代	人	人	人
電 話 番 号	- -	40 歳 代	人	人	人
		50歳以上	人	人	人
創 立 年 月	明・大・昭 平・令 年 月	合 計	人	人	人

該当する方は、○をつけて下さい。

- 1. 部品工程のみ ( )
- 2. 海外生産のみ
- 3. 休業中

7ページの【現状及び今後について】へ  
進んで下さい。

それ以外の方は、このまま続けて回答して下さい。

なめしの区分 (○印をつけて下さい)	1. クロム鞣 (コンビを含む)	3. その他の鞣
主な使用原皮 (ウェットブルーも含む)  [ 該当するものに○印をつけて下さい。 ]	1. 牝牛皮(ブル)	11. 中小牛皮
	2. ヘビーステア	12. 豚 皮
	3. ライトステア	13. 山羊皮(ゴート、キッド)
	4. カウヘツファー	14. 羊 皮(シープ、ラム)
	5. デイリーステア	15. 馬 皮
	6. デイリーカウ	16. 鹿 皮
	7. ジャージー(豪州、ニュージー)	17. 牛床皮
	8. カウ・オックス(豪州、ニュージー)	18. 豚床皮
	9. ホルス(内地)	19. その他の皮_____
	10. 一 毛(内地)	

## 2. 生産販売動向について

国内において自社で生産販売したもののみ記入して下さい。

下請工場(業者)は最終製品迄製造したものを記入し、部分工程の場合は記入しないで下さい。

本年1月～7月の1ヵ月平均で該当する欄にご記入下さい。

用途		革種 需要先	成 牛 革 (丸革)		中小牛革 (丸革)	
			国内用	輸出用	国内用	輸出用
靴 用	紳士靴甲用		枚	枚	枚	枚
	婦人靴甲用		枚	枚	枚	枚
	安全・官需靴甲用		枚	枚	枚	枚
	スポーツ靴甲用		枚	枚	枚	枚
	その他の靴甲用		枚	枚	枚	枚
	靴 裏 用		枚	枚	枚	枚
	靴 底 用		枚	枚	枚	枚
鞆袋物用	ランドセル用		枚	枚	枚	枚
	かばん用		枚	枚	枚	枚
	ハンドバッグ用		枚	枚	枚	枚
	小物用		枚	枚	枚	枚
服 飾 用	服飾ベルト用		枚	枚	枚	枚
	衣料用		枚	枚	枚	枚
	服飾手袋用		枚	枚	枚	枚
	草履用		枚	枚	枚	枚
	草履底用		枚	枚	枚	枚
そ の 他 用	グローブミット等 運動具用		枚	枚	枚	枚
	手芸工芸用		枚	枚	枚	枚
	家具、インテリア用		枚	枚	枚	枚
	カーシート用		枚	枚	枚	枚
	工業手袋等安全具用		枚	枚	枚	枚
	伝導ベルトサドル パッキング等工業用		枚	枚	枚	枚
	ウェットブルー (国内向販売は記入しない)			枚		枚
	その他 ( )		枚	枚	枚	枚
合 計			枚	枚	枚	枚

(注) 用途不明の場合はその他用の欄にご記入下さい。



用途		革種	馬 革 (丸革)		鹿 革	
		需要先	国内用	輸出用	国内用	輸出用
靴 用	紳士靴甲用		枚	枚	枚	枚
	婦人靴甲用		枚	枚	枚	枚
	安全・官需靴甲用		枚	枚	枚	枚
	スポーツ靴甲用		枚	枚	枚	枚
	その他の靴甲用		枚	枚	枚	枚
	靴裏用		枚	枚	枚	枚
	靴底用		枚	枚	枚	枚
鞆袋物用	ランドセル用		枚	枚	枚	枚
	かばん用		枚	枚	枚	枚
	ハンドバッグ用		枚	枚	枚	枚
	小物用		枚	枚	枚	枚
服 飾 用	服飾ベルト用		枚	枚	枚	枚
	衣料用		枚	枚	枚	枚
	服飾手袋用		枚	枚	枚	枚
	草履用		枚	枚	枚	枚
	草履底用		枚	枚	枚	枚
そ の 他 用	グローブミット等 運動具用		枚	枚	枚	枚
	手芸工芸用		枚	枚	枚	枚
	家具、インテリア用		枚	枚	枚	枚
	カーシート用		枚	枚	枚	枚
	工業手袋等安全具用		枚	枚	枚	枚
	伝導ベルトサドル パッキング等工業用		枚	枚	枚	枚
	ウェットブルー (国内向販売は記入しない)			枚		枚
	その他 ( )		枚	枚	枚	枚
合 計			枚	枚	枚	枚

(注) 用途不明の場合はその他用の欄にご記入下さい。



現在の 操業率	%
------------	---

3. 生産能力及び最近の生産実績について

何れも1ヵ月当りの「まる革」生産枚数で表示して下さい。  
 生産能力は設備をフル稼働した場合の生産出来る枚数を示して下さい。  
 生産実績は本年1月～7月の1ヵ月平均で示して下さい。

単位：枚(丸革)

原 皮	区分 鞣	最近の生産実績			生産能力		
		クロム鞣 (コンビを含む)	タンニン鞣	その他の鞣	クロム鞣 (コンビを含む)	タンニン鞣	その他の鞣
成 牛 皮	原皮からの製造				(原皮およびウェットブルー、クラストからの製造)		
	ウェットブルーからの製造						
	クラストからの製造						
中 小 牛 皮	原皮からの製造				(原皮およびウェットブルー、クラストからの製造)		
	ウェットブルーからの製造						
	クラストからの製造						
豚 皮	原皮からの製造				(原皮およびウェットブルー、クラストからの製造)		
	ウェットブルーからの製造						
	クラストからの製造						
山 羊 皮	原皮からの製造				(原皮およびウェットブルー、クラストからの製造)		
	ウェットブルーからの製造						
	クラストからの製造						
羊 皮	原皮からの製造				(原皮およびウェットブルー、クラストからの製造)		
	ウェットブルーからの製造						
	クラストからの製造						
馬 皮	原皮からの製造				(原皮およびウェットブルー、クラストからの製造)		
	ウェットブルーからの製造						
	クラストからの製造						
鹿 皮	原皮からの製造				(原皮およびウェットブルー、クラストからの製造)		
	ウェットブルーからの製造						
	クラストからの製造						
牛 床 皮	原皮からの製造				(原皮およびウェットブルー、クラストからの製造)		
	ウェットブルーからの製造						
	クラストからの製造						
豚 床 皮	原皮からの製造				(原皮およびウェットブルー、クラストからの製造)		
	ウェットブルーからの製造						
	クラストからの製造						
その他皮 ( )							

#### 4. 現状及び今後について

- ビジネスにおける通信手段のデジタル化について 各種問い合わせ等に対応する際の通信手段は何を利用されていますか。(複数回答可)
- 1. オンライン会議 2. Eメール 3. 電話 4. FAX 5. その他 ( )
- 販路開拓のための取り組みについて 現在、販路開拓のために何か取り組まれていることはありますか。(複数回答可)
- 1. インターネットでの販売 2. SNSの活用 3. 展示会の出展 4. 異業種とのコラボレーション 5. SDGsを意識したPR 6. 新商品の開発
- 7. その他 ( ) 8. 取り組んでいない 9. わからない

● 今後の経営（製革業）について、どのようにお考えですか。

（I～Vの内いずれか1つに○印をつけて下さい。）

I. 経営（製革業）は維持できると確信している。

II. 経営（製革業）を維持したいと努力している。

III. 経営（製革業）の維持に限界を感じている。

IV. 事態によっては事業の転換、または廃業、休業を考えている。

V. 既に休業している。

IからIVのいずれかに○印をつけた方は、

右の1～23の理由の内、できるだけ5項目以内で○印をつけて下さい。

Vに○印をつけた方は、右の1～3の理由の内、いずれか1つに○印をつけて下さい。

1. 原皮相場をのりきることができず。
  2. 技術の優位性に自信がある。
  3. 新商品を作ることで成果が得られる。
  4. 生産の合理化及びグループ化を図るなどのコストダウンで切り抜ける。
  5. 現在の販売価格、販売量で採算が合っている。
  6. 今の為替相場でも海外の市場開拓に自信がある（輸出を積極的に行う）。
  7. 利益を上げる自信がある。
  8. 製品の価格競争力がある。
  9. 現在実施している競争力強化事業に期待する。
  10. 注文が不安定。
  11. コスト高(特に次の)で採算がとれない。  
 II. に○印をつけた方は
 

a	原皮高
b	原皮入手困難
c	副資材(薬品・燃料等)や光熱などの諸経費高
d	人件費(生活費)高
e	金利負担過重
f	公害対策費過重
g	少量多品種
h	その他 ( )
  12. 販売先が不安。
  13. 製品価格が上げられない。
  14. 生産過剰、過当競争市場のため。
  15. 資金難が著しい。
  16. 後継者がいないから廃業する。
  17. 技術者の確保が困難。
  18. 人手(従業員)の確保が困難。
  19. 下請け会社や周辺産業(フレッシング・シェーピング)が不安。
  20. 市場の変化に対応できない。
  21. EPA・FTAなど経済連携協定の影響が不安。
  22. 戦争等による世界情勢の悪化が不安。
  23. その他 ( )
1. 需要が回復すれば操業再開。
  2. 操業再開の意思なく、廃業を考えている。
  3. その他 ( )

令和6(2024)年度

# 製革業実態調査報告書

令和7年3月 発行

非売品

発行者 中 嶋 幹 夫

印刷所 船 場 印 刷 株 式 会 社

発行所 一般社団法人 日本皮革産業連合会

一般社団法人 日本タンナーズ協会

〒670-0964 兵庫県姫路市豊沢町129番地

あさひビル3階

電 話 姫 路(079)282-6701番

F A X 姫 路(079)282-6703番